

志賀原子力発電所2号炉 敷地の地質・地質構造について

評価対象断層の選定
(コメント回答)

データ集 その1

《データ集1～9》

平成31年 1月18日
北陸電力株式会社

本資料には商業機密または防護上の観点から公開できないデータを含んでいます。

余白

目 次

データ集1

能登半島の地質・地質構造に関する文献調査	 1- 1
----------------------	------------

データ集2

調査手法	 2- 1
(1) 航空レーザ計測仕様	 2- 2
(2) 反射法・VSP探査	 2- 4

データ集3

露頭調査結果	 3- 1
(1) 1・2号機基礎掘削面	 3- 4
(2) 重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等	 3- 8
(3) 海岸部	 3- 32
(4) 防潮堤基礎掘削法面	 3- 34

データ集4

固結した破砕部と岩盤の針貫入試験結果	 4- 1
--------------------	------------

データ集5

破砕部性状一覧表	 5- 1
----------	------------

データ集6

断層端部の調査結果	 6- 1
(1) S-1端部の調査結果	 6- 3
(2) S-2・S-6端部の調査結果	 6- 10
(3) S-4端部の調査結果	 6- 19
(4) S-5端部の調査結果	 6- 22
(5) S-7端部の調査結果	 6- 26
(6) S-8端部の調査結果	 6- 31
(7) S-9端部の調査結果	 6- 37
(8) B-1端部の調査結果	 6- 41
(9) B-2端部の調査結果	 6- 47
(10) B-3端部の調査結果	 6- 51
(11) K-1端部の調査結果	 6- 57
(12) K-2端部の調査結果	 6- 61
(13) K-3端部の調査結果	 6- 67
(14) K-4端部の調査結果	 6- 72
(15) K-5端部の調査結果	 6- 75
(16) K-6端部の調査結果	 6- 77
(17) K-7端部の調査結果	 6- 81
(18) K-8端部の調査結果	 6- 85
(19) K-9端部の調査結果	 6- 89
(20) K-10端部の調査結果	 6- 93
(21) K-11端部の調査結果	 6- 97

目 次

データ集7

断層分布(陸域)の水平方向・深度方向のデータ	 7- 1
(1) S-1とB-1の水平方向・深度方向のデータ	 7- 3
(2) S-1とS-4の水平方向・深度方向のデータ	 7- 8
(3) S-1とS-9の水平方向・深度方向のデータ	 7- 15
(4) S-1とB-2の水平方向・深度方向のデータ	 7- 20
(5) S-1とS-2・S-6の水平方向・深度方向のデータ	 7- 25
(6) S-2・S-6とS-8の水平方向・深度方向のデータ	 7- 31
(7) S-2・S-6とB-2の水平方向・深度方向のデータ	 7- 37
(8) S-2・S-6とS-7の水平方向・深度方向のデータ	 7- 42
(9) S-2・S-6とS-9の水平方向・深度方向のデータ	 7- 47
(10) S-2・S-6とB-3の水平方向・深度方向のデータ	 7- 52
(11) S-4とS-5の水平方向・深度方向のデータ	 7- 57
(12) S-4とB-1の水平方向のデータ	 7- 64

データ集8

X線回折分析結果	 8- 1
(1) 2号機建設以前の調査	 8- 2
(2) 2号機建設以後の調査	 8- 20

データ集9

運動方向調査結果	 9- 1
(1) 最新面及び変位センスの認定方法について	 9- 3
(2) 条線観察結果	 9- 5
(2)-1 S-1の条線観察結果	 9- 6
(2)-2 S-2・S-6の条線観察結果	 9- 93
(2)-3 S-4の条線観察結果	 9-122
(2)-4 S-5の条線観察結果	 9-135
(2)-5 S-7の条線観察結果	 9-139
(2)-6 S-8の条線観察結果	 9-154
(2)-7 S-9の条線観察結果	 9-163
(2)-8 B-1の条線観察結果	 9-168
(2)-9 B-2の条線観察結果	 9-174
(2)-10 B-3の条線観察結果	 9-179
(3) 露頭観察・コア観察・研磨片観察・薄片観察結果	 9-183
(3)-1 S-1の研磨片観察結果	 9-184
(3)-2 S-1の薄片観察結果	 9-187
(3)-3 S-2・S-6の露頭観察結果(会合部)	 9-194
(3)-4 S-2・S-6の薄片観察結果	 9-196
(3)-5 S-4のコア観察結果	 9-204
(3)-6 S-4の薄片観察結果	 9-207
(3)-7 S-7の薄片観察結果	 9-210
(3)-8 S-8の薄片観察結果	 9-214
(3)-9 B-3の薄片観察結果	 9-219
(3)-10 K-1～K-4の研磨片観察結果	 9-223
(3)-11 K-5の薄片観察結果	 9-228
(3)-12 K-2, K-3の露頭観察結果(各会合部)	 9-231

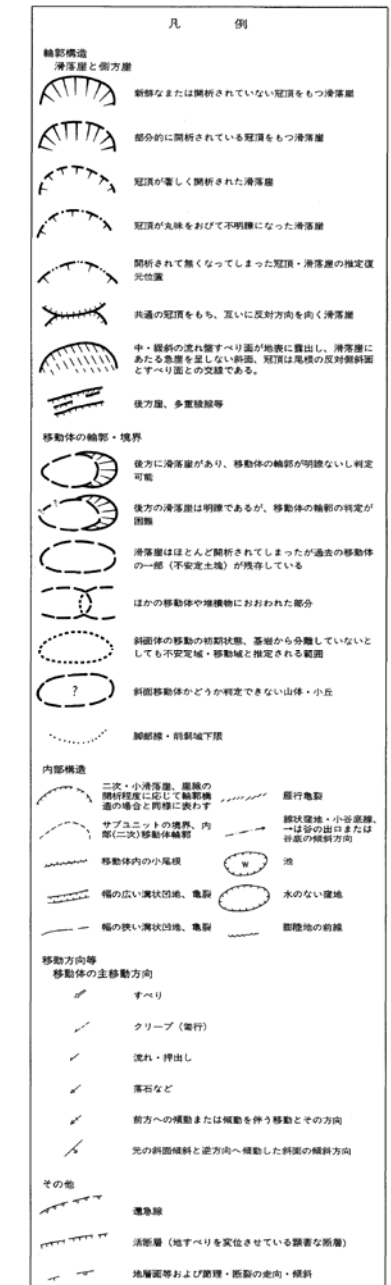
データ集1

能登半島の地質・地質構造に関する文献調査

地すべり地形分布(防災科学技術研究所, 2001)



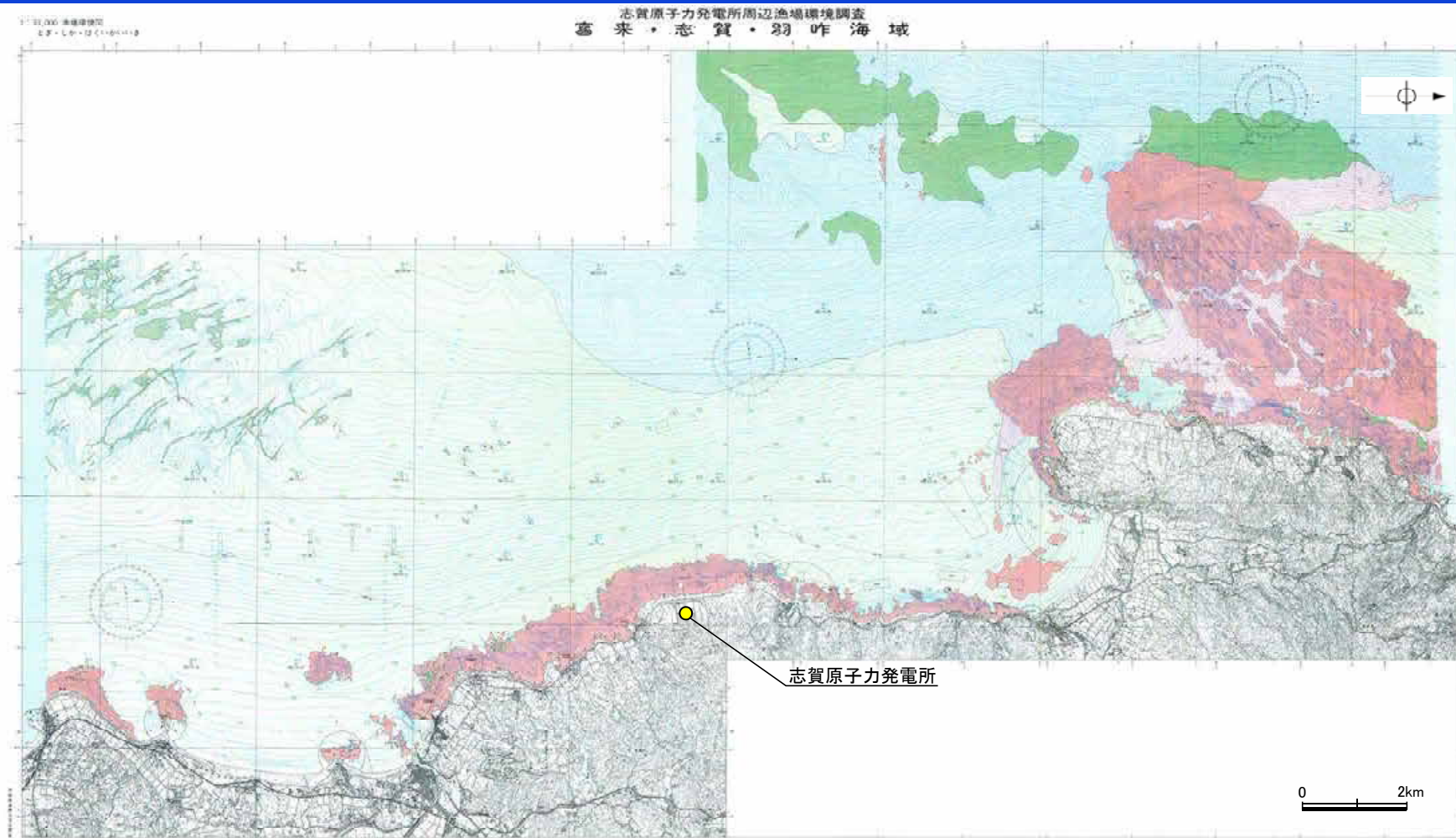
志賀原子力発電所
敷地境界



0 2km

能登半島中部の地すべり地形分布図(防災科学技術研究所, 2001に一部加筆)

海域の地形(石川県, 1997)

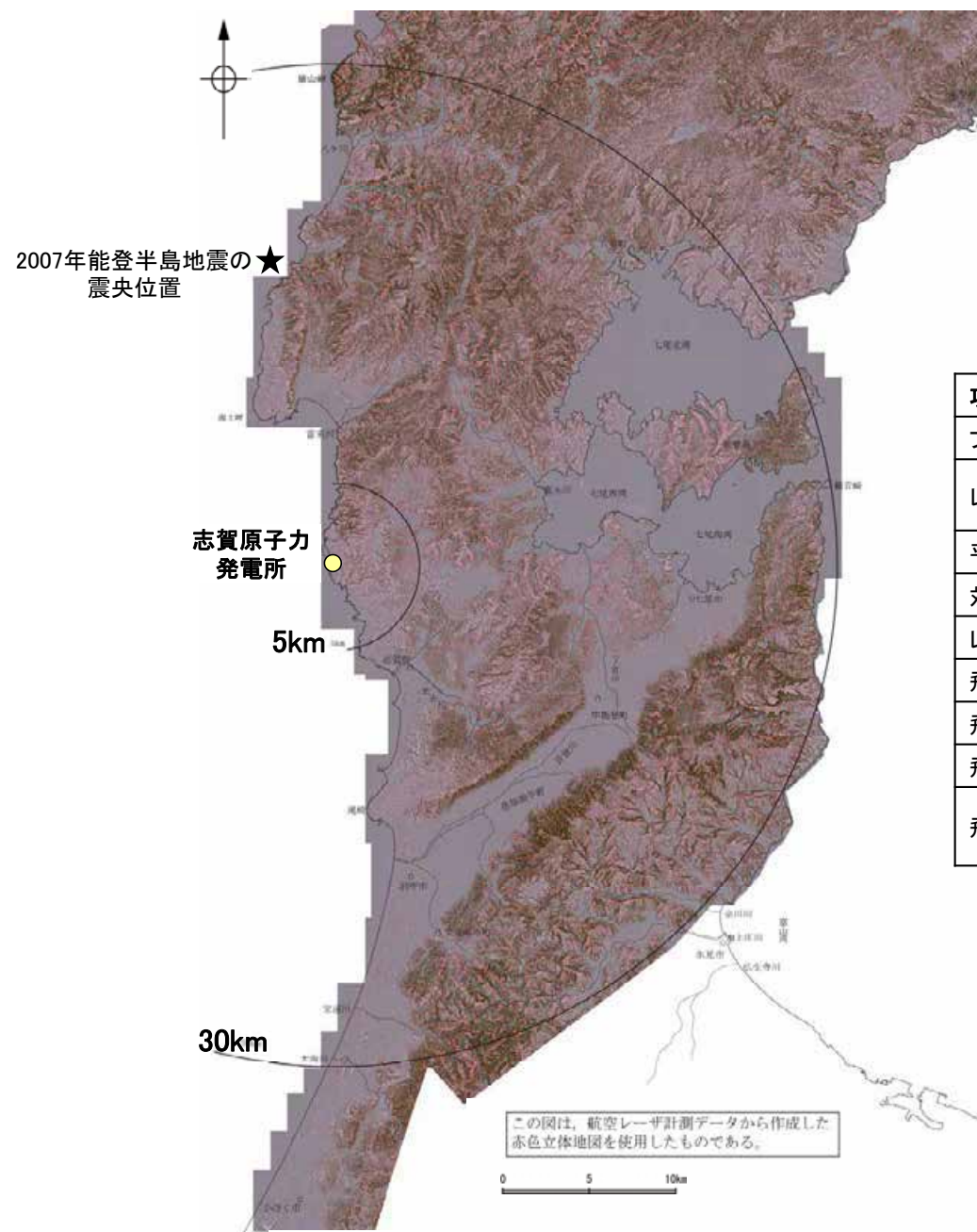


漁場環境図(石川県, 1997に一部加筆)

データ集2

調査手法

(1) 航空レーザ計測仕様



航空レーザ計測仕様(野原ほか,2007)

項目	平均パラメータ	
プラットフォーム(航空機)	C207	C404・Tu206g
レーザ装置	Optech社製 ALTM3100	Leica社製 ALS50
平均対地高度	1,200m	
対地速度	65m/sec	
レーザ照射頻度	70,000Hz	
飛行コース間の距離	約385m	
飛行コース間の計測幅の重複割合	35%	
飛行直角方向の取得点間隔	約0.7m	
飛行コース数	174(地震※前計測:2006年10~12月) 56(地震※後計測:2007年3~4月)	

※2007年能登半島地震

(2) 反射法・VSP探査

反射法・VSP探査仕様

○大深度ボーリングを通るように、東西測線(約3.1km)、南北測線(約1.2km)を配置し、25～50m間隔で発振した地震波を反射法探査は地表受振点、VSP探査はボーリング孔内受振点で収録。

発振源仕様

	発振源	仕様	発振間隔
陸域	大型パイブレータ	・18t×2台 ・起振マス:2.3t, 2.6t(最大荷重18t) ・発振周波数:10-70Hz	50m
海域	エアガン	・480cu.in.	25m

赤字:第627回審査会合以降に変更した箇所
(陸域の仕様、海域の発振間隔 誤記修正)

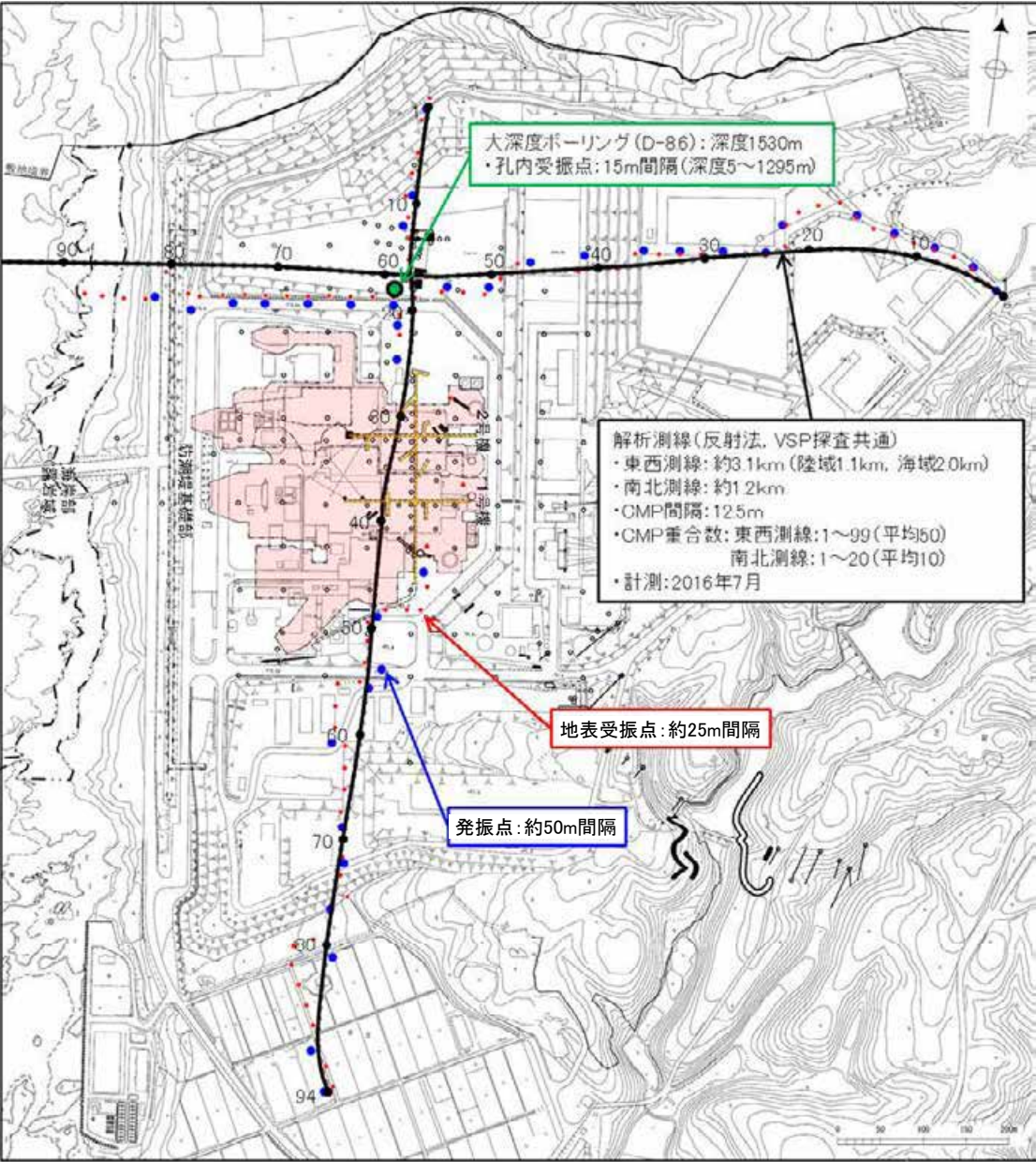


調査位置図 (石川県, 1997に一部加筆)

解析測線 東西測線:約3.1km(陸域:1.1km, 海域2.0km)
南北測線:約1.2km(陸域のみ)

No.8 調査測線(北陸電力:スーパー・シングルチャンネル・約2450ジュール)
No.9-S 調査測線(北陸電力:スーパー・シングルチャンネル・約360ジュール)
No.8U 調査測線(北陸電力:ブーマー・マルチチャンネル・約200ジュール)

岩石
中砂
細砂



調査位置図 (拡大範囲)

- 垂直分解能の考え方については、レイリー基準とリックー基準がある。

➤ レイリー基準
$$d_{TUNING} = \frac{V_{INT}}{4 \cdot f_{PRED}} = \frac{\lambda_{PRED}}{4}$$

d_{TUNING} : 判別可能層厚 V_{INT} : 区間速度
 f_{PRED} : 卓越周波数 λ_{PRED} : 卓越波長

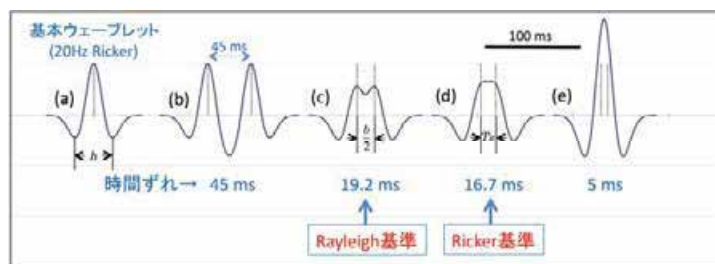
Rayleighによると、二つの同極性の反射波を分離できる限界は1/2周期(波形の山と谷)以上の時間差がないと判別できない。したがって、反射波は反射面からの往復測定で測定しているので1/2周期の半分、つまり1/4周期以上の時間差を生じる層厚を持った地層でないと判別できないことになる(Rayleighの1/4波長則)。

(物理探査学会, 2008)

➤ リッカー基準
$$d_{TUNING} = \frac{V_{INT}}{4.6 \cdot f_{PRED}} = \frac{\lambda_{PRED}}{4.6}$$

Ricker(1953)は、二つの同じ極性の基本ウェーブレットをずらして重ねた時に、その主ピークが分離できなくなる限界の時間間隔を、垂直分解能に対応するものと定義した。

(高橋, 2017)



レイリー基準とリックー基準の違い(縦線は基本ウェーブレットのピーク位置)
(高橋, 2017)

- 両者は比較的近い値を取り、違いは15%程度であることから、一般的には簡便な計算で算出できるレイリー基準が使われる事が多い(物理探査学会, 2016)。
- 本検討ではレイリー基準で検討を行う。

○レイリー基準の詳細(高橋, 2017)

下図から、時間差が $b/2$ の異なる極性を持つウェーブレットを重ね合わせると、波形は(a)の様に強め合い、同じ極性を持つウェーブレットを重ね合わせると、(b)の様に波形は弱め合う。(b)で、さらに2つのウェーブレットの時間ずれを小さくすると、2つのピークは分離・識別ができなくなる。

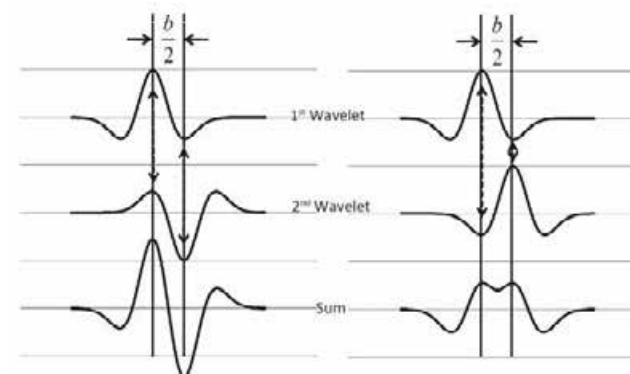
$b/2$ は卓越周波数 f_{PRED} に対応する卓越周期の1/2に対応する。

反射法地震探査における時間差 $b/2$ に対応する地層の厚さをTuning Thickness (Δd_{TUNING}) といい、その層厚は、

$$\Delta d_{TUNING} = \frac{V_{INT} \cdot \left(\frac{b}{2}\right)}{2} = \frac{V_{INT}}{2} \cdot \frac{1}{(2 \cdot f_{PRED})} = \frac{\lambda_{PRED}}{4}$$

λ_{PRED} : 卓越波長
 f_{PRED} : 卓越周波数
 V_{INT} : 区間速度

で計算される。



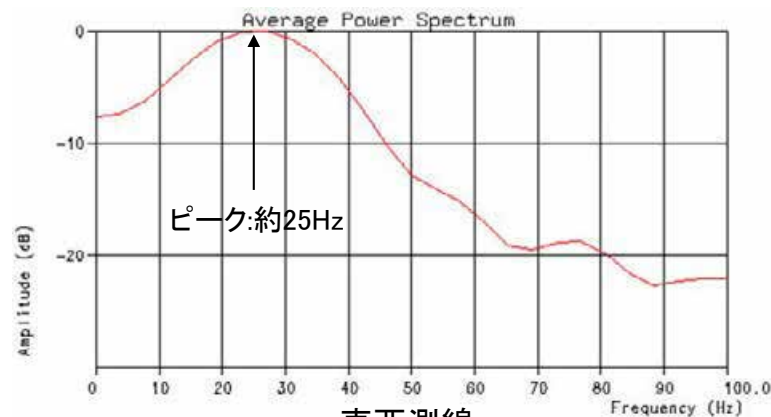
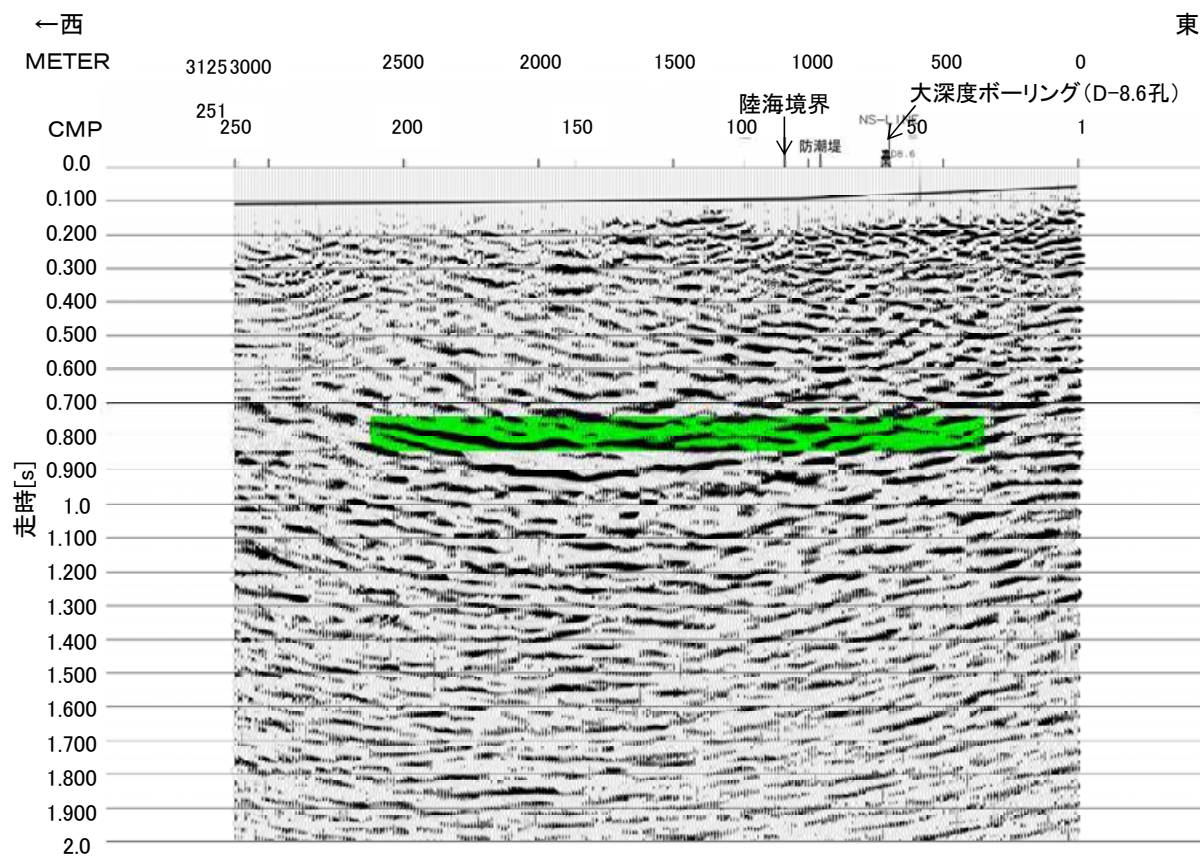
(a) 逆極性のウェーブレットの重ね合わせ (b) 同極性のウェーブレットの重ね合わせ
による振幅の増加 による振幅の減少と分離の限界

ウェーブレットの重ね合わせによる振幅変化と分離の限界
(高橋, 2017を一部修正)

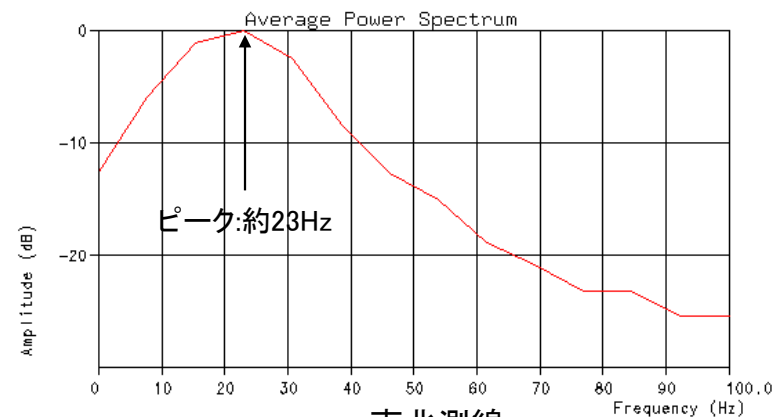
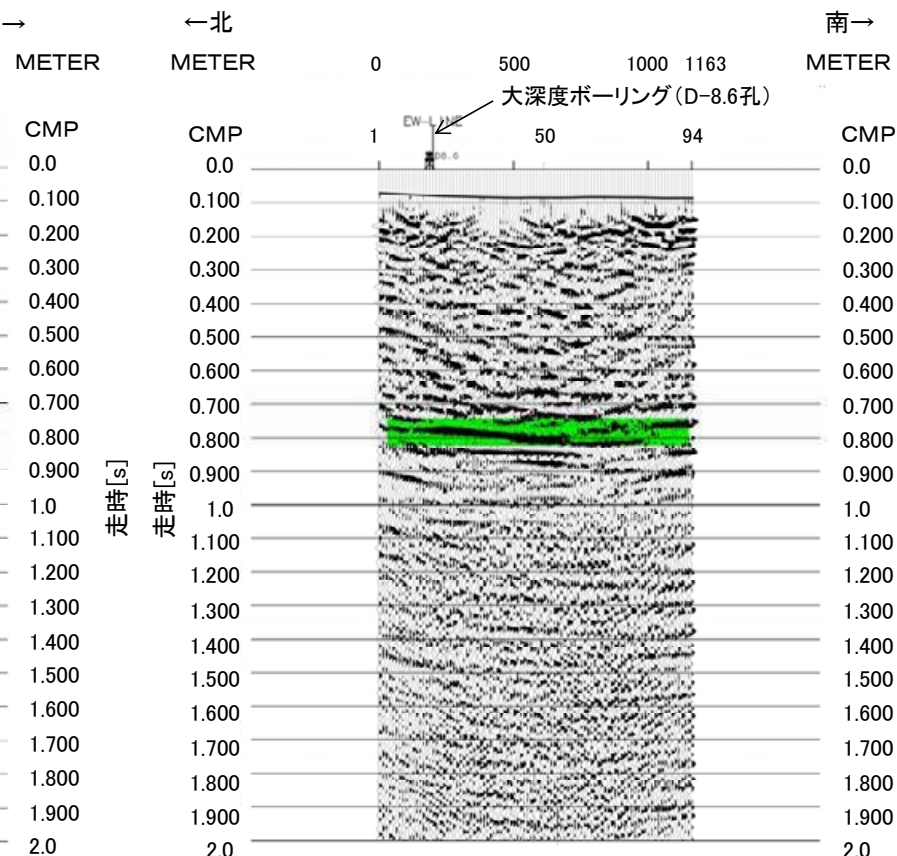
反射断面における分解能②

コメントNo.73の回答

- 主に花崗岩上面からの反射面を含む範囲(下図の緑色の範囲)に対して、スペクトル解析を適用した結果、卓越周波数は、東西測線で約**25Hz**、南北測線で約**23Hz**となる。



東西測線



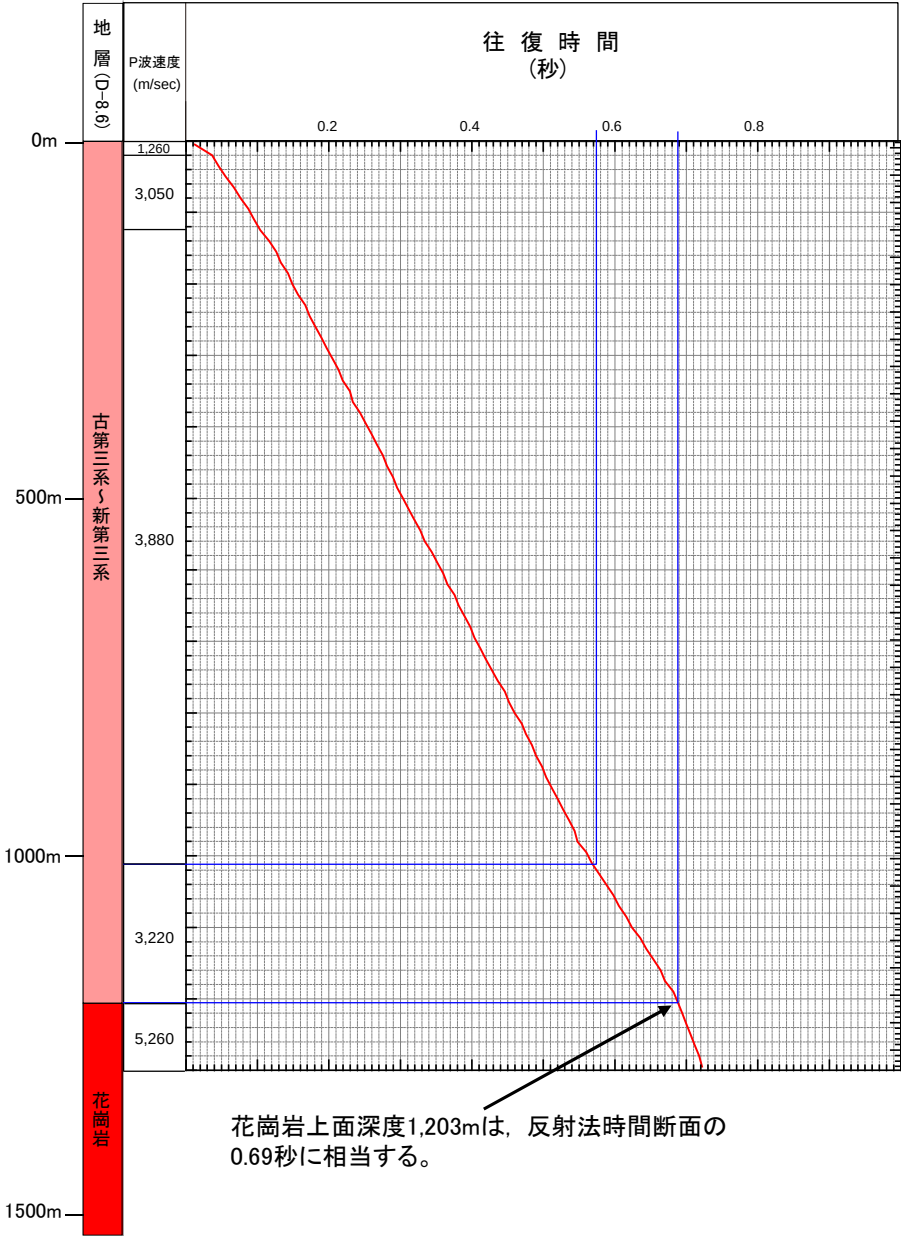
南北測線

スペクトル解析結果

反射断面における分解能③

- ゼロオフセットVSP解析により得られた初動データからP波速度を計算した結果、花崗岩直上で3,220m/秒である。
- 反射断面の反射面領域の周波数分布および卓越周波数について、垂直分解能の計算を行った結果、花崗岩上面の反射面付近でおよそ32～35mとなる。

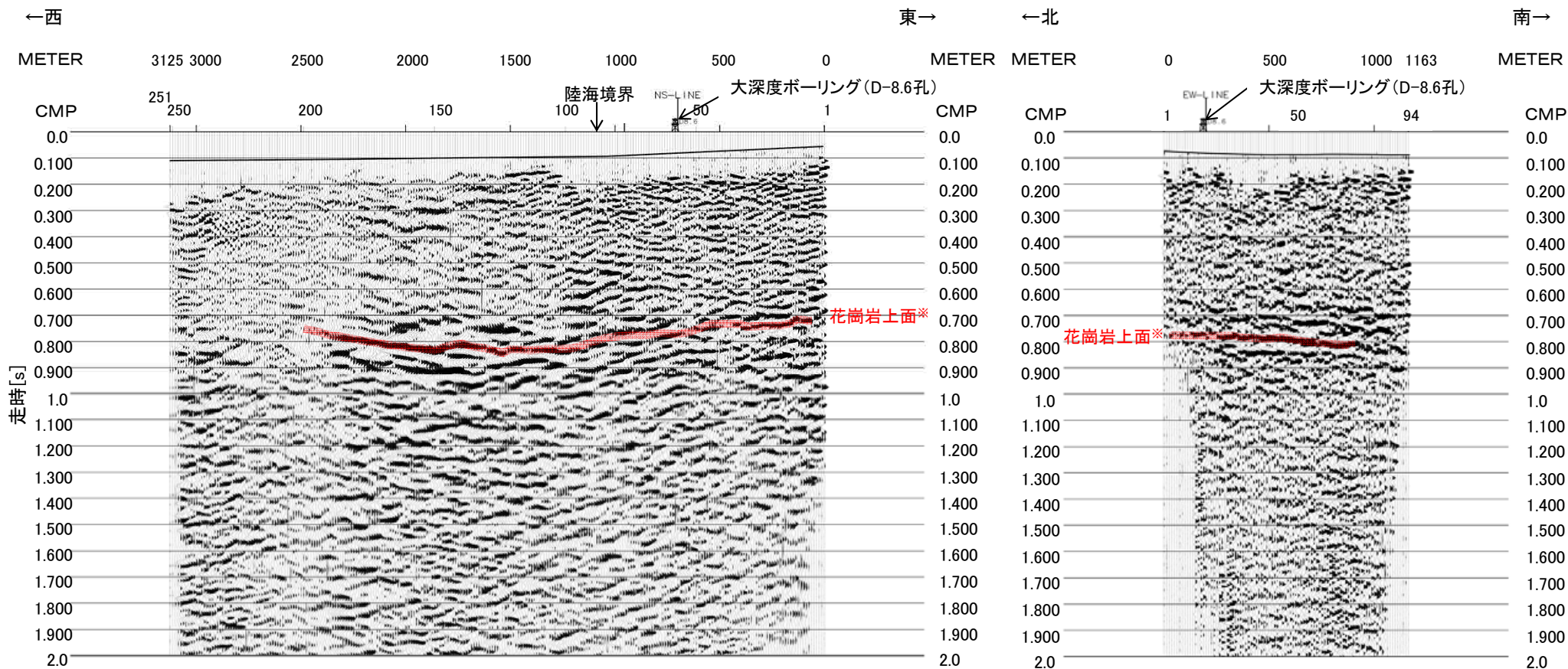
	(a) P波速度 (m/sec)	(b) 周波数 (Hz)	(c)=(a)/(b) 波長 (m)	垂直分解能(m)	
				(d)=(c)/4 レイリー基準	(e)=(c)/4.6 リッカー基準
花崗岩 上面	3,220	23	140	35	30
		25	129	32	28



初動読み取り結果とP波区間速度分布

反射法地震探査結果(時間断面:マイグレーション処理前)

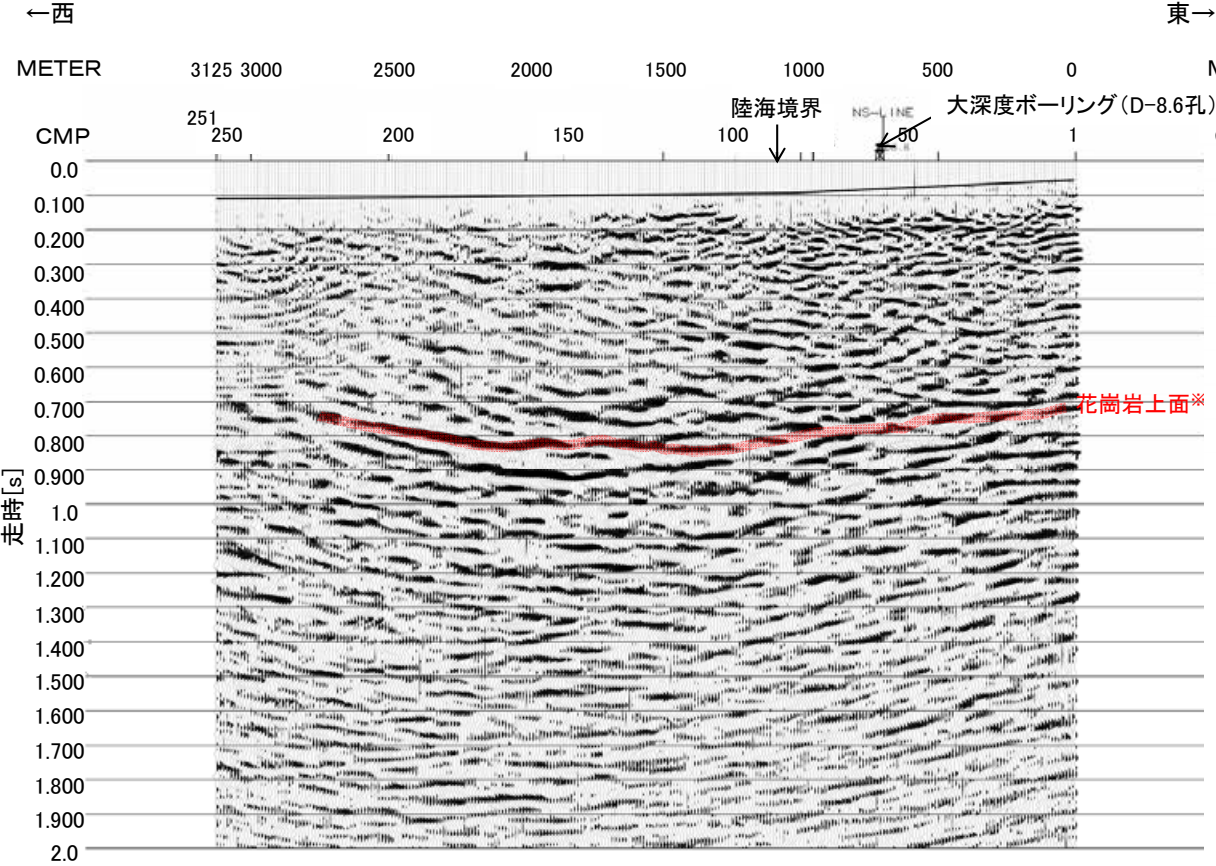
第553回審査会合
資料2 P.22 一部修正
コメントNo.73の回答



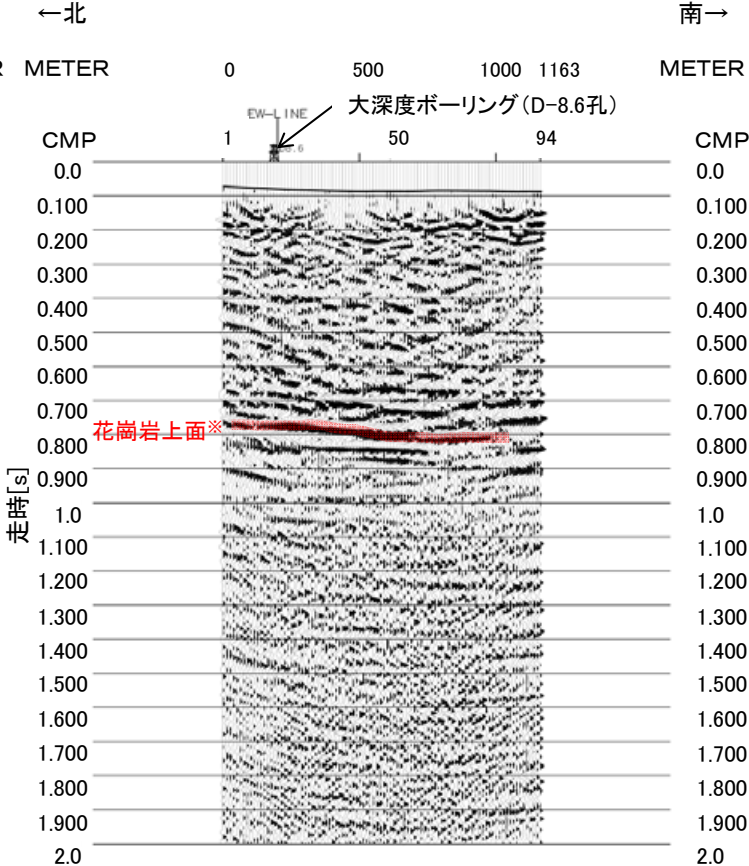
反射法地震探査結果(東西測線:時間断面)

反射法地震探査結果(南北測線:時間断面)

※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース



反射法地震探査結果(東西測線:時間断面)

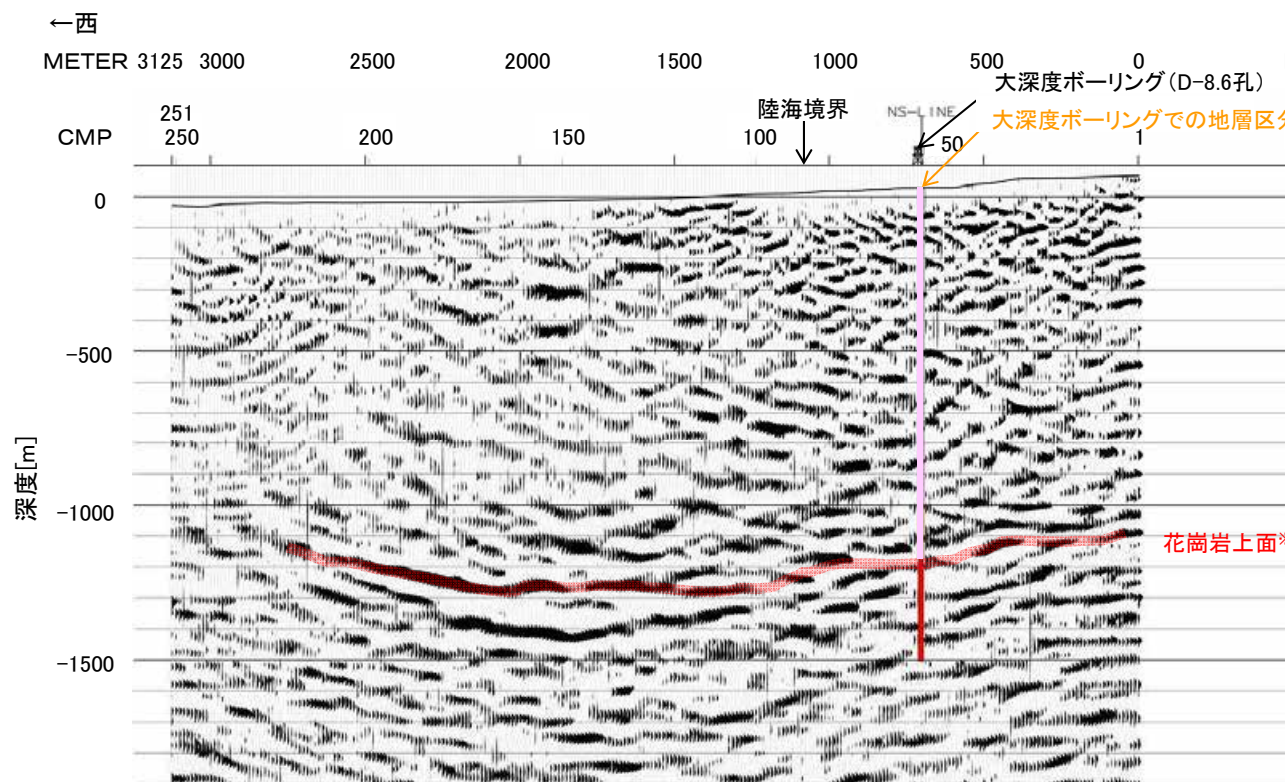


反射法地震探査結果(南北測線:時間断面)

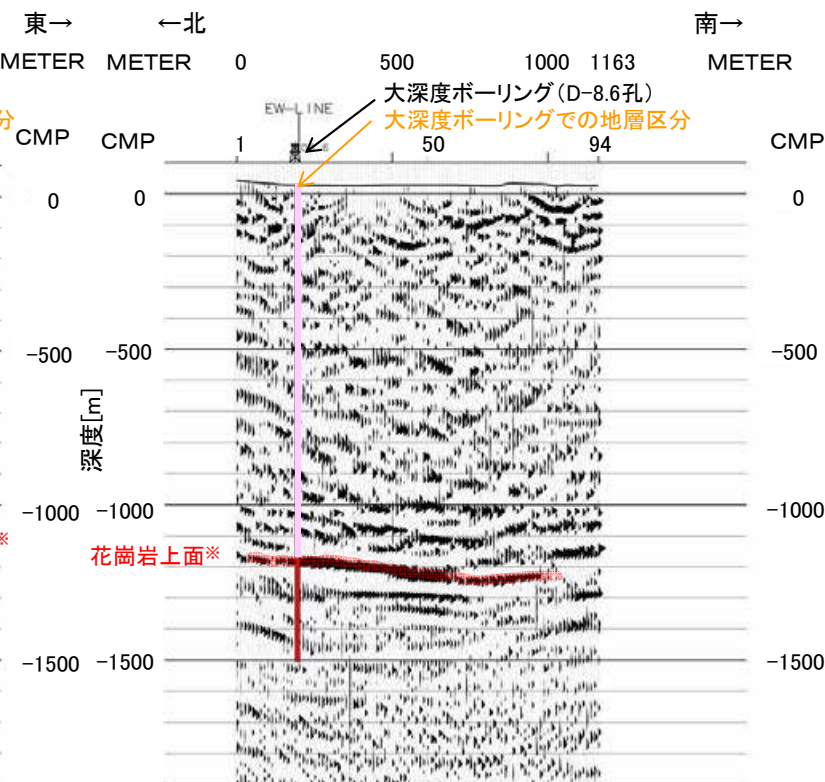
※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース

反射法地震探査結果(深度断面)

・マイグレーション処理後の時間断面から深度変換を行い作成。



反射法地震探査結果(東西測線:深度断面)



反射法地震探査結果(南北測線:深度断面)

※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース

大深度ボーリングでの地層区分

- : 古第三系～新第三系
- : 花崗岩

データ集3

露頭調査結果

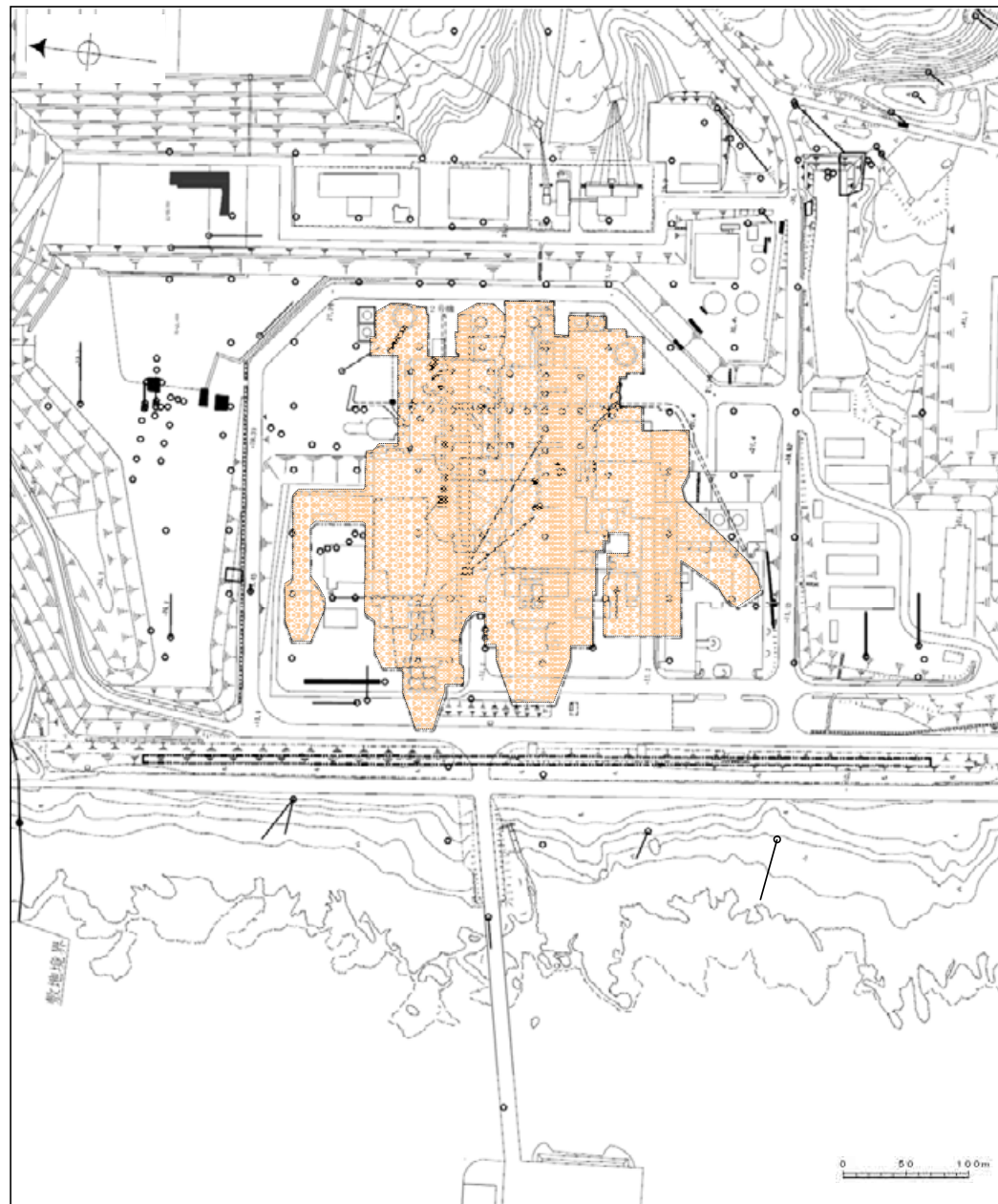
余白



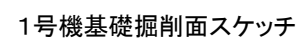
- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - 岩盤調査坑
 - 1・2号機基礎掘削面（1・2号機建設時の掘削範囲）
 - 露頭調査範囲
 - ・1・2号機基礎掘削面（1・2号機建設時の掘削範囲）
 - ・重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等
 - ・防潮堤基礎部
 - ・海岸部（露岩域）
- 重要な安全機能を有する施設
（検討中のものを含む）
- ○ — 耐震重要施設
 - ○ — 重大事故等対処施設

枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

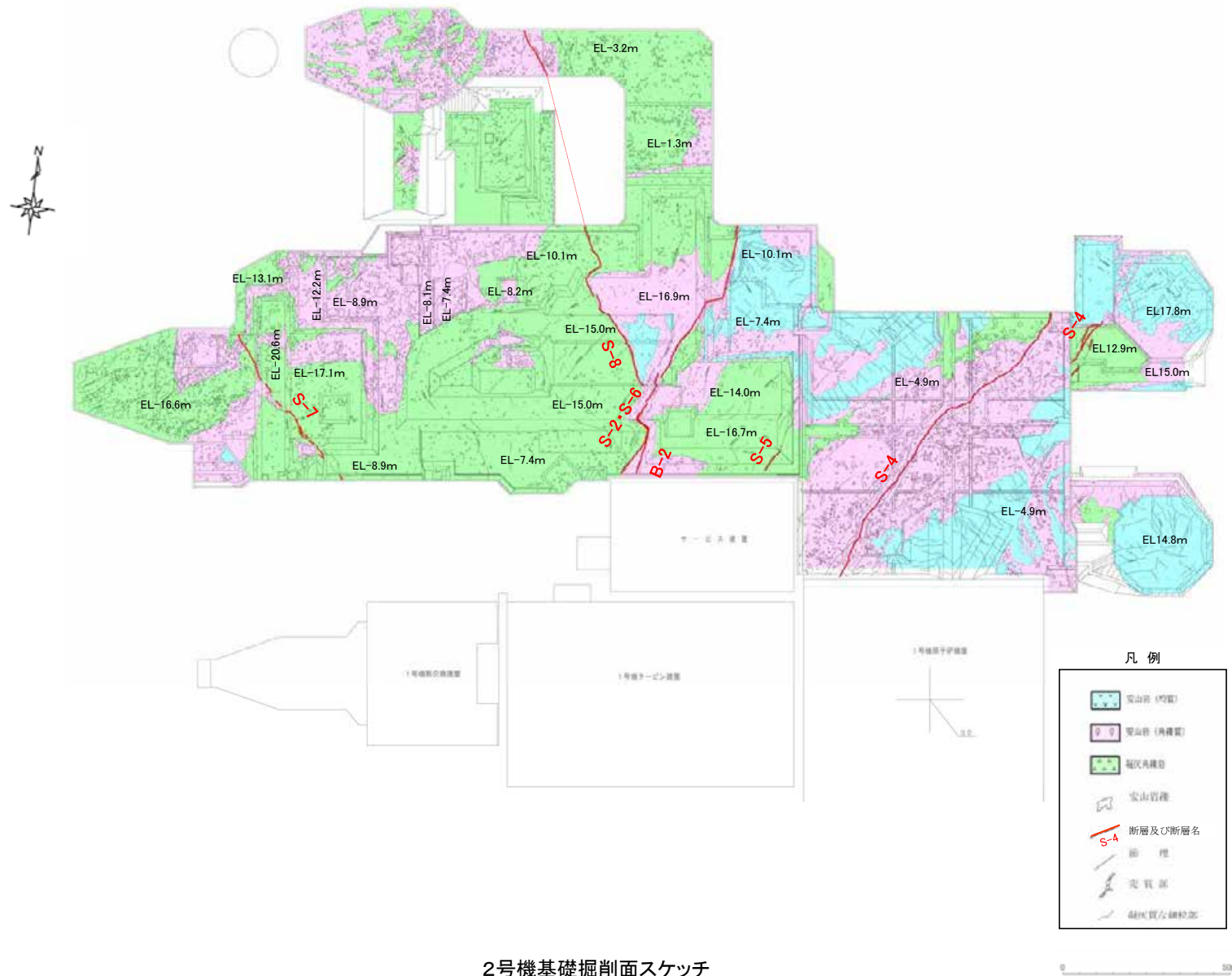
(1) 1・2号機基礎掘削面



- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - - - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - ⌋ 岩盤調査坑
 - - - 1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲)
 - 露頭調査範囲
- (・1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲))

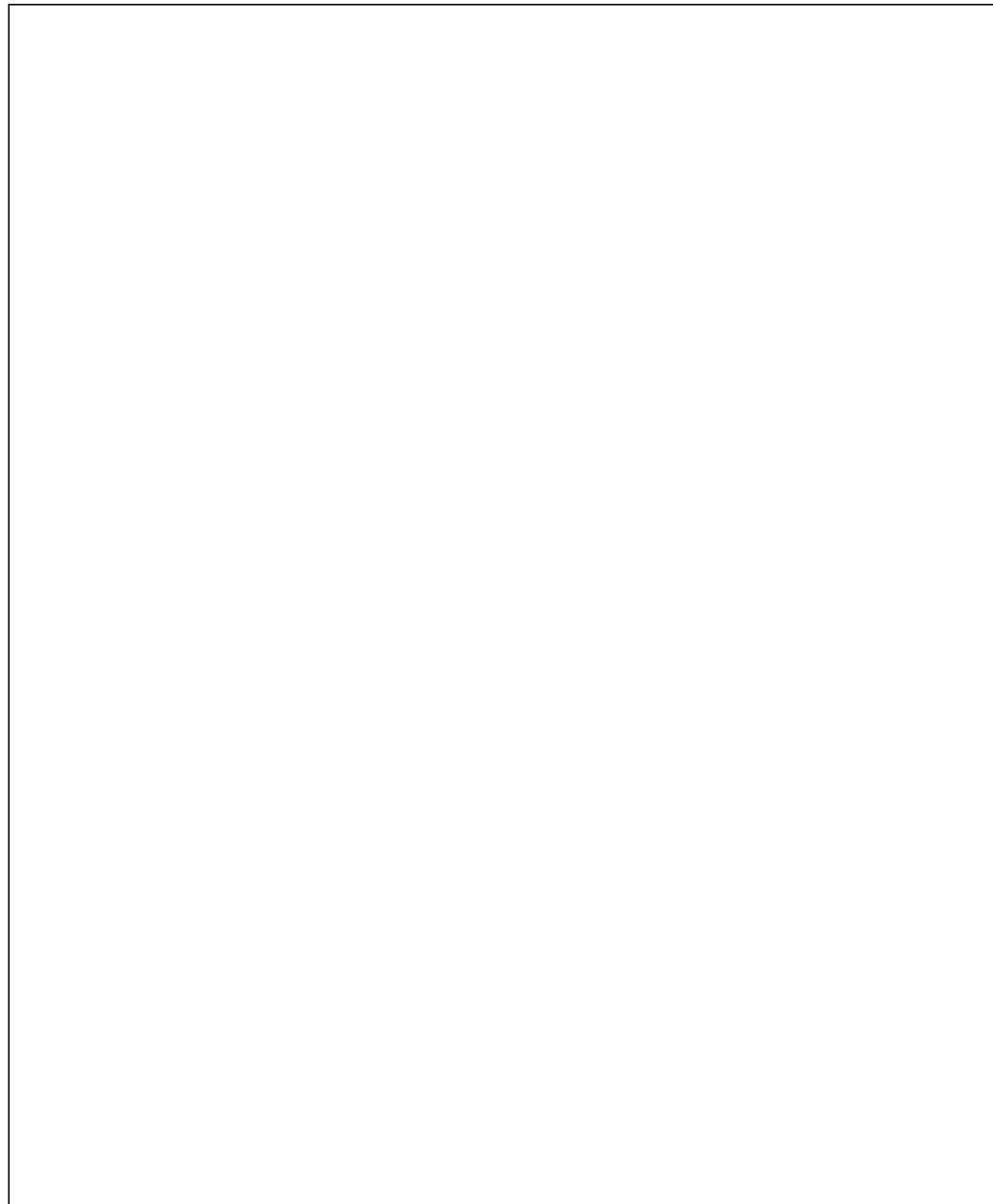


3-6



・2号機基礎掘削面では、断層が6条確認される。

(2) 重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等



- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - 岩盤調査坑
 - 1・2号機基礎掘削面（1・2号機建設時の掘削範囲）
 - 露頭調査範囲
〔・重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等〕

重要な安全機能を有する施設
（検討中のものを含む）

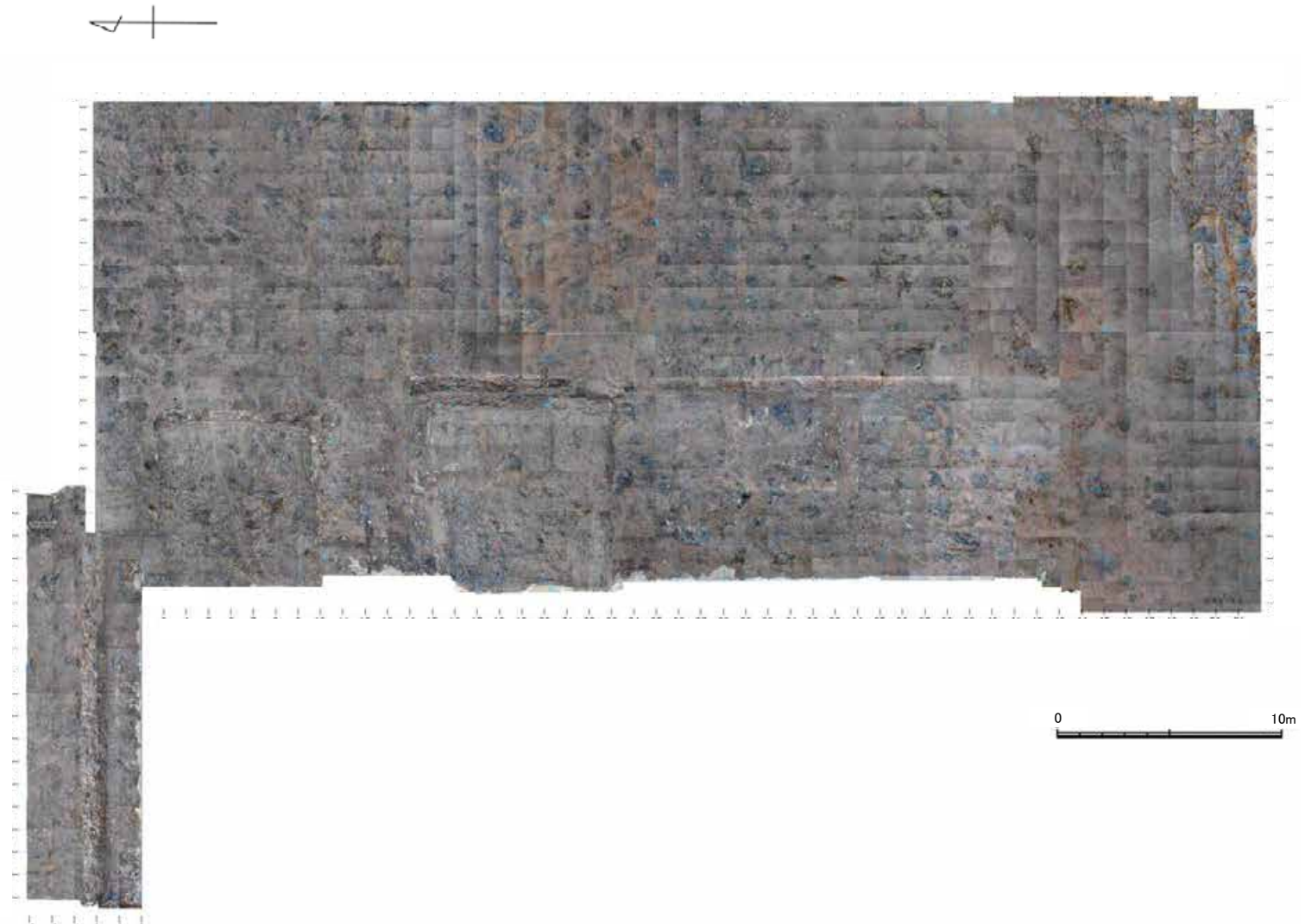
- ○ — 耐震重要施設
- ○ — 重大事故等対処施設

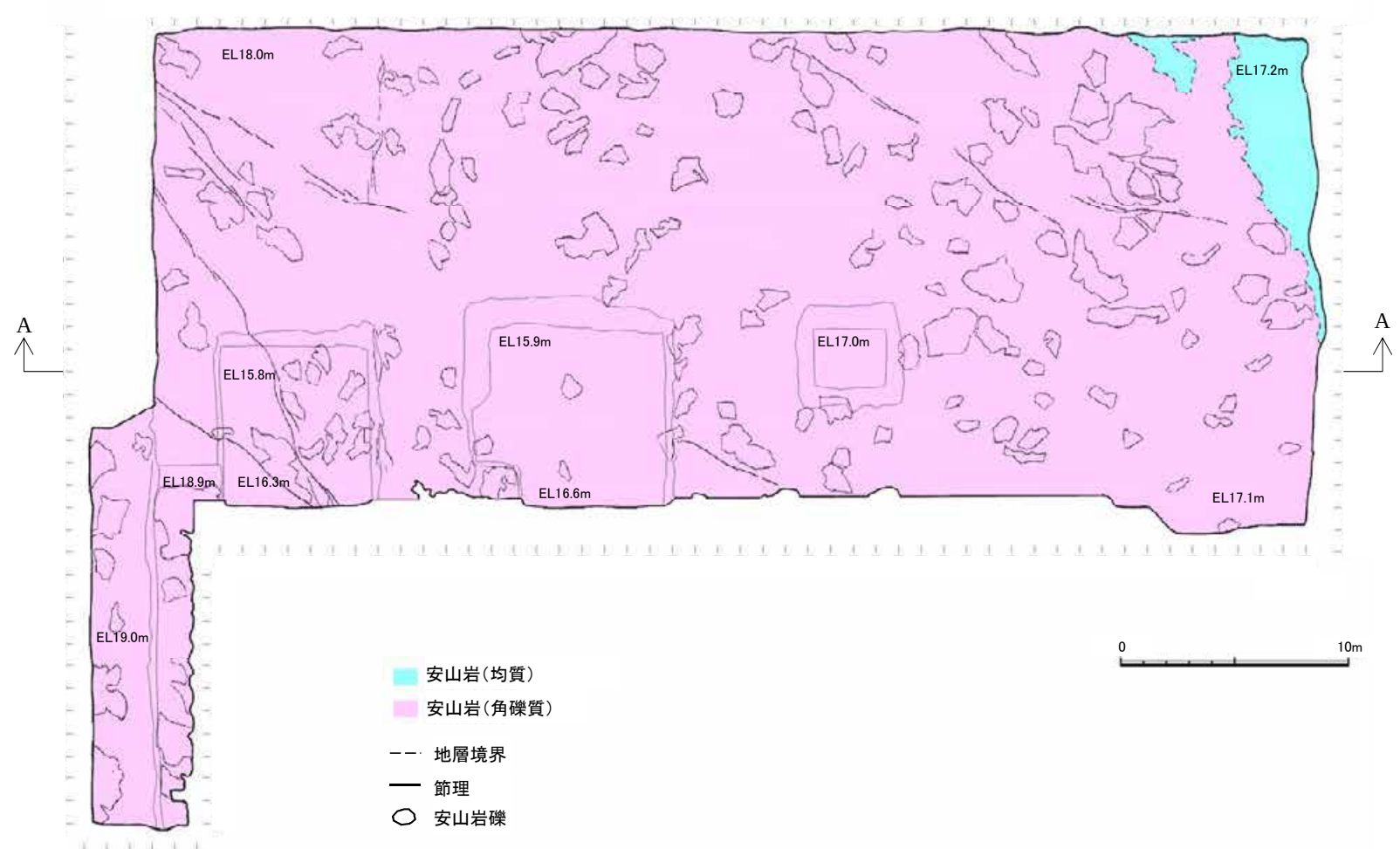
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

位置図





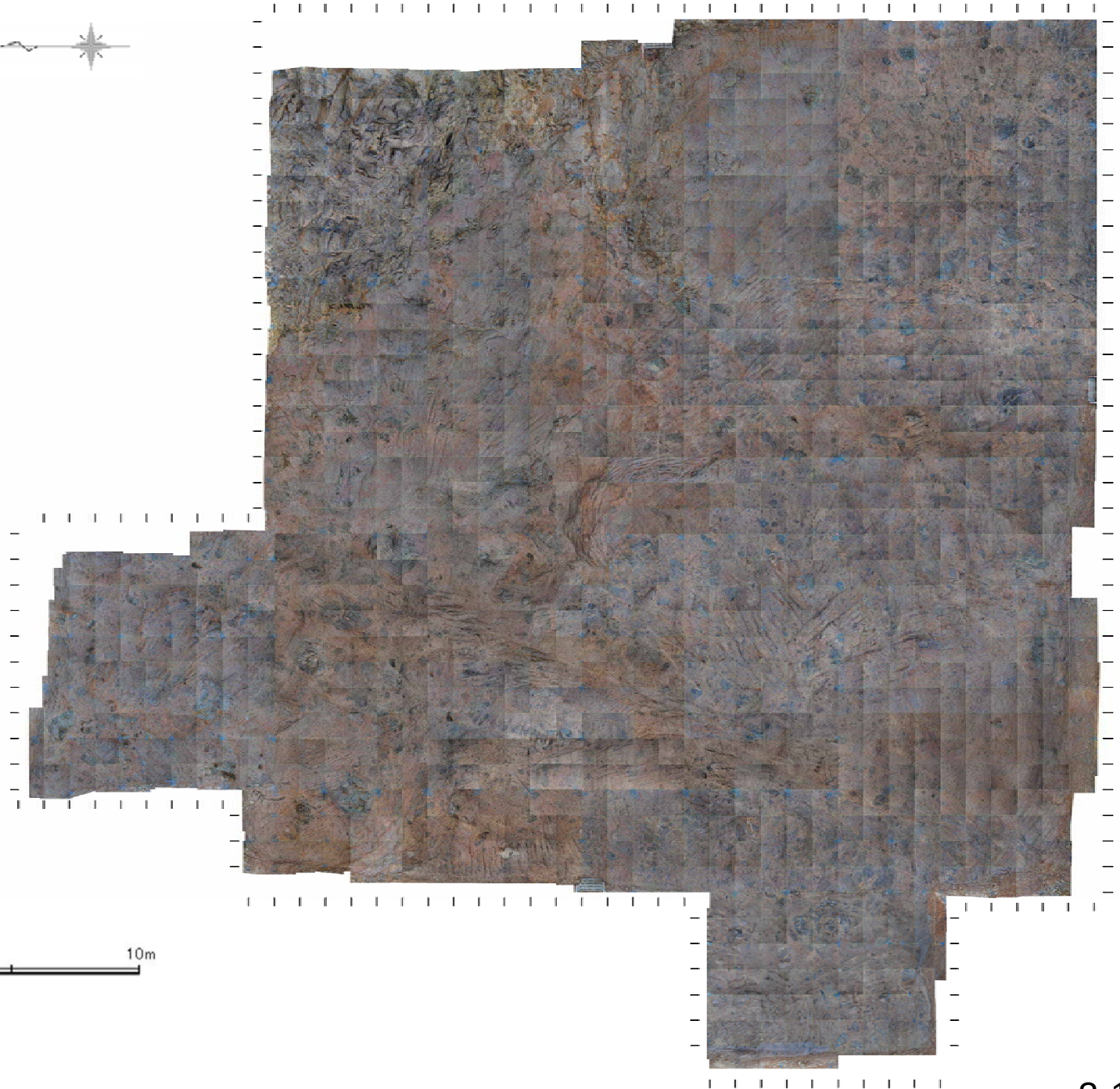
増設緊急時対策所 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

・増設緊急時対策所基礎地盤には、断層は認められない。

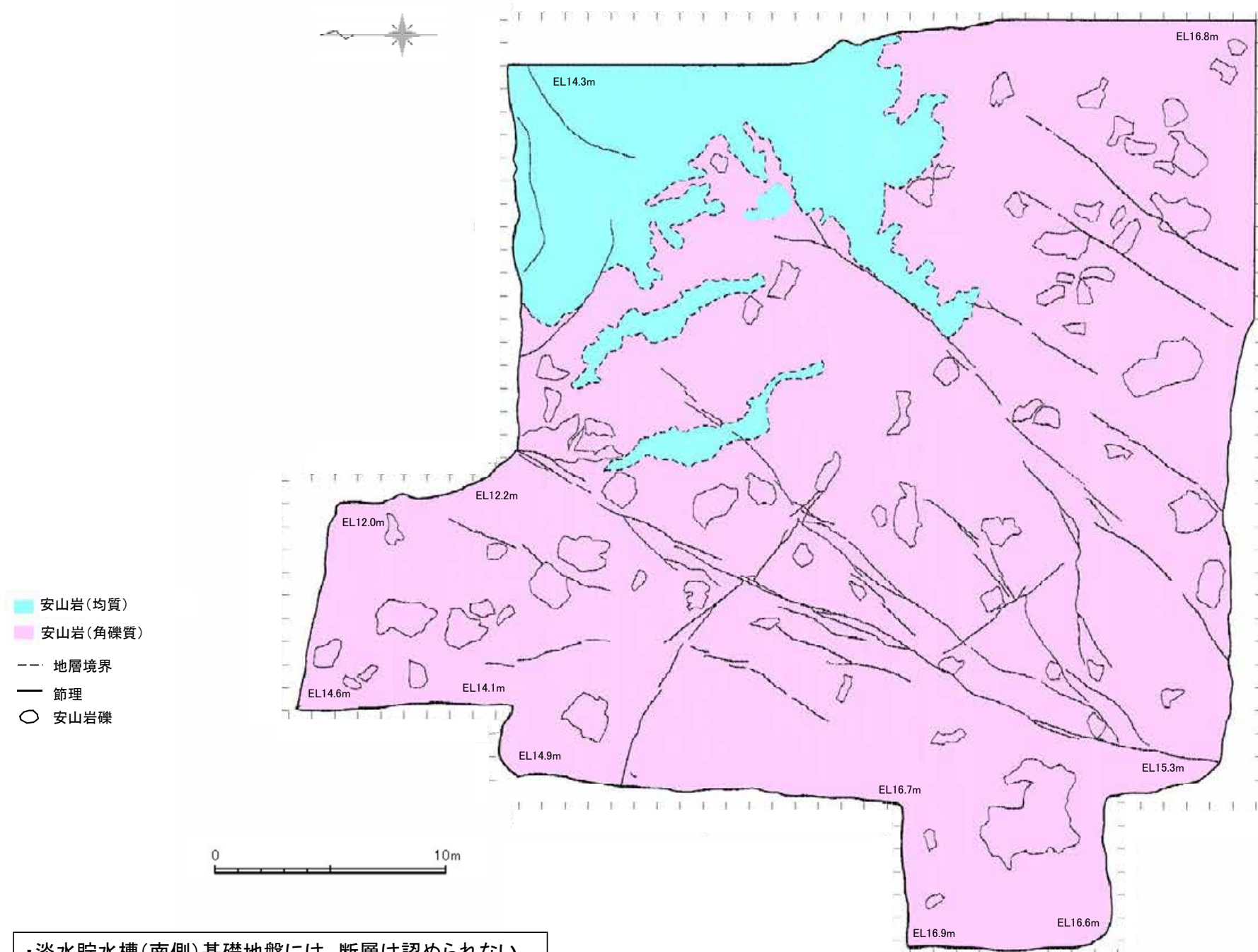
淡水貯水槽(南側)① 基礎地盤写真



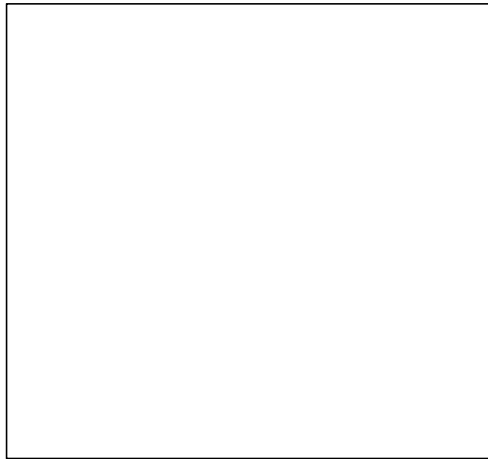
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

位置図

淡水貯水槽(南側)② 基礎地盤スケッチ

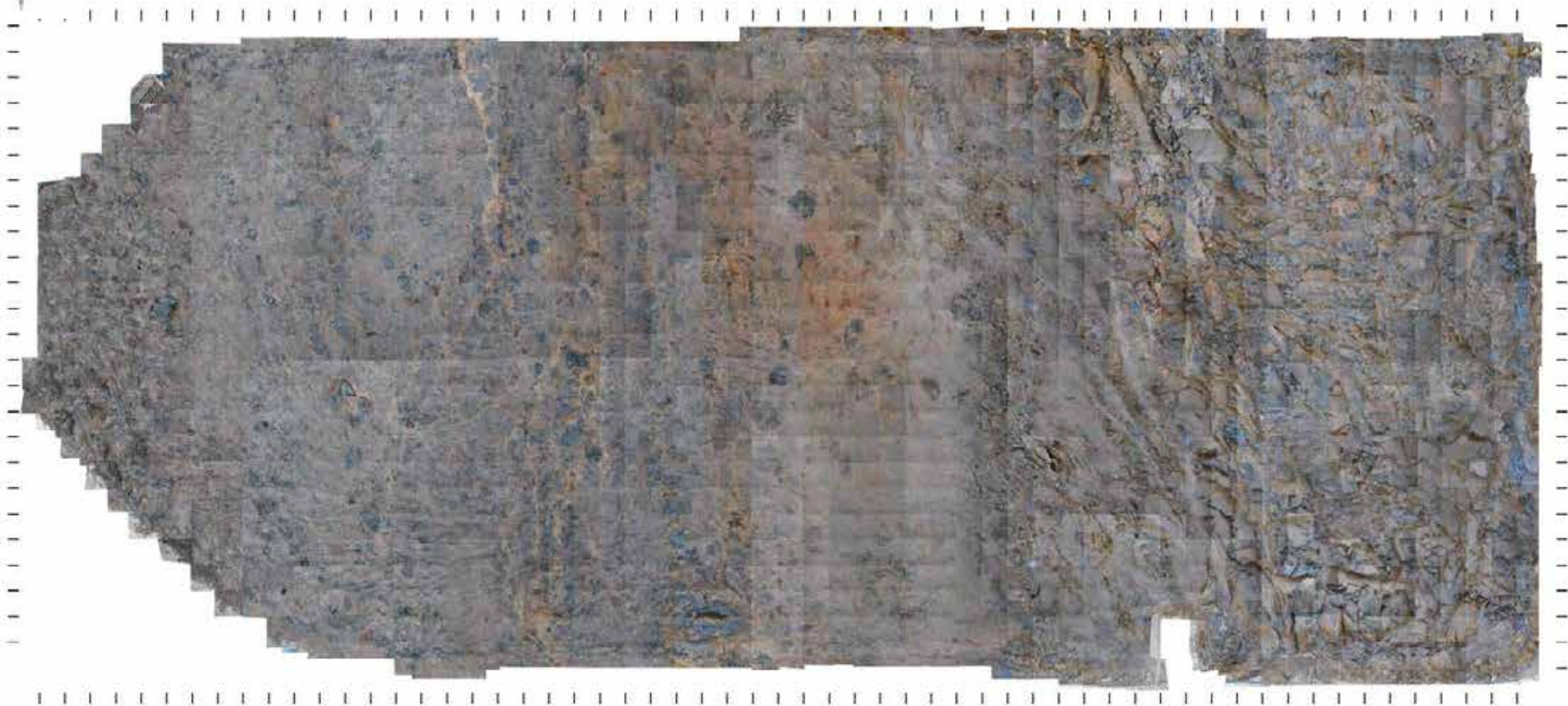


・淡水貯水槽(南側)基礎地盤には、断層は認められない。



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

位置図

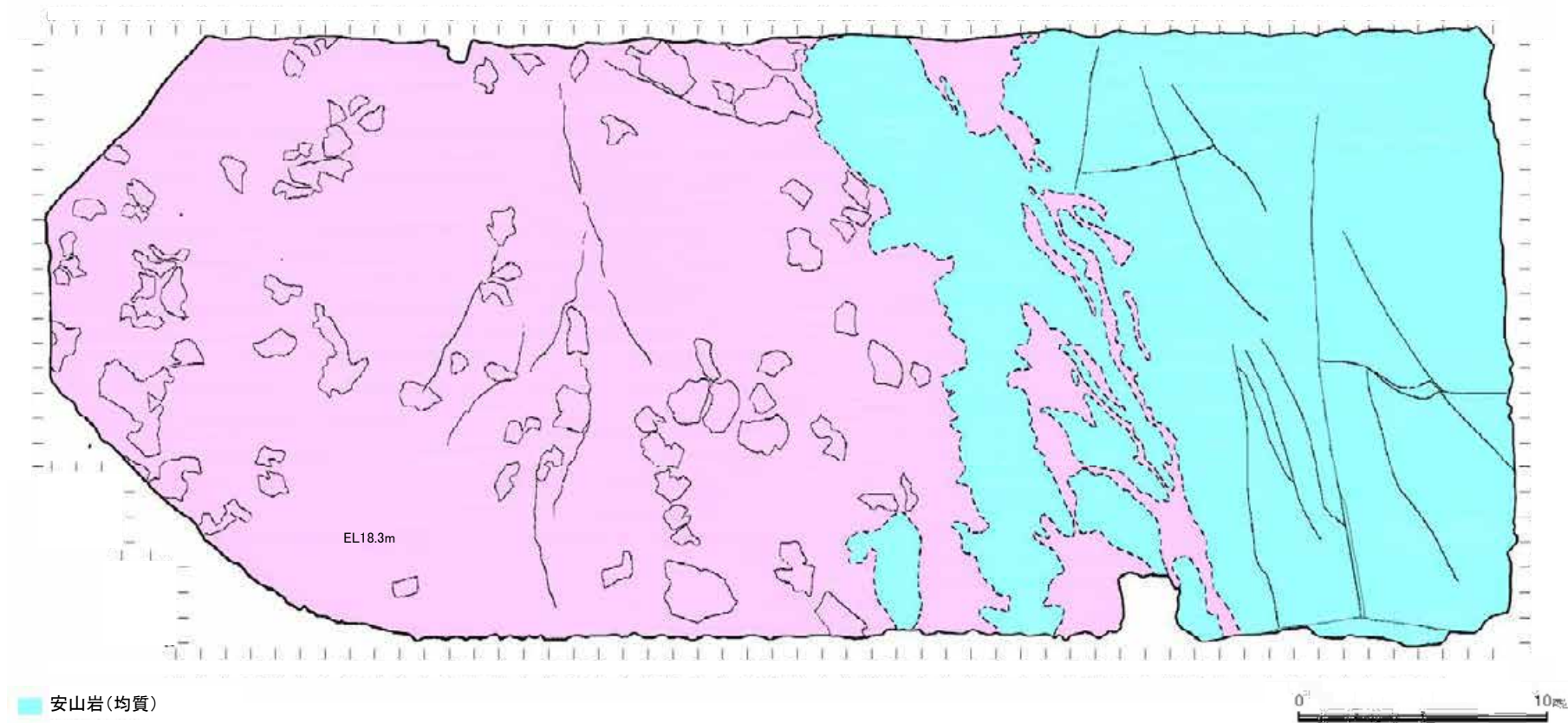


淡水貯水槽(東側) 基礎地盤写真

0 10m

淡水貯水槽(東側)② 基礎地盤スケッチ

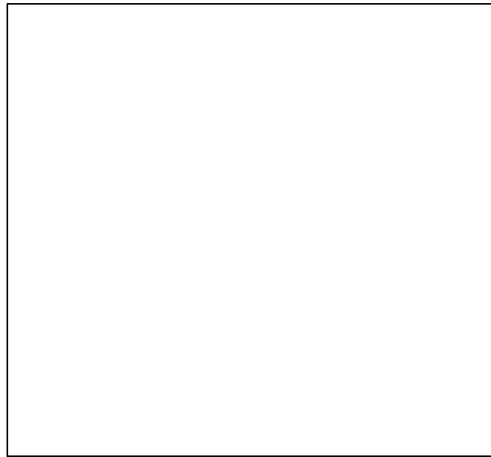
第453回審査会合
机上配布資料-1 P.4-12 一部修正



- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 地層境界
- 節理
- 安山岩礫

淡水貯水槽(東側) 基礎地盤スケッチ

・淡水貯水槽(東側)基礎地盤には、断層は認められない。



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

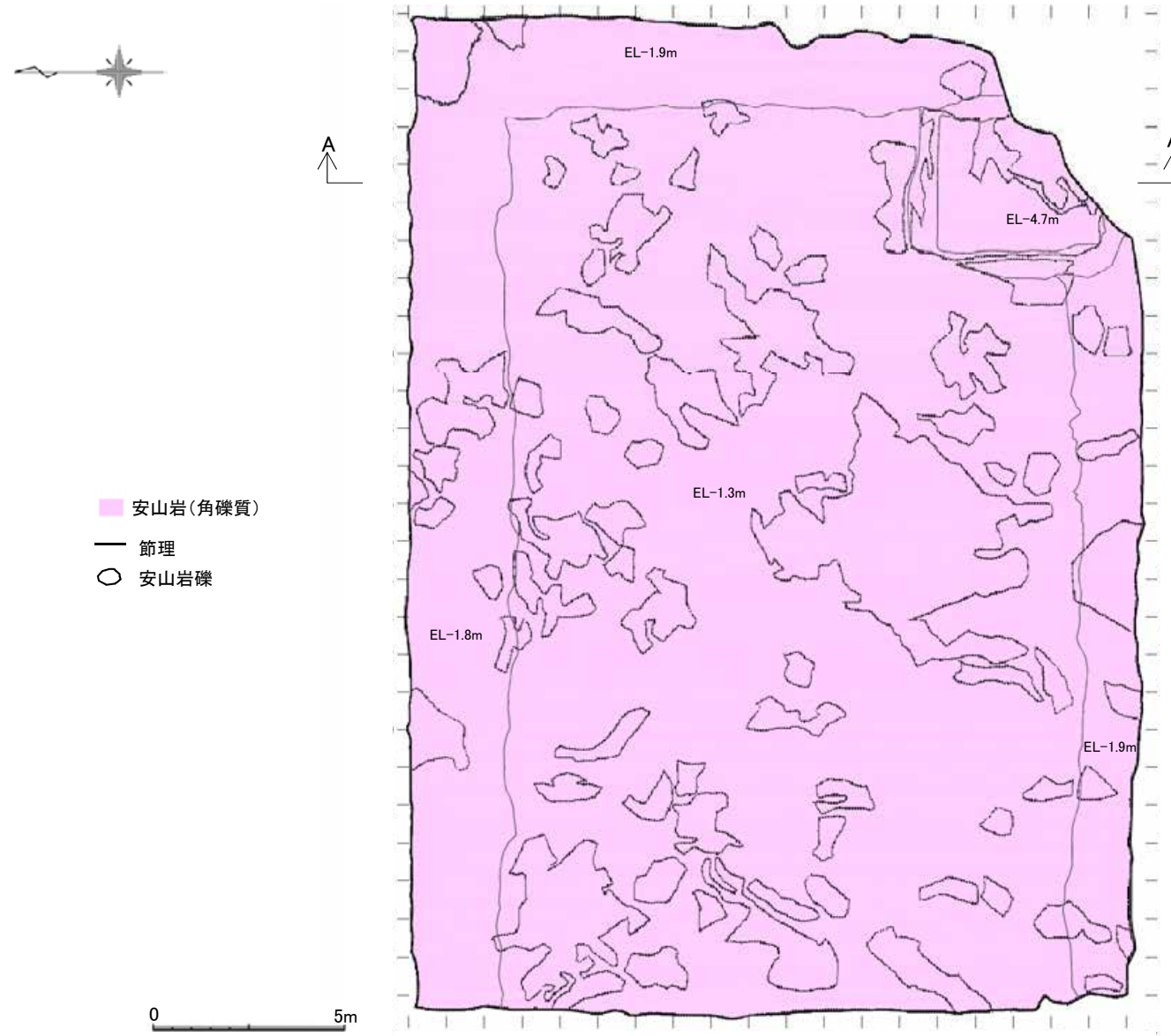
位置図



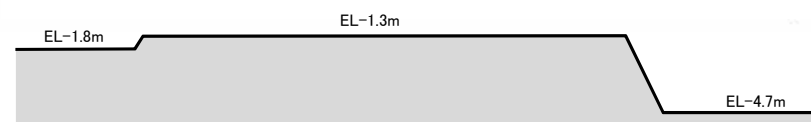
0 5m



フィルタ付格納容器ベント装置建屋 基礎地盤写真



フィルタ付格納容器ベント装置建屋 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

・フィルタ付格納容器ベント装置建屋
基礎地盤には、断層は認められない。



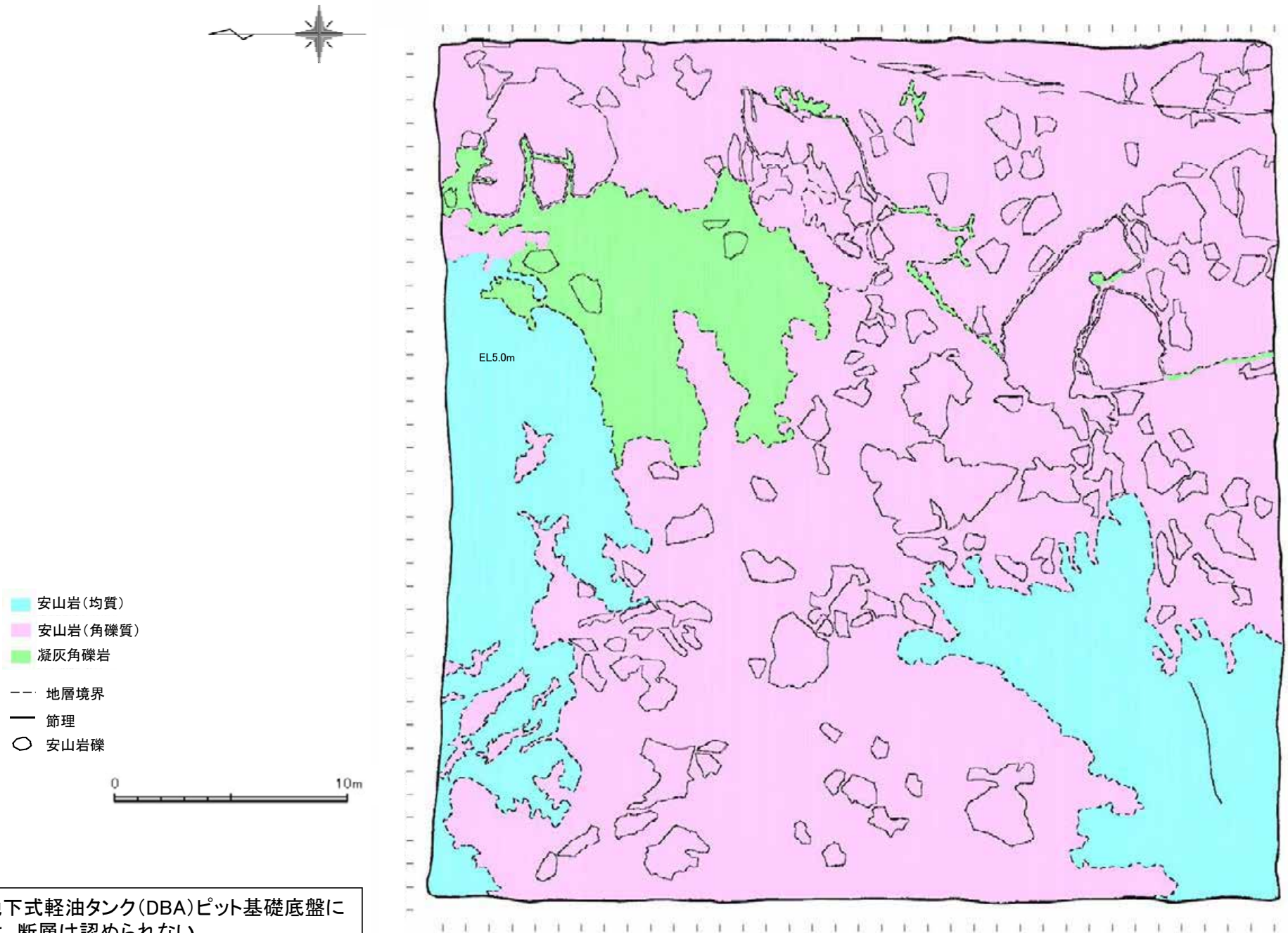
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

位置図



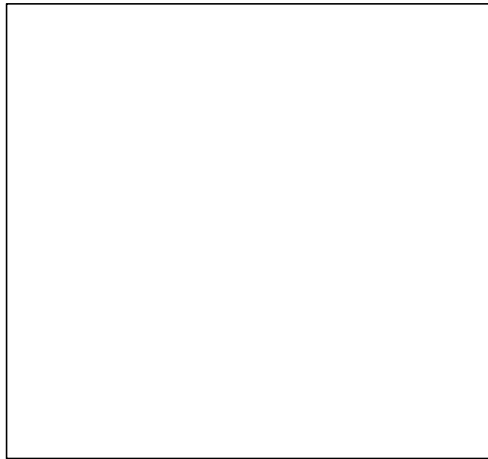
地下式軽油タンク(DBA)ピット② 基礎地盤スケッチ

第453回審査会合
机上配布資料-1 P.4-16 一部修正



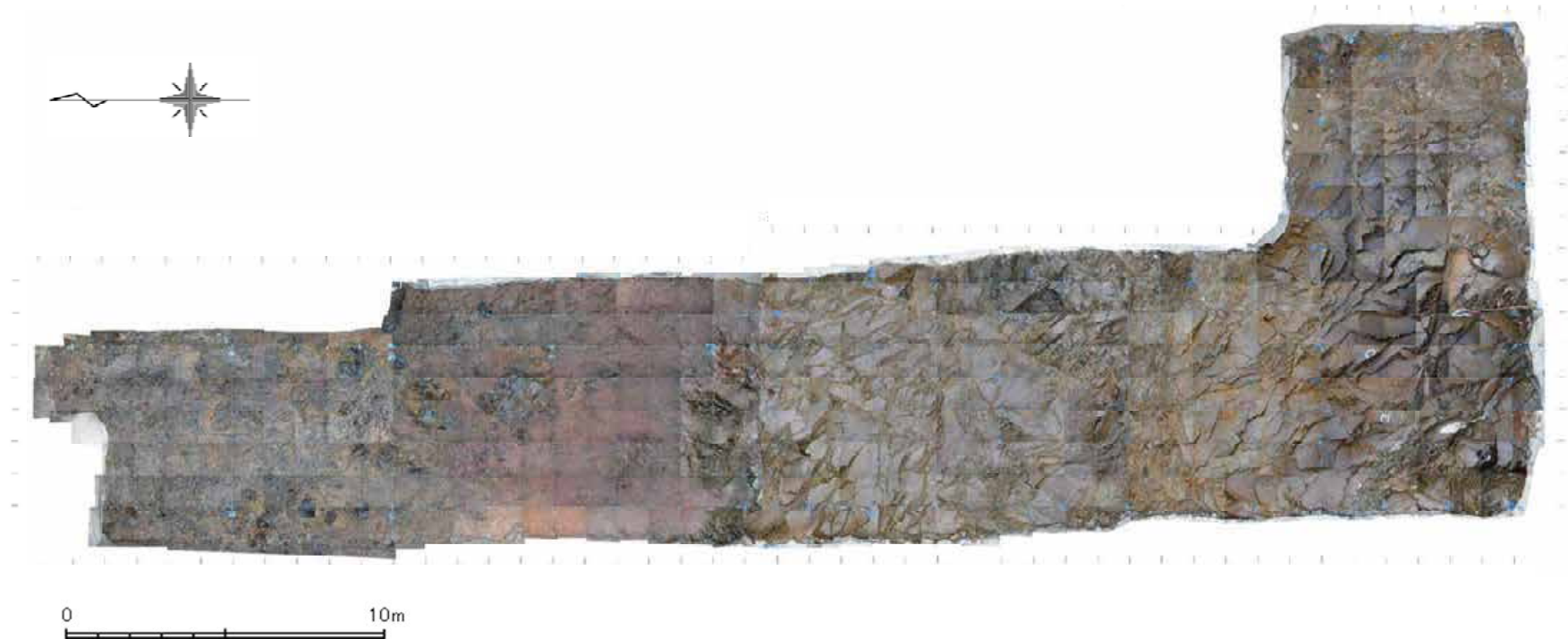
・地下式軽油タンク(DBA)ピット基礎底盤には、断層は認められない。

地下式軽油タンク(DBA)トレンチ① 基礎地盤写真



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

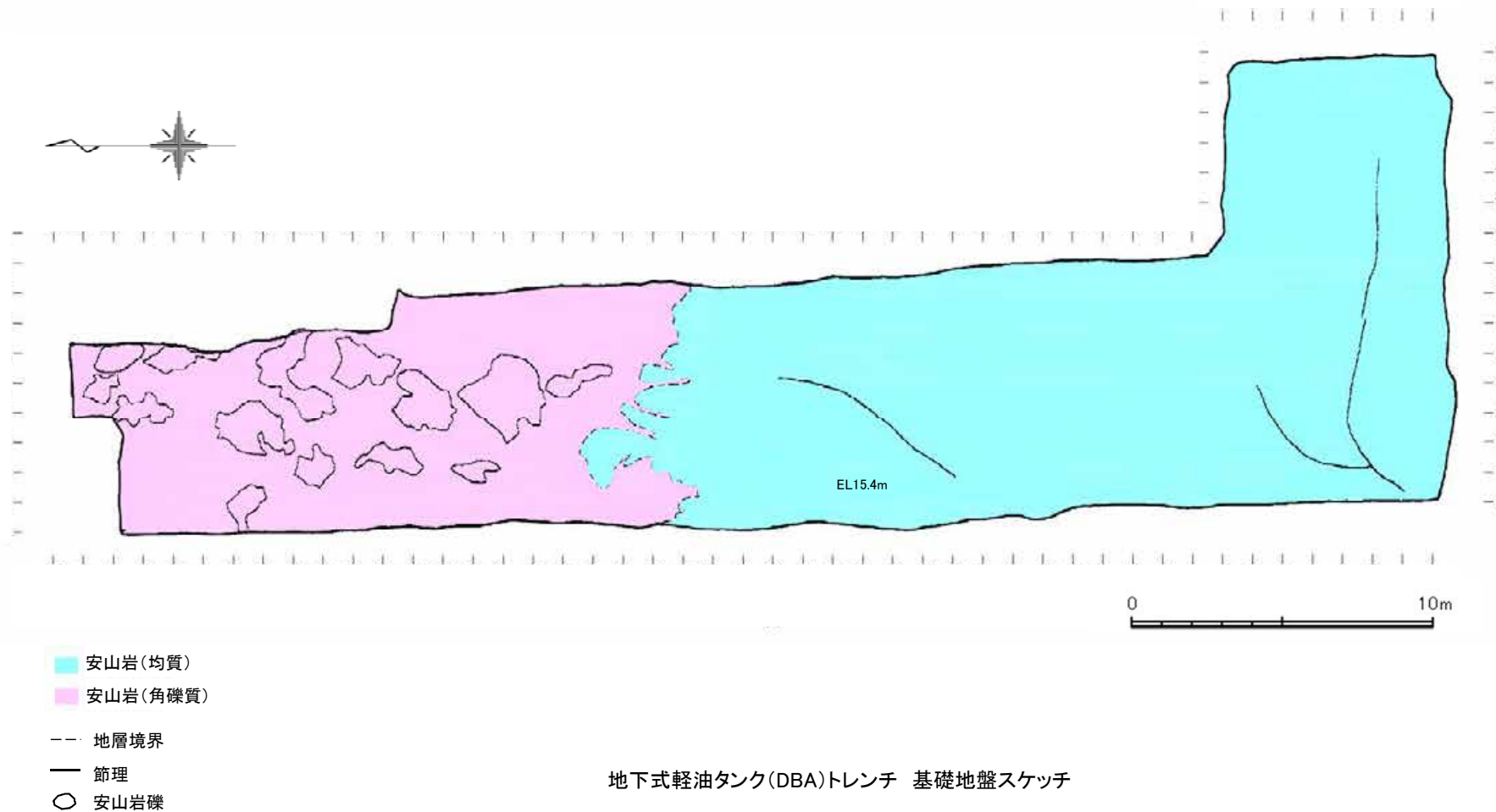
位置図



地下式軽油タンク(DBA)トレンチ 基礎地盤写真

地下式軽油タンク(DBA)トレンチ② 基礎地盤スケッチ

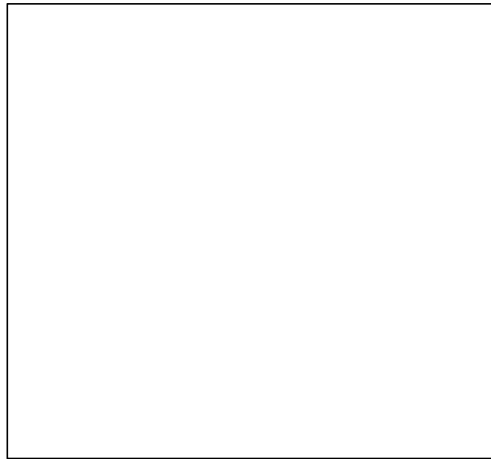
第453回審査会合
机上配布資料-1 P.4-18 一部修正



地下式軽油タンク(DBA)トレンチ 基礎地盤スケッチ

・地下式軽油タンク(DBA)トレンチ基礎地盤には、断層は認められない。

代替所内電気設備建屋① 基礎地盤写真



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図

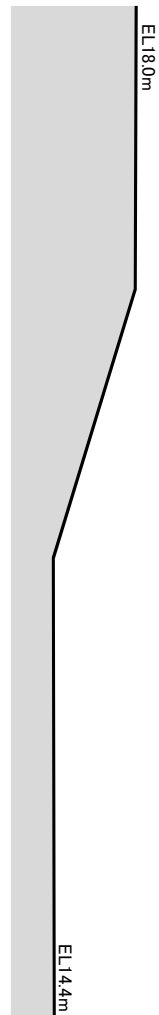
0 10m



代替所内電気設備建屋 基礎地盤写真

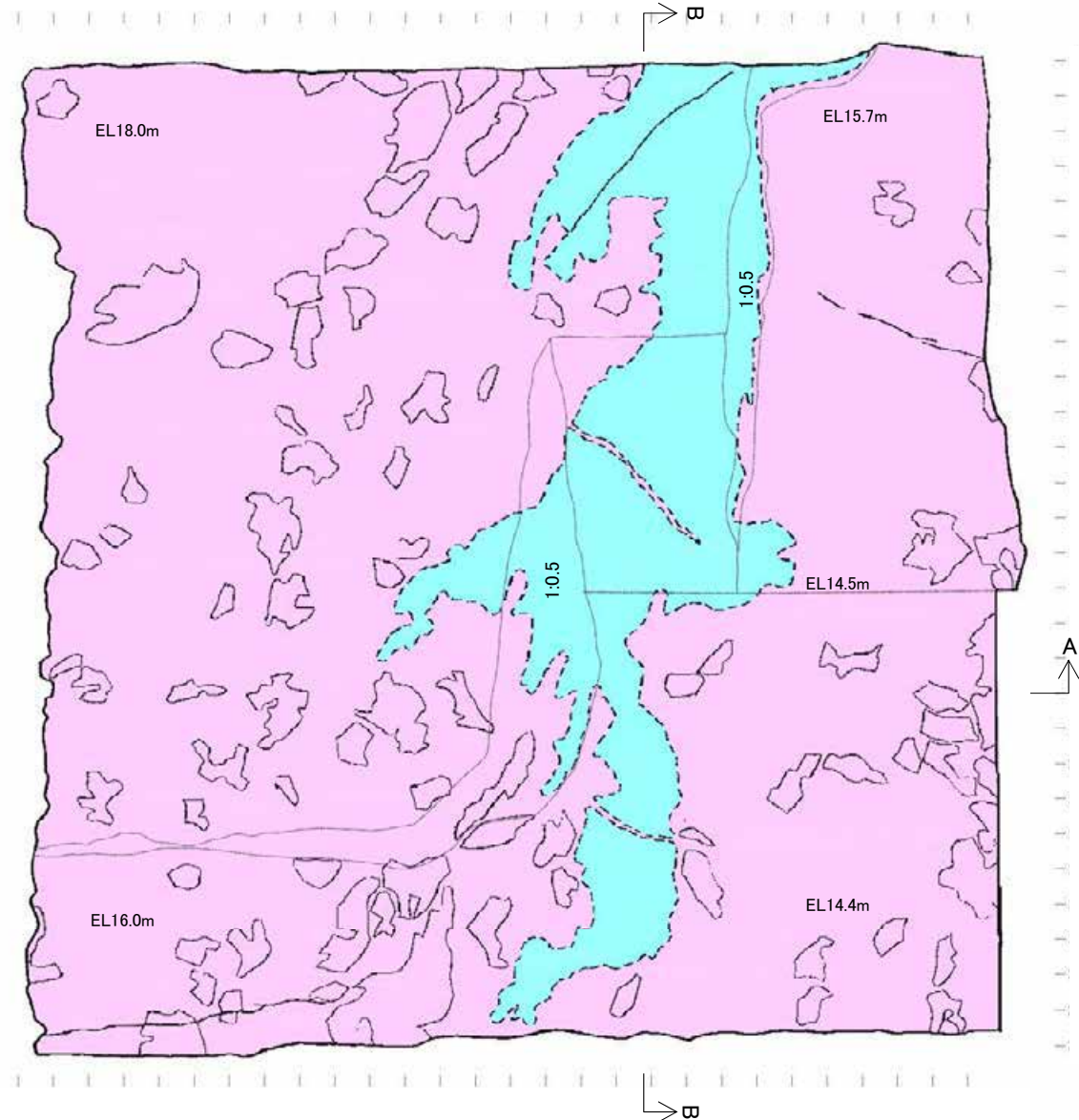
代替所内電気設備建屋② 基礎地盤スケッチ

概略断面図(B-B断面)

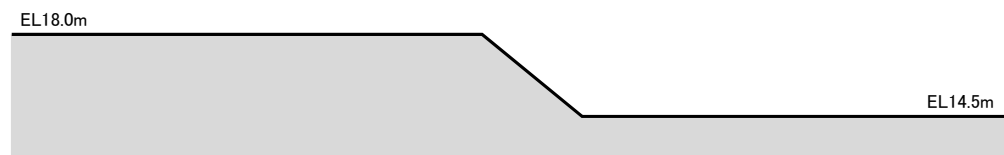


- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 地層境界
- 節理
- 安山岩礫

A



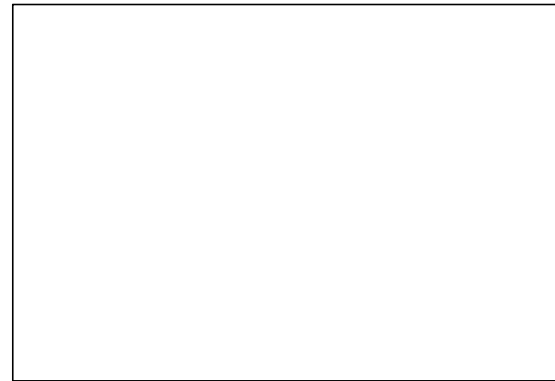
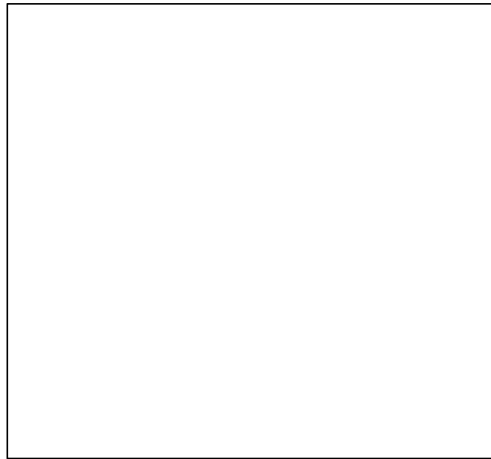
代替所内電気設備建屋 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

・代替所内電気設備建屋基礎地盤には、断層は認められない。

代替所内電気設備建屋トレンチ① 基礎地盤写真



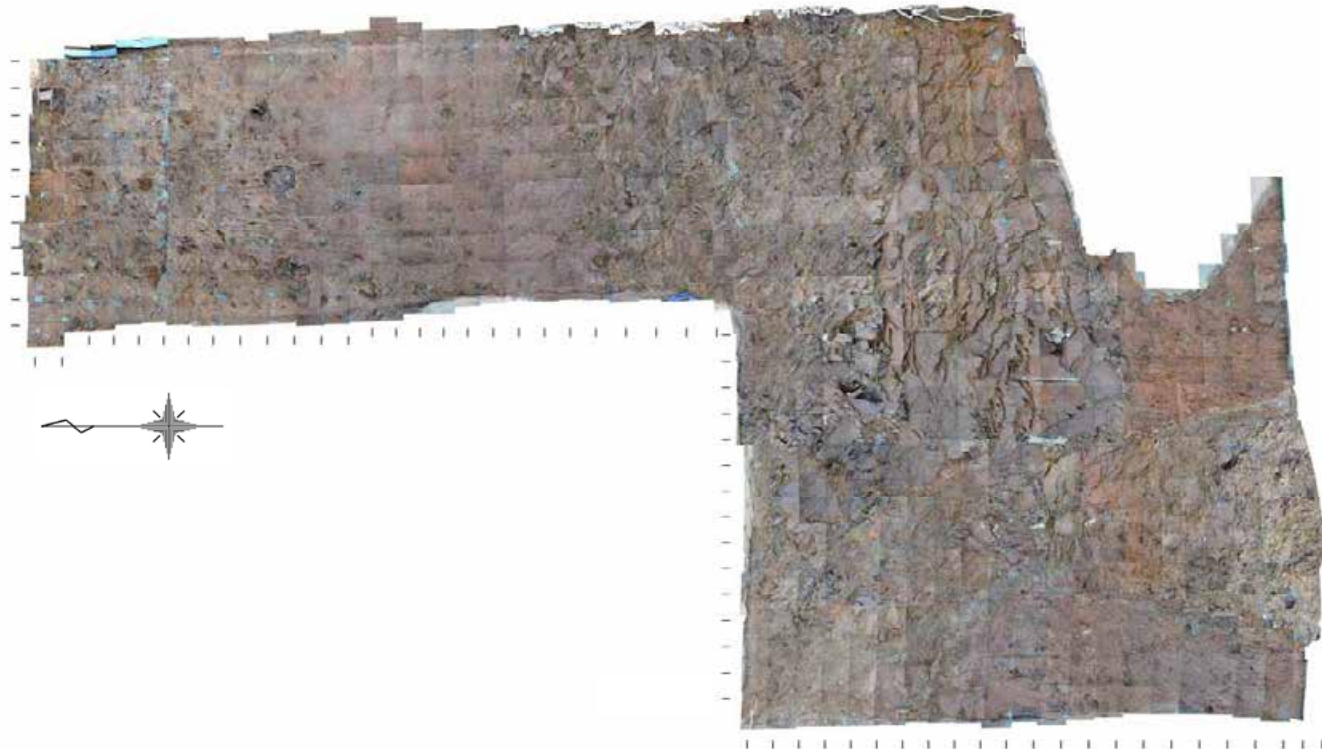
枠囲みの内容は商業機
密又は防護上の観点か
ら公開できません。

枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

EL14.5m盤

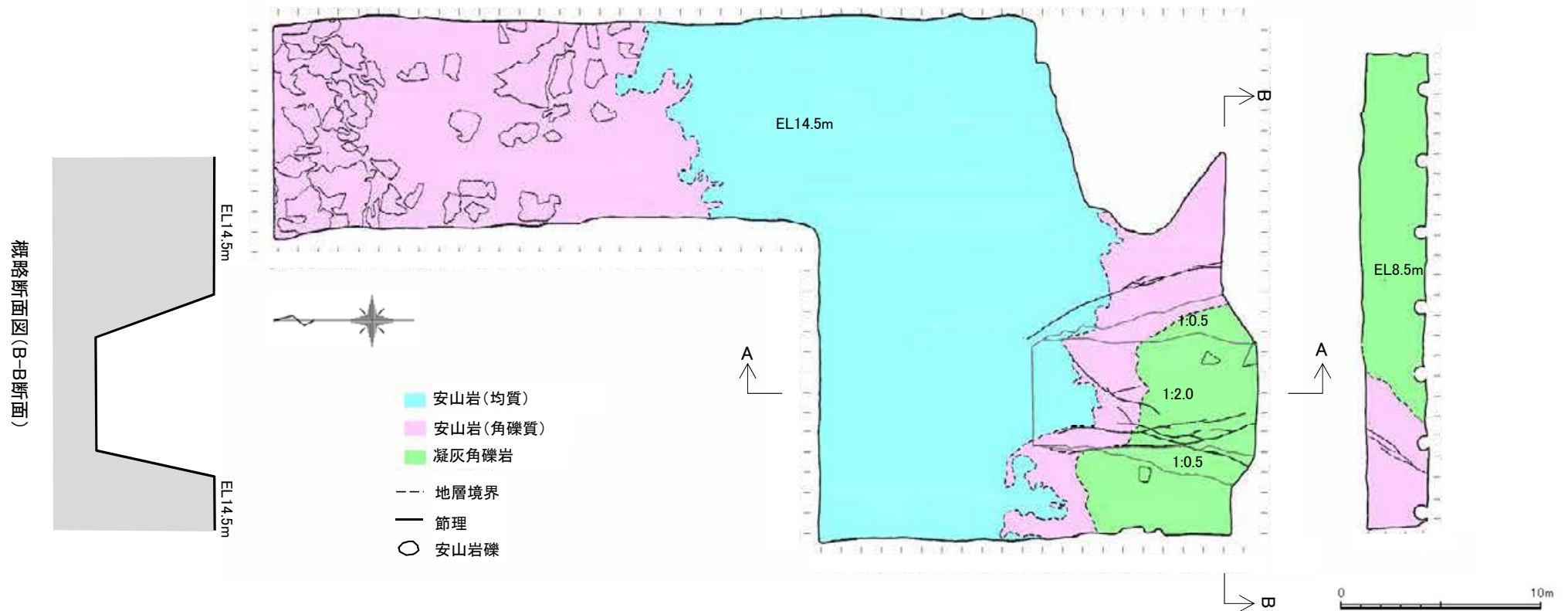
EL8.5m盤

位置図

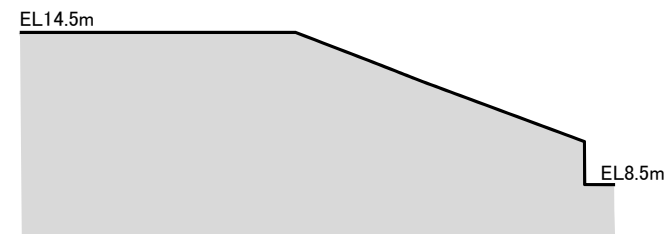


0 10m

代替所内電気設備建屋トレンチ② 基礎地盤スケッチ



代替所内電気設備建屋トレンチ 基礎地盤スケッチ



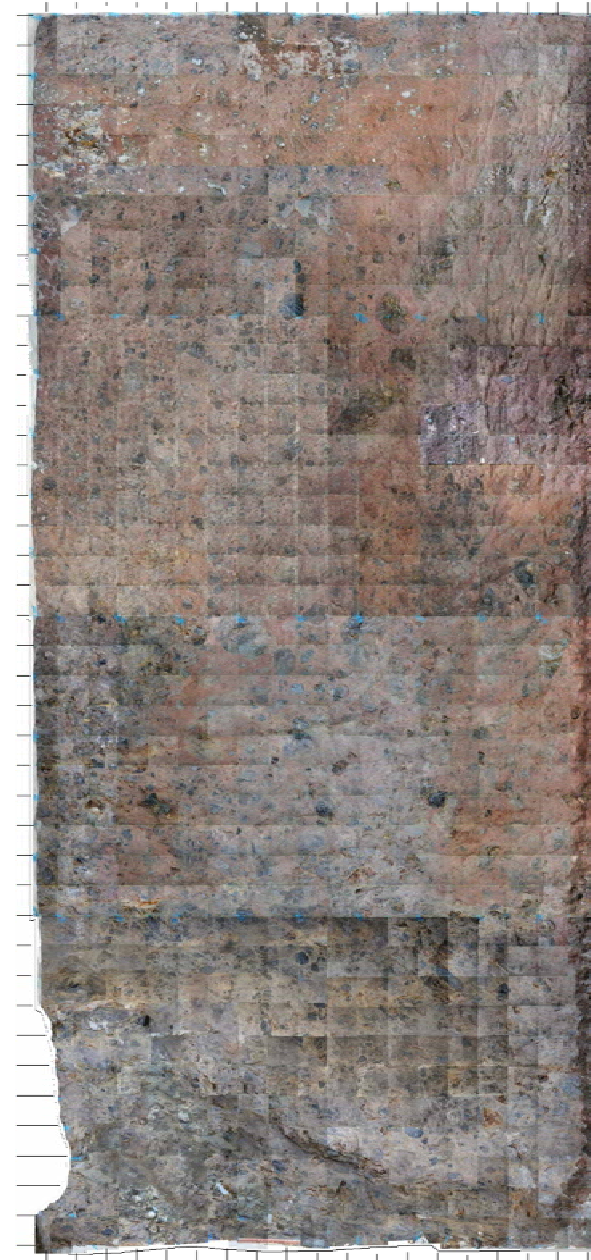
概略断面図(A-A断面)

・代替所内電気設備建屋トレンチ基礎地盤には、断層は認められない。

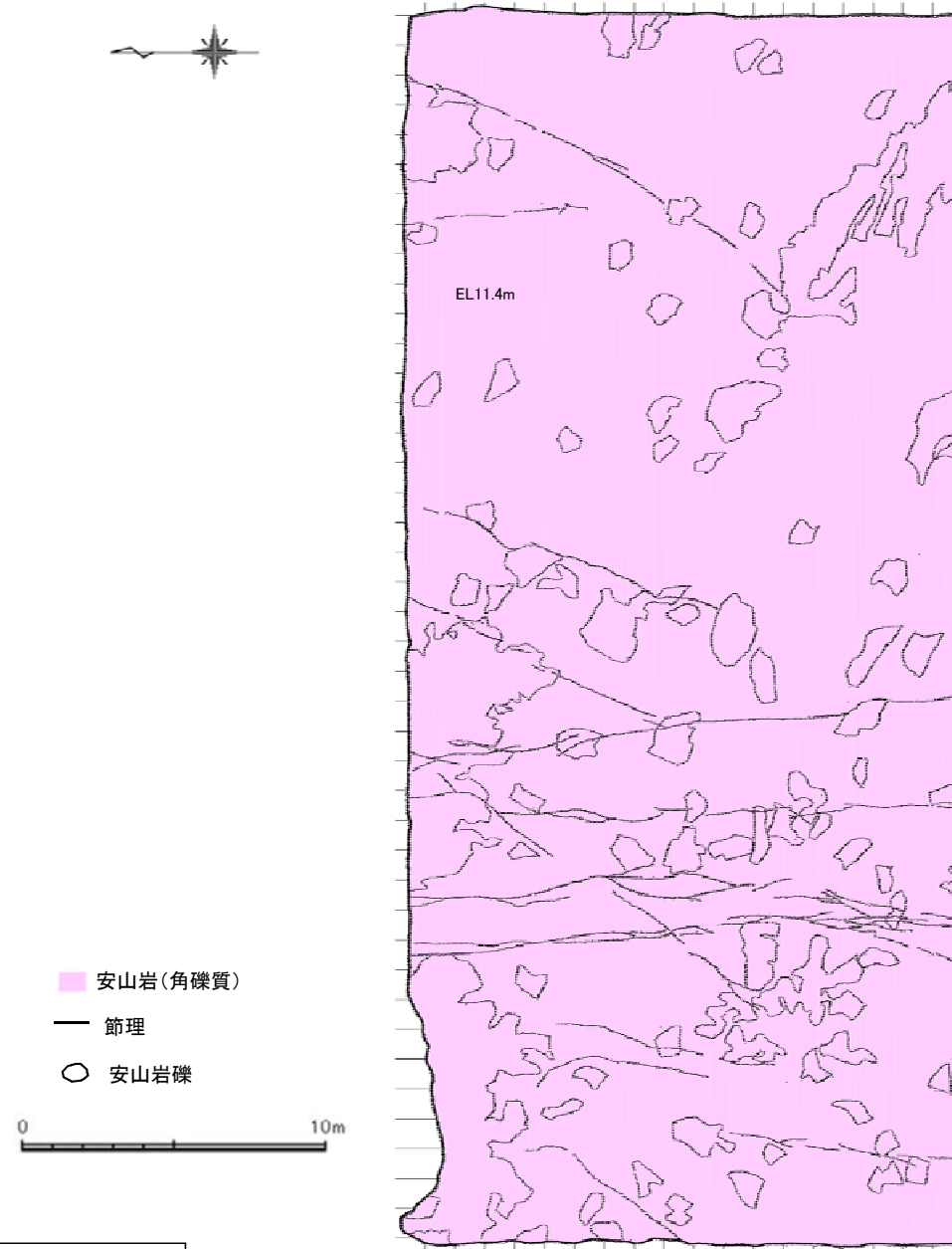


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の
観点から公開できません。

位置図



地下式軽油タンク(SA)ピット② 基礎地盤スケッチ



・地下式軽油タンク(SA)ピット基礎地盤には、断層は認められない。

常設代替交流電源設備建屋① 基礎地盤写真



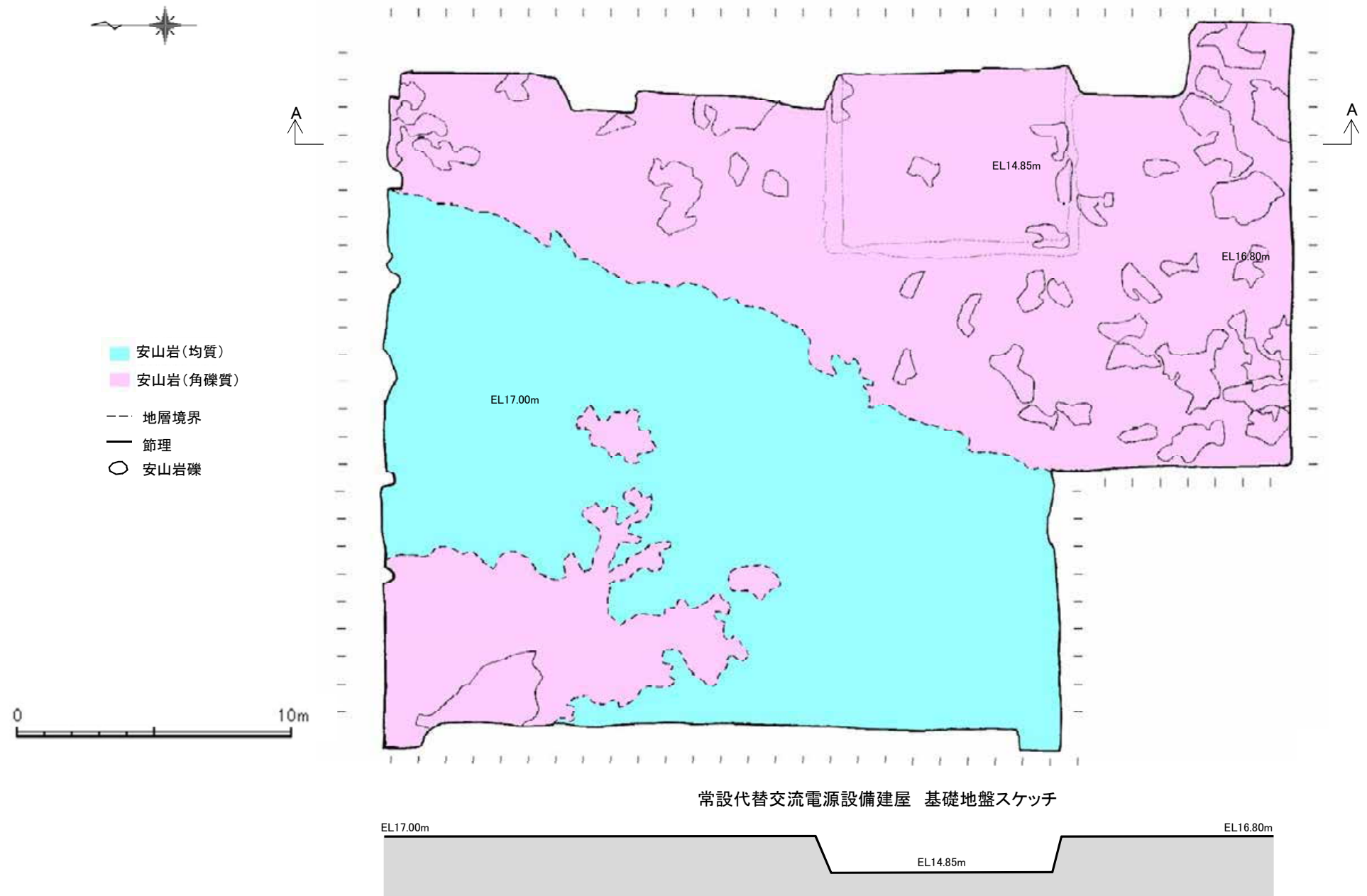
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



常設代替交流電源設備建屋 基礎地盤写真

常設代替交流電源設備建屋② 基礎地盤スケッチ

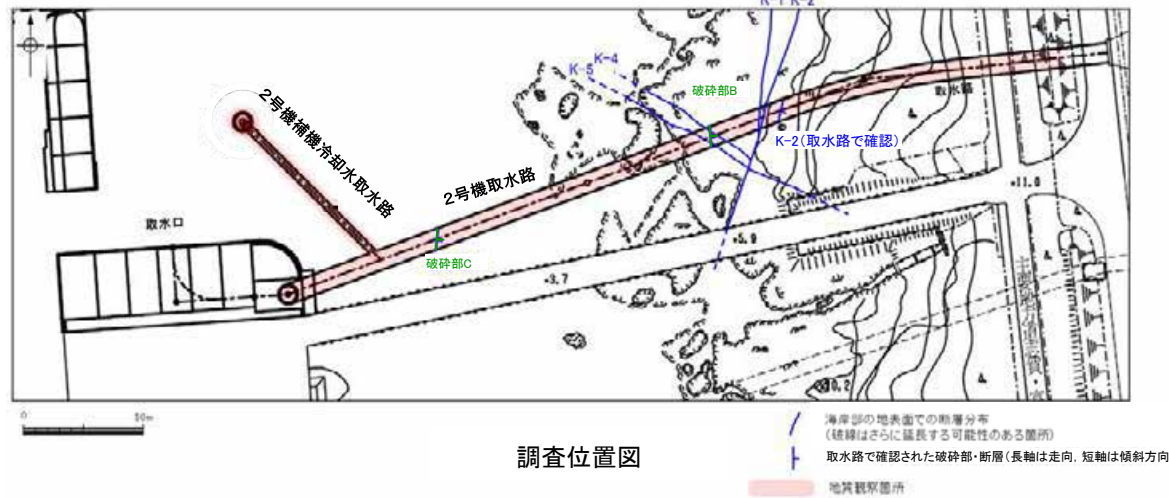


・常設代替交流電源設備建屋基礎地盤には、断層は認められない。

概略断面図(A-A断面)

2号機取水路, 2号機補機冷却水取水路① 位置図,断面図,切羽写真

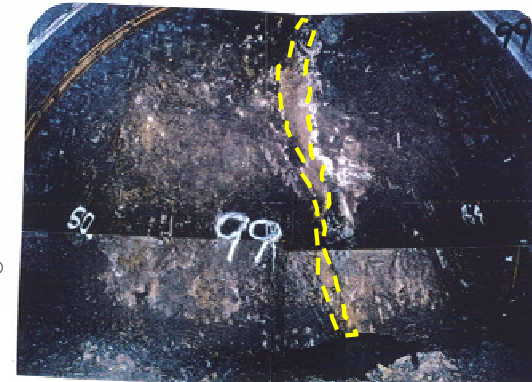
第553回審査会合 机上配布資料1
P.3-4, P.3-5 一部修正



←SE



NW→

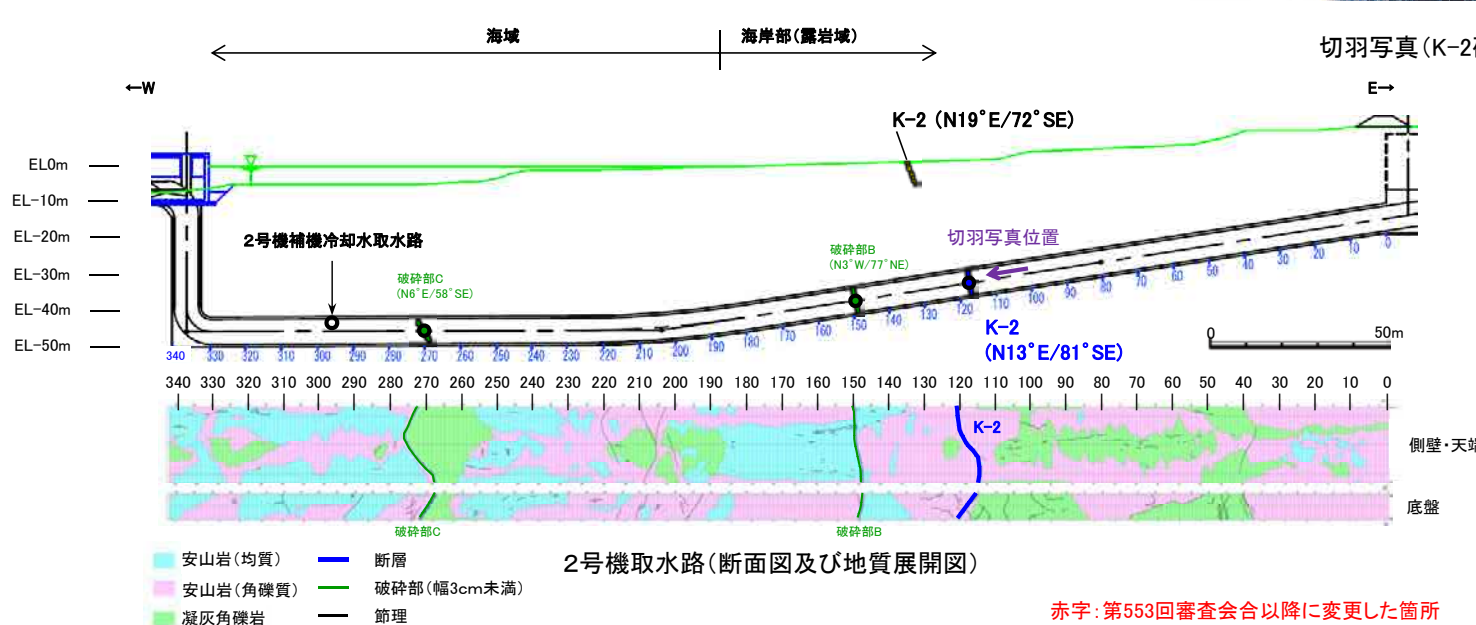


取水路で認められたK-2の性状

走向・傾斜※1 (走向は真北)	N13°E/81°SE
鏡肌の有無	あり
挟在物	厚さ 物 0.1~1cm 粘土
直線性	直線性に乏しく 凹凸する
破砕部の幅	30cm※2

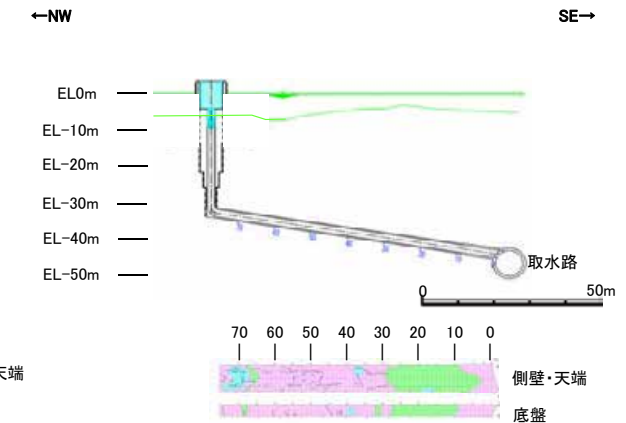
※1 走向は底盤の一般走向, 傾斜はスケッチを基に断面全体から算出

※2 トンネル施工時の断層周辺の「基質部は脆弱」という記載を基に切羽写真から周辺に比べて変質している範囲を破砕部の幅とした。



切羽写真(K-2確認箇所)

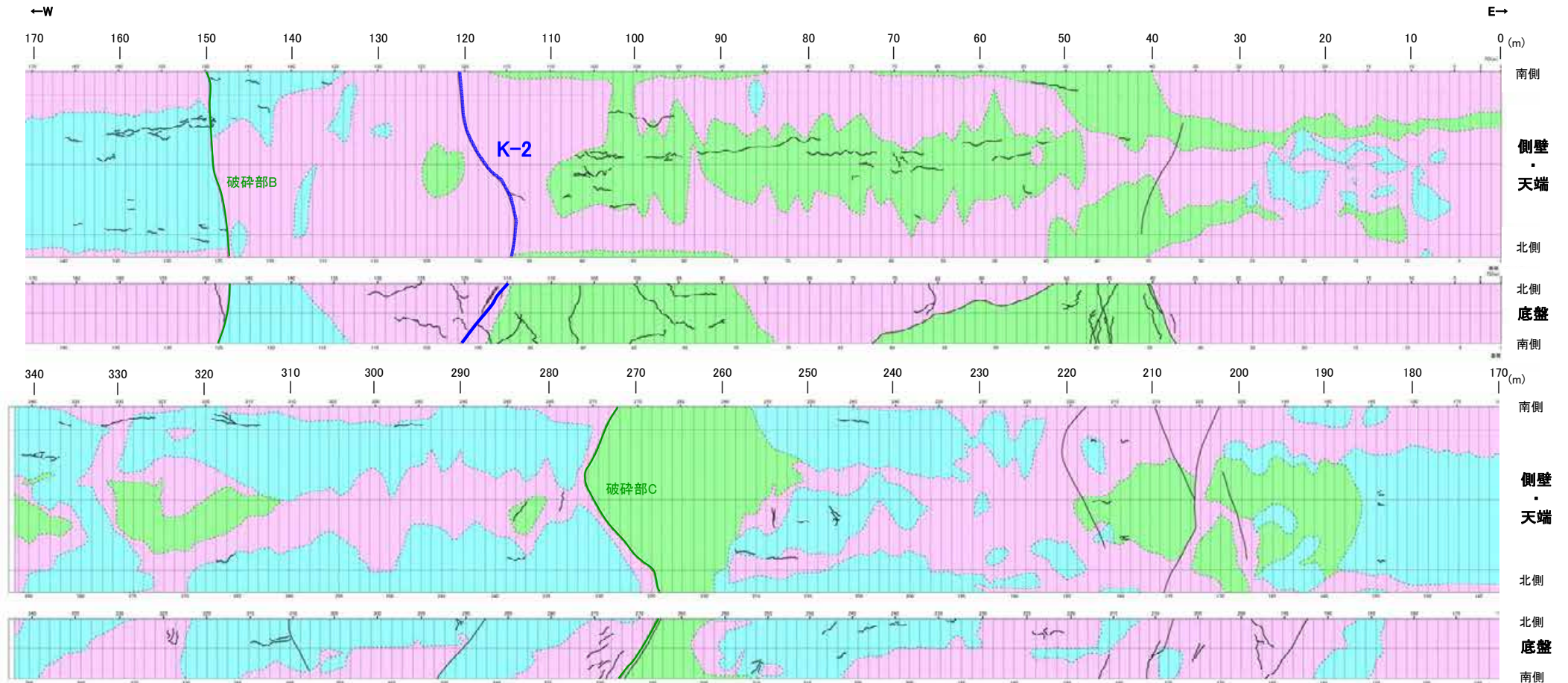
黄点線:断層を加筆
0 2m



赤字:第553回審査会合以降に変更した箇所
(切羽写真 方位 誤記修正)

2号機取水路, 2号機補機冷却水取水路② 地質展開図

第453回審査会合
机上配布資料-1 P.4-6 一部修正

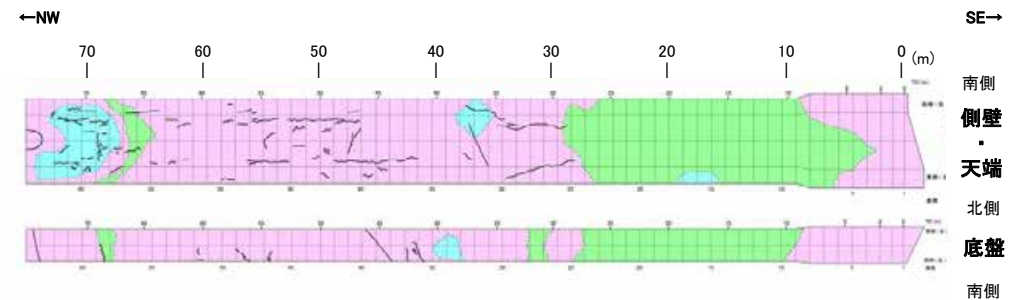


2号機取水路地質展開図

凡例

- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 凝灰角礫岩
- 断層
- 破碎部(幅3cm未満)
- 節理

0 25m



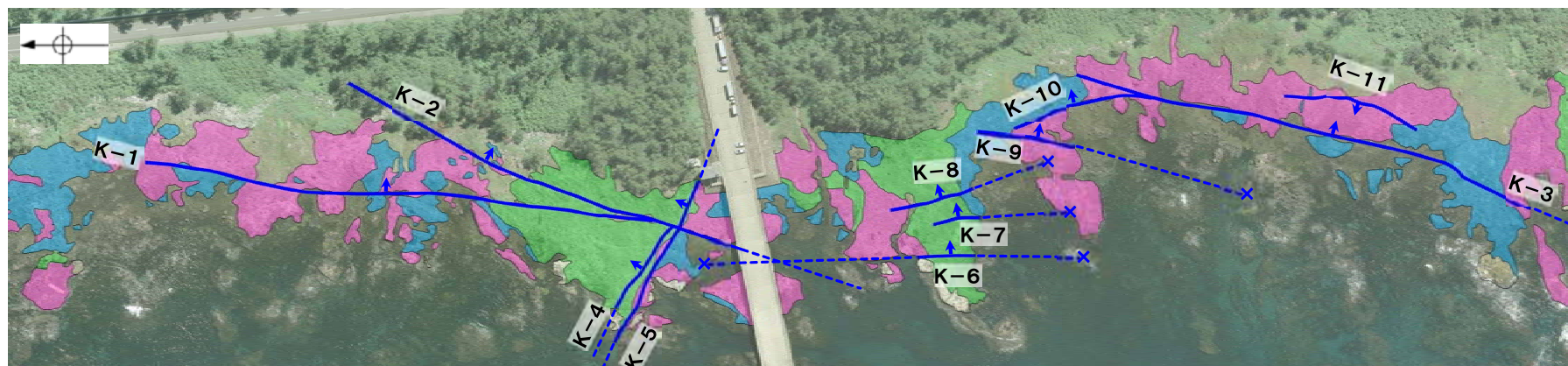
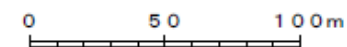
2号機補機冷却水取水路地質展開図

・2号機取水路では, K-2が確認される。

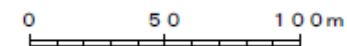
(3) 海岸部



海岸部 写真



海岸部 地質図



凡例

- 穴水累層 安山岩(均質)
- 穴水累層 安山岩(角礫質)
- 穴水累層 凝灰角礫岩

——— 断層(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)

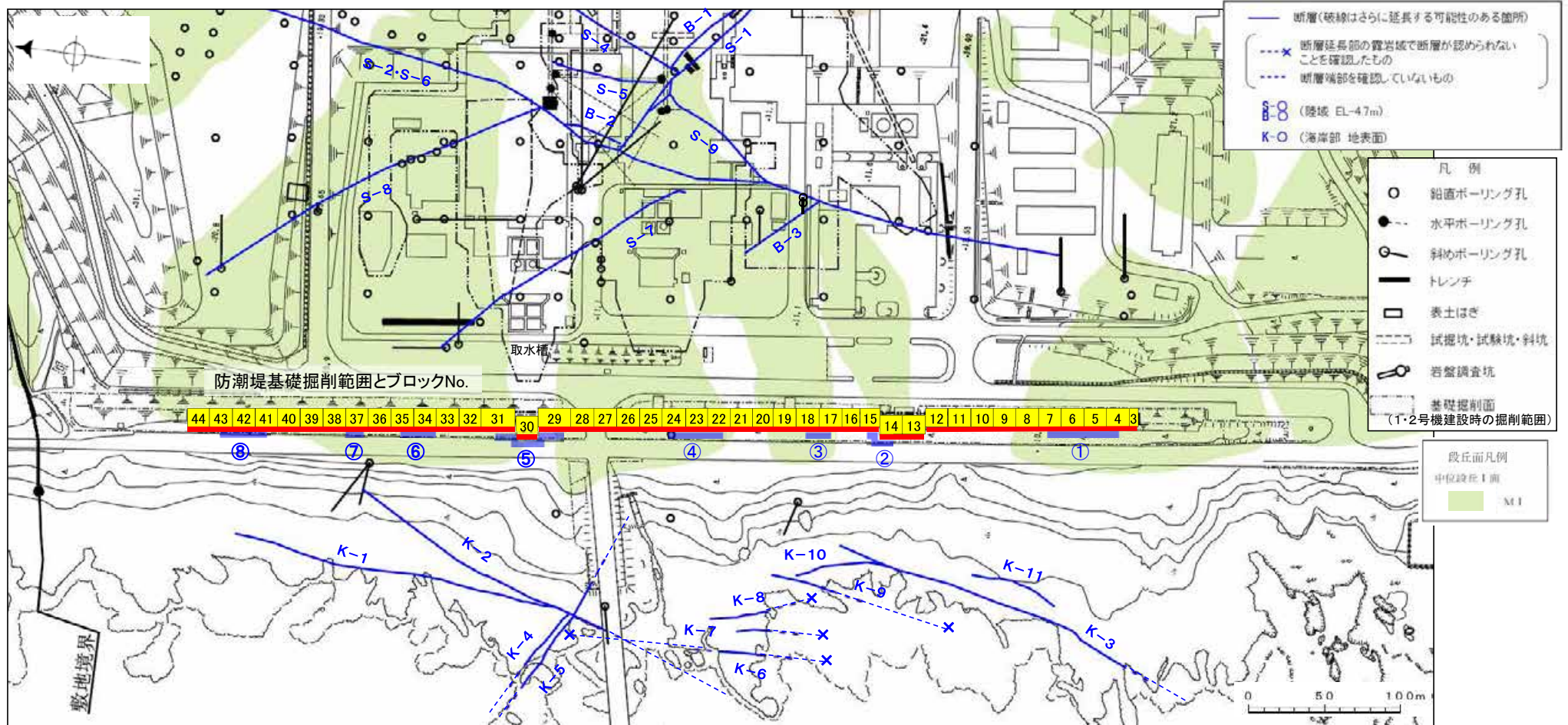
- - - x 断層延長部の露岩域で断層が認められないことを確認したもの

- - - 断層端部を確認していないもの

実線矢印(▶)の向きは断層の傾斜方向を示す

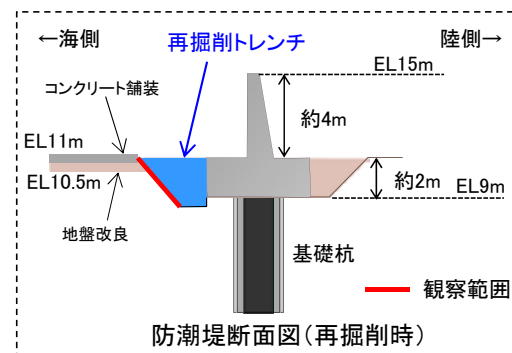
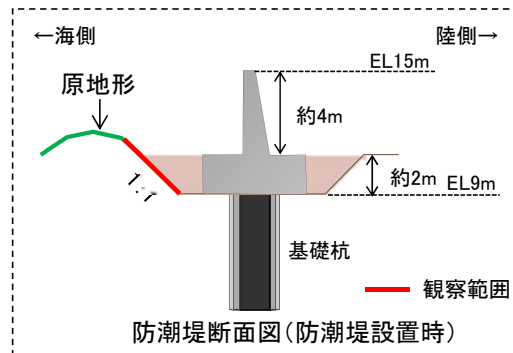
海岸部では、断層が11条確認される。

(4) 防潮堤基礎掘削法面



防潮堤基礎掘削法面 調査位置図

再掘削トレンチ範囲
(○数字はトレンチNo.)



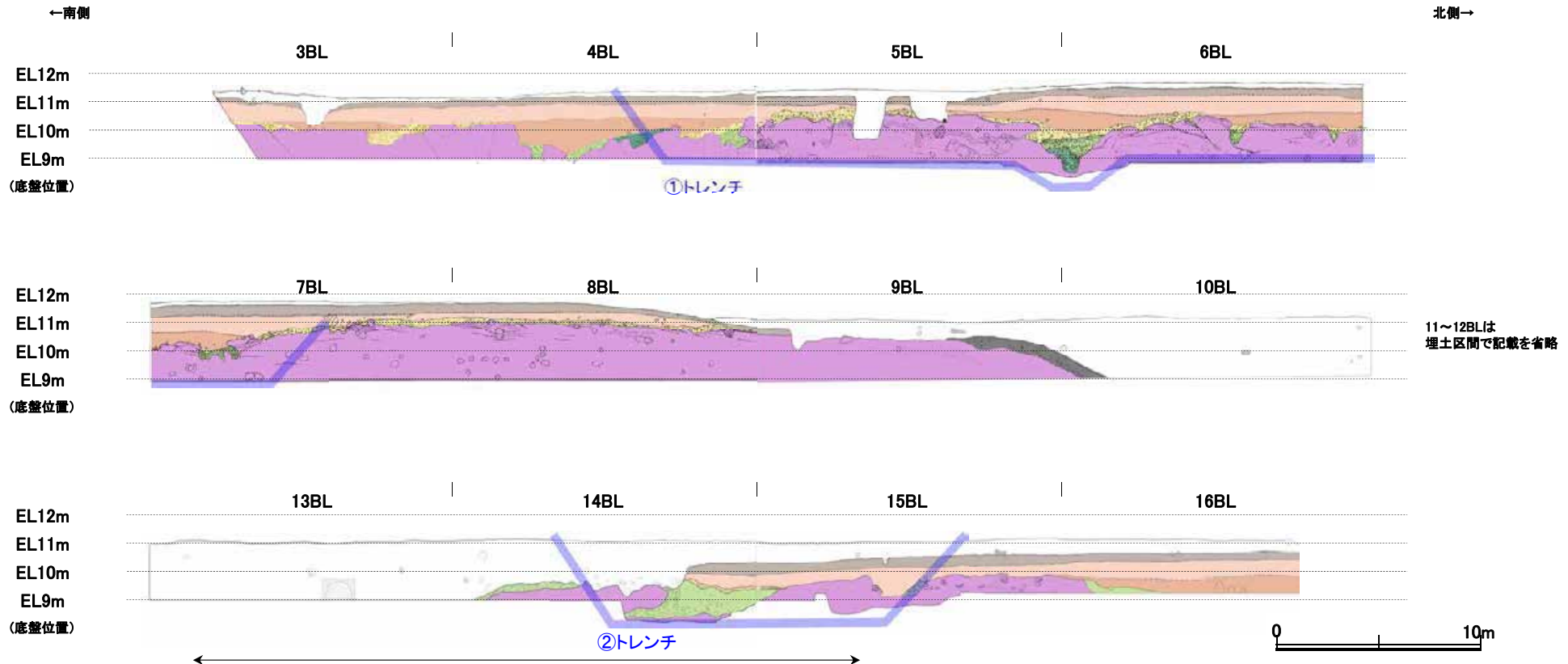
・再掘削トレンチ調査を行った箇所は、発電所建設以前の旧標高は約10～13mであり、防潮堤設置時にスケッチを実施した時期には原地形が残っていた。しかしながら、運搬道路施工に伴う地盤改良工事により、EL11m盤に整地され、EL10.5m以下の地層は一部を除き人工改変を受けている。

・再掘削トレンチは断層の有無をより詳細に確認するため、防潮堤設置時よりもさらに海側方向または深さ方向に最大1m程度掘り込んでいる箇所がある。

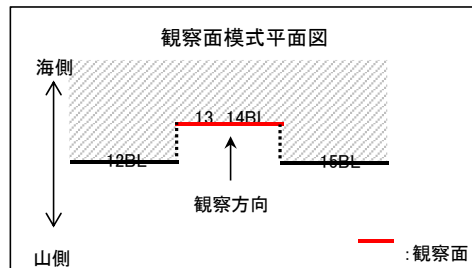
防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ①[3BL～16BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-46 一部修正

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時)スケッチ [3BL～16BL]



13, 14BL周辺はその他のBLより海側の面を観察



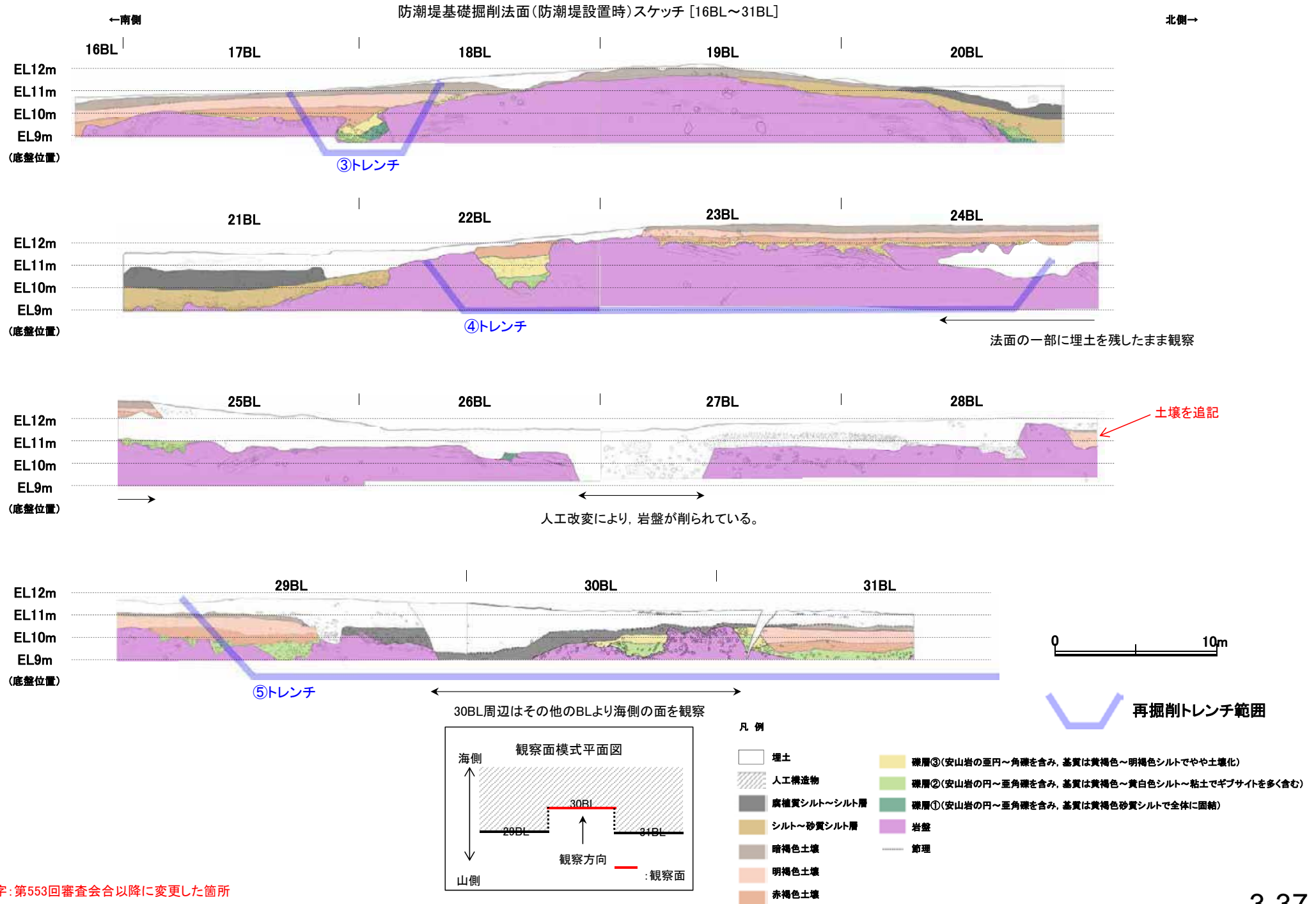
凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～垂角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～垂角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に面結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |

再掘削トレンチ範囲

防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ②[16BL～31BL]

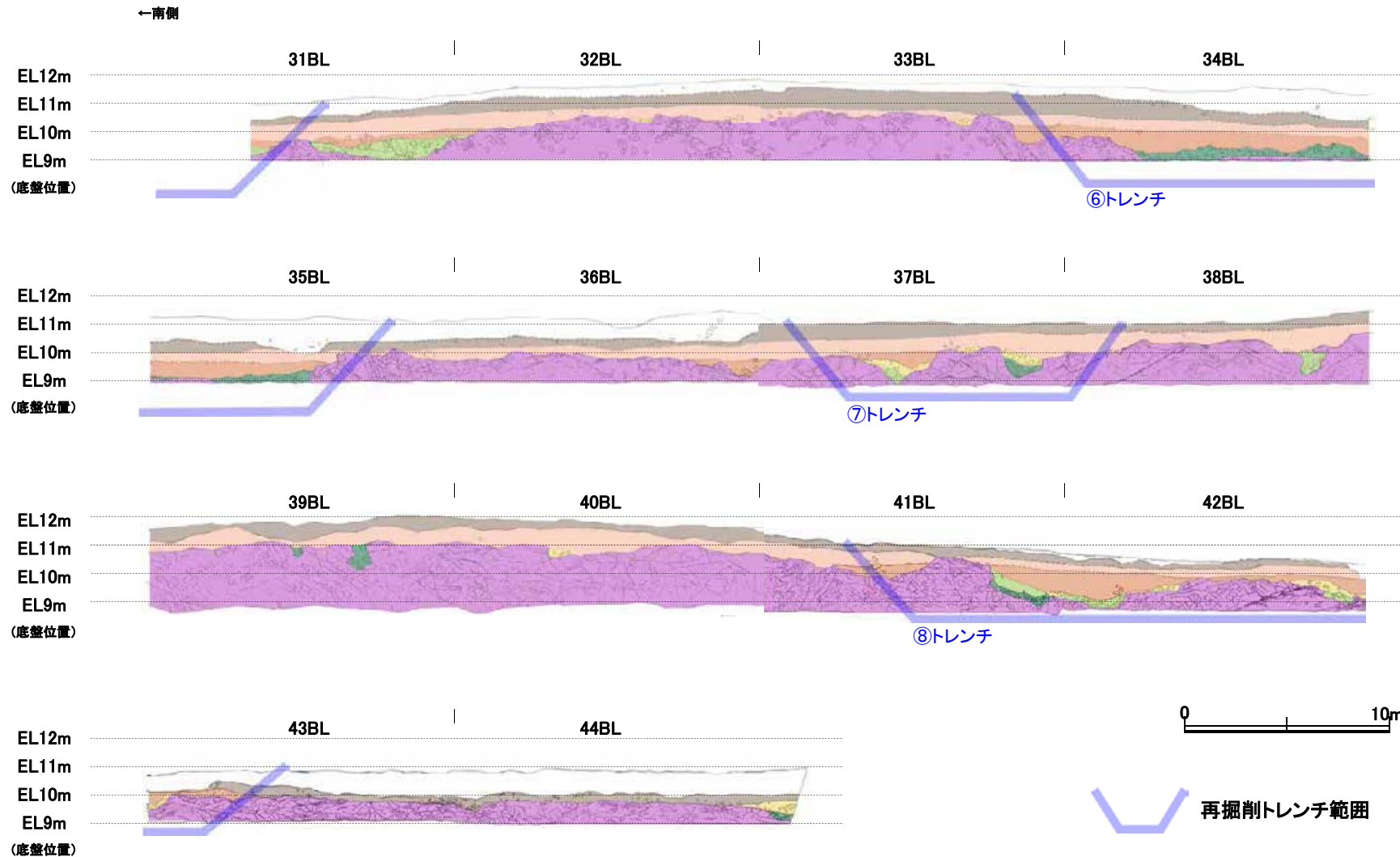
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-47 一部修正



防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ③[31BL～44BL]

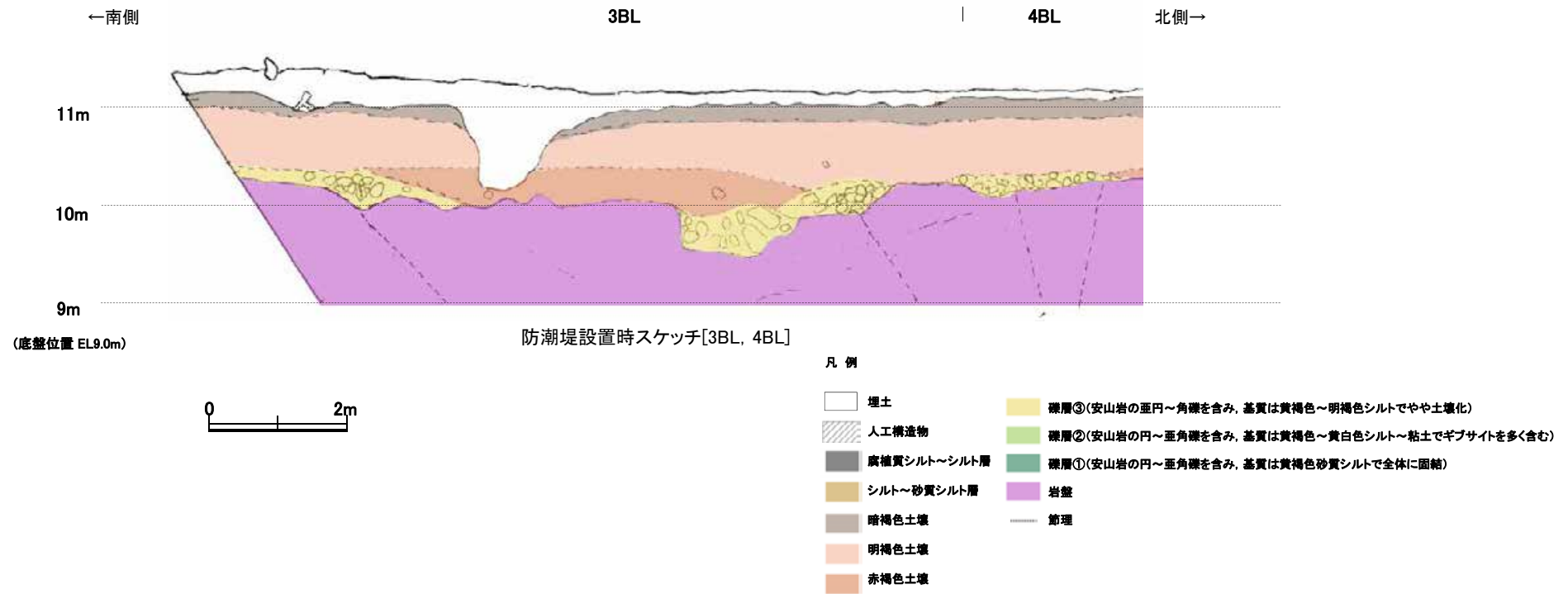
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-48 一部修正

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時)スケッチ [31BL～44BL]



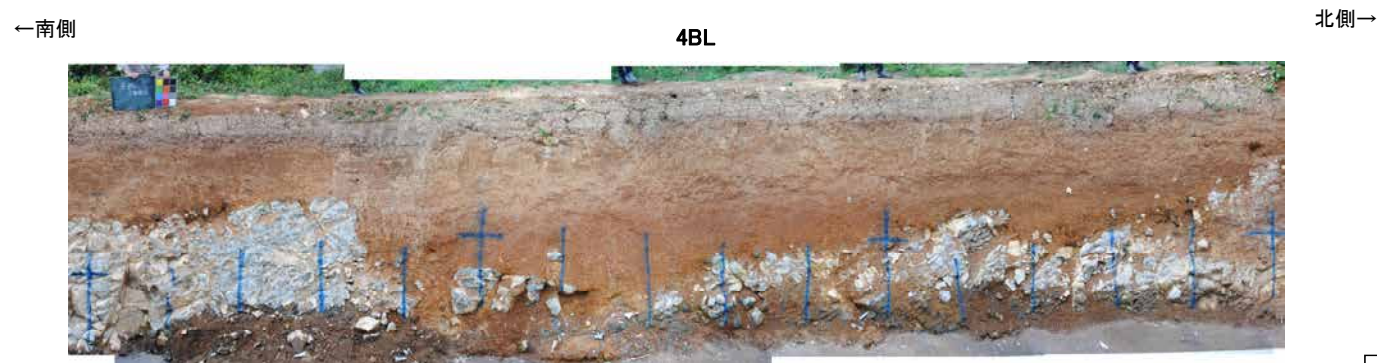
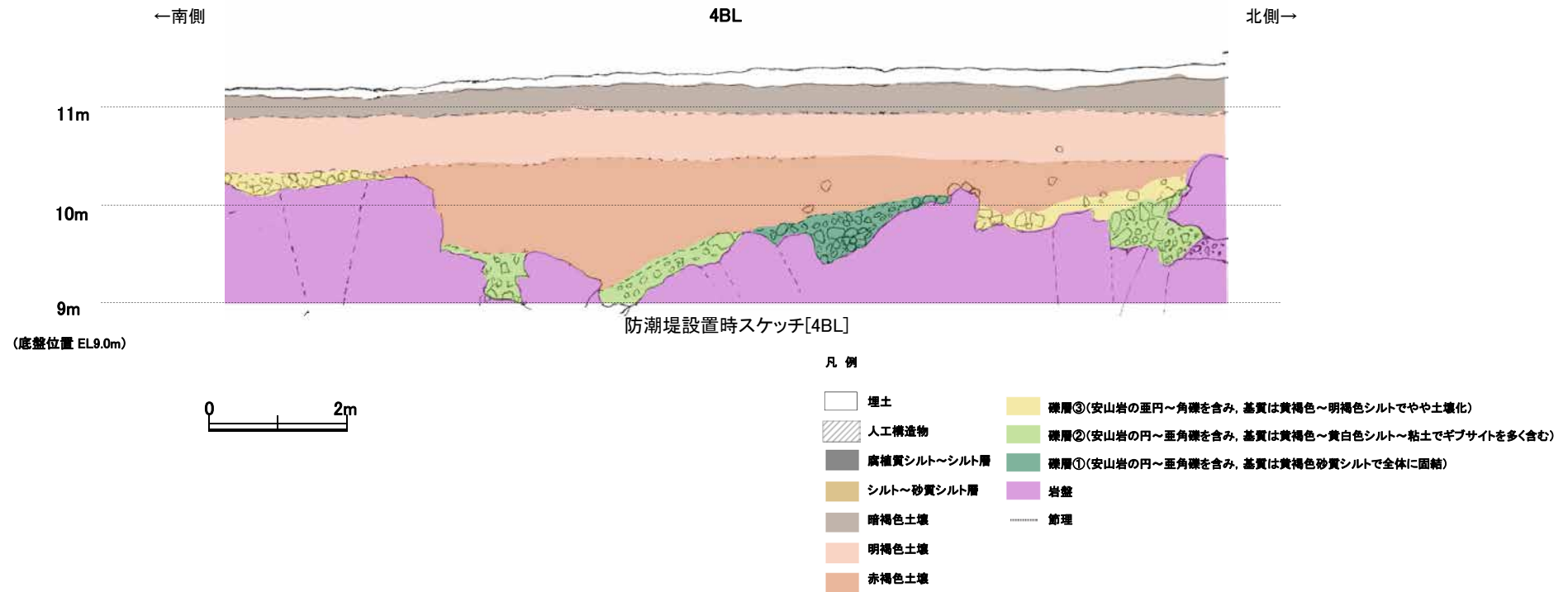
凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の至円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



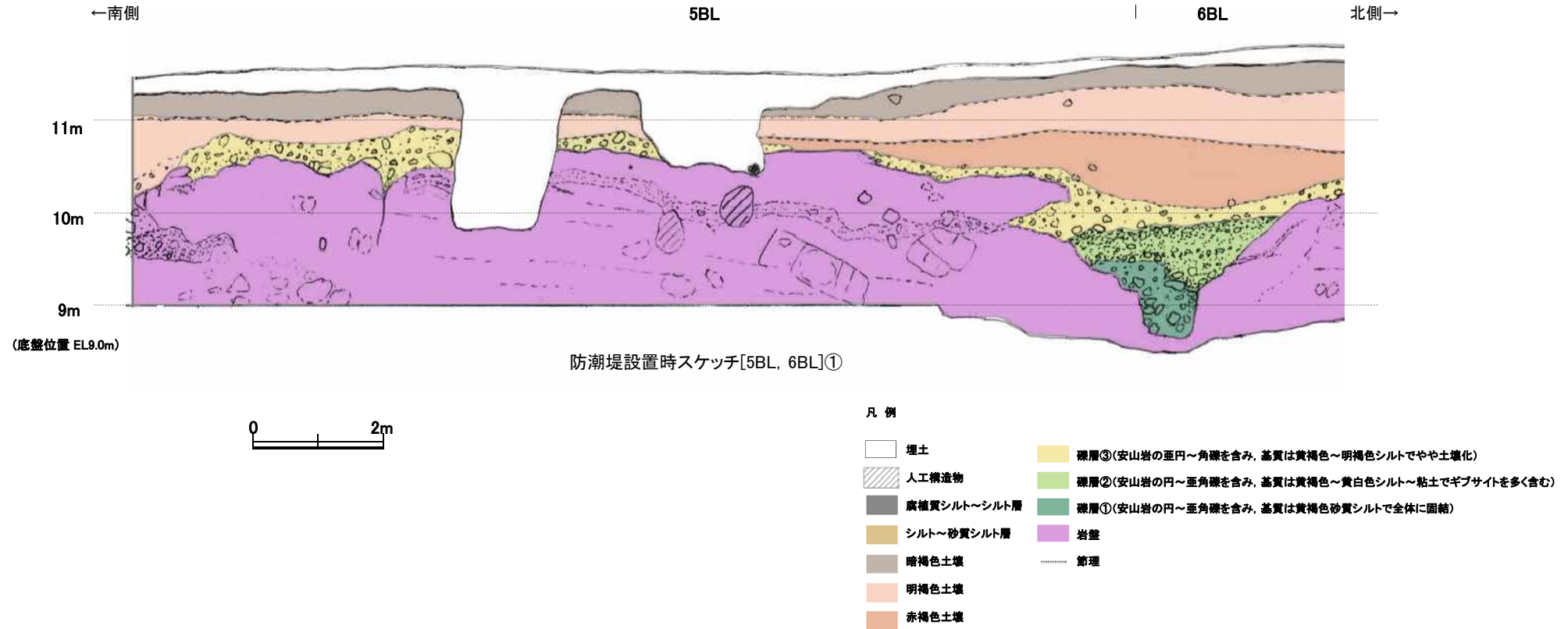
防潮堤設置時写真[3BL, 4BL]

・防潮堤基礎[3BL]には,
断層は認められない。



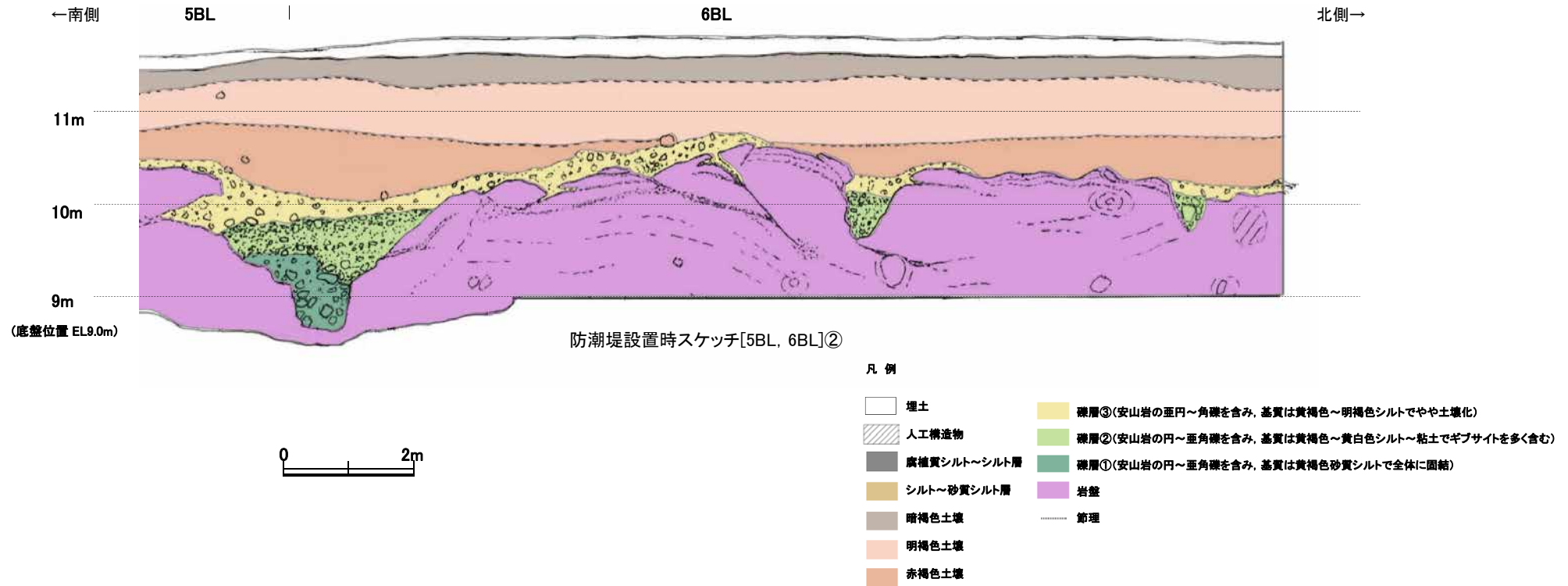
防潮堤設置時写真[4BL]

・防潮堤基礎[4BL]には、
断層は認められない。



防潮堤設置時写真[5BL, 6BL]①

・防潮堤基礎[5BL]には、
断層は認められない。

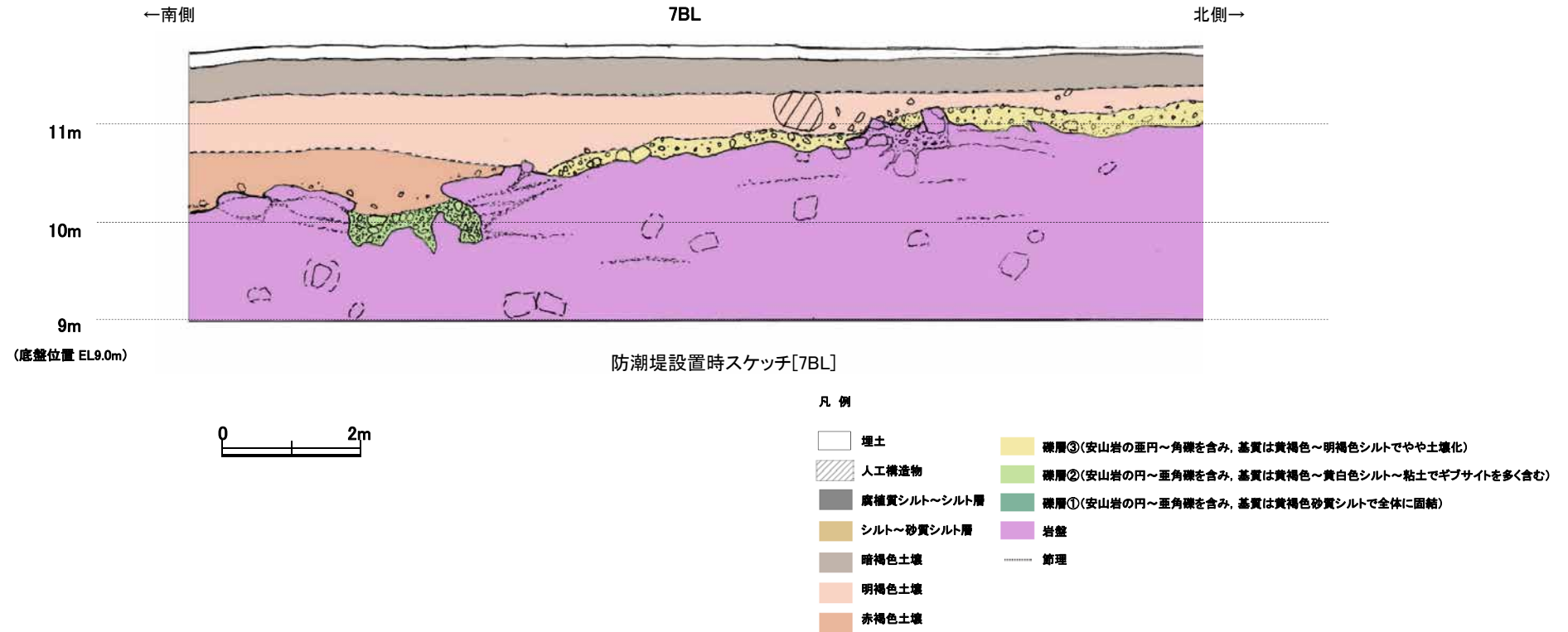


防潮堤設置時写真[5BL, 6BL]②

・防潮堤基礎[6BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [7BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-9 一部修正

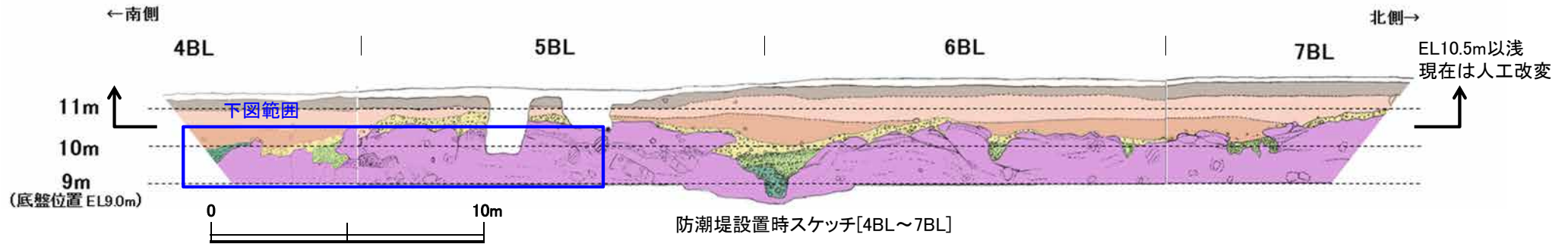


防潮堤設置時写真[7BL]

・防潮堤基礎[7BL]には、
断層は認められない。

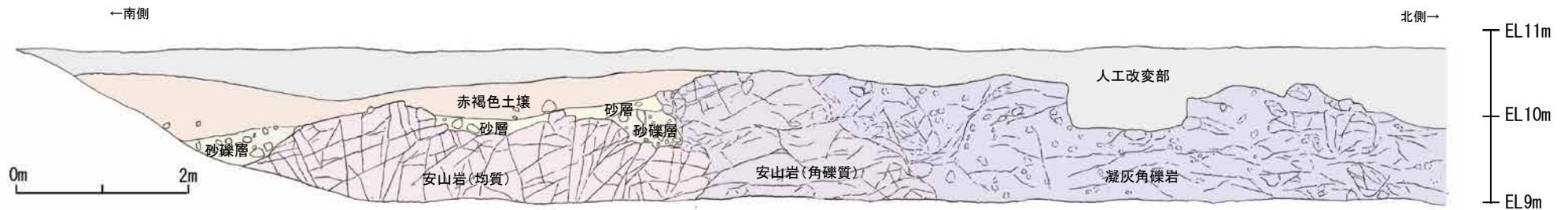
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[①トレンチ(1/3)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-50 一部修正



凡例

埋土	腐植質シルト～シルト層	暗褐色土壌	礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)	岩盤
人工構造物	シルト～砂質シルト層	明褐色土壌	礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)	節理
	赤褐色土壌	礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)		



凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層 ※1
シルト質礫層	砂礫層 ※2
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌 ※1	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

再掘削 ①トレンチ スケッチ

※1: 防潮堤設置時スケッチの「礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)」を, 詳細観察により, 「砂層」と「赤褐色土壌」の一部に対応するものとして区分した。

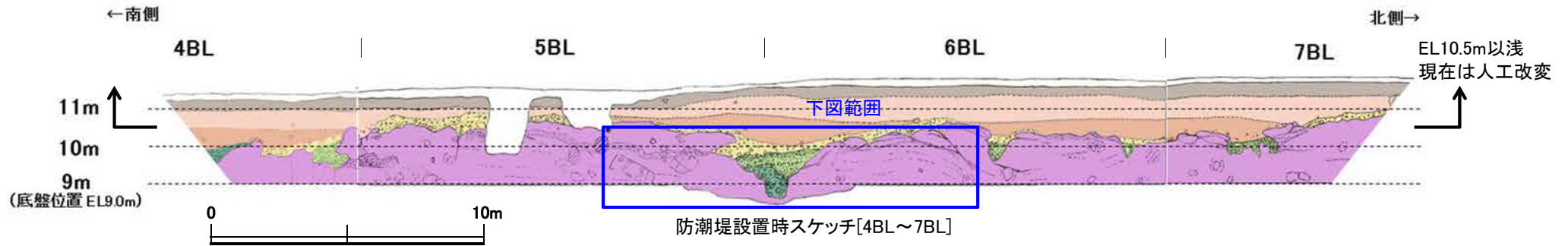
※2: 防潮堤設置時スケッチでは「砂礫層」を色調・固結度の違いから「礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)」と「礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)」に区分していた。



再掘削 ①トレンチ 写真

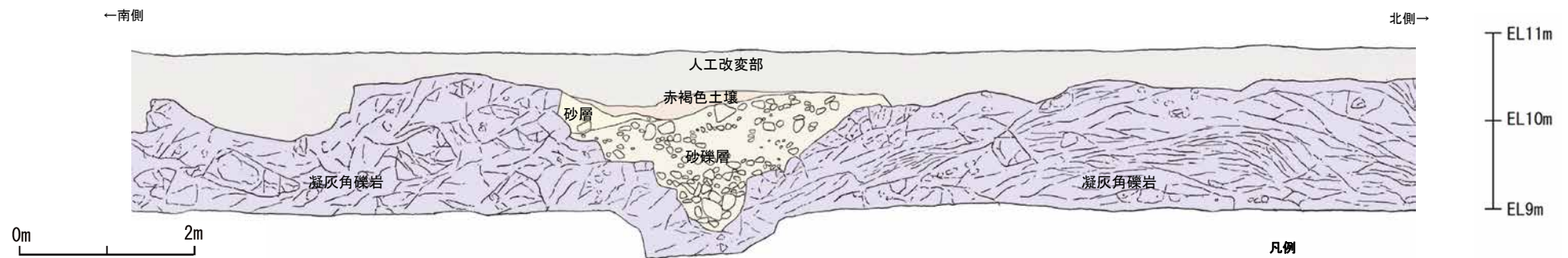
防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[①トレンチ(2/3)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-51 一部修正



凡例

埋土	腐植質シルト～シルト層	暗褐色土壌	礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)	岩盤
人工構造物	シルト～砂質シルト層	明褐色土壌	礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルトで粘土でギブサイトを多く含む)	節理
	赤褐色土壌	礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)		



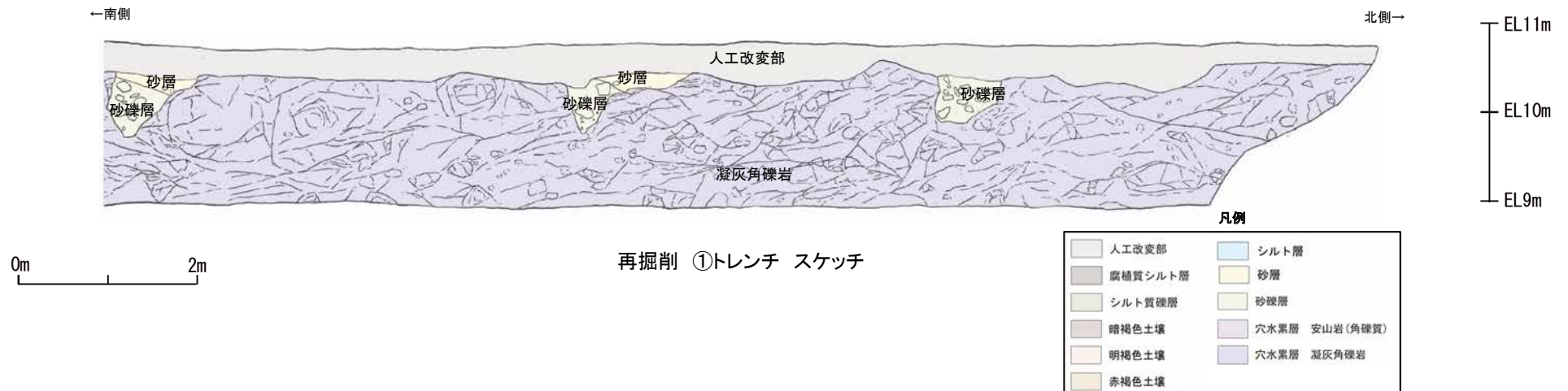
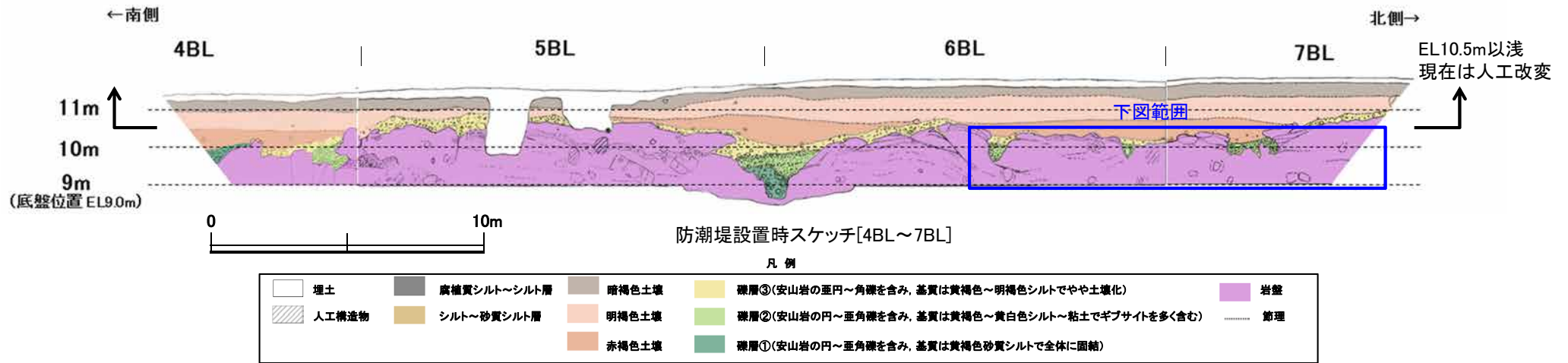
凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	



防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[①トレンチ(3/3)]

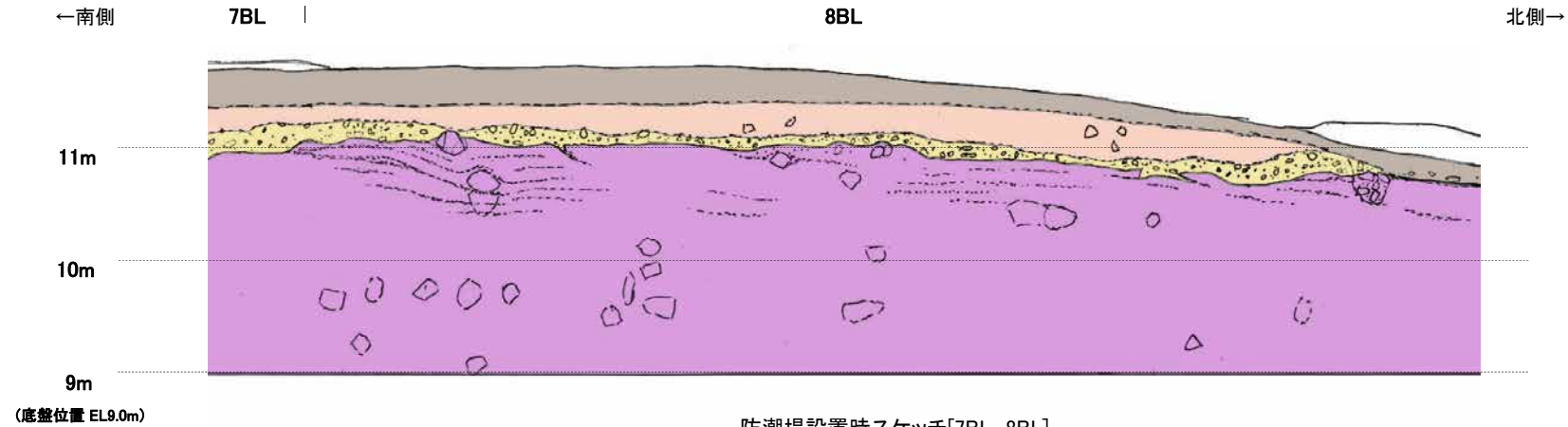
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-52 一部修正



・①トレンチには、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [7BL, 8BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-10 一部修正



防潮堤設置時スケッチ[7BL, 8BL]



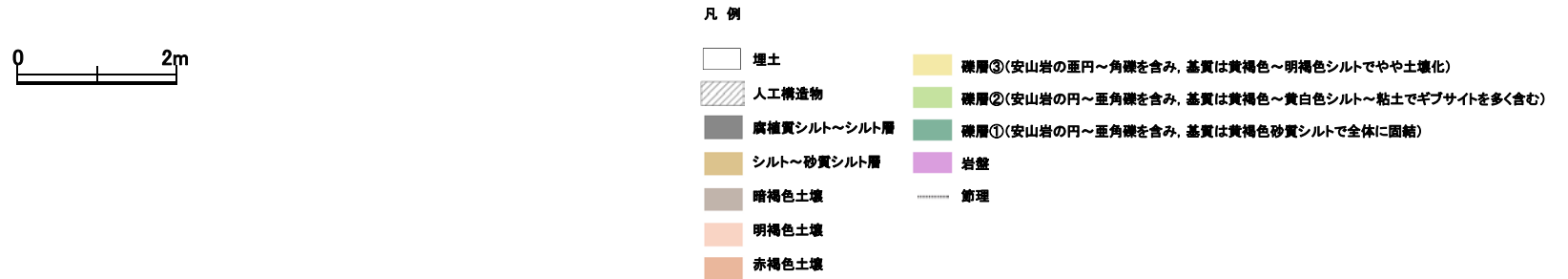
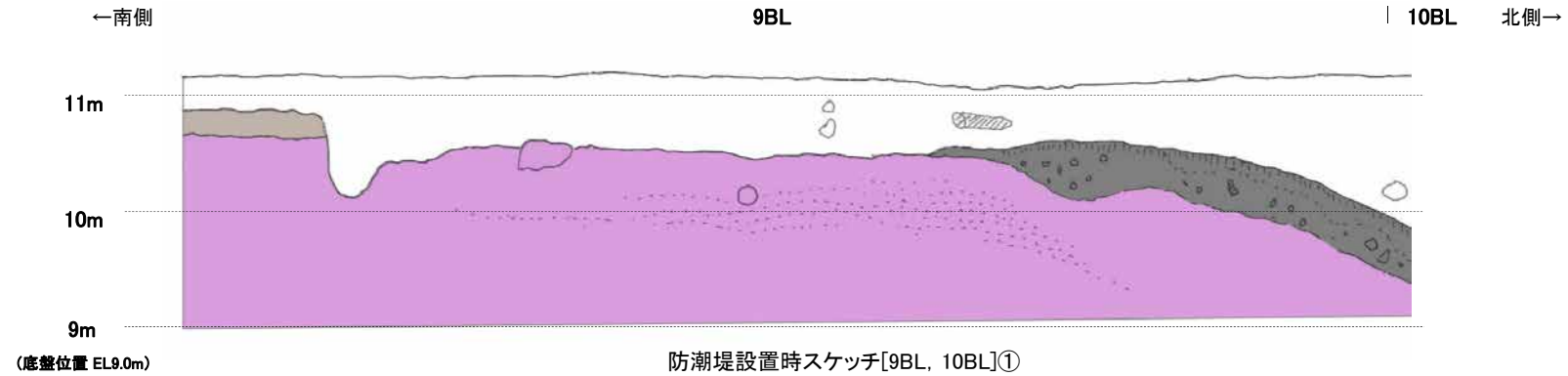
凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～垂角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～垂角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[7BL, 8BL]

・防潮堤基礎[8BL]には、
断層は認められない。

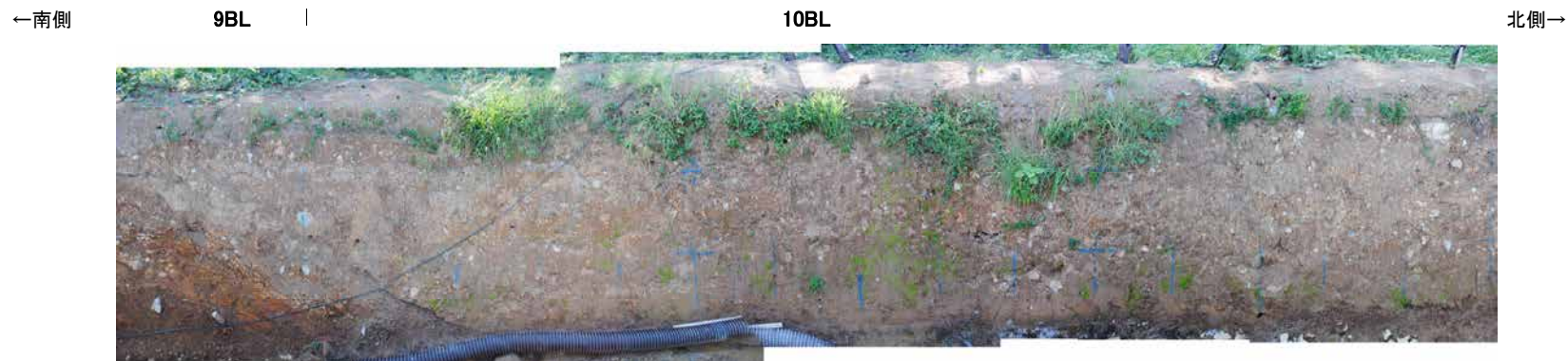
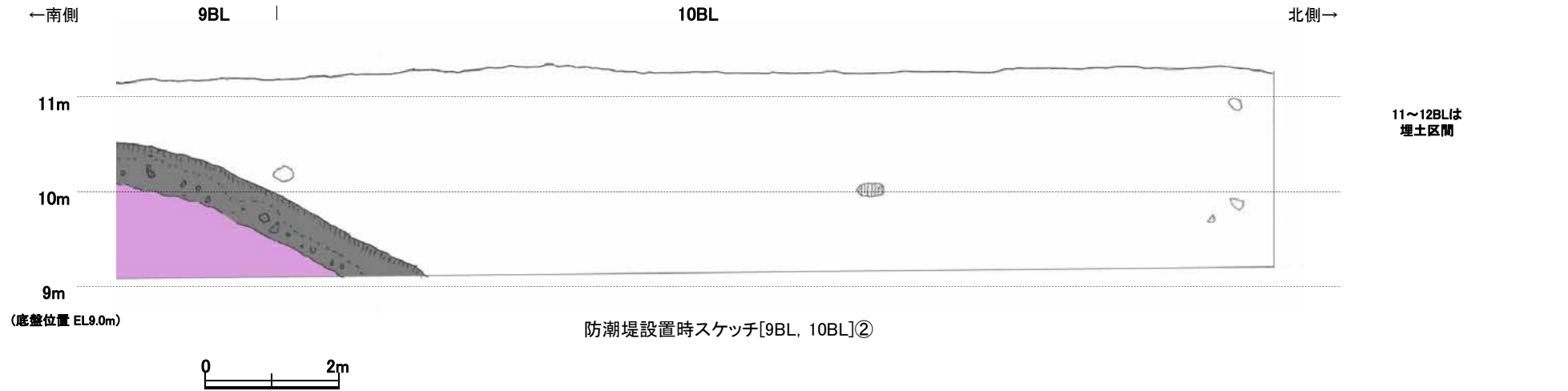


防潮堤設置時写真[9BL, 10BL]①

・防潮堤基礎[9BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [9BL, 10BL]②

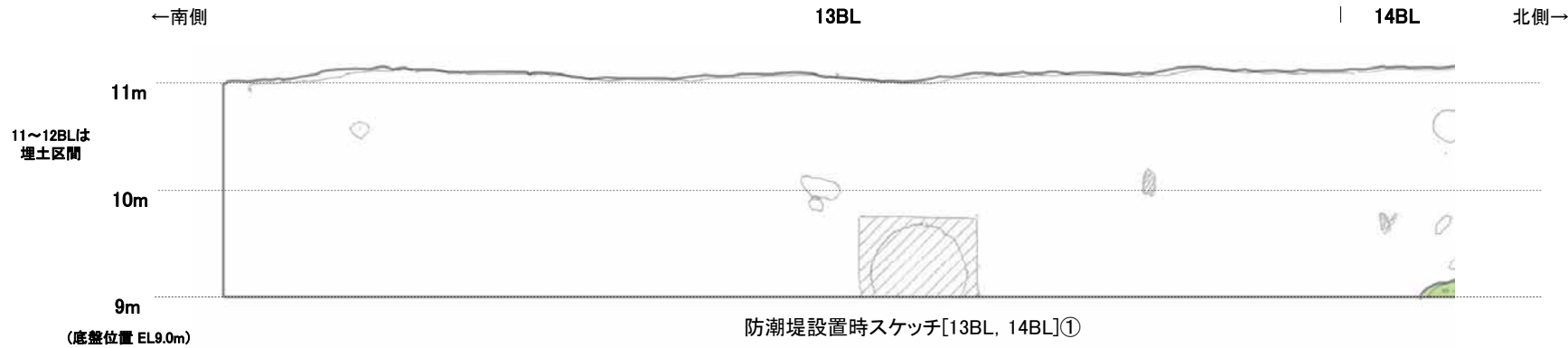
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-12 一部修正



・防潮堤基礎[10BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [13BL, 14BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-13 一部修正



凡 例

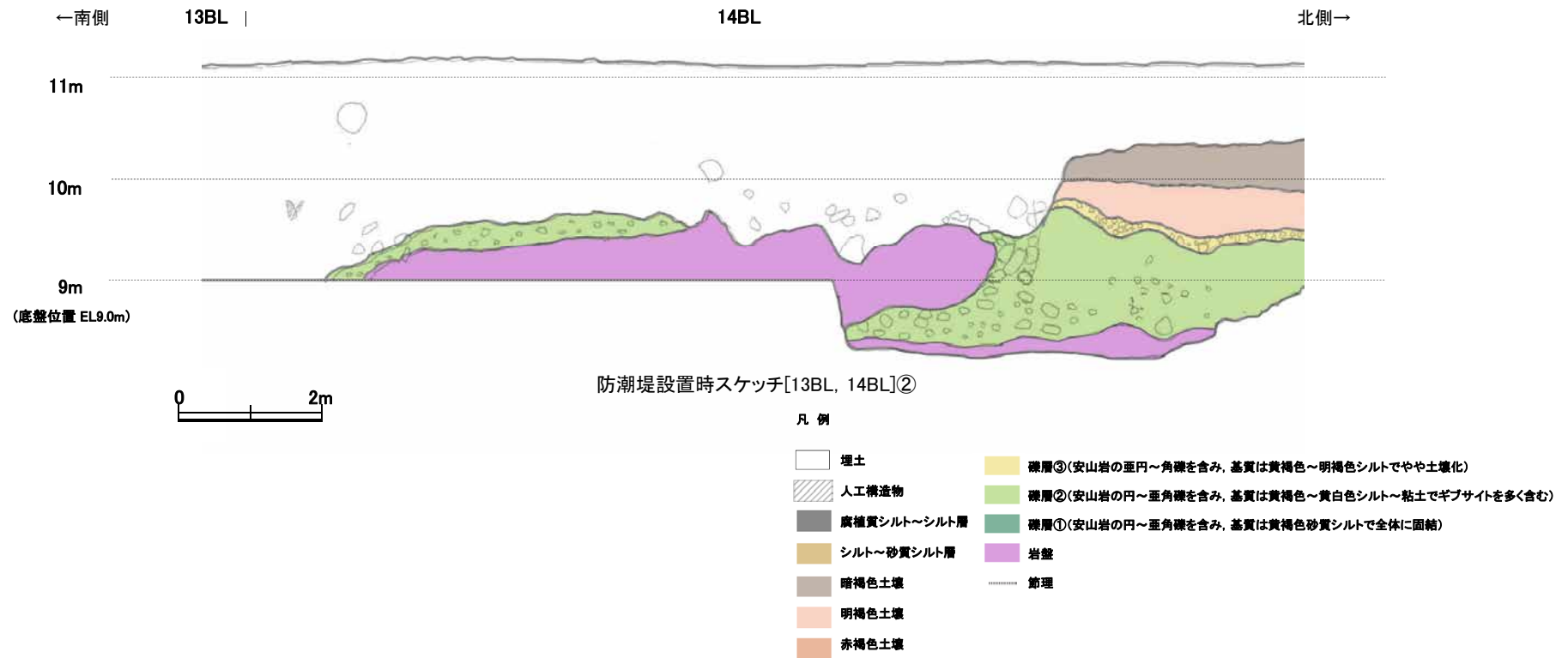
埋土	礫層③(安山岩の亜円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)
腐植質シルト～シルト層	礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト～砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	



・防潮堤基礎[13BL]には,
断層は認められない。

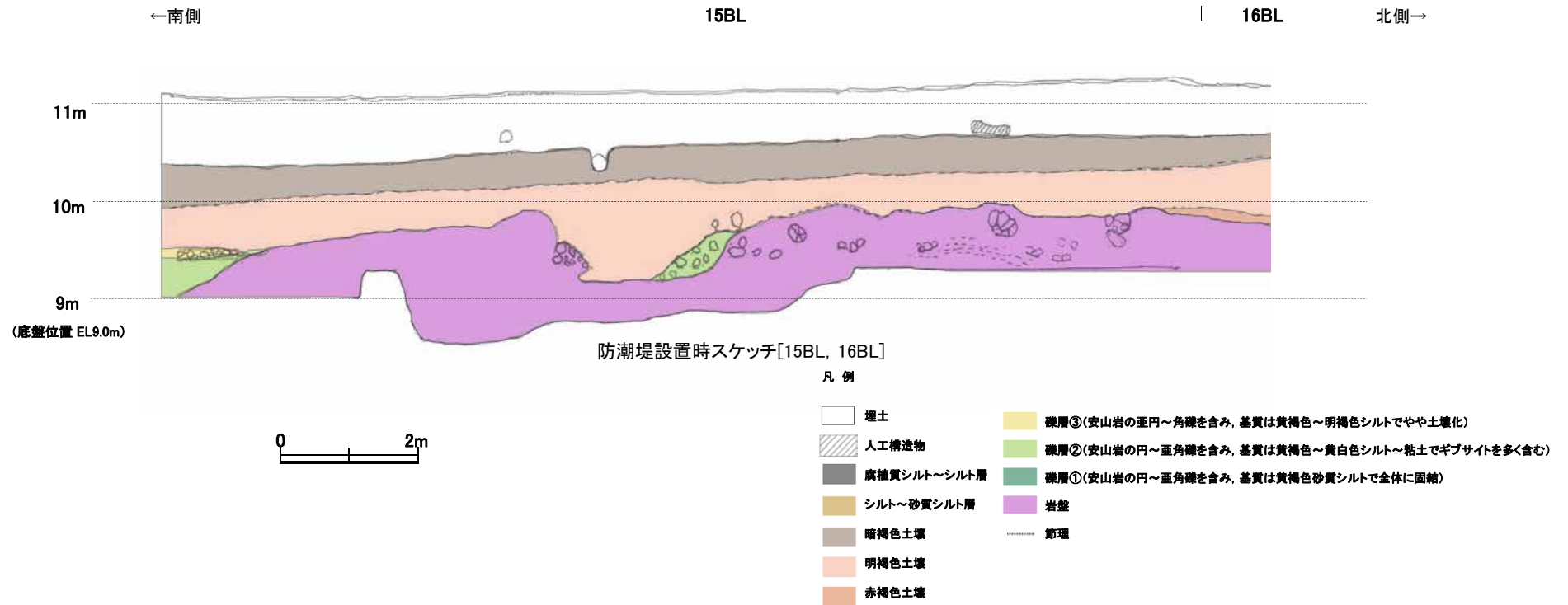
防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [13BL, 14BL]②

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-14 一部修正



防潮堤設置時写真[13BL, 14BL]②

・防潮堤基礎[14BL]には、
断層は認められない。



防潮堤設置時写真[15BL, 16BL]

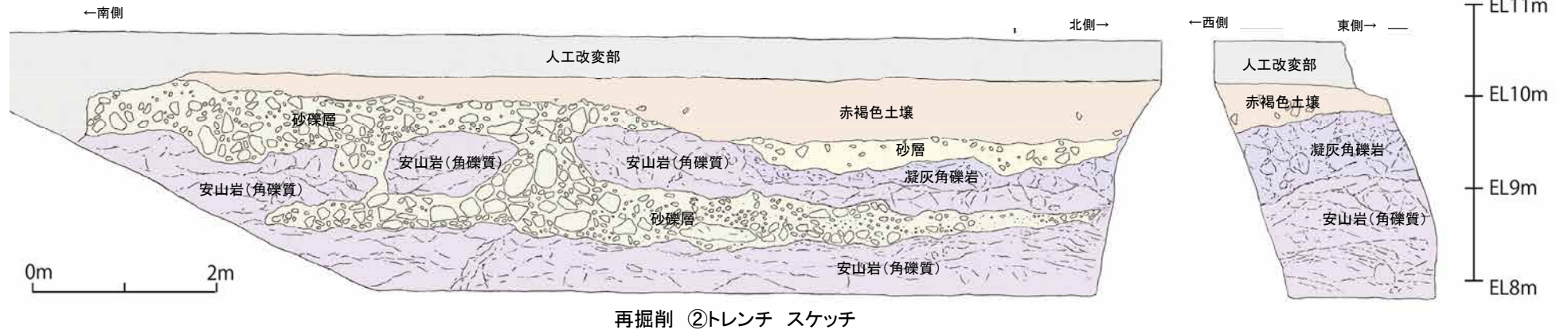
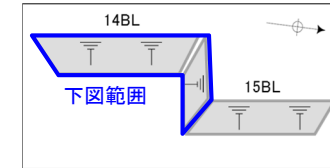
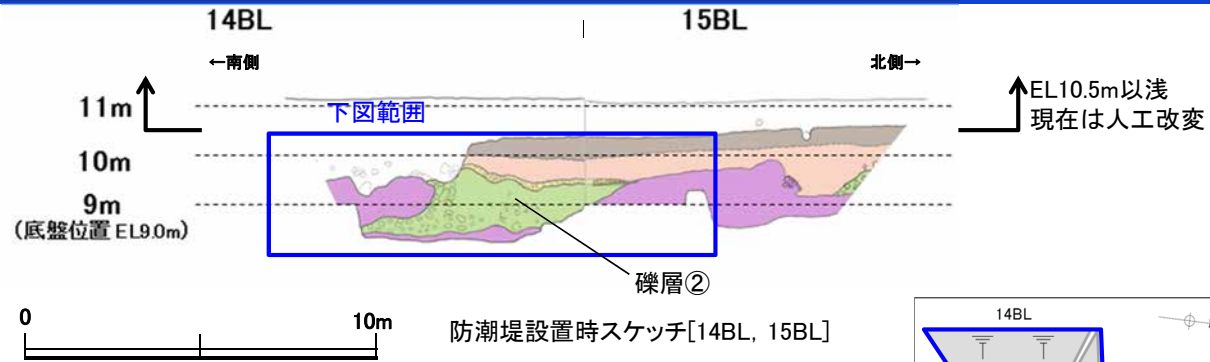
・防潮堤基礎[15BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[②トレンチ(1/2)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-53 一部修正

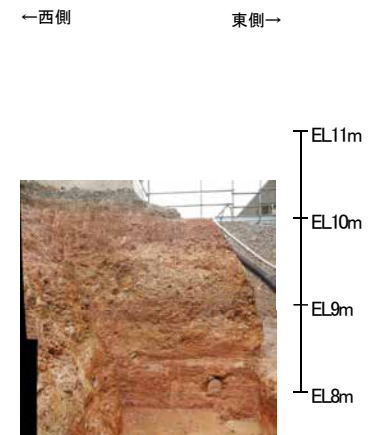
凡例

埋土	礫層③(安山岩の垂円~角礫を含み、 基質は黄褐色~明褐色シルトで やや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円~垂角礫を含み、 基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土で ギブサイトを多く含む)
腐植質シルト~シルト層	礫層①(安山岩の円~垂角礫を含み、 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト~砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	



凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

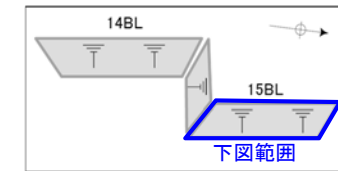
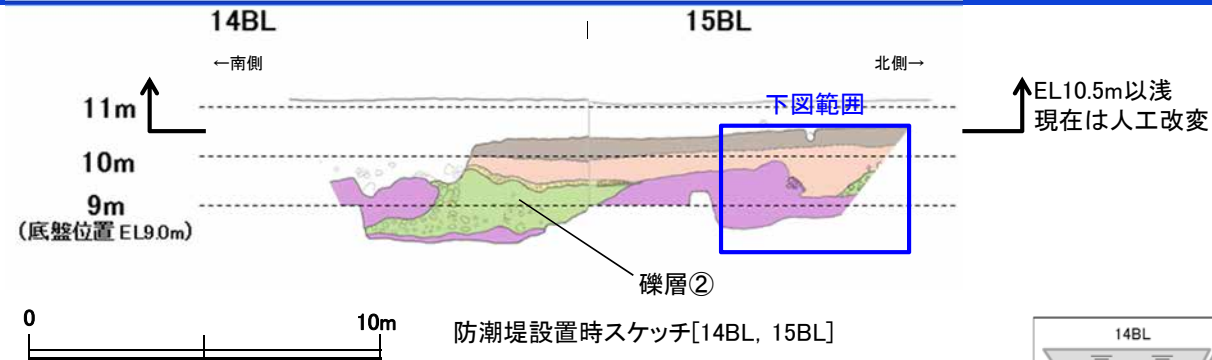


防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[②トレンチ（2/2）]

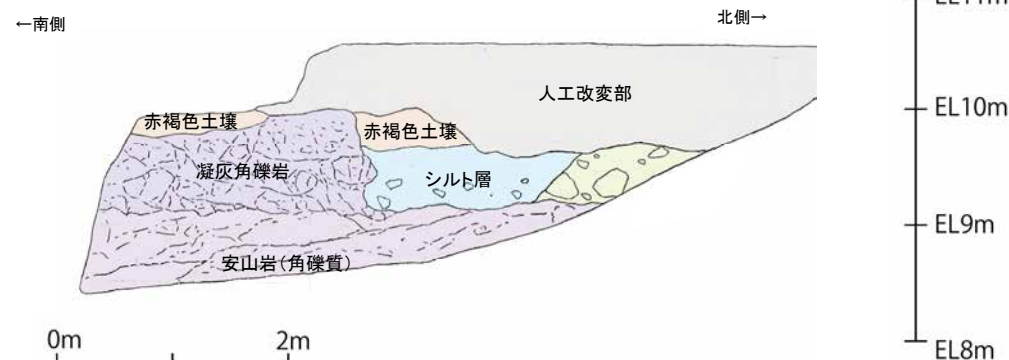
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-54 一部修正

凡 例

埋土	礫層③(安山岩の亜円～角礫を含み、 基質は黄褐色～明褐色シルトで やや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土で ギブサイトを多く含む)
腐植質シルト～シルト層	礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト～砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	



壁面の形状図



再掘削 ②トレンチ スケッチ

凡 例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

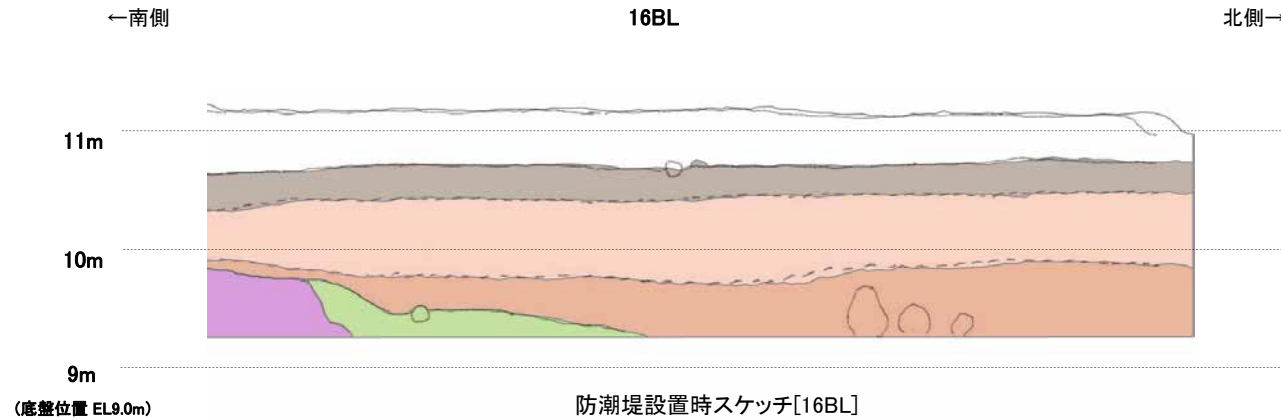


再掘削 ②トレンチ 写真

・②トレンチには、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [16BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-16 一部修正



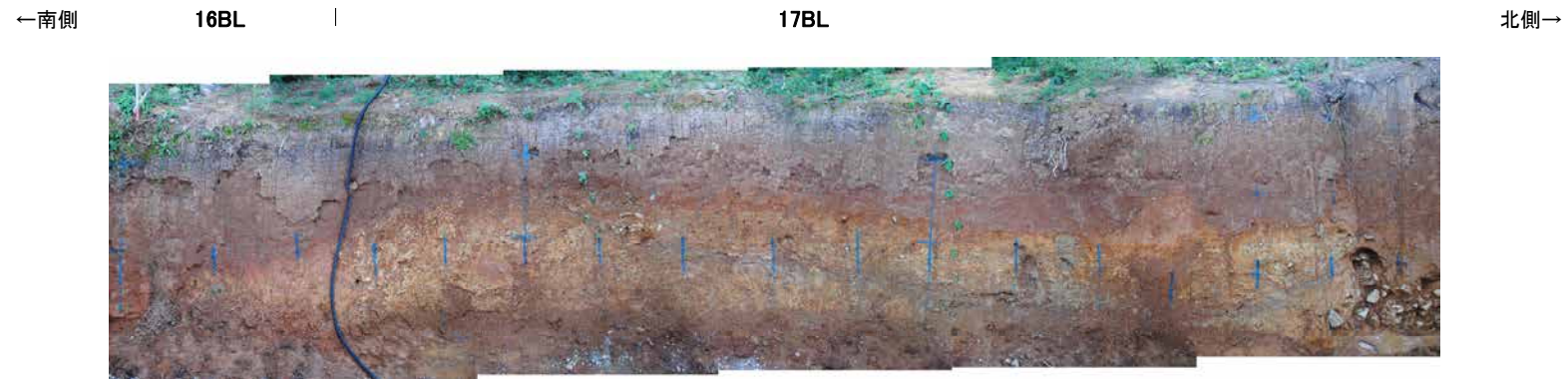
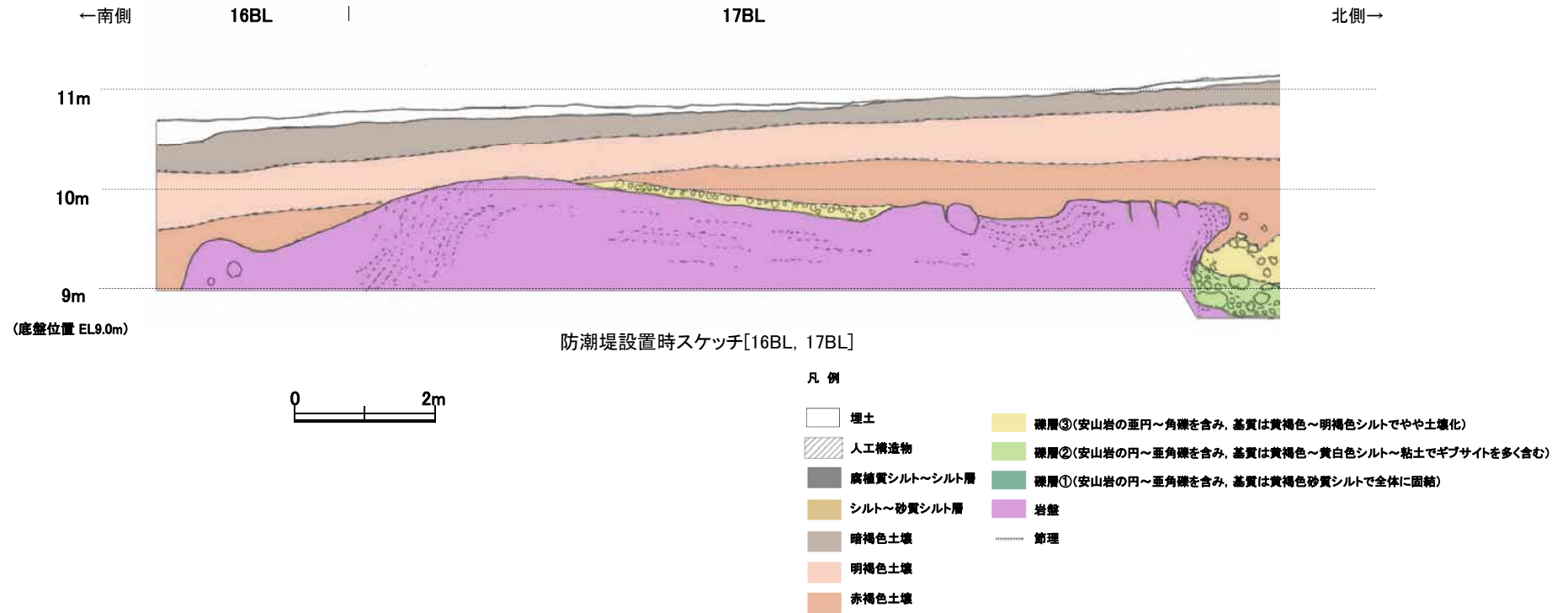
凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の亜円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[16BL]

・防潮堤基礎[16BL]には、
断層は認められない。

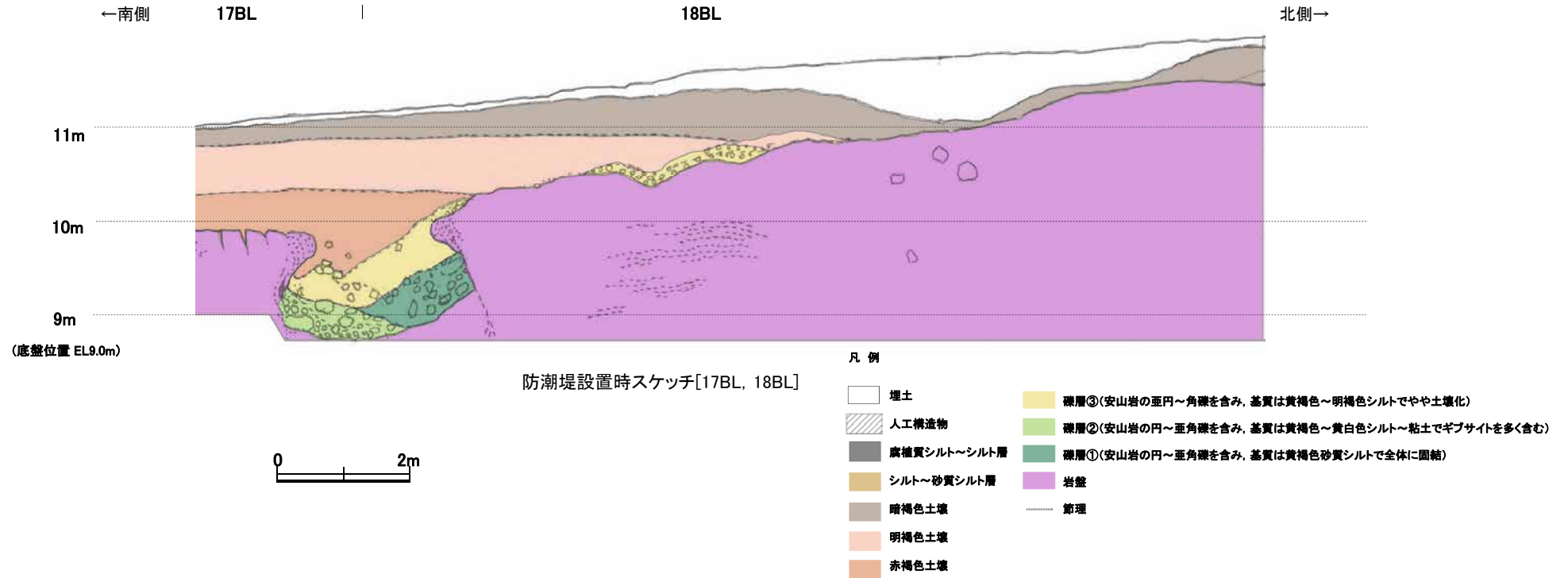


防潮堤設置時写真[16BL, 17BL]

・防潮堤基礎[17BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [17BL, 18BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-18 一部修正

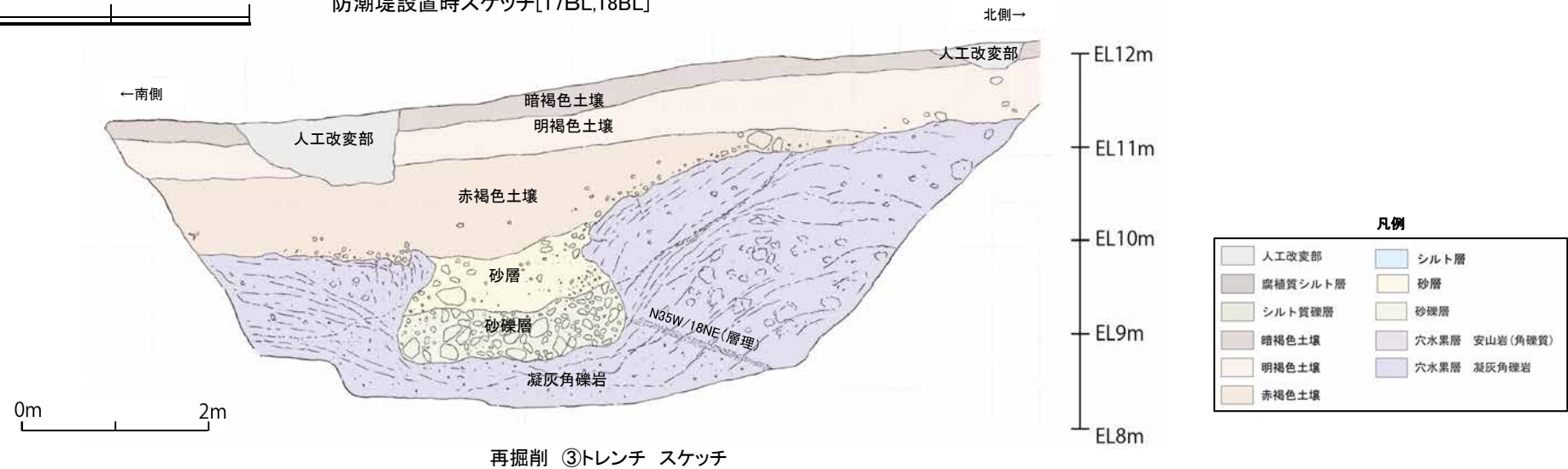
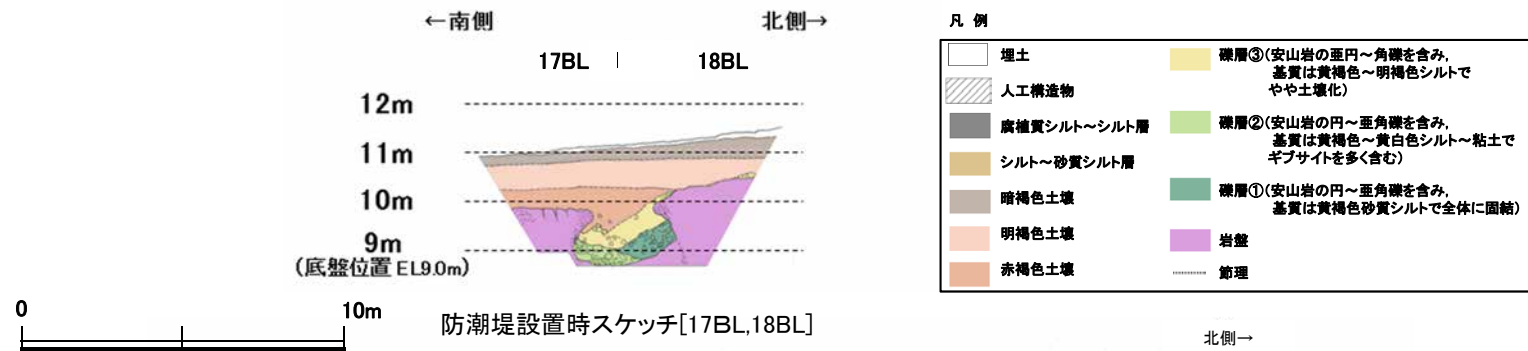


防潮堤設置時写真[17BL, 18BL]

・防潮堤基礎[18BL]には、断層は認められない。

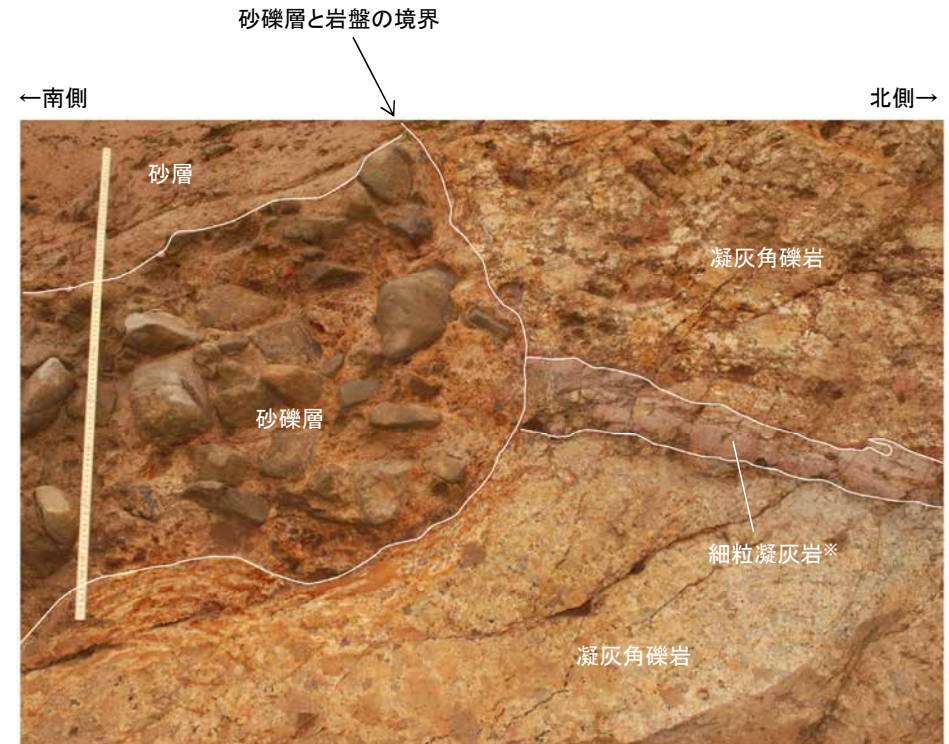
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[③トレンチ(1/2)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-55 一部修正





拡大写真

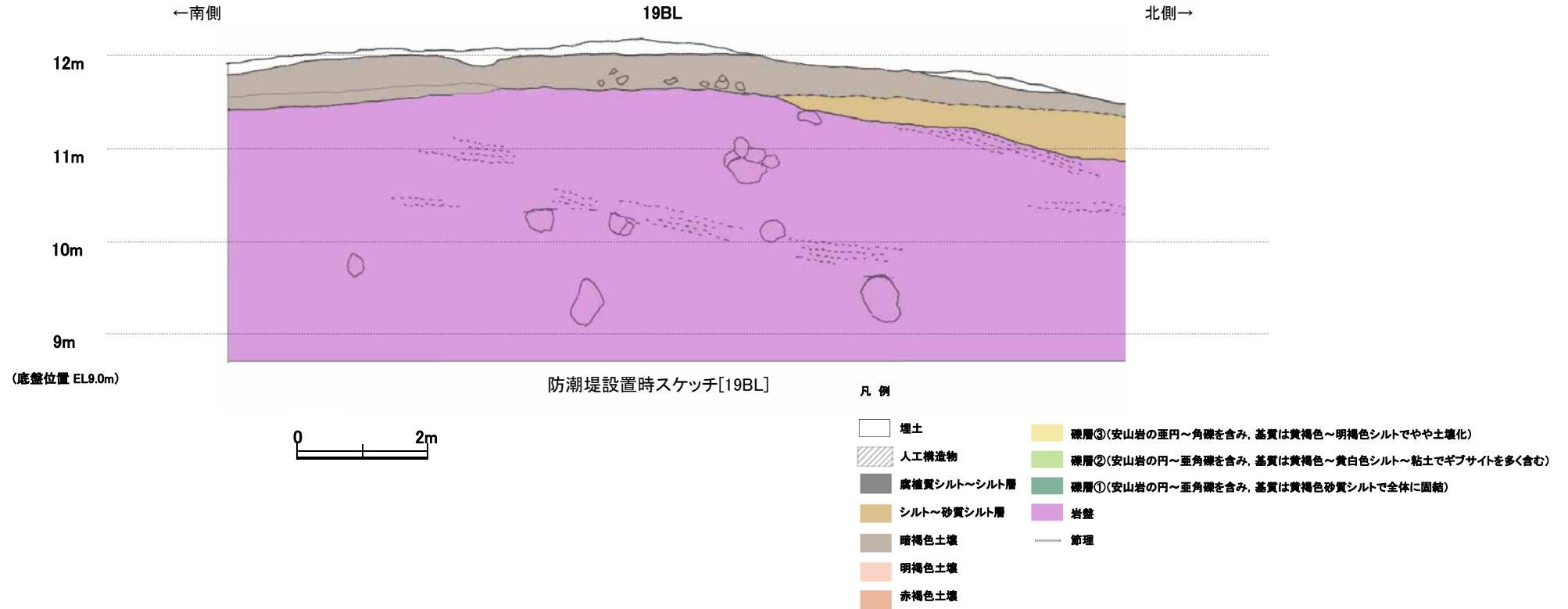


拡大写真(地質境界を加筆)

※細粒凝灰岩:凝灰角礫岩に挟まれる厚さ6 ～ 10cmの細粒凝灰岩からなる層理。
固結した破碎部とは異なる。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [19BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-19 一部修正

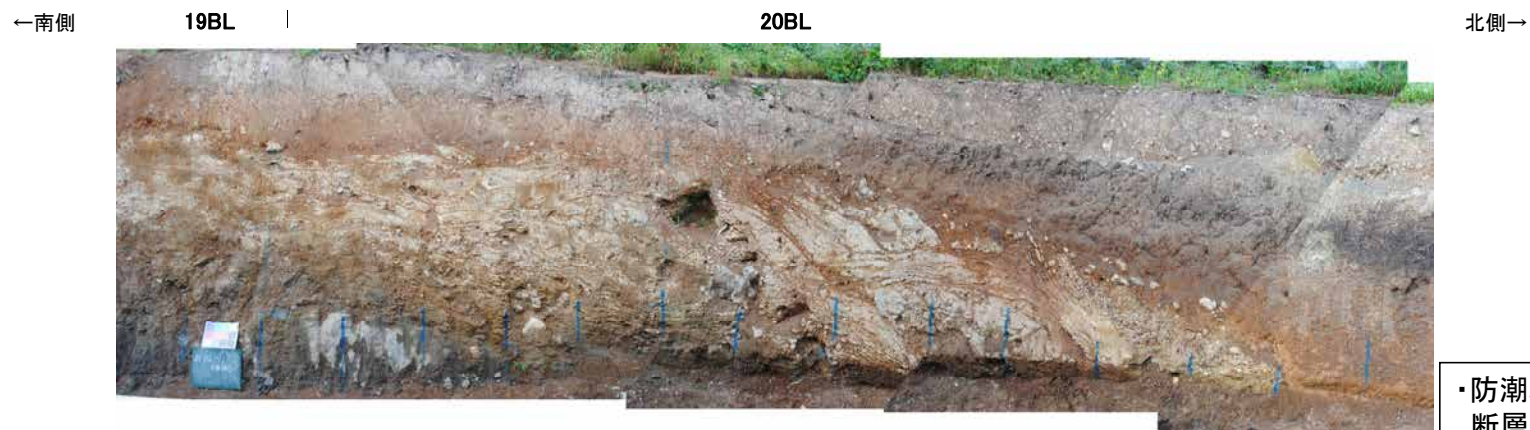
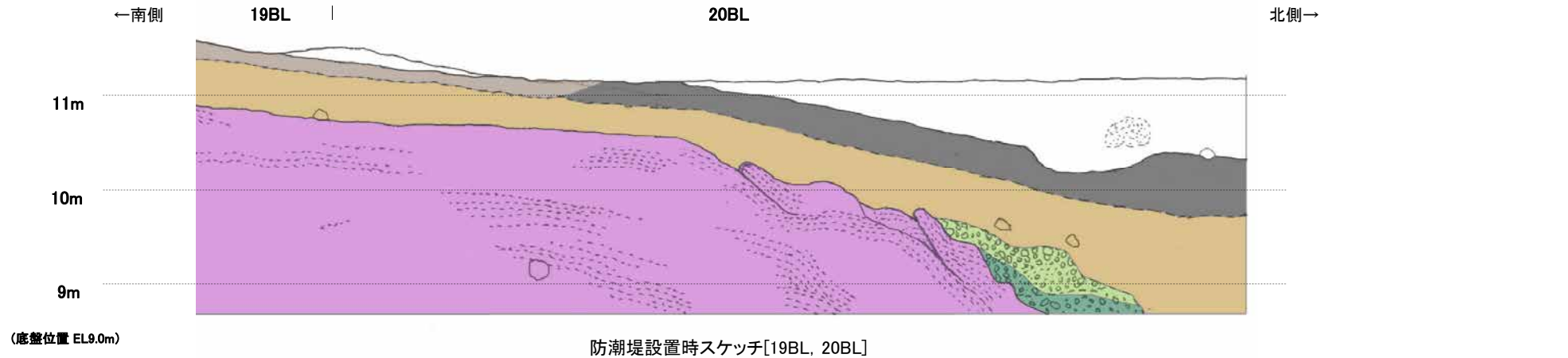


防潮堤設置時写真[19BL]

・防潮堤基礎[19BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [19BL, 20BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-20 一部修正

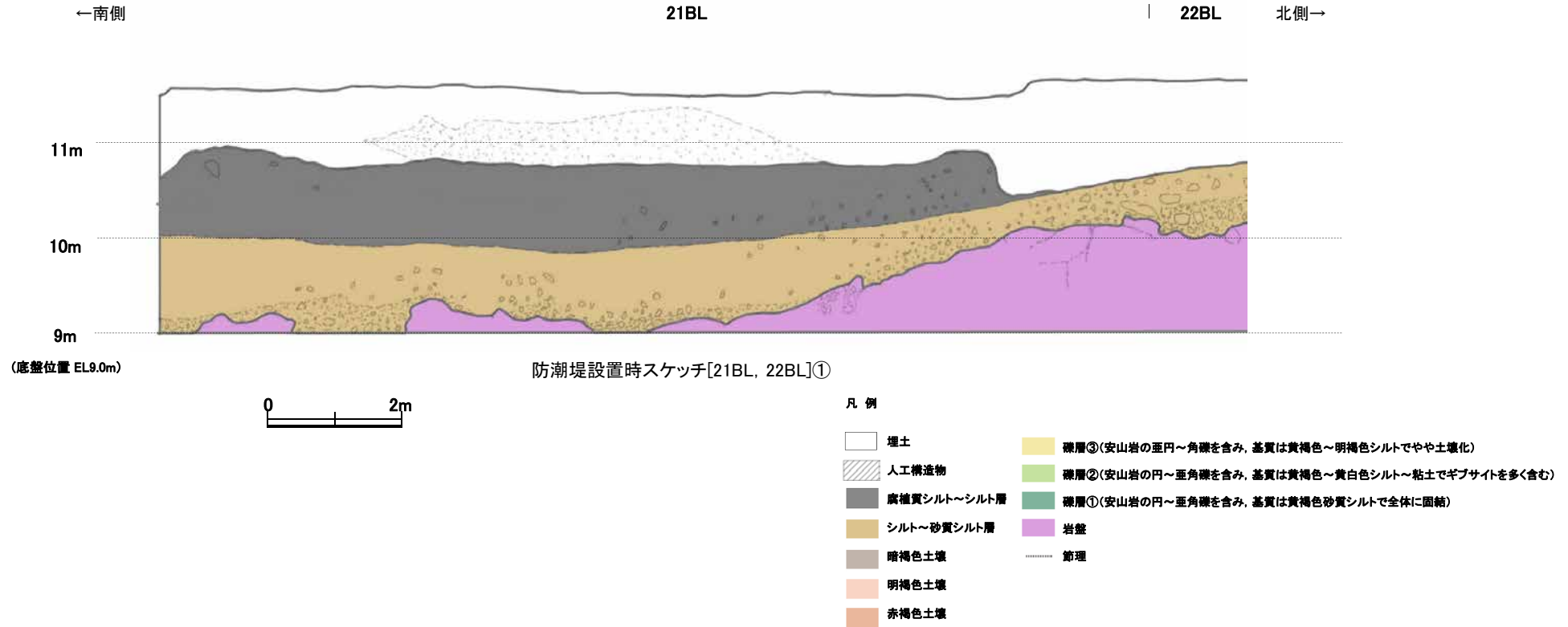


防潮堤設置時写真[19BL, 20BL]

・防潮堤基礎[20BL]には、
断層は認められない。

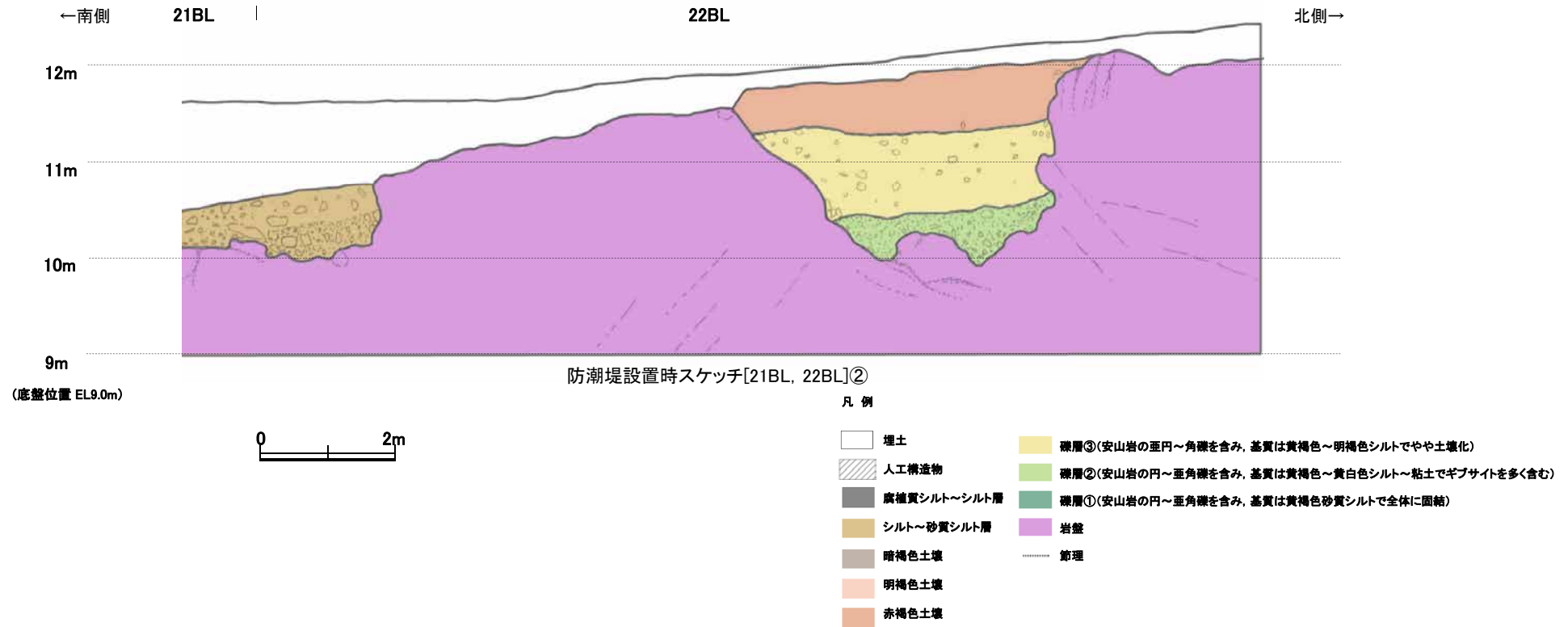
防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [21BL, 22BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-21 一部修正



防潮堤設置時写真[21BL, 22BL]①

・防潮堤基礎[21BL]には、断層は認められない。

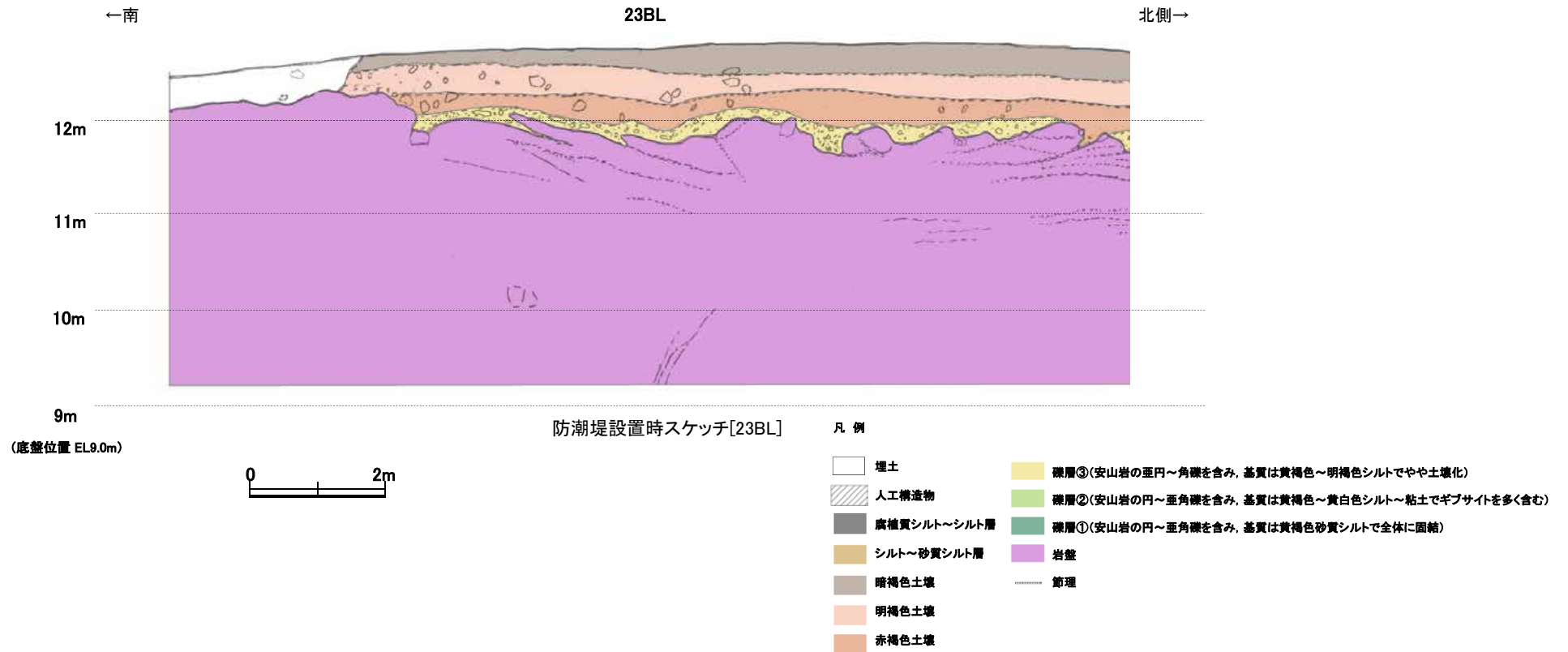


・防潮堤基礎[22BL]には、
断層は認められない。

防潮堤設置時写真[21BL, 22BL]②

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [23BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-23 一部修正

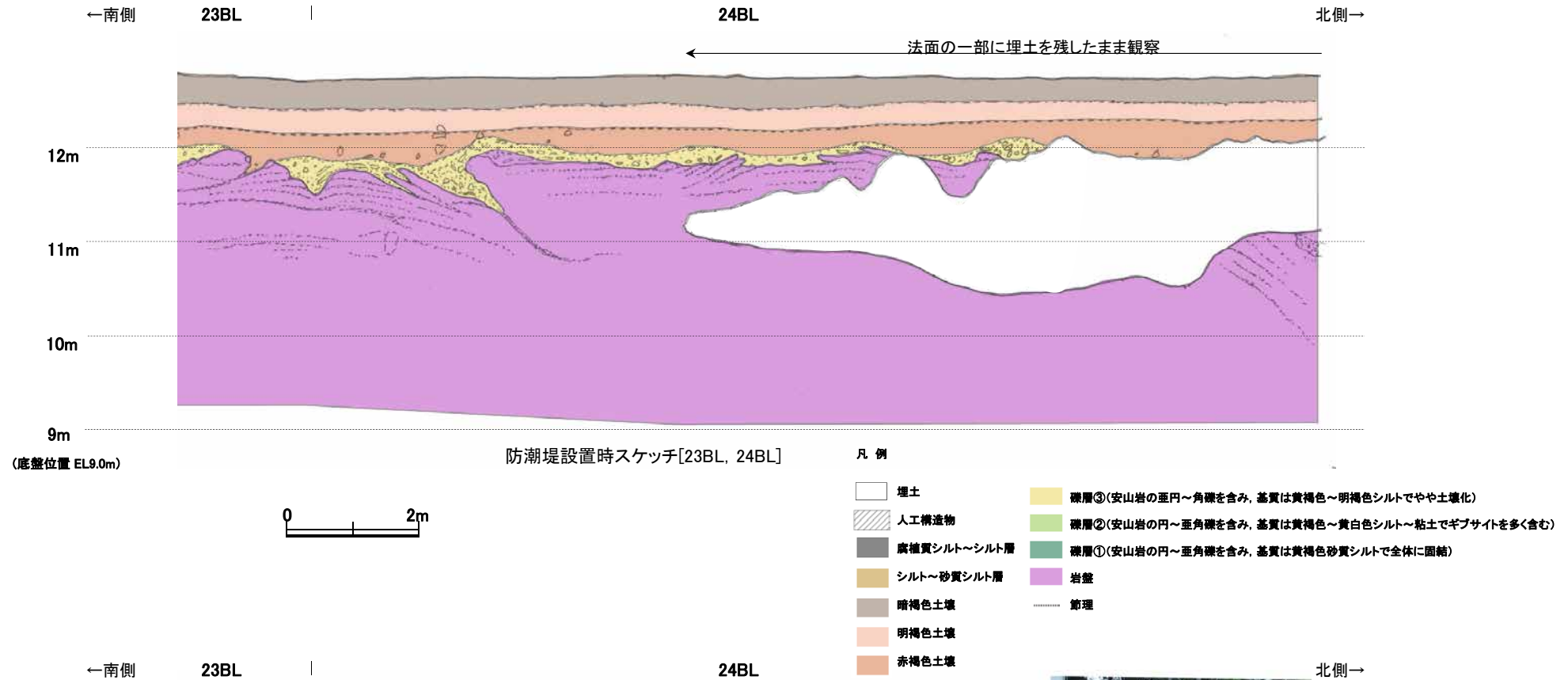


・防潮堤基礎[23BL]には、
断層は認められない。

防潮堤設置時写真[23BL]

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [23BL, 24BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-24 一部修正

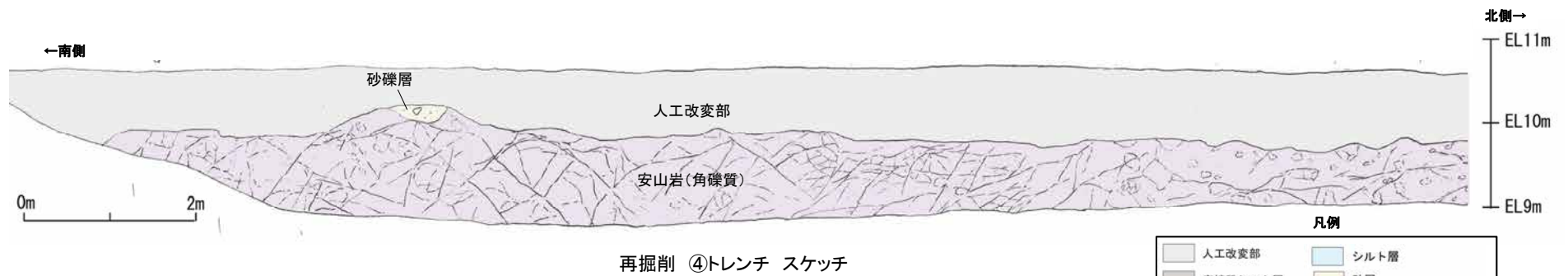
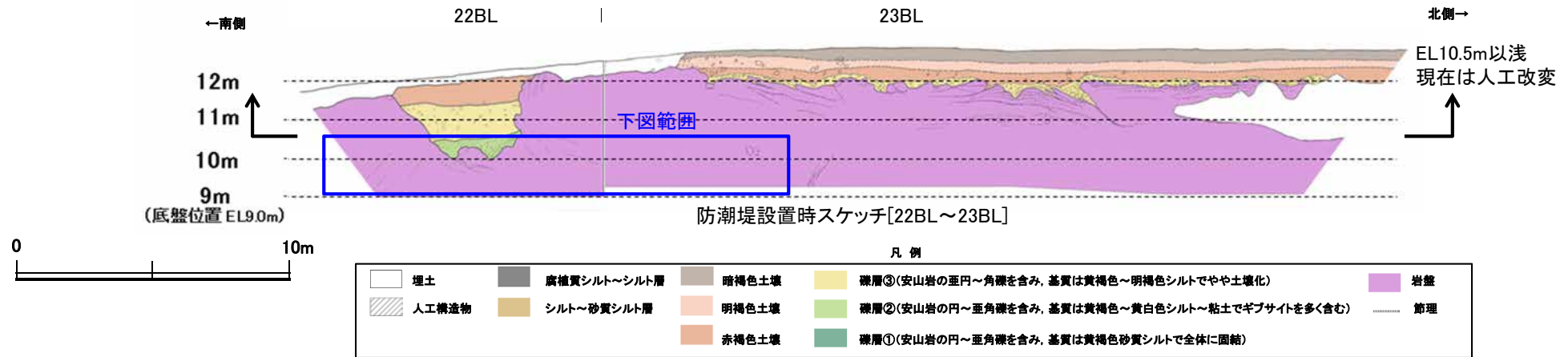


・防潮堤基礎[24BL]には、断層は認められない。

防潮堤設置時写真[23BL, 24BL]

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[④トレンチ(1/3)]

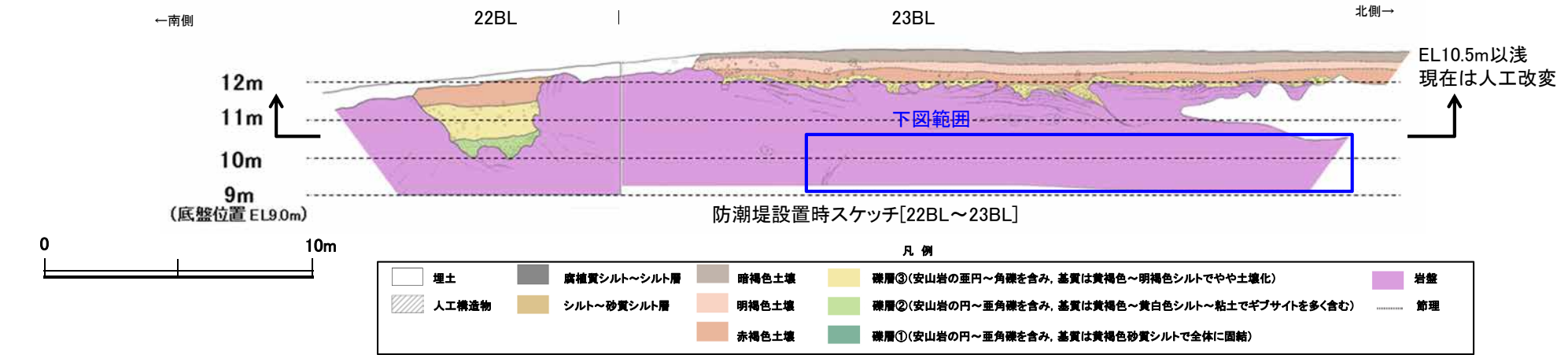
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-57 一部修正

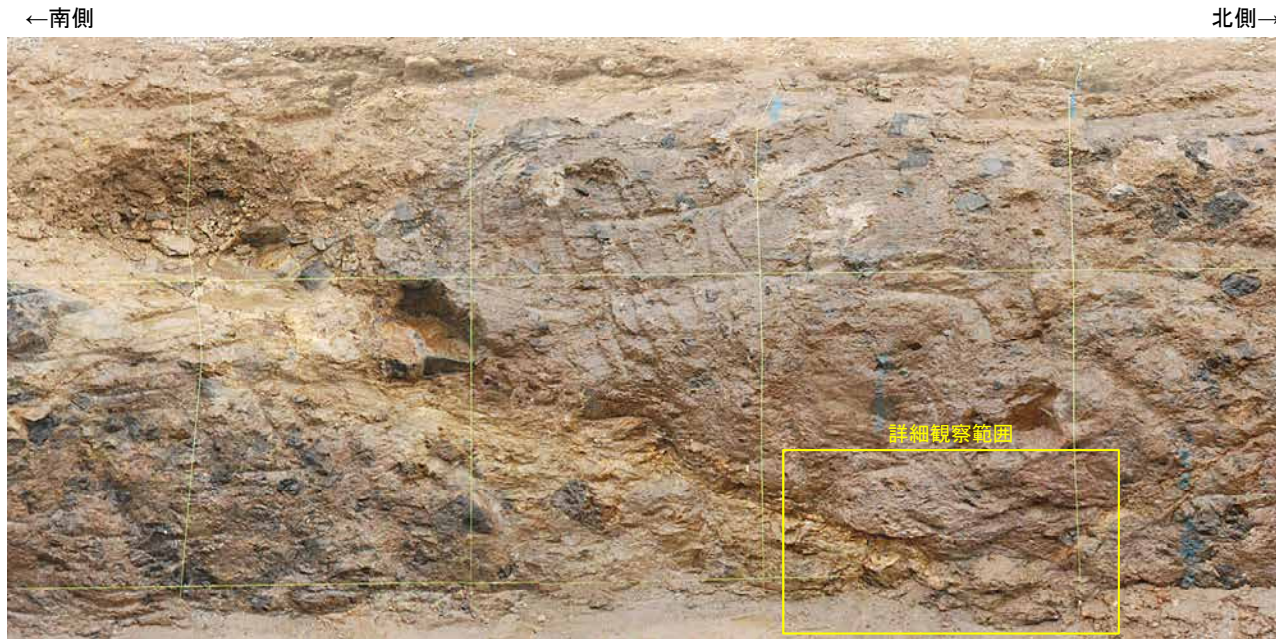


再掘削 ④トレンチ 写真

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[④トレンチ(2/3)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-58 一部修正





拡大写真(全景)

・④トレンチには、断層は認められない。



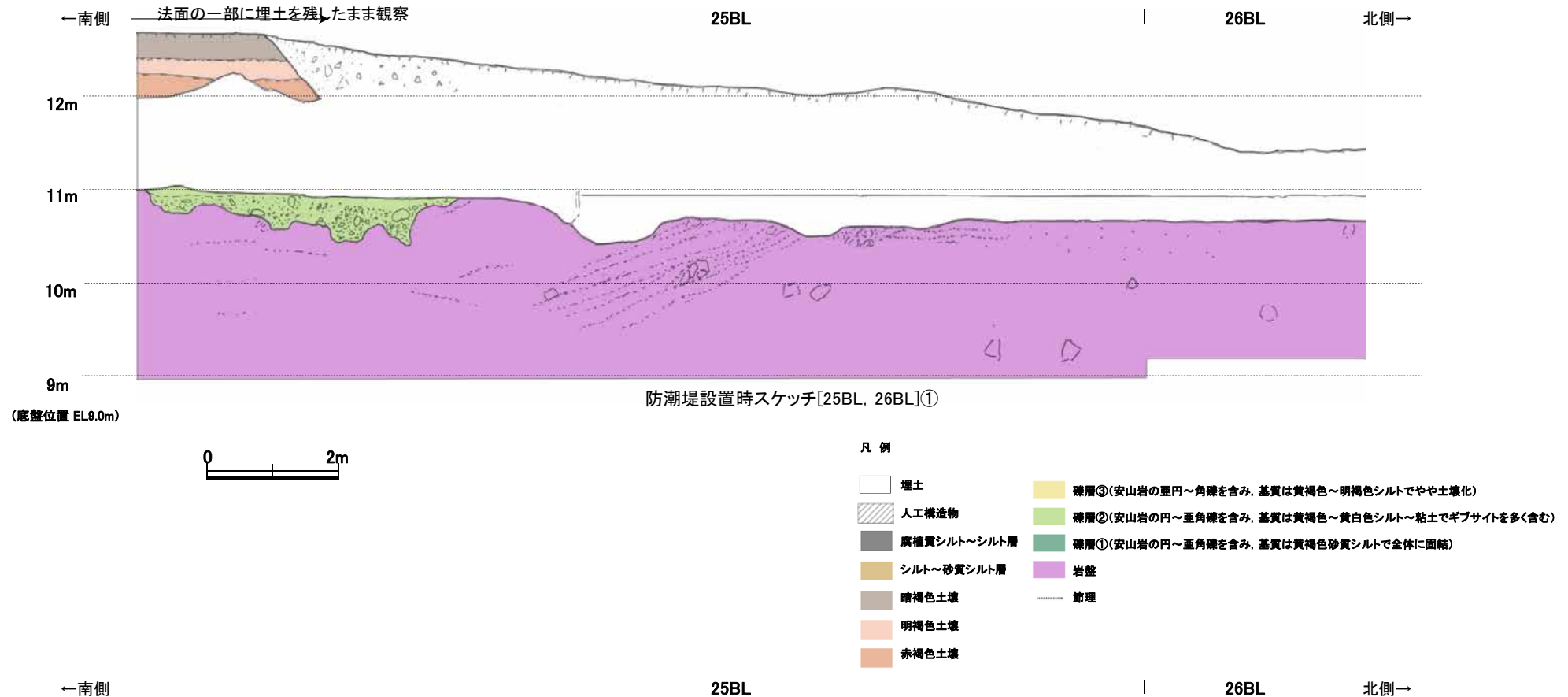
詳細観察写真



詳細観察写真(節理を加筆)

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [25BL, 26BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-25 一部修正

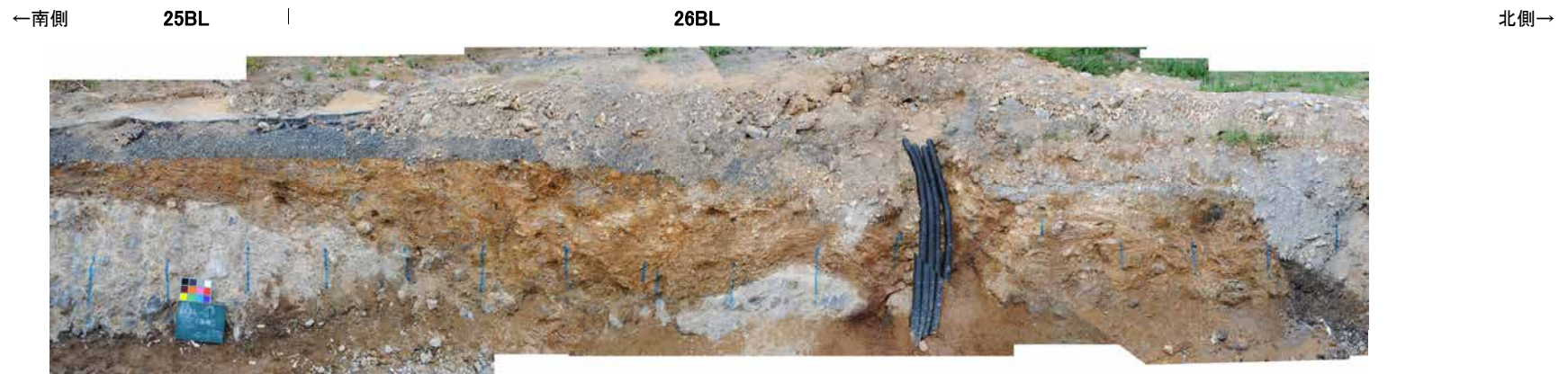
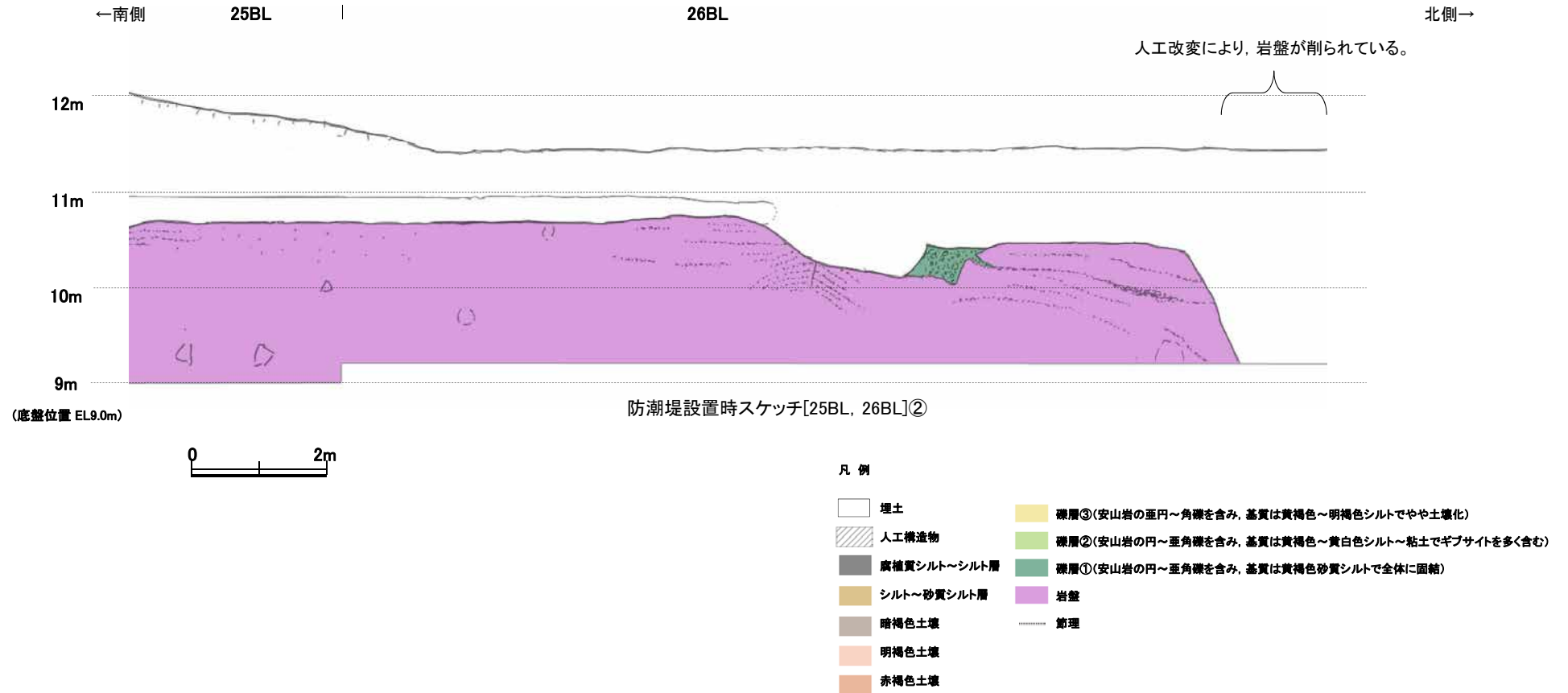


防潮堤設置時写真[25BL, 26BL]①

・防潮堤基礎[25BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [25BL, 26BL]②

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-26 一部修正

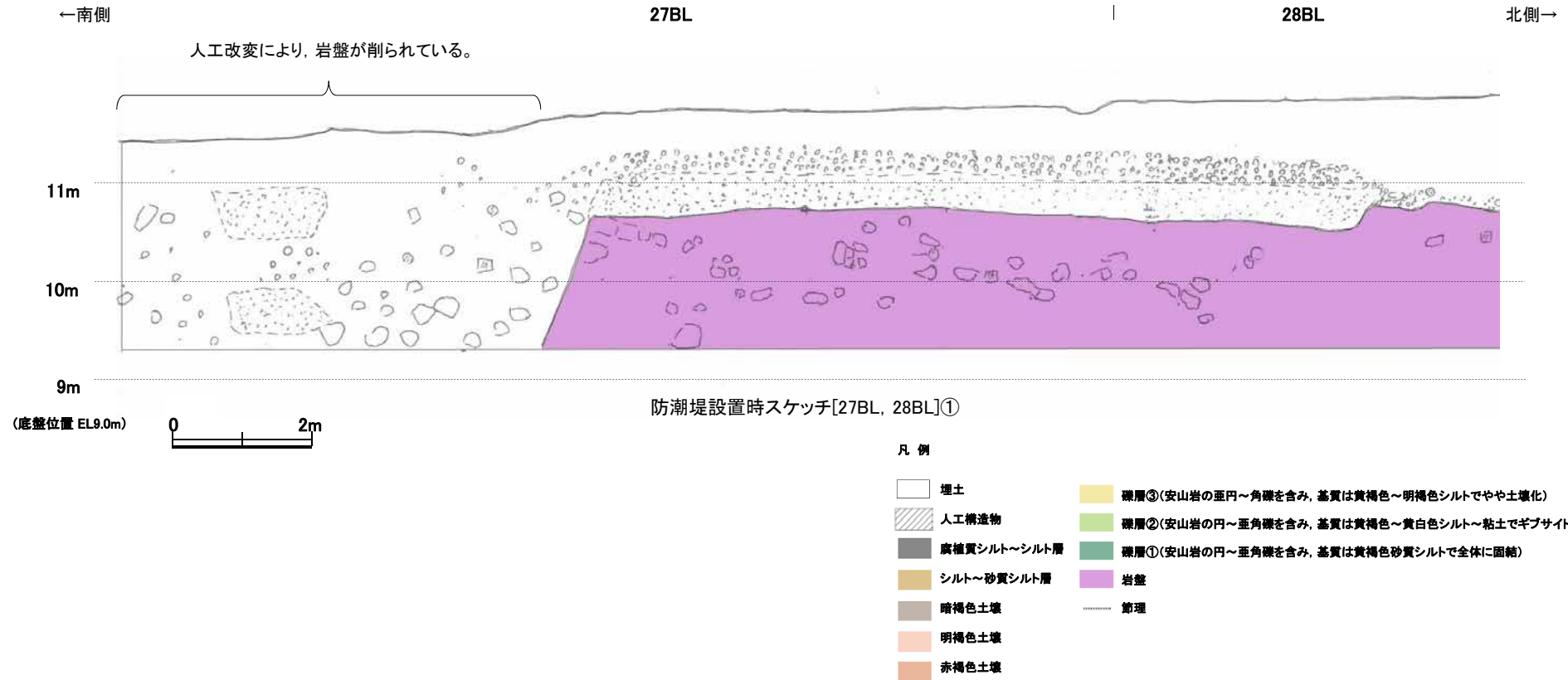


防潮堤設置時写真[25BL, 26BL]②

・防潮堤基礎[26BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [27BL, 28BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-27 一部修正

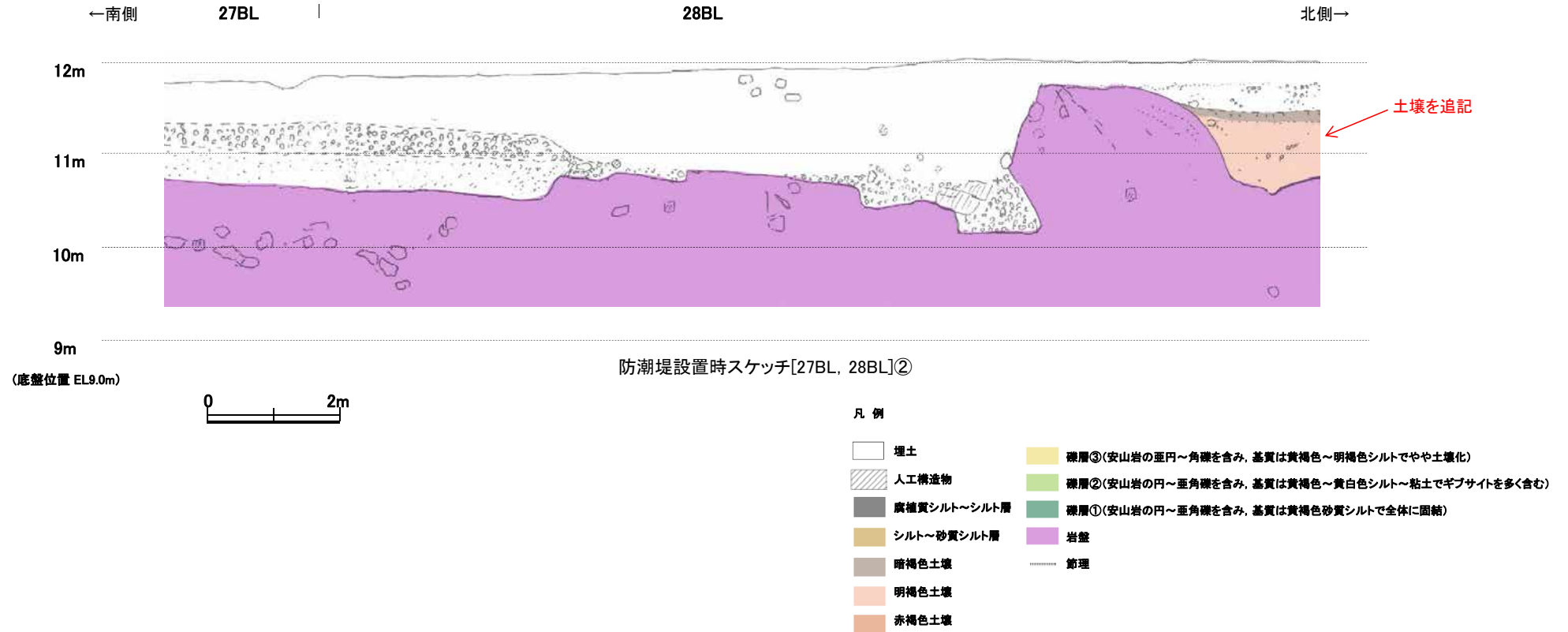


防潮堤設置時写真[27BL, 28BL]①

・防潮堤基礎[27BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [27BL, 28BL]②

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-28 一部修正



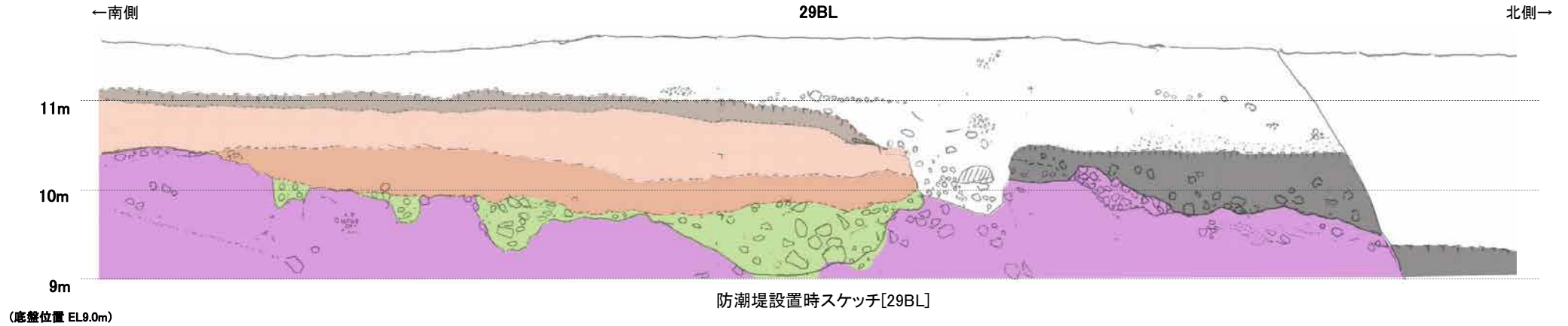
赤字: 第553回審査会合以降に変更した箇所

防潮堤設置時写真[27BL, 28BL]②

・防潮堤基礎[28BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [29BL]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-29 一部修正



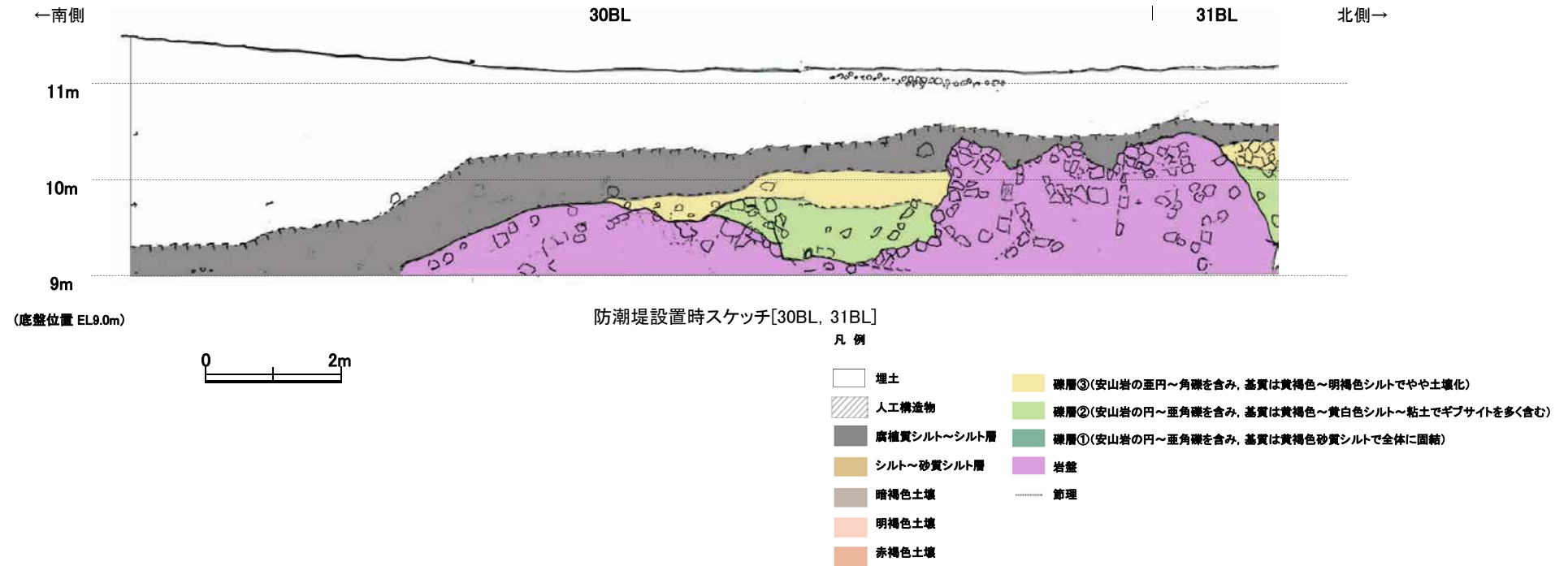
凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[29BL]

・防潮堤基礎[29BL]には、断層は認められない。

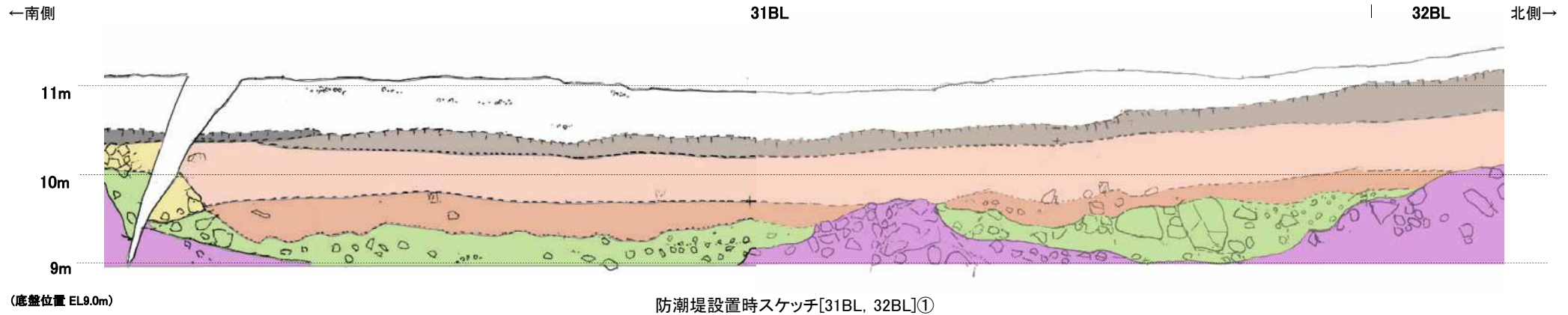


防潮堤設置時写真[30BL, 31BL]

・防潮堤基礎[30BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [31BL, 32BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-31 一部修正



0 2m

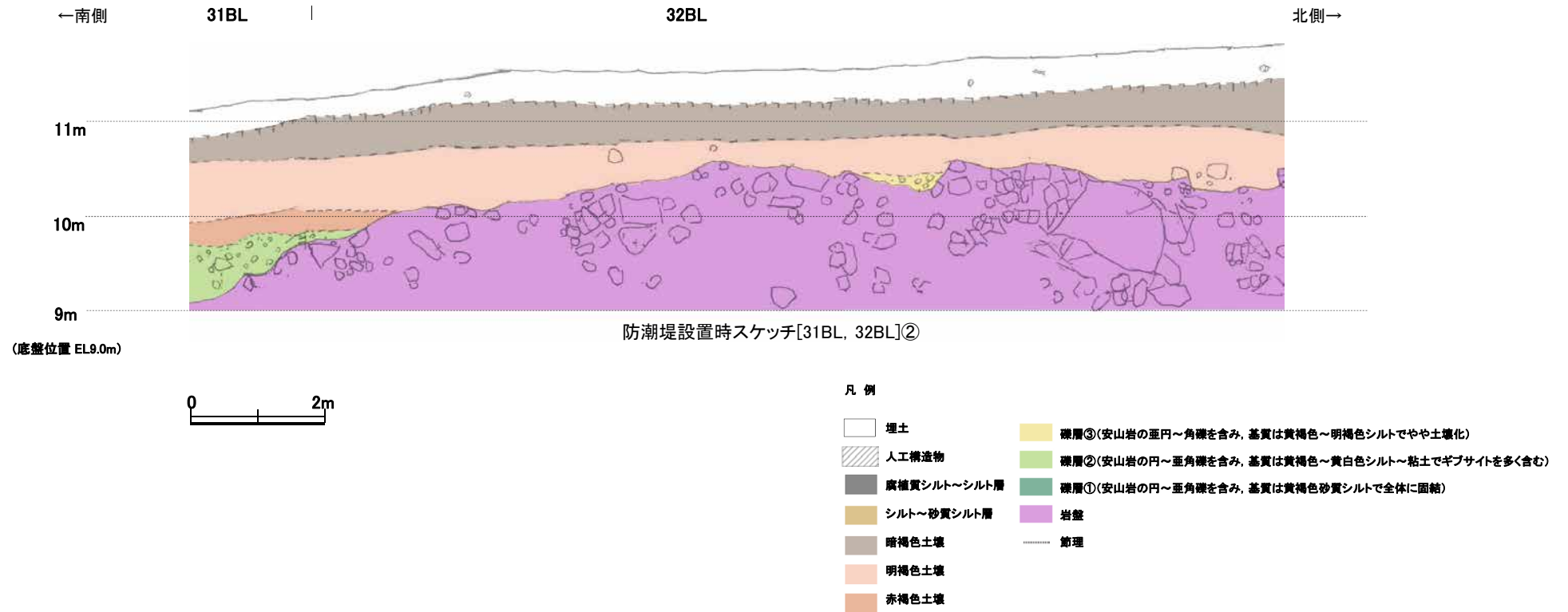
凡 例

- | | | | |
|--|-------------|--|--|
| | 埋土 | | 礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| | 人工構造物 | | 礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| | 腐植質シルト～シルト層 | | 礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| | シルト～砂質シルト層 | | 岩盤 |
| | 暗褐色土壌 | | 節理 |
| | 明褐色土壌 | | |
| | 赤褐色土壌 | | |



防潮堤設置時写真[31BL, 32BL]①

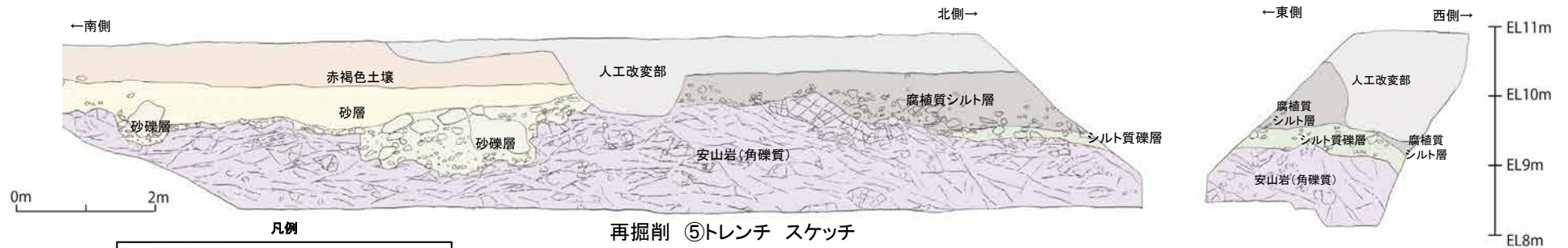
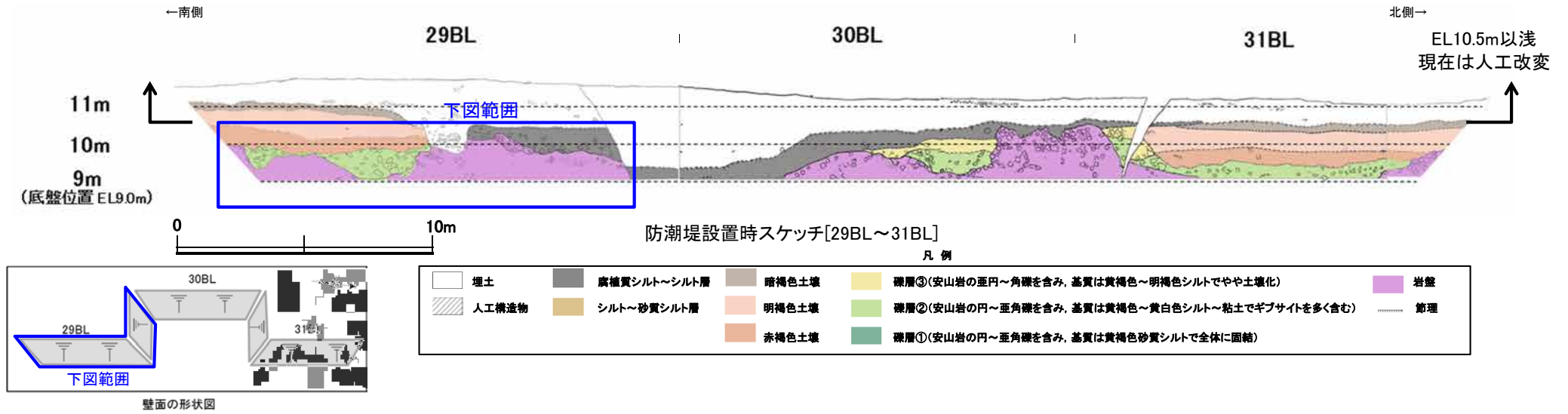
・防潮堤基礎[31BL]には、
断層は認められない。



・防潮堤基礎[32BL]には、断層は認められない。

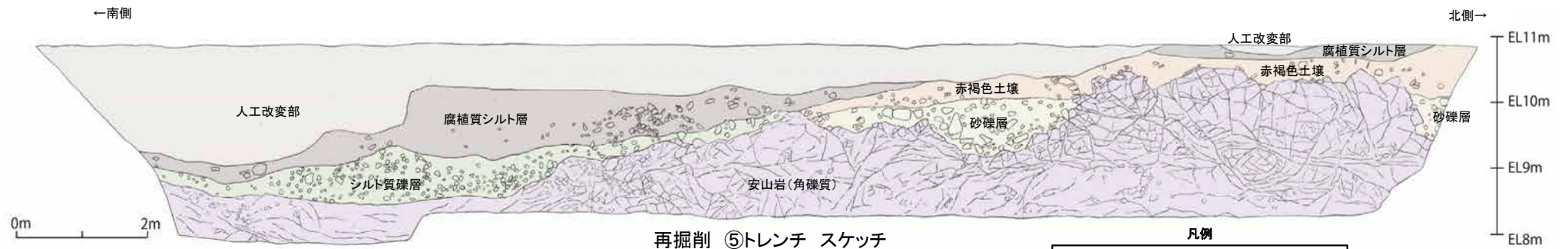
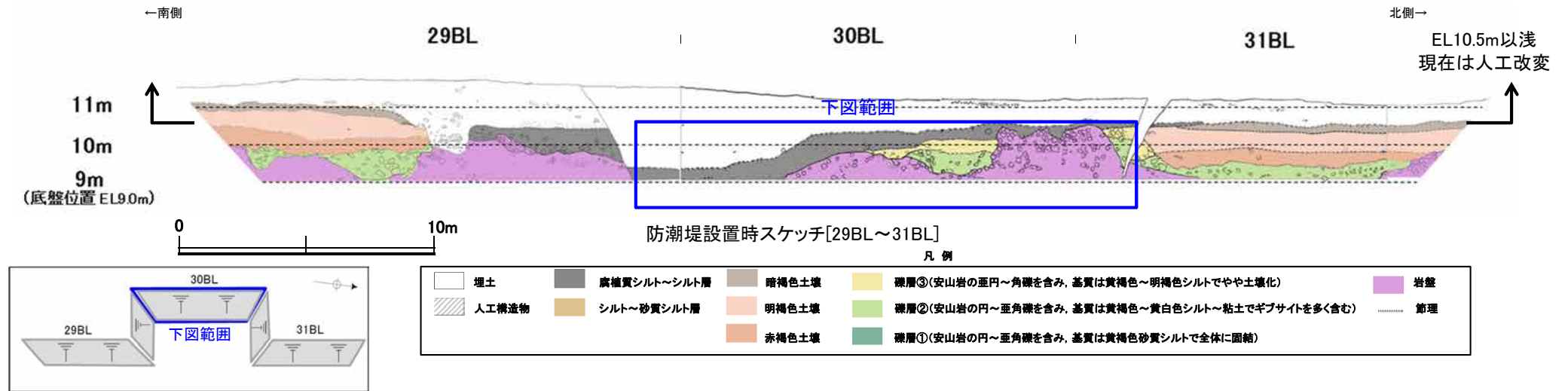
防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[⑤トレンチ(1/3)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-60 一部修正



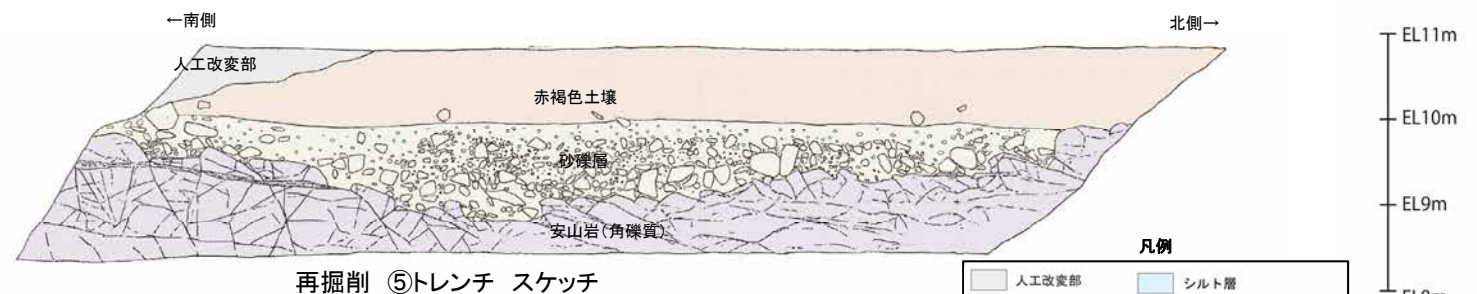
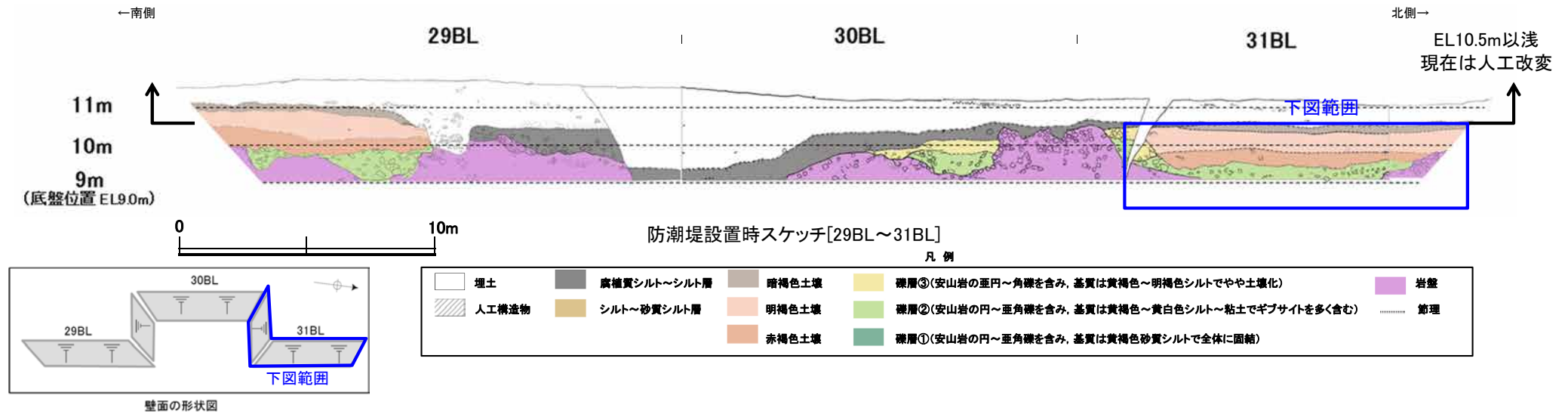
防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[⑤トレンチ（2/3）]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-61 一部修正

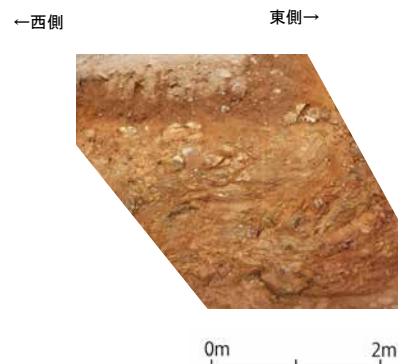


防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[⑤トレンチ(3/3)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-62 一部修正

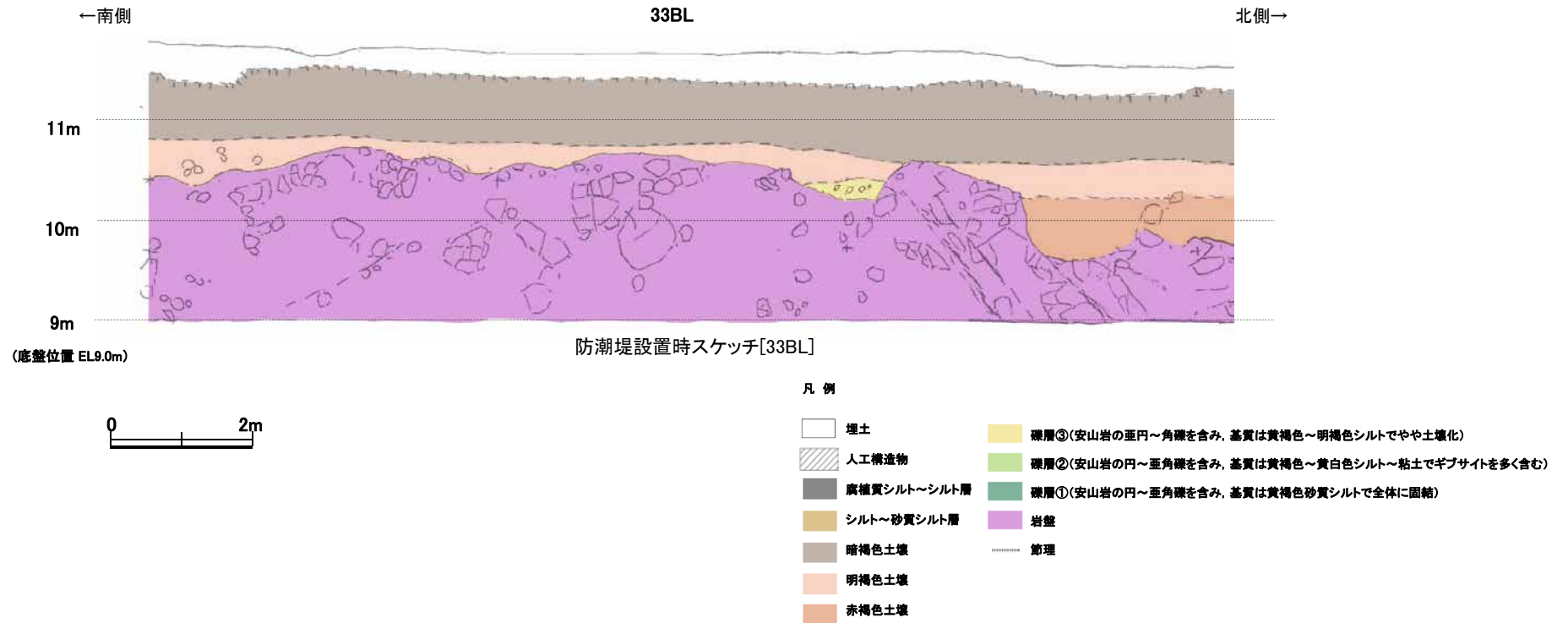


再掘削 ⑤トレンチ スケッチ



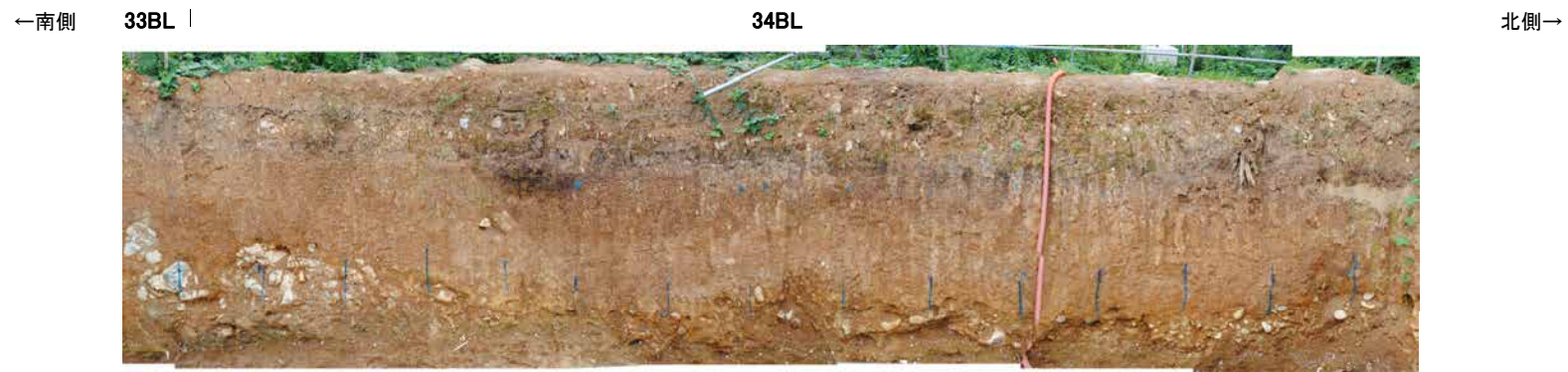
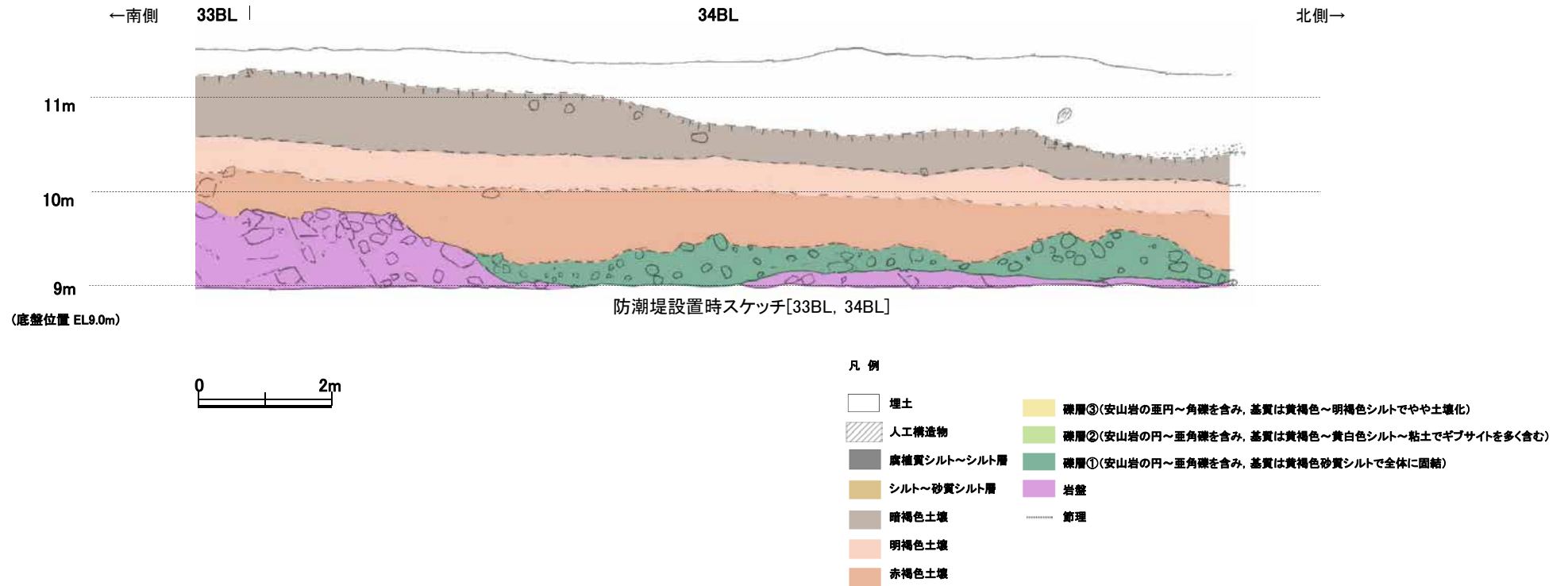
再掘削 ⑤トレンチ 写真

・⑤トレンチには、断層は認められない。



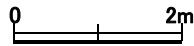
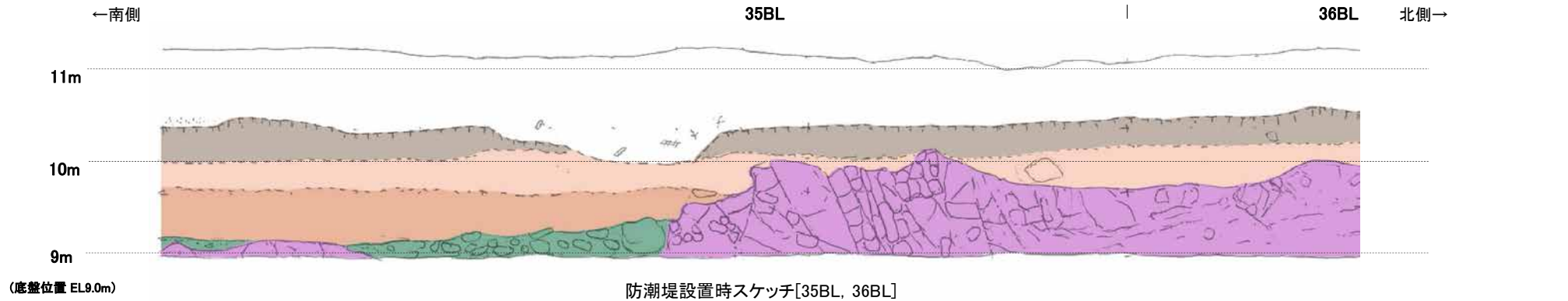
防潮堤設置時写真[33BL]

・防潮堤基礎[33BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[33BL, 34BL]

・防潮堤基礎[34BL]には、
断層は認められない。



凡 例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |

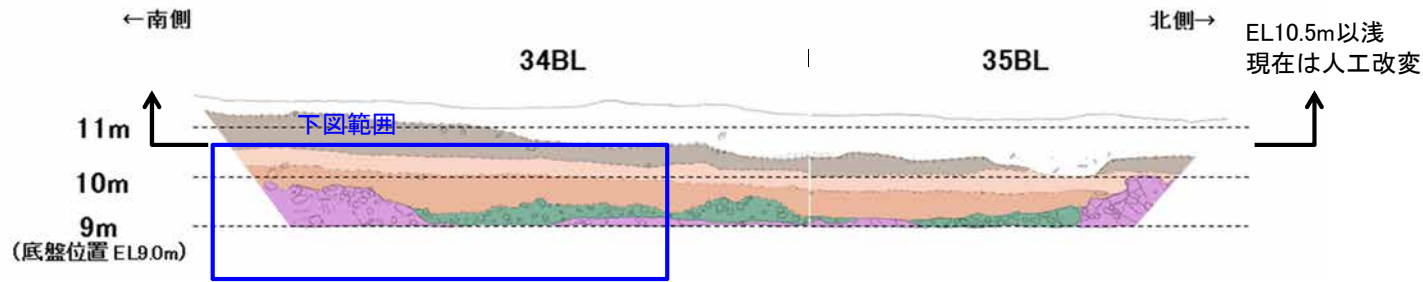


防潮堤設置時写真[35BL, 36BL]

・防潮堤基礎[35BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真[⑥トレンチ(1/2)]

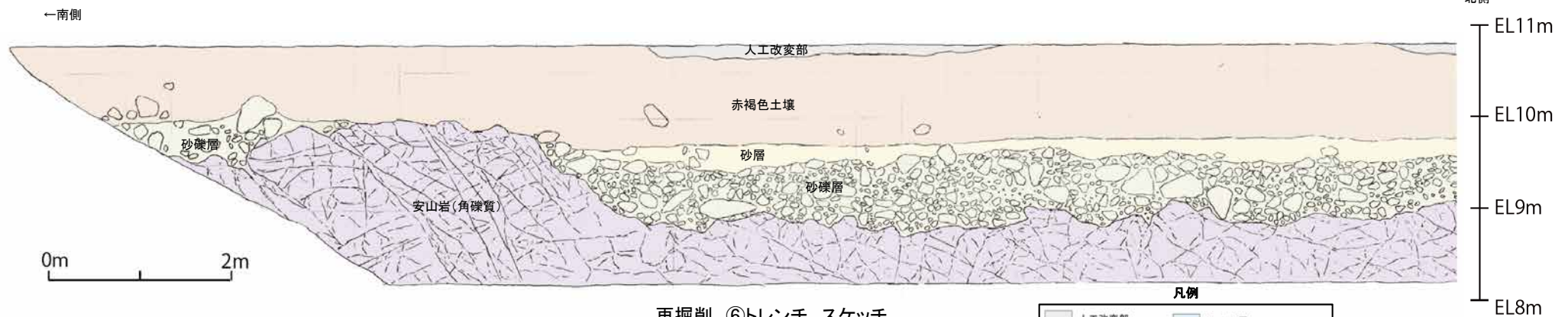
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-63 一部修正



凡例

埋土	礫層③(安山岩の底円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)
腐植質シルト～シルト層	礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト～砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	

防潮堤設置時スケッチ[34BL～35BL]



再掘削 ⑥トレンチ スケッチ

凡例

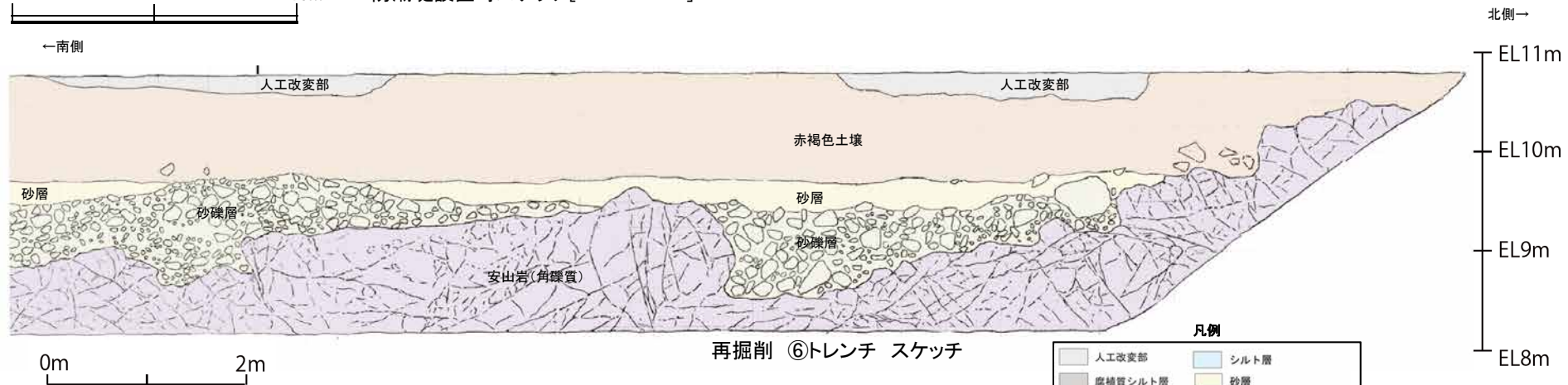
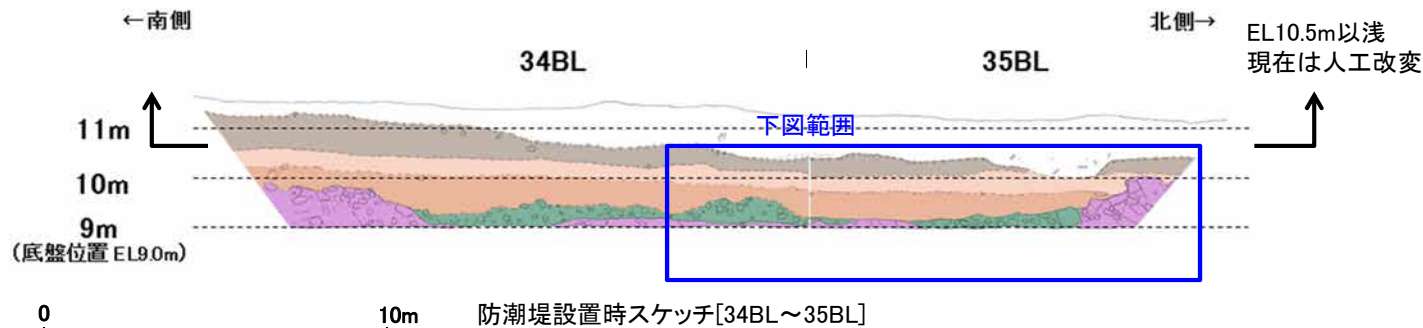
人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	



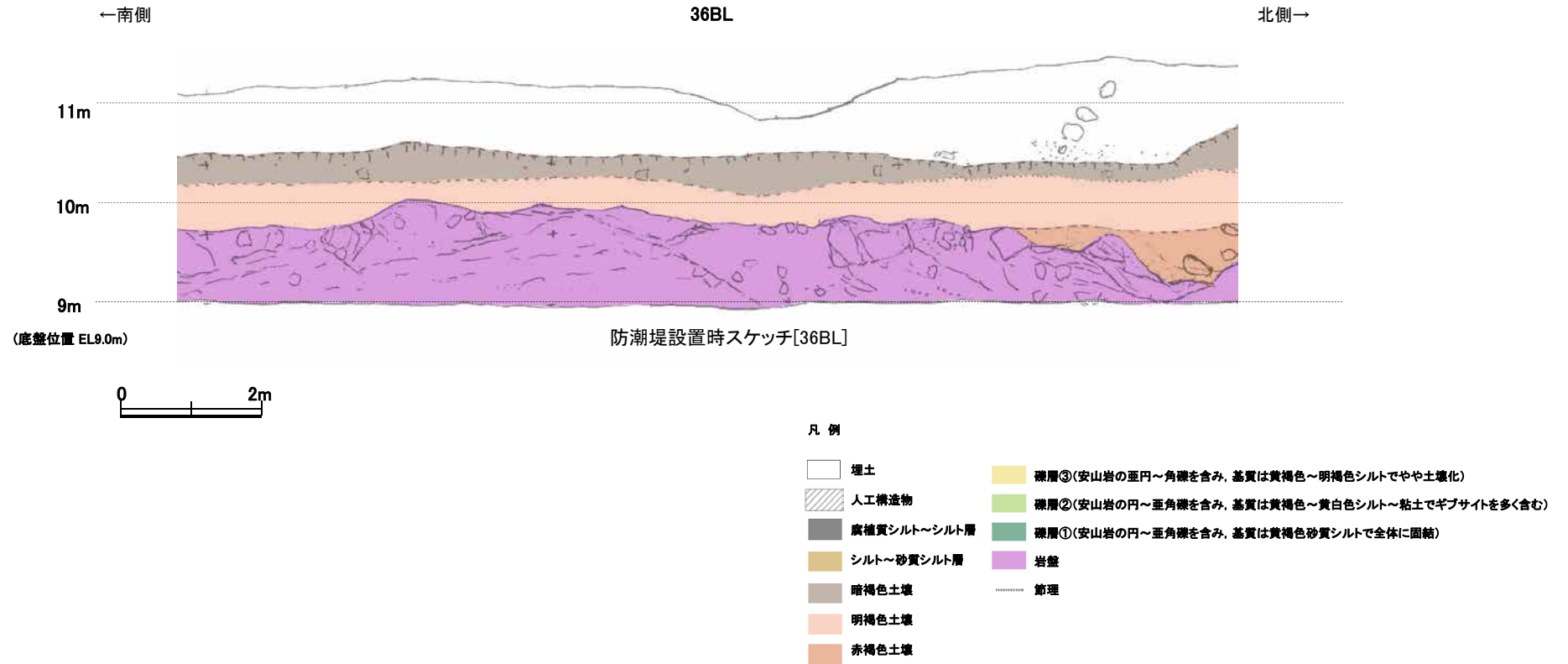
再掘削 ⑥トレンチ 写真

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑥トレンチ(2/2)]

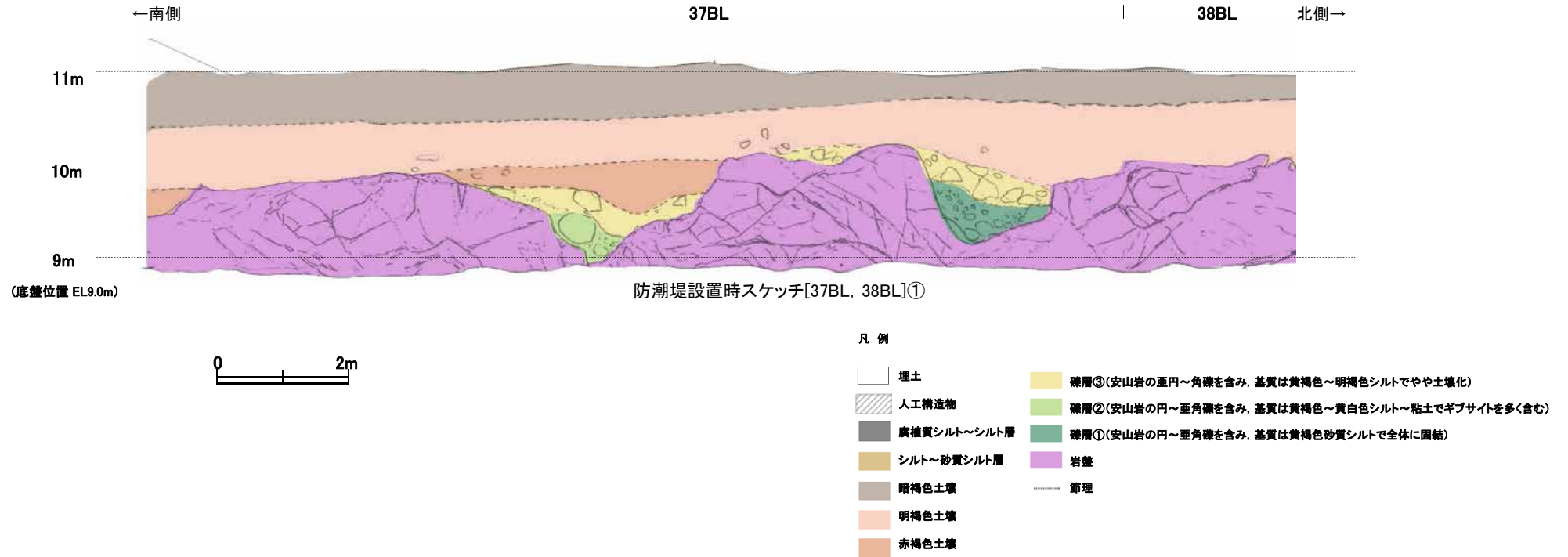
第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-64 一部修正



・⑥トレンチには、断層は認められない。

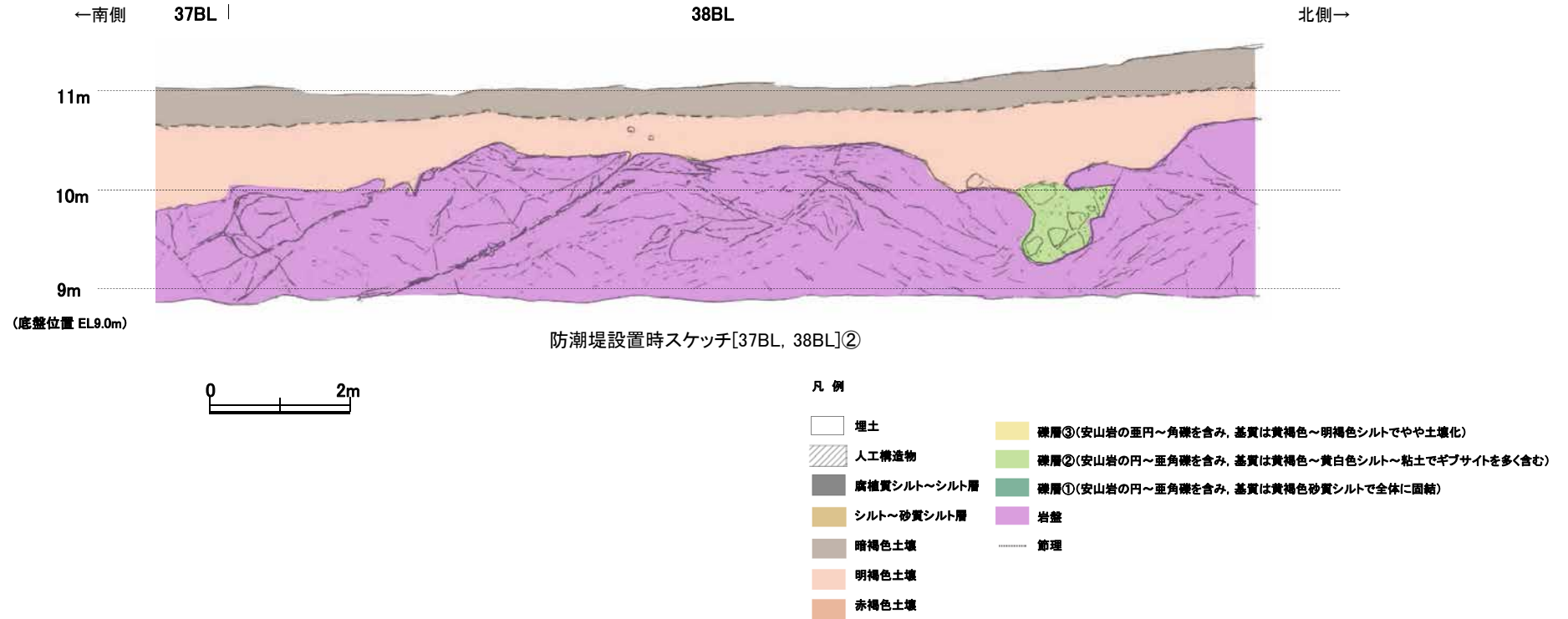


・防潮堤基礎[36BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[37BL, 38BL]①

・防潮堤基礎[37BL]には、
断層は認められない。

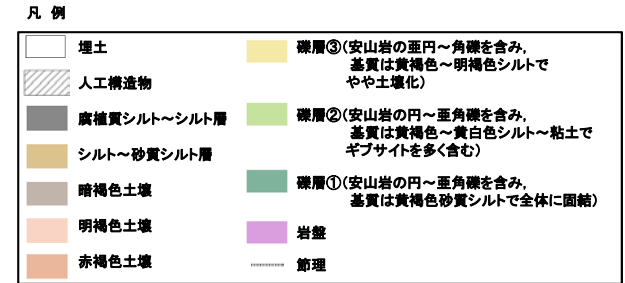
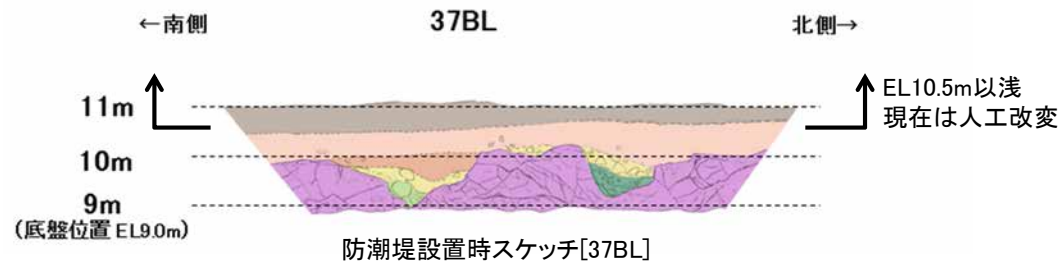


防潮堤設置時写真[37BL, 38BL]②

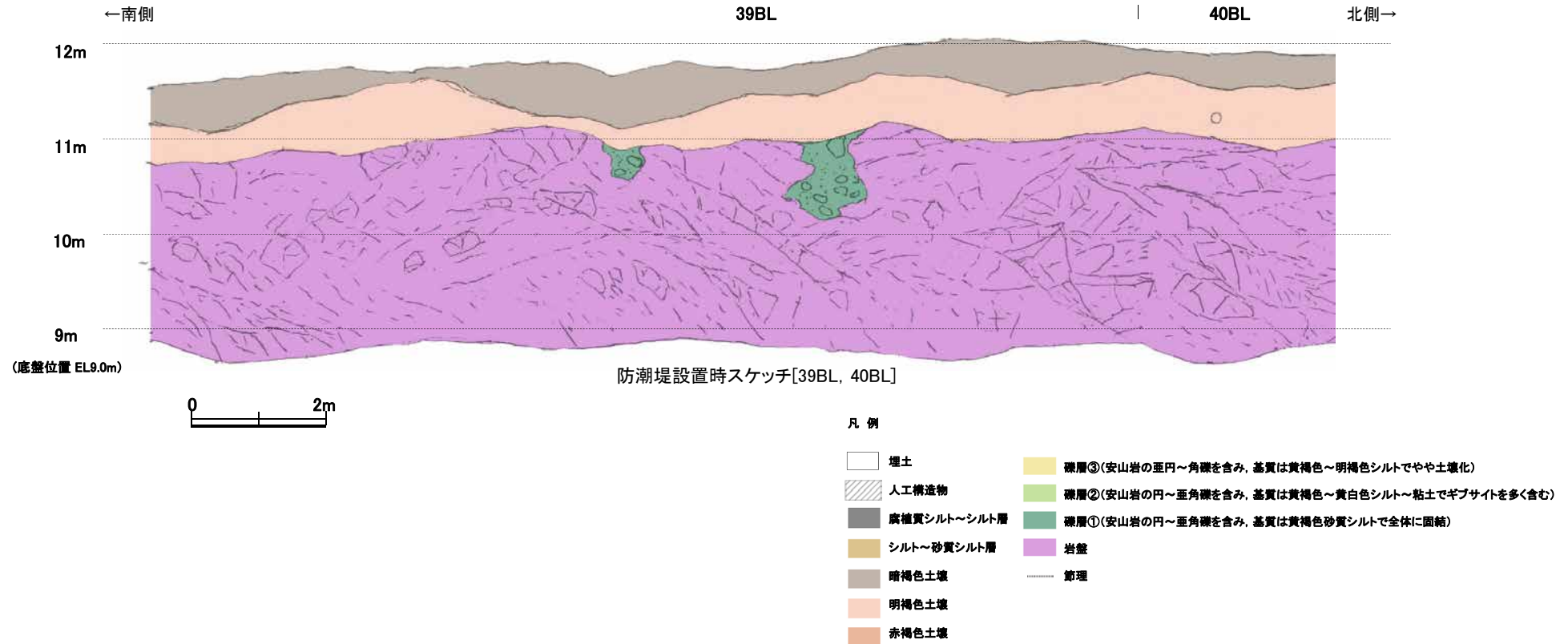
・防潮堤基礎[38BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真〔⑦トレンチ〕

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-65 一部修正

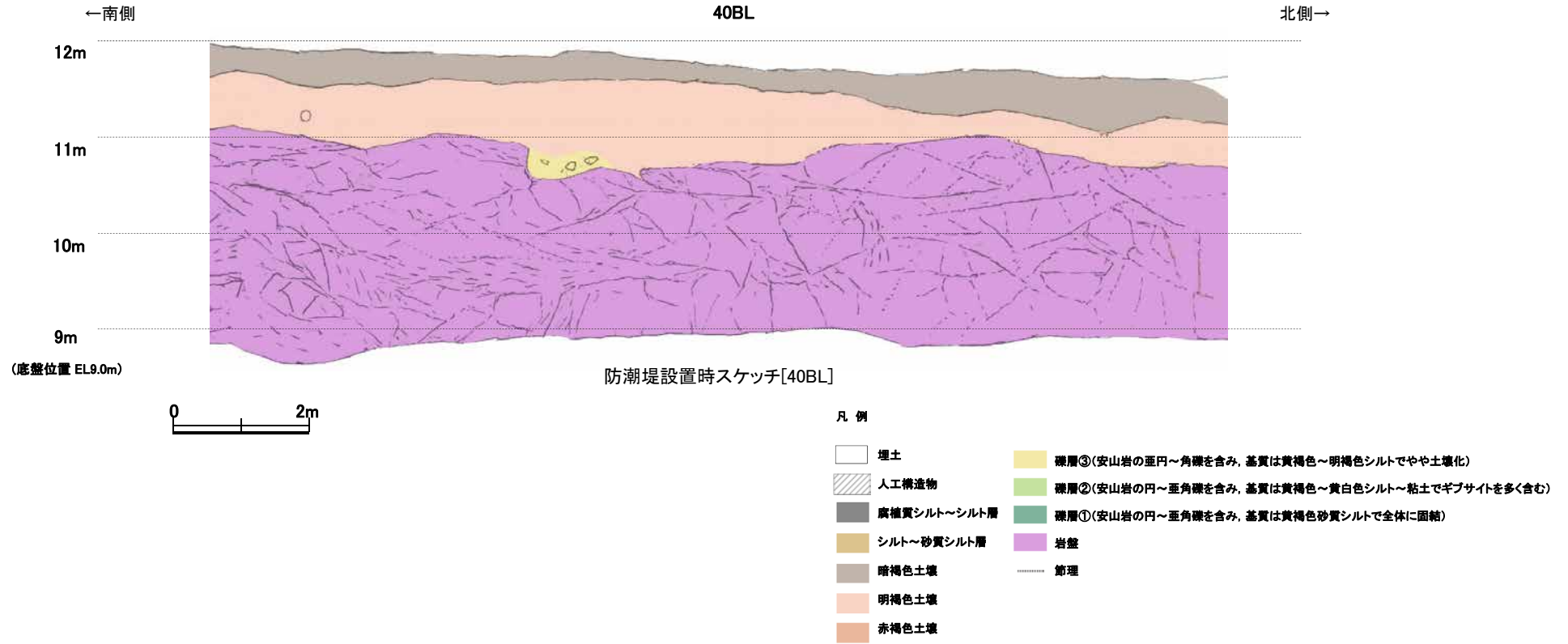


・⑦トレンチには、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[39BL, 40BL]

・防潮堤基礎[39BL]には、断層は認められない。

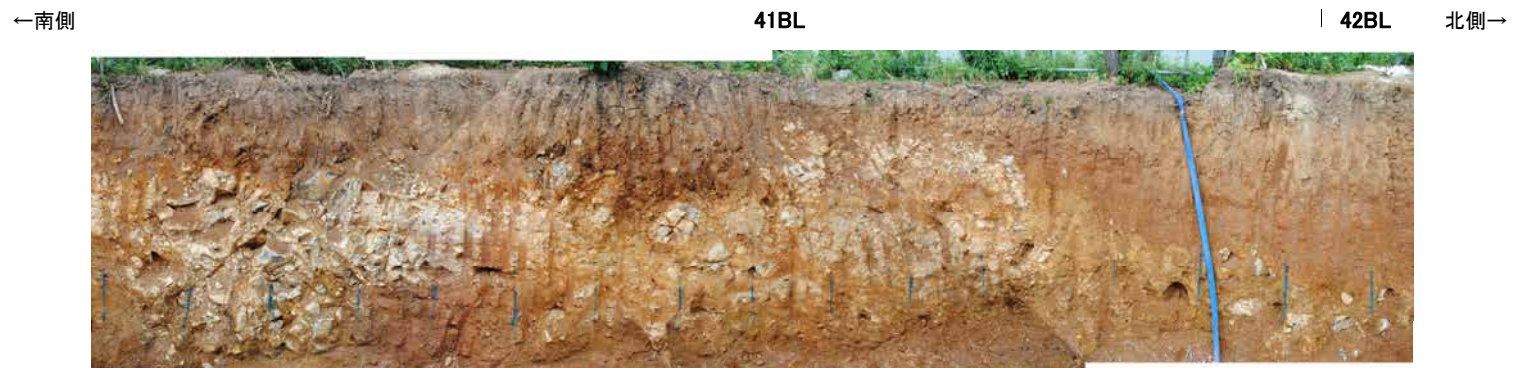
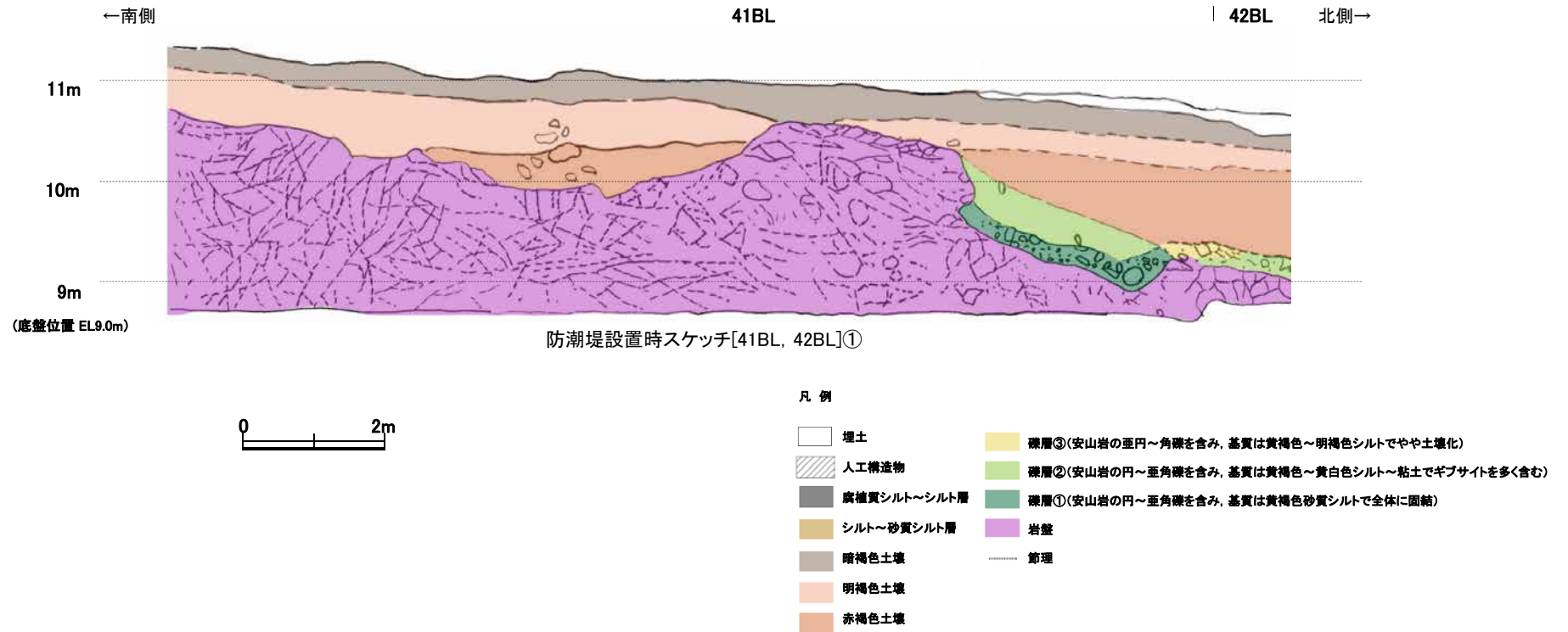


・防潮堤基礎[40BL]には、
断層は認められない。

防潮堤設置時写真[40BL]

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [41BL, 42BL]①

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-41 一部修正

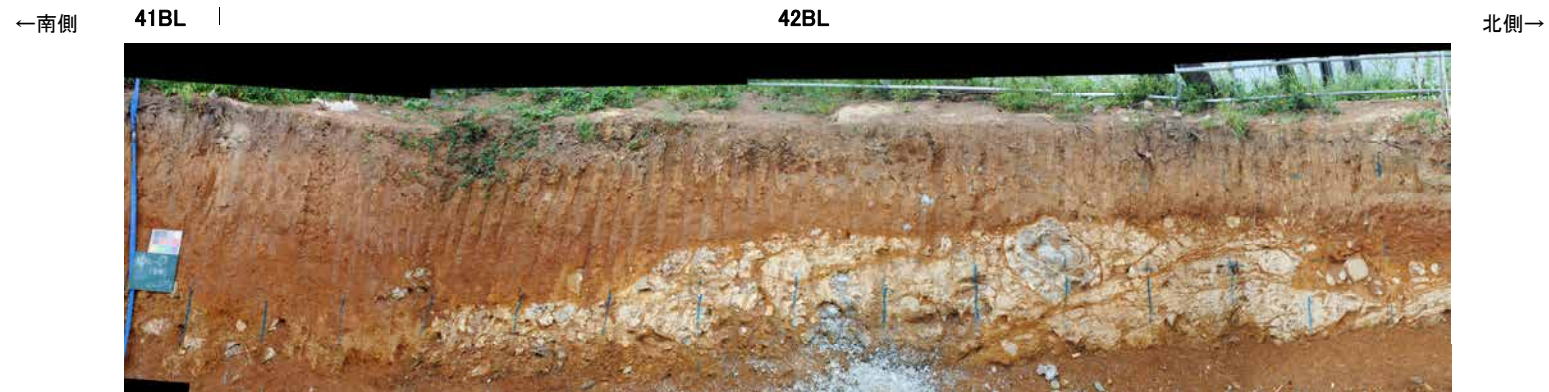
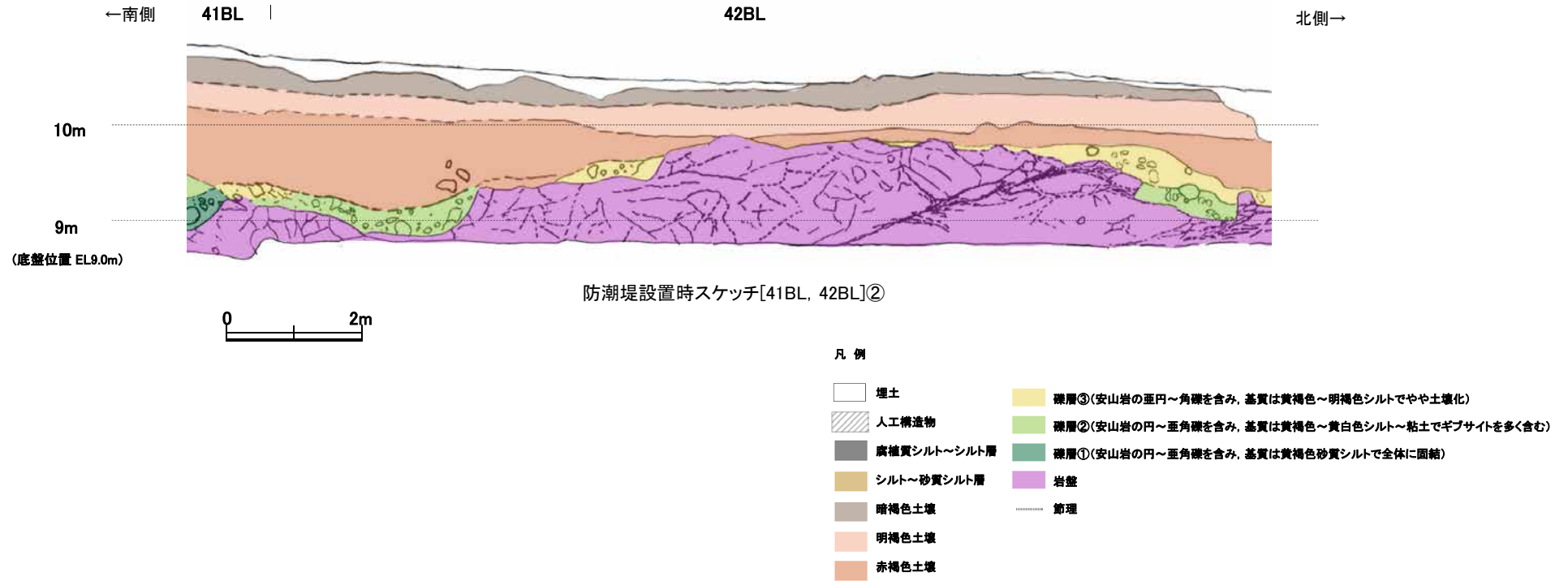


防潮堤設置時写真[41BL, 42BL]①

・防潮堤基礎[41BL]には、
断層は認められない。

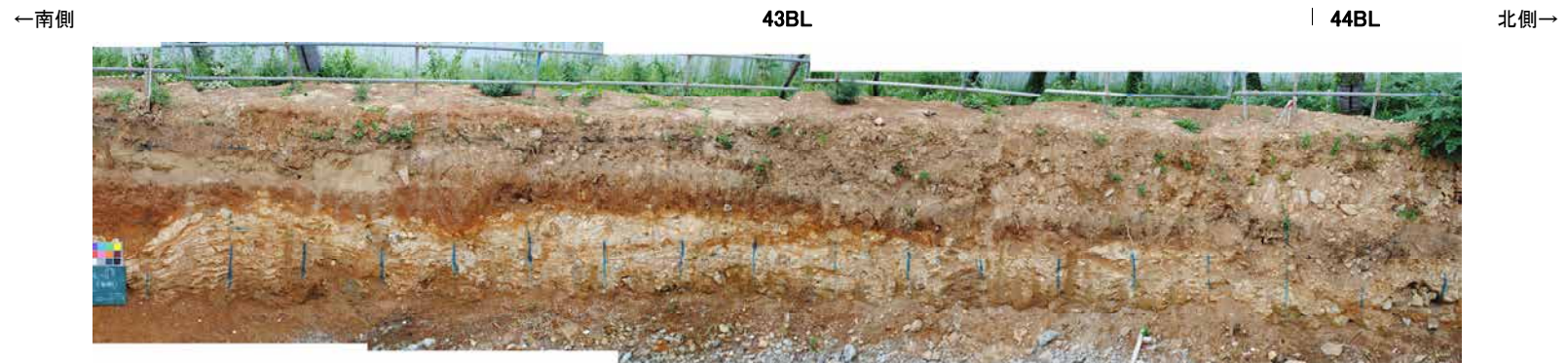
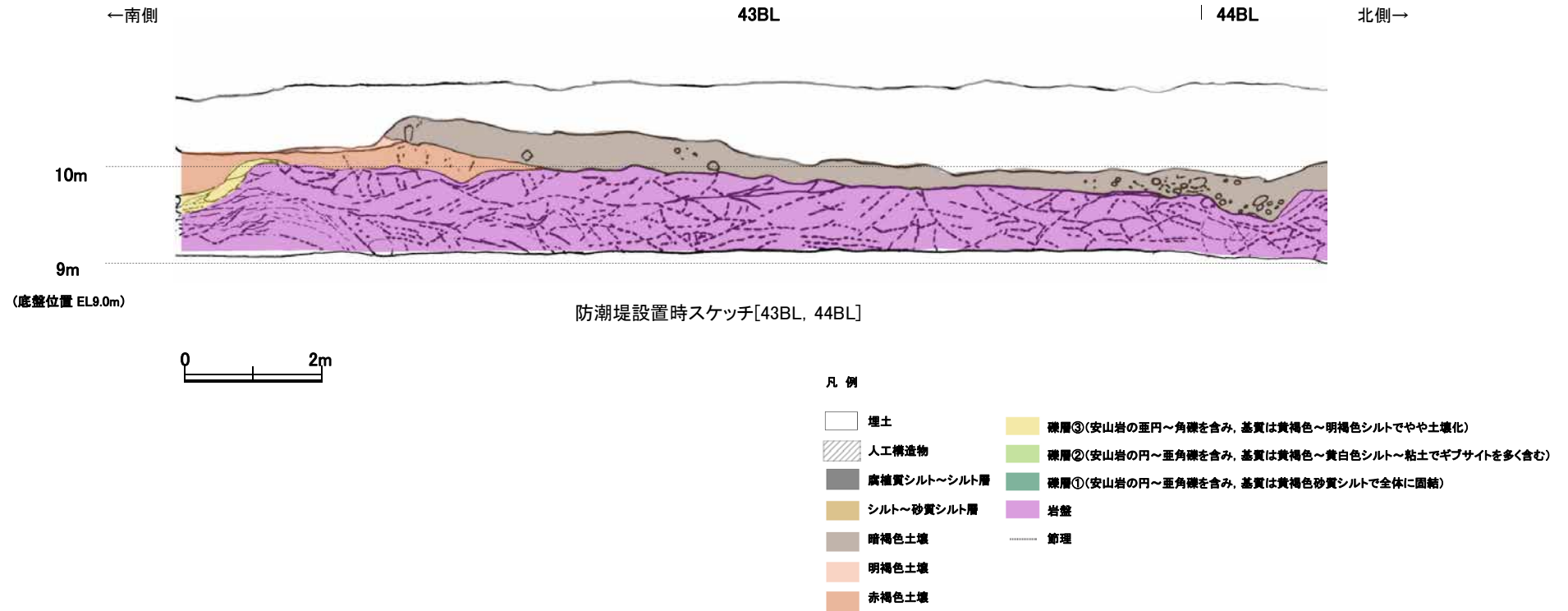
防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [41BL, 42BL]②

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-42 一部修正



防潮堤設置時写真[41BL, 42BL]②

・防潮堤基礎[42BL]には、
断層は認められない。

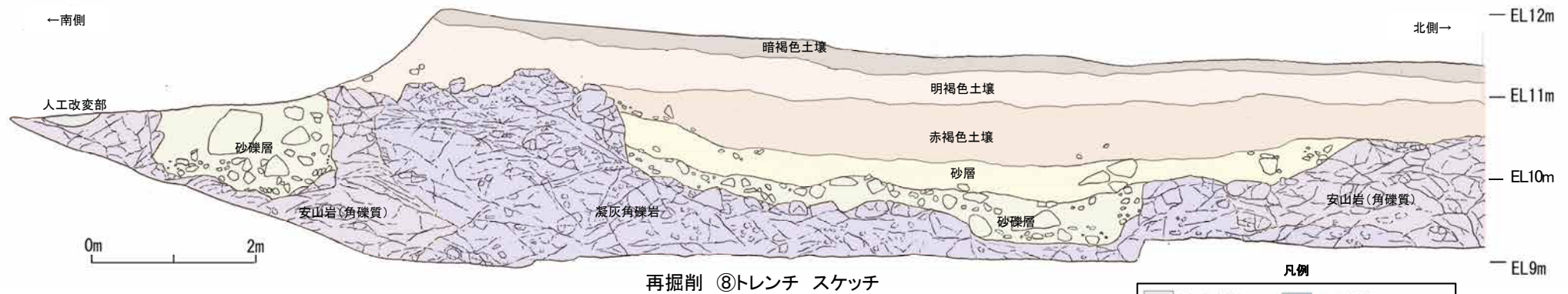
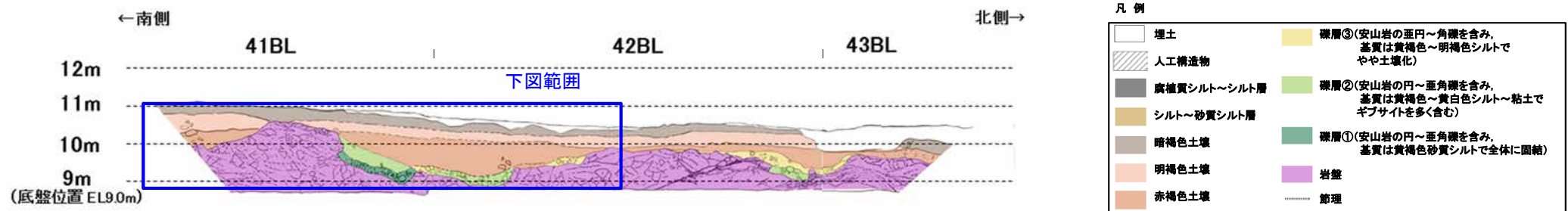


防潮湿設置時写真[43BL, 44BL]

・防潮堤基礎[43BL]には、
断層は認められない。

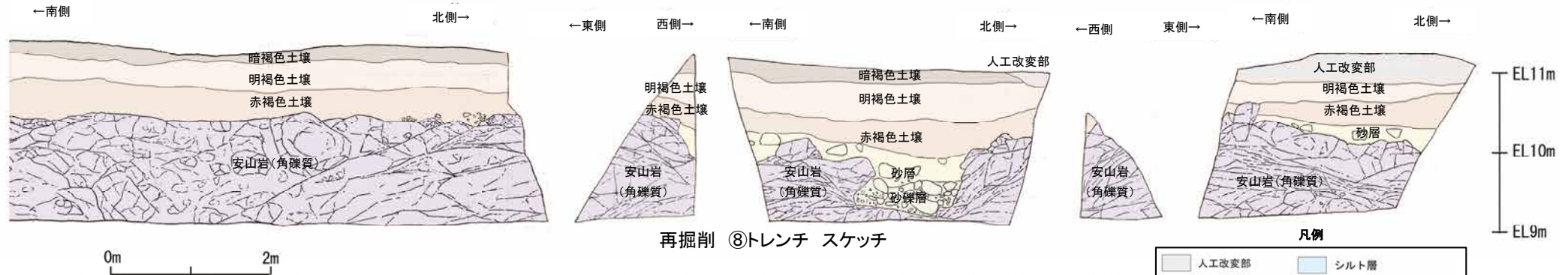
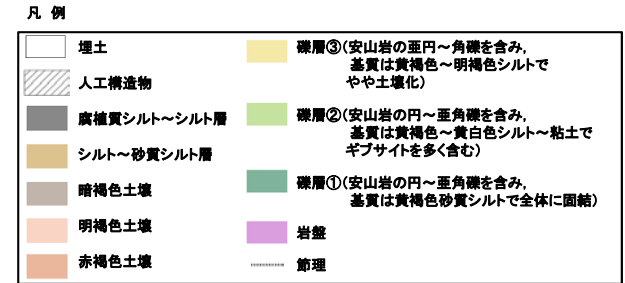
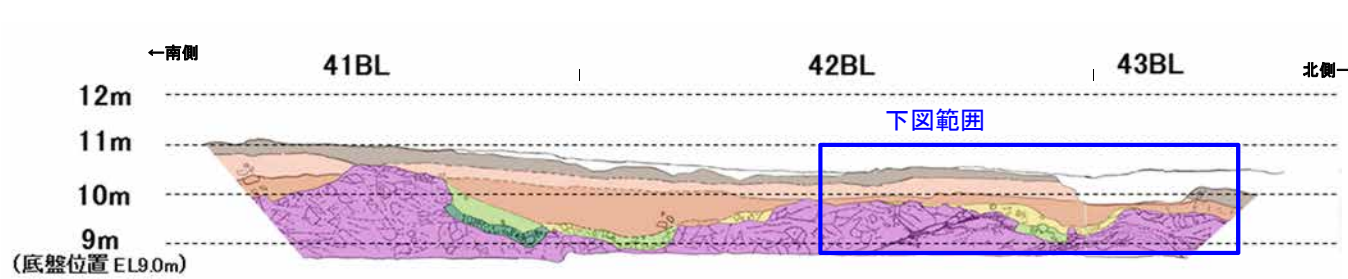
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑧トレンチ(1/2)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-66 一部修正

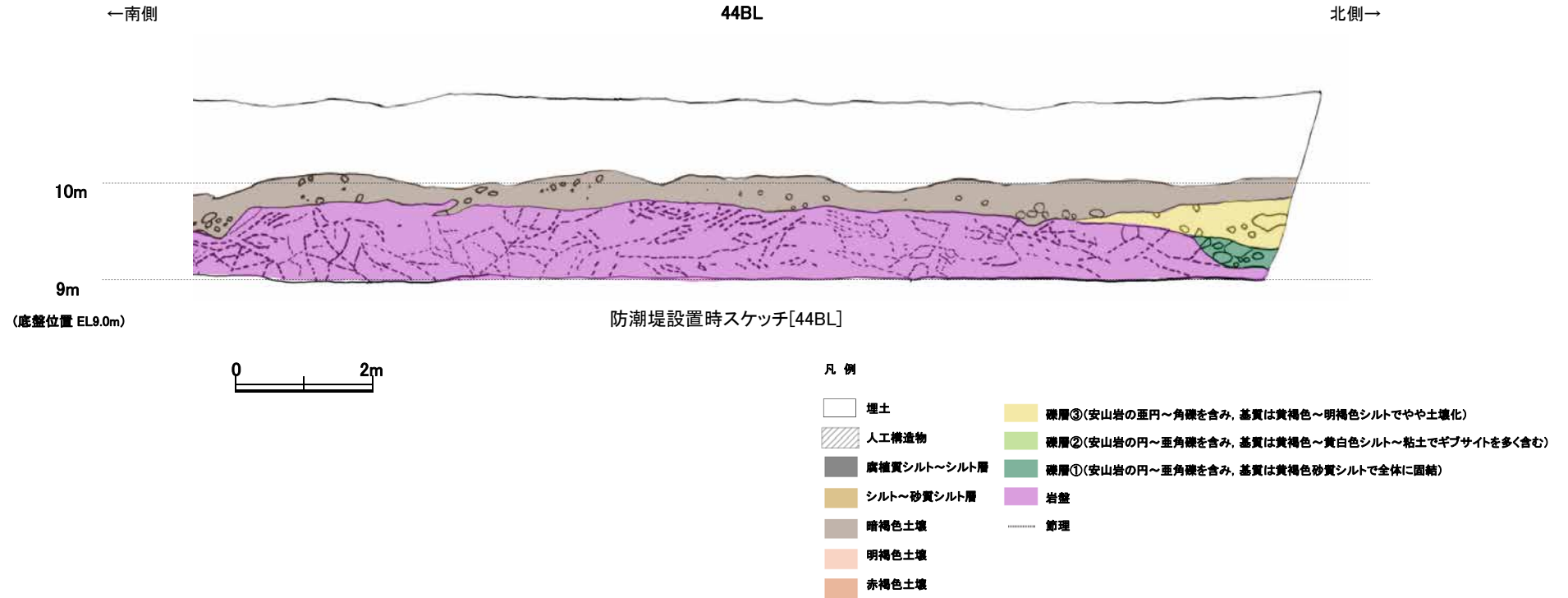


防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑧トレンチ(2/2)]

第553回審査会合
机上配布資料1 P.2-67 一部修正



・⑧トレンチには、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[44BL]

・防潮堤基礎[44BL]には、
断層は認められない。

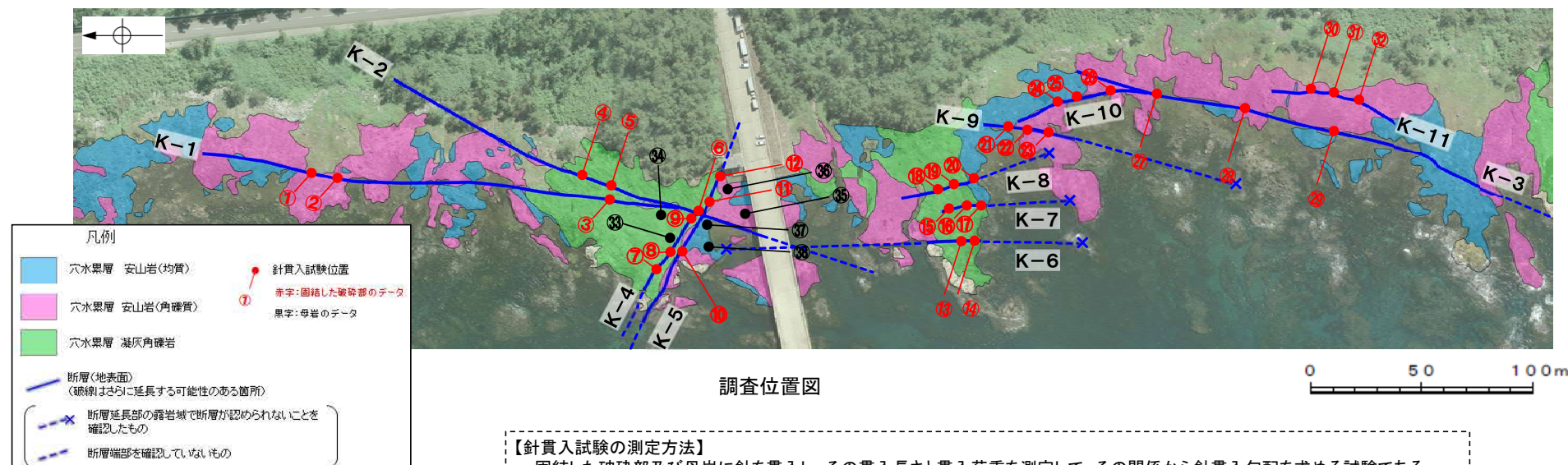
データ集4

固結した破砕部と岩盤の針貫入試験結果

固結した破碎部と岩盤の針貫入試験結果

第597回審査会合
資料2-2 P.6-24 一部修正

■固結した破碎部の固結度を確認するため、固結した破碎部と母岩の3岩種について、針貫入試験を行った結果を以下に示す。



固結した破碎部の針貫入試験結果

測点番号	針貫入勾配(N/mm)	測点番号	針貫入勾配(N/mm)
①	38	①⑦	71
②	36	①⑧	45
③	50	①⑨	50
④	38	①⑩	42
⑤	42	①⑪	71
⑥	42	①⑫	50
⑦	56	①⑬	45
⑧	56	①⑭	63
⑨	71	①⑮	56
⑩	45	①⑯	33
⑪	45	①⑰	56
⑫	63	①⑱	50
⑬	63	①⑲	71
⑭	63	①⑳	63
⑮	45	①㉑	56
⑯	31	①㉒	56
平均値 52N/mm			

【針貫入試験の測定方法】

- ・固結した破碎部及び母岩に針を貫入し、その貫入長さと貫入荷重を測定して、その関係から針貫入勾配を求める試験である。
- ・試験にあたり、各測定番号に対して5点の計測を行い、その平均値をその測定番号の針貫入勾配値※とした。
- ・なお、測定は、できるだけ平滑な箇所、固結した破碎部の幅を概ね等間隔で横断するように行い、基質を対象に実施した。
- ※貫入深さ1mm未満で貫入荷重100Nに達した計測値は針貫入勾配を100N/mmとして算出

母岩の針貫入試験結果

凝灰角礫岩

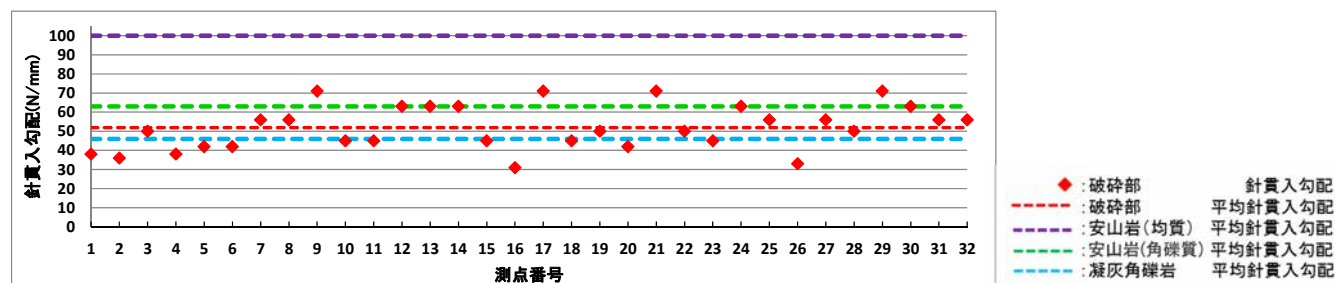
測点番号	針貫入勾配(N/mm)
③③	42
③④	50
平均値 46N/mm	

安山岩(角礫質)

測点番号	針貫入勾配(N/mm)
③⑤	63
③⑥	63
平均値 63N/mm	

安山岩(均質)

測点番号	針貫入勾配(N/mm)
③⑦	100(以上)
③⑧	100(以上)
平均値 100(以上)N/mm	



各測点位置における破碎部と母岩の針貫入勾配の比較

・固結した破碎部は、母岩である凝灰角礫岩や安山岩(角礫質)と同程度の硬さを有している。

データ集5

破砕部性状一覧表

余白

破砕部性状一覧表①(陸域)

■破砕部の性状の一覧表を以下に示す。(断層については、幅3cm以上の破砕部に加え、断層面上に位置する幅3cm未満の破砕部やコア形状が不良で判断できない箇所も含む)。

断層の破砕部性状一覧表
(1/4)

名称	孔名	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	破砕部の幅 平均値 (cm)
S-1	R-7▲	153.35	EL-142.07	70° ◆	17	14
	H-6.5	65.45	EL-46.77	N54° W/74° NE	10	
	H-7▲	82.85	EL-66.93	—	※	
	Sd-2▲	62.71	EL-6.54	70° ◆	11	
	I-8▲	49.73	EL-27.83	—	14	
	V-2▲	119.55	EL-96.37	N49° W/65° NE	13	
	X-2▲	37.38	EL-15.99	N40° W/78° NE	14	
	I-9▲	214.83	EL-186.18	N43° W/75° NE	10	
	X-4▲	143.95	EL-118.01	—	19	
	J-9▲	58.65	EL-34.50	N36° W/80° NE	8	
	J-9'	28.67	EL-7.52	N72° W/74° NE	8	
	J-9''	29.33	EL-8.23	N83° E/73° NW	16	
	T-1	3.34	EL-13.85	N60° W/68° NE	25	
	T-2	2.85	EL-14.85	N62° W/65° NE	22	
	T-3	2.55	EL-15.45	N61° W/67° NE	6	
	T-4	2.00	EL-16.85	N62° W/71° NE	4	
	K-10▲	16.95	EL15.64	N69° W/66° NE	8	
	K-11▲	110.53	EL-82.67	—	15	
	L-12.2	41.93	EL-10.97	N38° W/79° NE	27	
	L-12.5	174.18	EL-138.38	N85° W/66° NE	9	
	M-12.5	63.43	EL-35.33	N62° W/72° NE	8	
	M-12.5'	51.65	EL-26.59	N51° W/76° NE	10	
	M-12.5''	50.00	EL-23.90	N51° W/79° NE	8	
	N-13	11.10	EL26.53	N50° W/75° NE	18	
	N-13'	23.39	EL15.13	N52° W/69° NE	26	
	N-13.5'	10.90	EL29.74	N87° E/73° NW	23	
	N-14	30.97	EL11.78	N36° W/80° NE	12	
	N-14.5	21.31	EL26.25	N55° W/84° NE	11	
	O-14.5	26.93	EL14.42	N72° W/89° NE	8	
	O-16	20.36	EL12.72	N63° W/87° NE	18	
	O-17	16.28	EL25.11	N74° W/85° NE	22	
	O-17.3	41.82	EL8.81	N75° W/78° NE	10	
	O-17.5	25.29	EL22.77	N76° W/80° NE	6	

▲:建設時のボーリング孔

※:コアが岩片状、細片状、土砂状を呈している、あるいは掘進時のコア採取不良区間、逸水により、破砕部の有無が確認できないが、周辺ボーリング孔で確認された断層の出現深度、走向傾斜から考慮して、断層が連続すると判断して抽出したもの。

◆:コア観察による傾斜。

赤字:第627回審査会合以降に変更した箇所
(コア再観察等による変更)

【破砕部の分類】

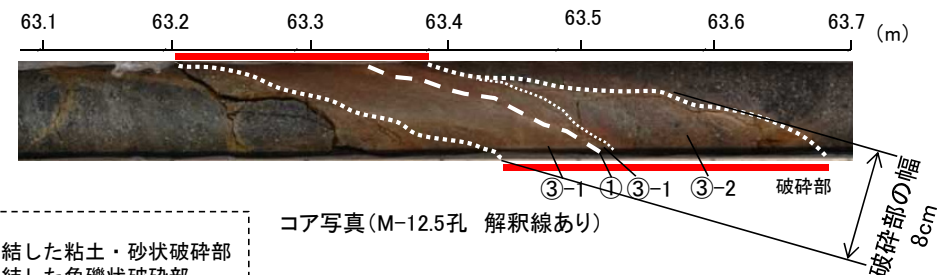
- ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部
②-1 砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
②-2 角礫状破砕部

断層の破砕部性状一覧表
(2/4)

名称	孔名	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	破砕部の幅 平均値 (cm)
S-2・S-6	M-5▲	51.75	EL-42.00	—	17	34
	L-6'	13.82	EL-2.29	N12° E/58° NW	33	
	K-5▲	94.44	EL-80.13	70° ◆	39	
	K-6▲	39.17	EL-23.31	N35° E/60° NW	54	
	I-5▲	126.15	EL-107.91	—	15	
	I-6▲	67.20	EL-47.27	—	※	
	R-4.5	184.44	EL-173.37	N18° E/59° NW	4	
	R-5▲	155.50	EL-144.38	—	14	
	SC-1▲	36.27	EL-6.20	N24° E/44° NW	16	
	SE-2▲	52.18	EL-6.46	—	43	
	H-7▲	20.59	EL-4.67	N17° E/50° NW	20	
	H-6.6	53.80	EL-42.70	N4° E/57° NW	108	
	H-6.5	37.62	EL-22.20	N9° W/55° SW	42	
	H-6.5'	34.55	EL-13.41	N7° W/74° SW	76	
	H-6.4	33.90	EL-12.88	N24° E/57° NW	53	
	R-6▲	90.90	EL-79.67	N8° E/64° NW	26	
	SC-4▲	63.65	EL-6.10	—	19	
	R-7▲	28.23	EL-16.95	N14° E/52° NW	39	
	G-7▲	53.85	EL-38.60	N12° E/60° NW	24	
	F-8▲	26.40	EL-5.66	—	※	
	F-8.5	8.93	EL12.13	N3° E/50° NW	48	
	E-8.5	14.40	EL6.74	NS/55° W	18	
	E-8▲	38.05	EL-21.91	N18° E/77° NW	14	
	E-8.6	11.70	EL9.41	NS/45° W	55	
	E-8.7	10.09	EL10.93	N10° E/56° NW	56	
	C-9.1	10.82	EL11.03	N27° E/57° NW	1	
	C-9.2	10.56	EL11.52	N12° E/56° NW	1	
	K-6.2-2	30.94	EL-19.44	N9° E/54° NW	45	
	K-6.3	20.61	EL-9.48	N16° E/55° NW	27	

【破砕部の幅の算定の考え方】

・面の最大傾斜角に対して直交方向における、粘土状破砕部、固結した破砕部を含めた最大値を破砕部の幅としている。



コア写真(M-12.5孔 解釈線あり)

破砕部性状一覧表②(陸域)

断層の破砕部性状一覧表
(3/4)

名称	孔名	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	破砕部の幅 平均値 (cm)
S-4	I-8▲	38.10	EL-16.20	—	4	7
	R-7▲	112.30	EL-101.02	—	3	
	H-8▲	58.15	EL-38.78	—	※	
	2X-2▲	24.70	EL-12.18	—	※	
	SE-1▲	35.90	EL-6.29	—	※	
	No.3▲	25.35	EL-6.38	N39° E/38° NW	16	
	H-6.4	94.65	EL-55.84	N39° E/56° NW	17	
	R-8▲	61.45	EL-48.34	—	1	
	2V-2▲	46.40	EL-33.12	N43° E/63° NW	8	
	No.2▲	13.60	EL-6.37	—	※	
	2V-3▲	37.30	EL-17.47	—	※	
	R-9▲	19.33	EL1.72	N45° E/41° NW	20	
	2U-4▲	39.45	EL-18.32	N58° E/72° NW	8	
	2V-5▲	10.97	EL10.06	—	※	
	G-9▲	59.44	EL-37.77	N61° E/70° NW	16	
	No.4▲	10.85	EL-6.47	N43° E/69° NW	8	
	2T-4▲	62.15	EL-41.00	—	※	
	SA-2▲	18.28	EL-6.04	—	※	
	2T-6▲	26.78	EL-5.62	—	※	
	F-9▲	107.63	EL-86.45	N31° E/62° NW	4	
	No.1▲	30.15	EL-6.36	N29° E/44° NW	1	
	F-9.6	41.60	EL-8.42	N7° E/56° NW	5	
	D-10.2-1SE	61.22	EL-31.99	N27° E/54° NW	5	
	C-11.5S	86.49	EL-39.75	N28° E/62° NW	10	
	D-11.8S	48.92	EL0.62	N30° E/60° NW	6	
	F-10▲	40.76	EL-16.50	—	※	
	E-9▲	158.85	EL-140.24	—	2	
	E-10▲	102.42	EL-81.33	—	※	
	E-11▲	56.73	EL-21.99	—	※	
	D-12▲	30.95	EL1.03	—	2	
	C-13▲	32.01	EL9.01	—	2	
	T-2▲	26.50	EL-1.02	—	※	
	H-6.5'	88.58	EL-51.62	N60° E/45° NW	9	
S-5	SC-2▲	32.68	EL-6.29	—	1	2
	R-8▲	25.50	EL-12.39	N13° E/70° SE	2	
	H-8▲	35.55	EL-16.18	—	※	

断層の破砕部性状一覧表
(4/4)

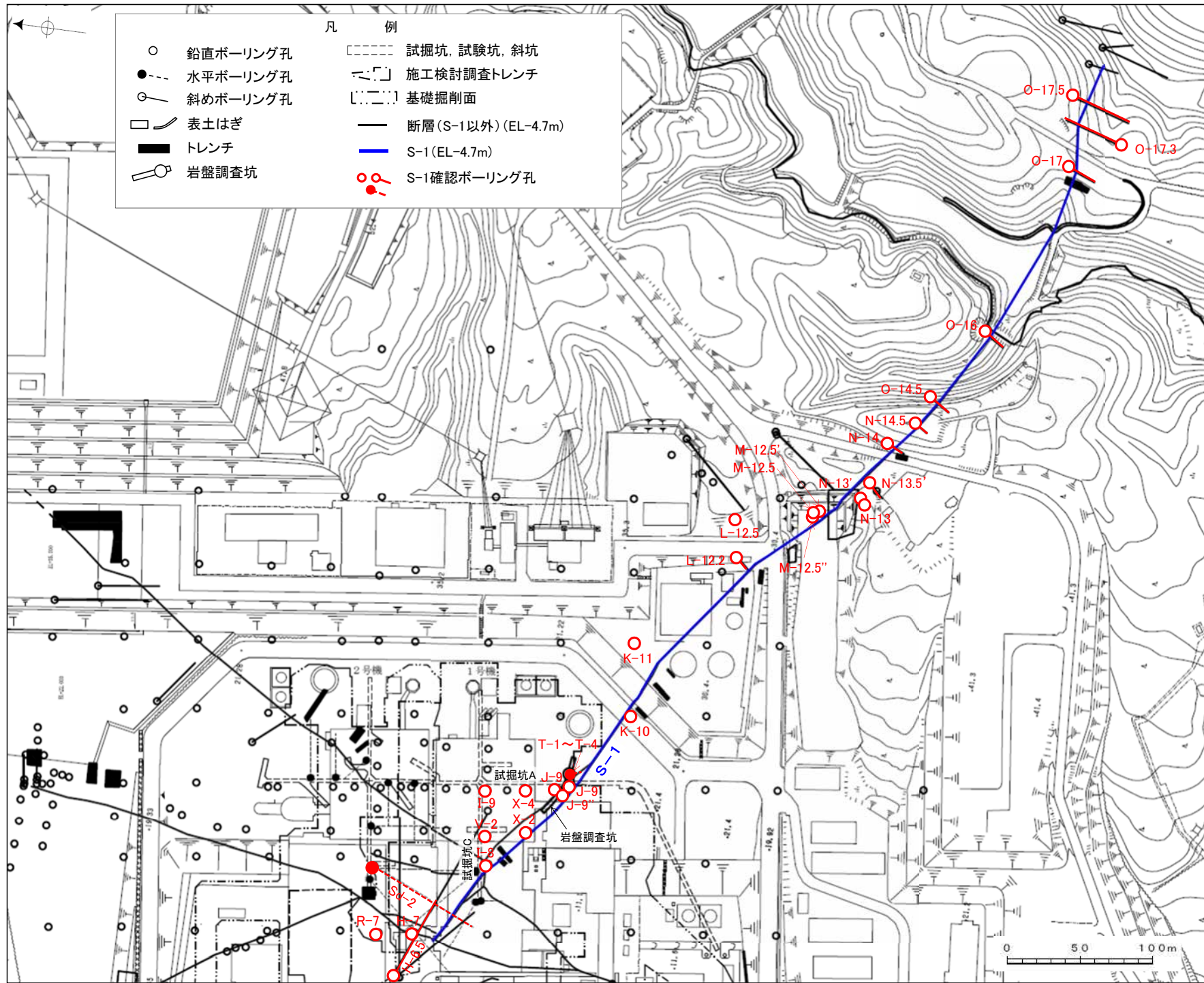
名称	孔名	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	破砕部の幅 平均値 (cm)
S-7	I-5▲	112.19	EL-93.95	N41° W/60° SW	25	10
	I-6▲	41.05	EL-21.12	—	※	
	H-5.7	13.20	EL-0.55	N56° W/65° SW	13	
	H-5.5	31.42	EL-20.36	N32° W/47° SW	15	
	H-5.4	40.20	EL-29.15	N35° W/55° SW	14	
	H-5.2	55.15	EL-44.08	N19° W/67° SW	6	
	R-5▲	47.85	EL-36.73	—	3	
	R-4.5	84.20	EL-73.13	N43° W/55° SW	3	
	G-5▲	29.68	EL-16.02	—	3	
	F-4.6	29.70	EL-18.60	N17° W/76° SW	12	
	F-4.2	14.25	EL1.04	N44° W/73° SW	7	
	G-7▲	51.65	EL-36.40	—	18	
S-8	F-7.0	16.09	EL-4.98	N10° W/48° SW	6	11
	F-7▲	24.50	EL-5.10	—	13	
	F-6.9	19.15	EL-8.06	N3° E/48° NW	4	
	F-6.8	23.75	EL-12.63	N14° W/56° SW	14	
	F-6.79	21.30	EL-10.18	N10° W/47° SW	18	
	F-6.74	22.06	EL-10.99	N10° W/46° SW	7	
	D-6.1	21.65	EL-7.50	N21° W/57° SW	12	
	C-5.4	19.40	EL-7.51	N31° W/51° SW	8	
S-9	J-7▲	13.51	EL2.97	N36° E/72° NW	19	10
	SC-5▲	10.39	EL-6.13	N35° E/41° NW	12	
	I-7▲	53.10	EL-32.63	—	2	
	H-6.5	80.75	EL-60.28	N36° E/61° NW	13	
B-1	H-6.6	123.47	EL-112.37	N62° E/63° NW	4	6
	岩盤 調査坑	—	—	N49° W/86° NE	6 (No.3~26 切羽底盤平均)	
B-2	H-6.5	46.32	EL-29.88	N31° E/62° NW	4	6
	H-6.5'	40.95	EL-17.95	N28° E/50° NW	2	
	H-6.4	43.10	EL-19.39	N13° W/46° SW	10	
	H-7▲	30.30	EL-14.38	—	9	
B-3	J-6.1	27.90	EL-10.31	N37° W/84° NE	3	3
	K-6.2-2	21.39	EL-10.03	N47° W/74° NE	2	

▲:建設時のボーリング孔

※:コアが岩片状、細片状、土砂状を呈している、あるいは掘進時のコア採取不良区間、逸水により、破砕部の有無が確認できないが、周辺ボーリング孔で確認された断層の出現深度、走向傾斜から考慮して、断層が連続すると判断して抽出したもの。

赤字:第627回審査会合以降に変更した箇所
(コア再観察等による変更)

位置図(S-1)



S-1の性状一覧表(1/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-7 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	R-7	153.35 (EL-142.07)	70° ◆	17	
	H-6.5 (傾斜62°)	65.45 (EL-46.77)	N54° W/74° NE	10	
	H-7	82.85 (EL-66.93)	—	※	
	Sd-2 (水平)	62.71 (EL-6.54)	70° ◆	11	

◆:コア観察による傾斜。 ※:コア形状が不良で確認できない。

S-1の性状一覧表(2/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ① 粘土状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-1	I-8	49.73 (EL-27.83)	—	14	
	V-2	119.55 (EL-96.37)	N49° W/65° NE	13	
	X-2	37.38 (EL-15.99)	N40° W/78° NE	14	
	I-9	214.83 (EL-186.18)	N43° W/75° NE	10	

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

S-1の性状一覧表(3/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-9 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 破碎部 ① 粘土状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-1	X-4	143.95 (EL-118.01)	—	19	
	J-9	58.65 (EL-34.50)	N36° W/80° NE	8	
	J-9'	28.67 (EL-7.52)	N72° W/74° NE	8	

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

S-1の性状一覧表(4/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-10 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	J-9"	29.33 (EL-8.23)	N83° E/73° NW	16	
	T-1 (水平)	3.34 (EL-13.85)	N60° W/68° NE	25	
	T-2 (水平)	2.85 (EL-14.85)	N62° W/65° NE	22	
	T-3 (水平)	2.55 (EL-15.45)	N61° W/67° NE	6	

S-1の性状一覧表(5/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-11 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	T-4 (水平)	2.00 (EL-16.85)	N62° W/71° NE	4	
	K-10	16.95 (EL15.64)	N69° W/66° NE	8	
	K-11	110.53 (EL-82.67)	—	15	
	L-12.2 (傾斜80°)	41.93 (EL-10.97)	N38° W/79° NE	27	

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破砕部と判断。

S-1の性状一覧表(6/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-12 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	L-12.5	174.18 (EL-138.38)	N85° W/66° NE	9	
	M-12.5	63.43 (EL-35.33)	N62° W/72° NE	8	
	M-12.5'	51.65 (EL-26.59)	N51° W/76° NE	10	
	M-12.5''	50.00 (EL-23.90)	N51° W/79° NE	8	

赤点線:第627回審査会合以降に変更した箇所
(M-12.5''孔 破砕部境界 コア再観察による変更)

S-1の性状一覧表(7/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-13 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	N-13	11.10 (EL26.53)	N50° W/75° NE	18	
	N-13'	23.39 (EL15.13)	N52° W/69° NE	26	

S-1の性状一覧表(8/9)

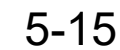
第627回審査会合
資料2-2 P.1-14 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	N-13.5' (傾斜73°)	10.90 (EL29.74)	N87° E/73° NW	23	
	N-14 (傾斜73°)	30.97 (EL11.78)	N36° W/80° NE	12	
	N-14.5 (傾斜73°)	21.31 (EL26.25)	N55° W/84° NE	11	
	O-14.5 (傾斜73°)	26.93 (EL14.42)	N72° W/89° NE	8	

S-1の性状一覧表(9/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-1	O-16 (傾斜73°)	20.36 (EL12.72)	N63° W/87° NE	18	
	O-17 (傾斜70°)	16.28 (EL25.11)	N74° W/85° NE	22	
	O-17.3 (傾斜45°)	41.82 (EL8.81)	N75° W/78° NE	10	
	O-17.5 (傾斜45°)	25.29 (EL22.77)	N76° W/80° NE	6	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(O-17.3孔 破砕部の幅 誤記修正)



S-2・S-6の性状一覧表(1/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-2・S-6	M-5	51.75 (EL-42.00)	—	17	
	L-6'	13.82 (EL-2.29)	N12° E/58° NW	33	
	K-5	94.44 (EL-80.13)	70° ◆	39	

赤字:第627回審査会合以降に変更した箇所
(K-5孔 深度目盛 誤記修正)

◆:コア観察による傾斜。

S-2・S-6の性状一覧表(2/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ① 粘土状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-2・S-6	K-6	39.17 (EL-23.31)	N35° E/60° NW	54	
	I-5	126.15 (EL-107.91)	—	15	
	I-6	67.20 (EL-47.27)	—	※	

※:コア形状が不良で確認できない。

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

S-2・S-6の性状一覧表(3/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-19 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-2・S-6	R-4.5	184.44 (EL-173.37)	N18° E/59° NW	4	
	R-5	155.50 (EL-144.38)	—	14	
	SC-1 (水平)	36.27 (EL-6.20)	N24° E/44° NW	16	
	SE-2 (水平)	52.18 (EL-6.46)	—	43	
	H-7	20.59 (EL-4.67)	N17° E/50° NW	20	

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破砕部と判断。

S-2・S-6の性状一覧表(4/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	== 破碎部 コア写真 ① 粘土状破碎部 ②-1 砂状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-2・S-6	H-6.6	53.80 (EL-42.70)	N4° E/57° NW	108	52.6 52.7 52.8 52.9 53.0 53.1 53.2 53.3 53.4 (m) 53.4 53.5 53.6 53.7 53.8 53.9 54.0 54.1 54.2 (m) 54.2 54.3 54.4 54.5 54.6 54.7 54.8 54.9 55.0 (m)
	H-6.5 (傾斜62°)	37.62 (EL-22.20)	N9° W/55° SW	42	37.4 37.5 37.6 37.7 37.8 37.9 38.0 (m)

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-6.6孔 破碎部の幅及び区分 コア再観察による変更)

S-2・S-6の性状一覧表(5/9)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-2・S-6	H-6.5' (傾斜45°)	34.55 (EL-13.41)	N7° W/74° SW	76	34.2 34.3 34.4 34.5 34.6 34.7 34.8 34.9 (m) 35.0 ① ③-1 ③-2 35.0 35.1 35.2 35.3 35.4 35.5 (m)
	H-6.4 (傾斜45°)	33.90 (EL-12.88)	N24° E/57° NW	53	33.3 33.4 33.5 33.6 33.7 33.8 33.9 34.0 (m) 34.1 ③-2 ① ③-2

S-2・S-6の性状一覧表(6/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-22 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-2・S-6	R-6	90.90 (EL-79.67)	N8° E/64° NW	26	
	SC-4 (水平)	63.65 (EL-6.10)	—	19	
	R-7	28.23 (EL-16.95)	N14° E/52° NW	39	
	G-7	53.85 (EL-38.60)	N12° E/60° NW	24	

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(G-7孔 深度目盛 誤記修正)

S-2・S-6の性状一覧表(7/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-23 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	== 破碎部 コア写真 ① 粘土状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ②-2 角礫状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-2・S-6	F-8	26.40 (EL-5.66)	—	※	26.0 26.1 26.2 26.3 26.4 26.5 26.6 26.7 26.8 (m)
	F-8.5	8.93 (EL12.13)	N3° E/50° NW	48	8.1 8.2 8.3 8.4 8.5 8.6 8.7 (m) 8.7 8.8 8.9 9.0 9.1 9.2 9.3 (m)
	E-8.5	14.40 (EL6.74)	NS/55° W	18	14.1 14.2 14.3 14.4 14.5 14.6 14.7 (m)
	E-8	38.05 (EL-21.91)	N18° E/77° NW	14	38.0 38.1 38.2 38.3 38.4 38.5 38.6 (m)

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
 (F-8.5孔 破碎部の幅及び区分 コア再観察による変更)
 (E-8.5孔 破碎部の区分 コア再観察による変更)

※: コア形状が不良で確認できない。

S-2・S-6の性状一覧表(8/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-24 再掲

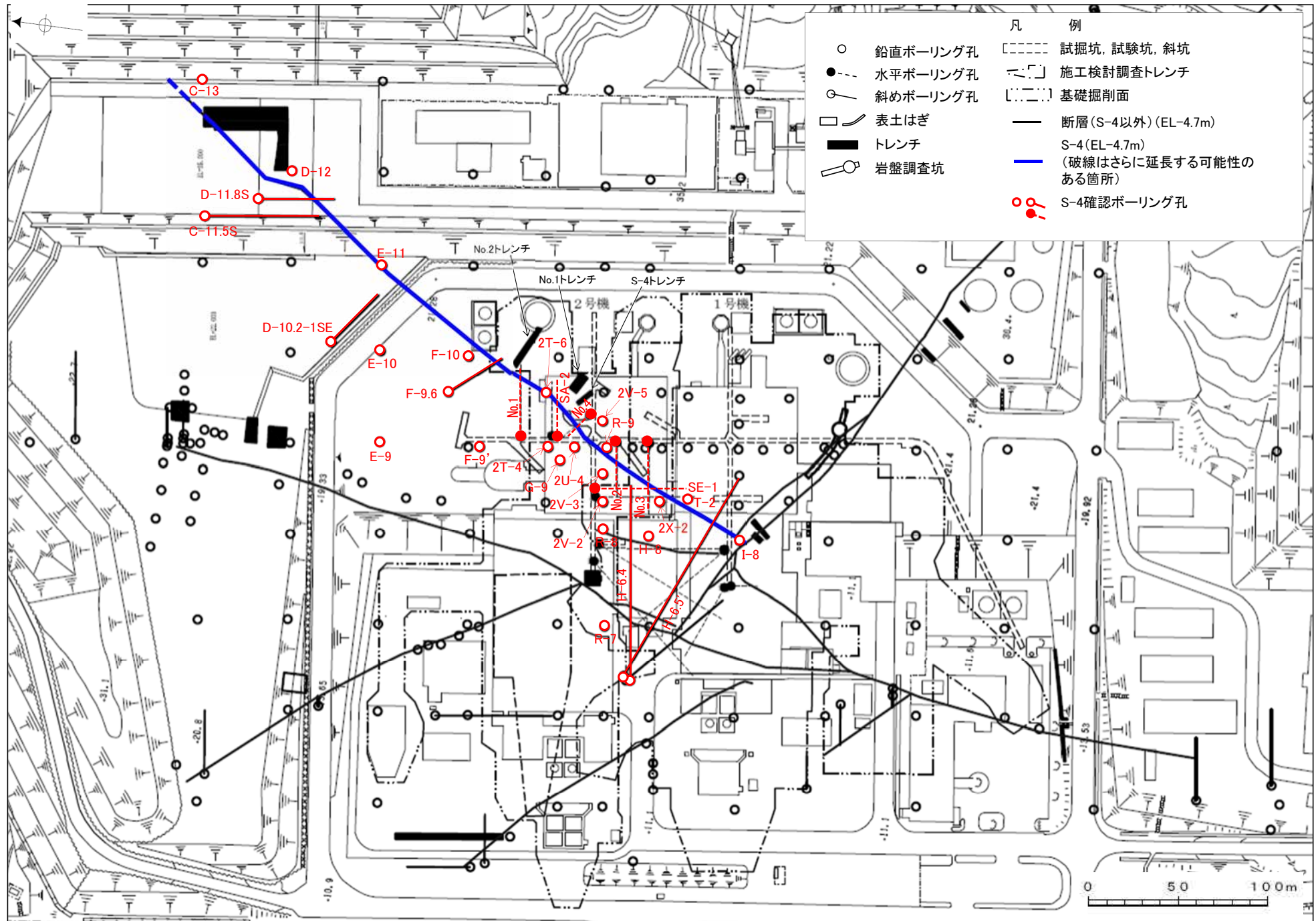
名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-2・S-6	E-8.6	11.70 (EL9.41)	NS/45° W	55	
	E-8.7	10.09 (EL10.93)	N10° E/56° NW	56	
	C-9.1	10.82 (EL11.03)	N27° E/57° NW	1	

S-2・S-6の性状一覧表(9/9)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-25 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-2・S-6	C-9.2	10.56 (EL11.52)	N12° E/56° NW	1	
	K-6.2-2 (傾斜80°)	30.94 (EL-19.44)	N9° E/54° NW	45	
	K-6.3 (傾斜85°)	20.61 (EL-9.48)	N16° E/55° NW	27	

位置図(S-4)



S-4の性状一覧表(1/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部
S-4	I-8	38.10 (EL-16.20)	—	4	
	R-7	112.30 (EL-101.02)	—	3	
	H-8	58.15 (EL-38.78)	—	※	
	2X-2	24.70 (EL-12.18)	—	※	
	SE-1 (水平)	35.90 (EL-6.29)	—	※	

※:コア形状が不良で確認できない。

S-4の性状一覧表(2/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-4	No.3 (水平)	25.35 (EL-6.38)	N39° E/38° NW	16	
	H-6.4 (傾斜45°)	94.65 (EL-55.84)	N39° E/56° NW	17	
	R-8	61.45 (EL-48.34)	—	1	
	2V-2	46.40 (EL-33.12)	N43° E/63° NW	8	
	No.2 (水平)	13.60 (EL-6.37)	—	※	

※: コア形状が不良または採取不良のため確認できない。

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

S-4の性状一覧表(3/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
S-4	2V-3	37.30 (EL-17.47)	—	※	
	R-9	19.33 (EL1.72)	N45° E/41° NW	20	
	2U-4	39.45 (EL-18.32)	N58° E/72° NW	8	
	2V-5	10.97 (EL10.06)	—	※	
	G-9	59.44 (EL-37.77)	N61° E/70° NW	16	

※:コア形状が不良で確認できない。

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破碎部と判断。

S-4の性状一覧表(4/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-4	No.4 (水平)	10.85 (EL-6.47)	N43° E/69° NW	8	
	2T-4	62.15 (EL-41.00)	—	※	
	SA-2 (水平)	18.28 (EL-6.04)	—	※	
	2T-6	26.78 (EL-5.62)	—	※	
	F-9'	107.63 (EL-86.45)	N31° E/62° NW	4	

※:コア形状が不良で確認できない。

S-4の性状一覧表(5/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部
S-4	No.1 (水平)	30.15 (EL-6.36)	N29° E/44° NW	1	
	F-9.6 (傾斜45°)	41.60 (EL-8.42)	N7° E/56° NW	5	
	D-10.2-1SE (傾斜60°)	61.22 (EL-31.99)	N27° E/54° NW	5	
	C-11.5S (傾斜60°)	86.49 (EL-39.75)	N28° E/62° NW	10	
	D-11.8S (傾斜45°)	48.92 (EL0.62)	N30° E/60° NW	6	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(F-9.6孔, D-10.2-1SE孔 破砕部の幅 他に合わせ最大値のみ記載)

S-4の性状一覧表(6/7)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-32 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-4	F-10	40.76 (EL-16.50)	—	※	
	E-9	158.85 (EL-140.24)	—	2	
	E-10	102.42 (EL-81.33)	—	※	
	E-11	56.73 (EL-21.99)	—	※	
	D-12	30.95 (EL1.03)	—	2	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(E-11孔 隣接孔との位置関係の再検討に伴う変更)

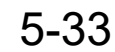
※: コア形状が不良で確認できない。

S-4の性状一覧表(7/7)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-4	C-13	32.01 (EL9.01)	—	2	 31.8 31.9 32.0 32.1 32.2 32.3 (m) ③-2
	T-2	26.50 (EL-1.02)	—	※	 26.3 26.4 26.5 26.6 26.7 26.8 (m)
	H-6.5' (傾斜45°)	88.58 (EL-51.62)	N60° E/45° NW	9	 88.3 88.4 88.5 88.6 88.7 88.8 88.9 (m) ③-1

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-6.5' 孔 コア再観察による追加)

※: コア形状が不良で確認できない。

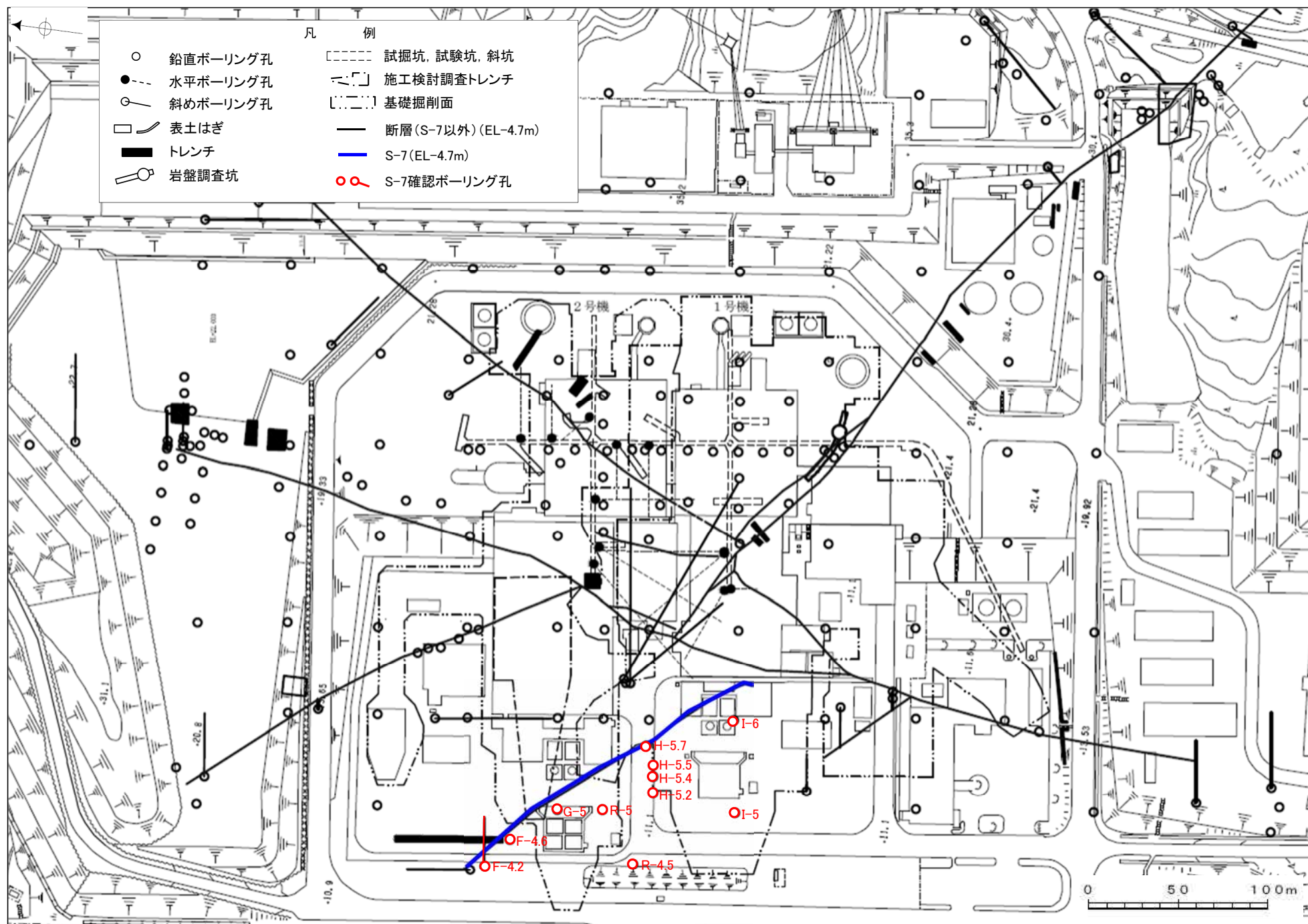


S-5の性状一覧表(1/1)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ① 粘土状破碎部
S-5	SC-2 (水平)	32.68 (EL-6.29)	—	1	
	R-8	25.50 (EL-12.39)	N13° E/70° SE	2	
	H-8	35.55 (EL-16.13)	—	※	

※:コア形状が不良で確認できない。

位置図(S-7)



S-7の性状一覧表(1/3)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-37 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-7	I-5	112.19 (EL-93.95)	N41° W/60° SW	25	
	I-6	41.05 (EL-21.12)	—	※	
	H-5.7	13.20 (EL-0.55)	N56° W/65° SW	13	
	H-5.5	31.42 (EL-20.36)	N32° W/47° SW	15	

※:コア形状が不良で確認できない。

* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破砕部と判断。

S-7の性状一覧表(2/3)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-38 一部修正

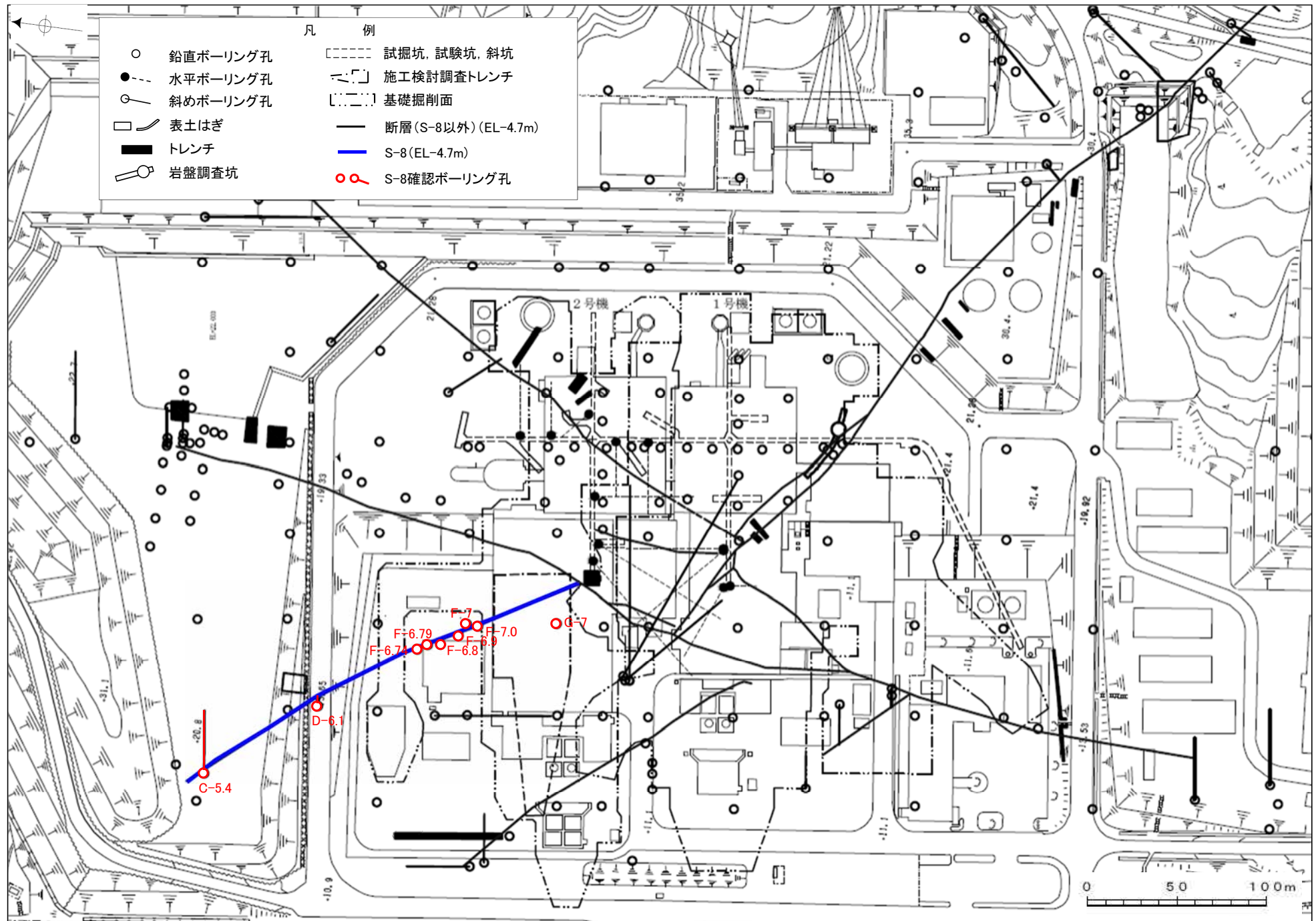
名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-7	H-5.4	40.20 (EL-29.15)	N35° W/55° SW	14	
	H-5.2	55.15 (EL-44.08)	N19° W/67° SW	6	
	R-5	47.85 (EL-36.73)	—	3	
	R-4.5	84.20 (EL-73.13)	N43° W/55° SW	3	
	G-5	29.68 (EL-16.02)	—	3	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-5.4孔 破砕部区分 コア再観察による変更)

S-7の性状一覧表(3/3)

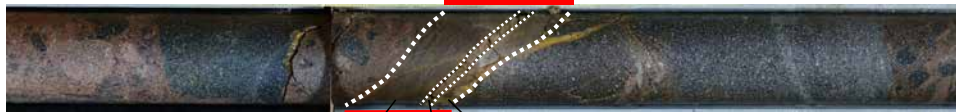
名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真	① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-7	F-4.6	29.70 (EL-18.60)	N17° W/76° SW	12		
	F-4.2 (傾斜45°)	14.25 (EL1.04)	N44° W/73° SW	7		

位置図(S-8)



S-8の性状一覧表(1/2)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-41 再掲

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-8	G-7	51.65 (EL-36.40)	—	18	 ③-1 (岩片状)
	F-7.0	16.09 (EL-4.98)	N10° W/48° SW	6	 ③-1 ① ③-1
	F-7	24.50 (EL-5.10)	—	13	 ③-2
	F-6.9	19.15 (EL-8.06)	N3° E/48° NW	4	 ③-2 ①
	F-6.8	23.75 (EL-12.63)	N14° W/56° SW	14	 ③-2 ③-1 ① ③-1

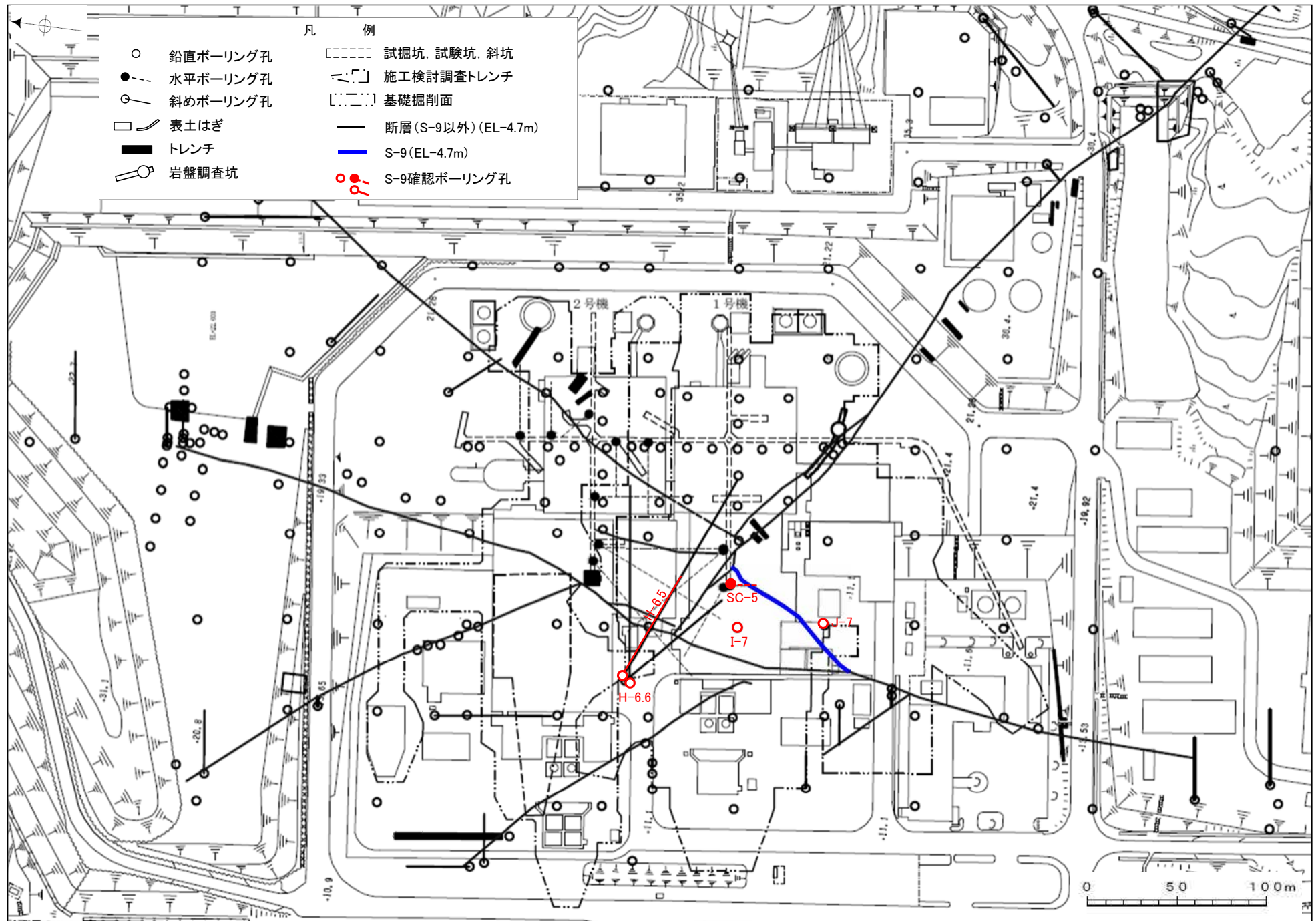
* ③-1 (岩片状) は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した粘土・砂状破砕部と判断。

S-8の性状一覧表(2/2)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-8	F-6.79	21.30 (EL-10.18)	N10° W/47° SW	18	
	F-6.74	22.06 (EL-10.99)	N10° W/46° SW	7	
	D-6.1 (傾斜80°)	21.65 (EL-7.50)	N21° W/57° SW	12	
	C-5.4 (傾斜45°)	19.40 (EL-7.51)	N31° W/51° SW	8	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(F-6.74孔 確認深度 誤記修正)

位置図(S-9)



第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-6.6孔 コア再観察による追加)

S-9の性状一覧表(1/2)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
S-9	J-7	13.51 (EL2.97)	N36° E/72° NW	19	
	SC-5 (水平)	10.39 (EL-6.13)	N35° E/41° NW	12	
	I-7	53.10 (EL-32.63)	—	2	
	H-6.5 (傾斜62°)	80.75 (EL-60.28)	N36° E/61° NW	13	

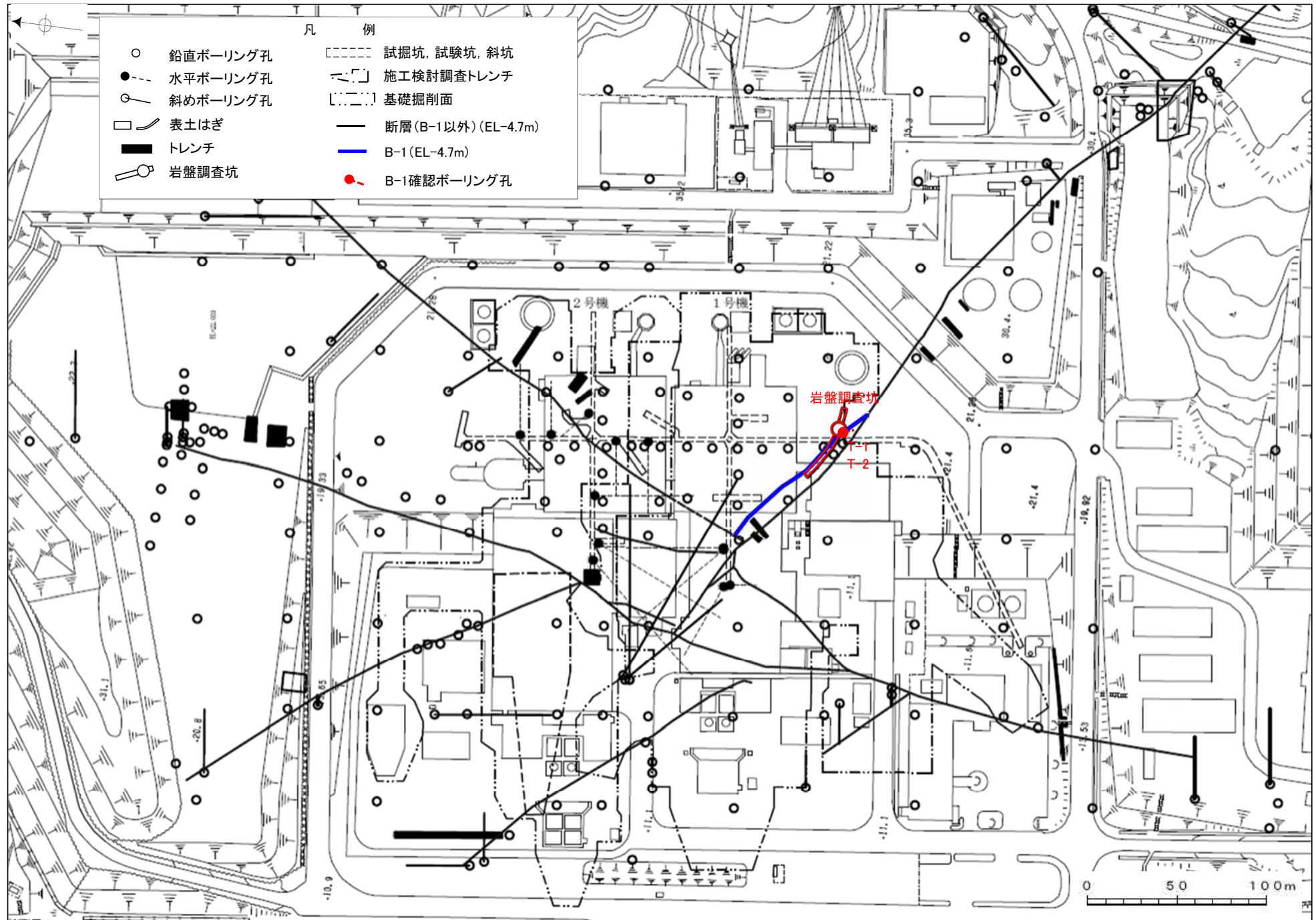
* ③-2(岩片状)は、岩片に変形構造が認められること及び条線が認められないことから、固結した角礫状破砕部と判断。

S-9の性状一覧表(2/2)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 = 破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部
S-9	H-6.6	123.47 (EL-112.37)	N62° E/63° NW	4	123.1123.2123.3123.4123.5123.6123.7 (m)  ③-1

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-6.6孔 コア再観察による追加)

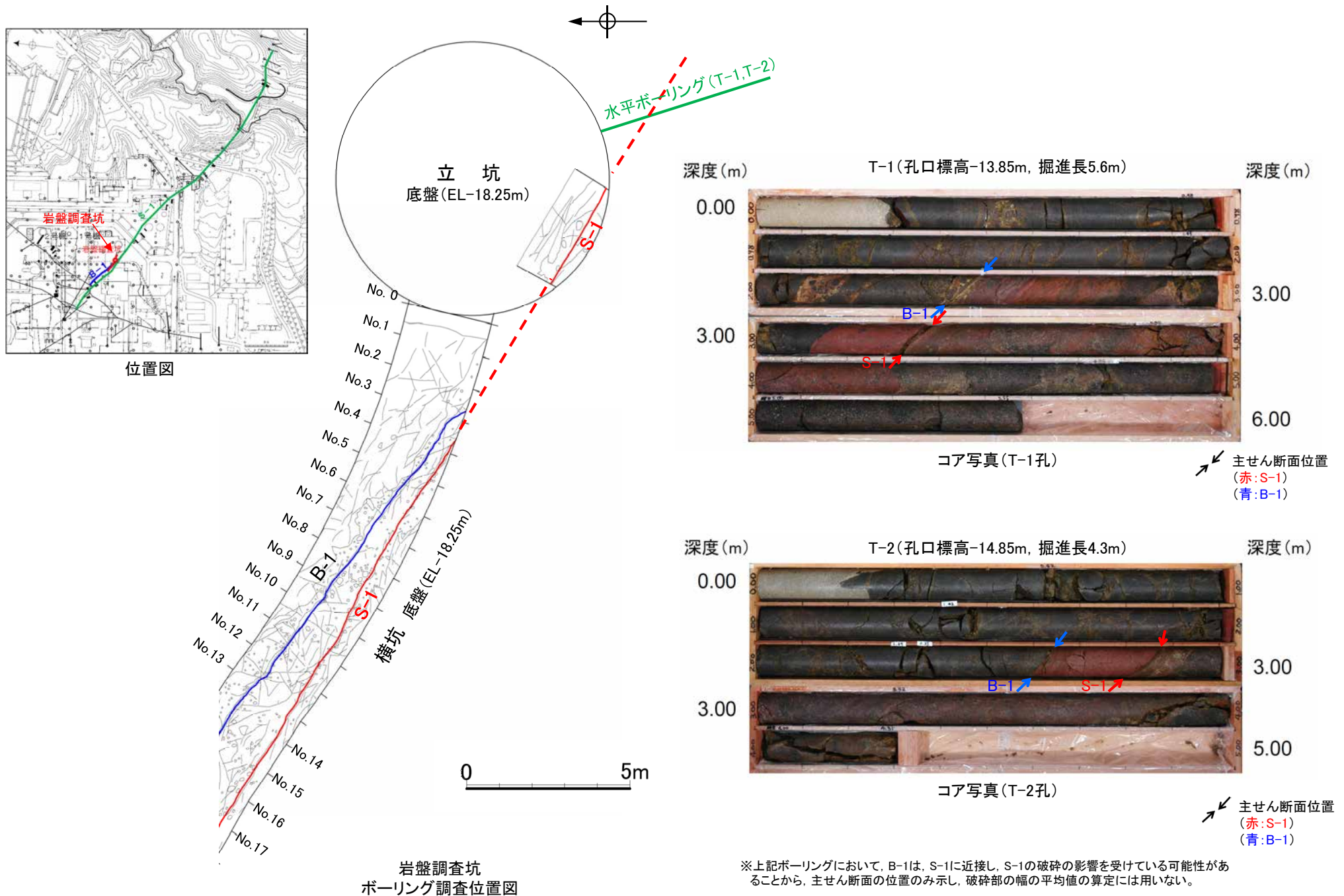
位置図(B-1)



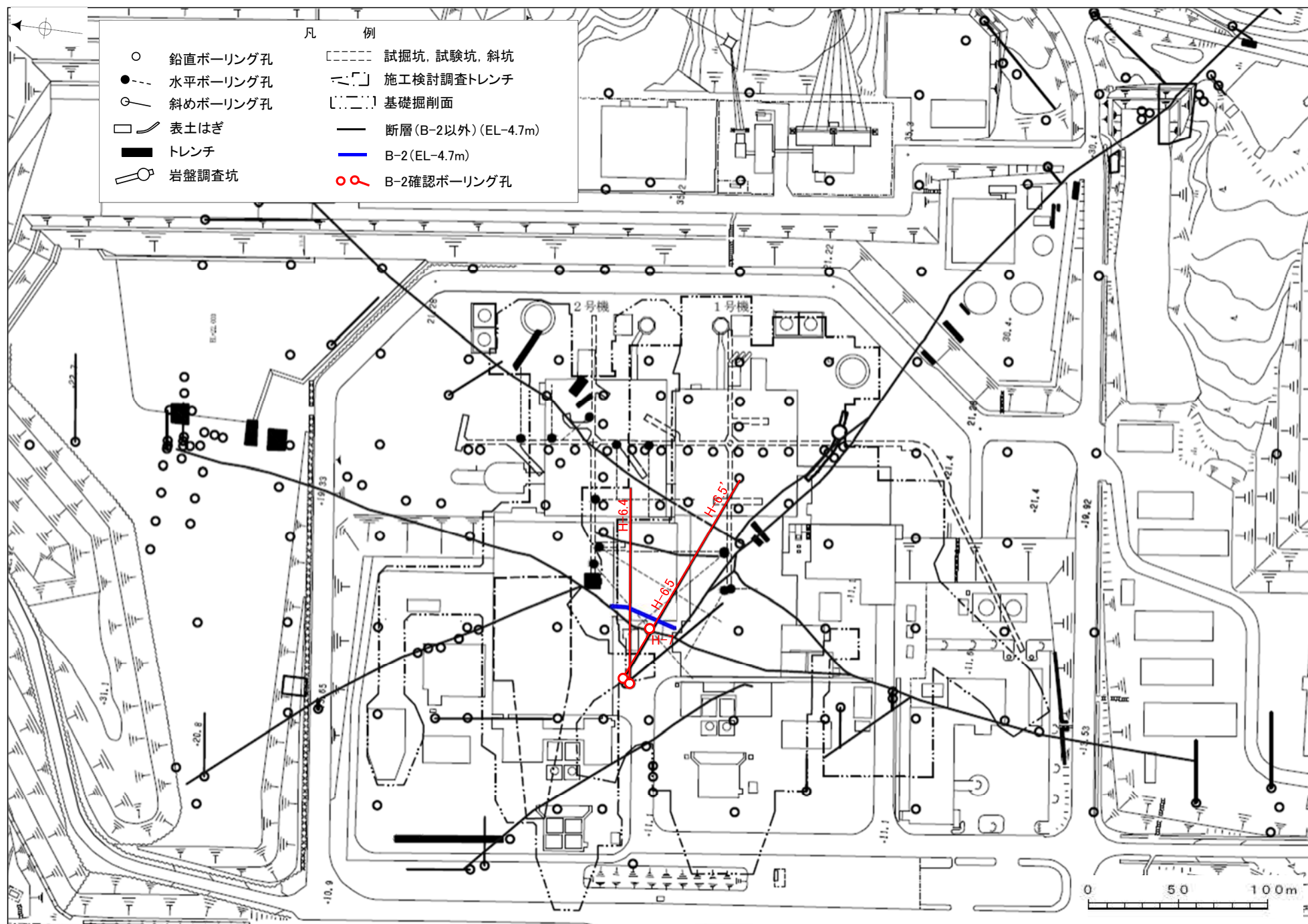
B-1の性状一覧表(1/1)

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破砕部		露頭写真
		切羽番号	幅※(cm)	
B-1	N49° W/86° NE	No.3	4	破砕部 ① 粘土状破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 立坑 右下写真箇所 岩盤調査坑底盤 スケッチ 下写真箇所 岩盤調査坑写真(全景写真) No.7付近底盤写真(破砕部加筆)
		No.4	4	
		No.5	9	
		No.6	10	
		No.7	10	
		No.8	5	
		No.9	10	
		No.10	6	
		No.11	7	
		No.12	10	
		No.13	10	
		No.14	7	
		No.15	1	
		No.16	4	
		No.17	7	
		No.18	7	
		No.19	7	
		No.20	8	
		No.21	1	
		No.22	5	
		No.23	5	
		No.24	5	
		No.25	6	
		No.26	3	

B-1の性状(ボーリング)(1/1)



位置図(B-2)



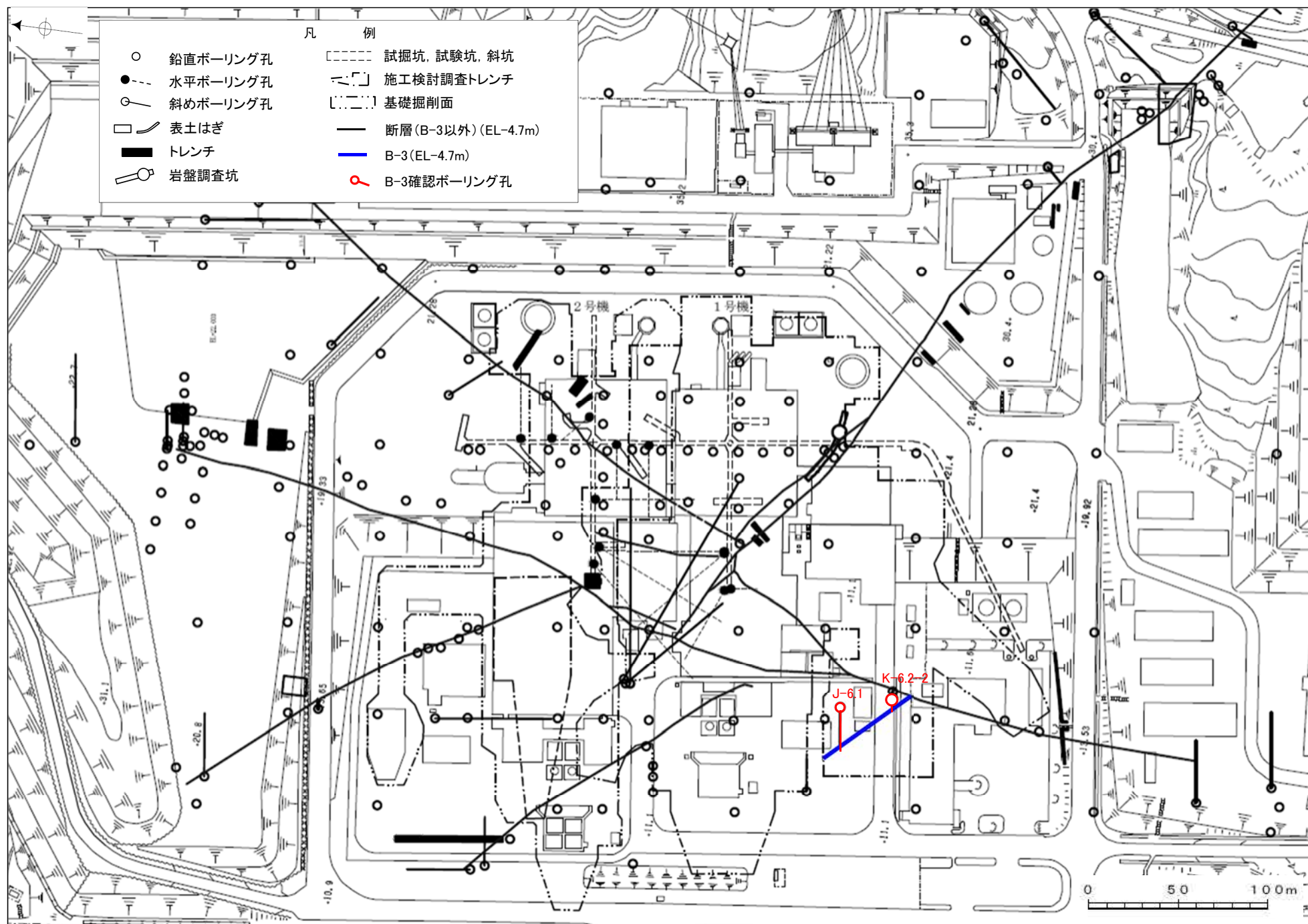
B-2の性状一覧表(1/1)

第627回審査会合
資料2-2 P.1-48 一部修正

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ① 粘土状破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部
B-2	H-6.5 (傾斜62°)	46.32 (EL-29.88)	N31° E/62° NW	4	
	H-6.5' (傾斜45°)	40.95 (EL-17.95)	N28° E/50° NW	2	
	H-6.4 (傾斜45°)	43.10 (EL-19.39)	N13° W/46° SW	10	
	H-7	30.30 (EL-14.38)	—	9	

赤字: 第627回審査会合以降に変更した箇所
(H-6.5孔, H-6.5'孔 確認深度 誤記修正)

位置図(B-3)



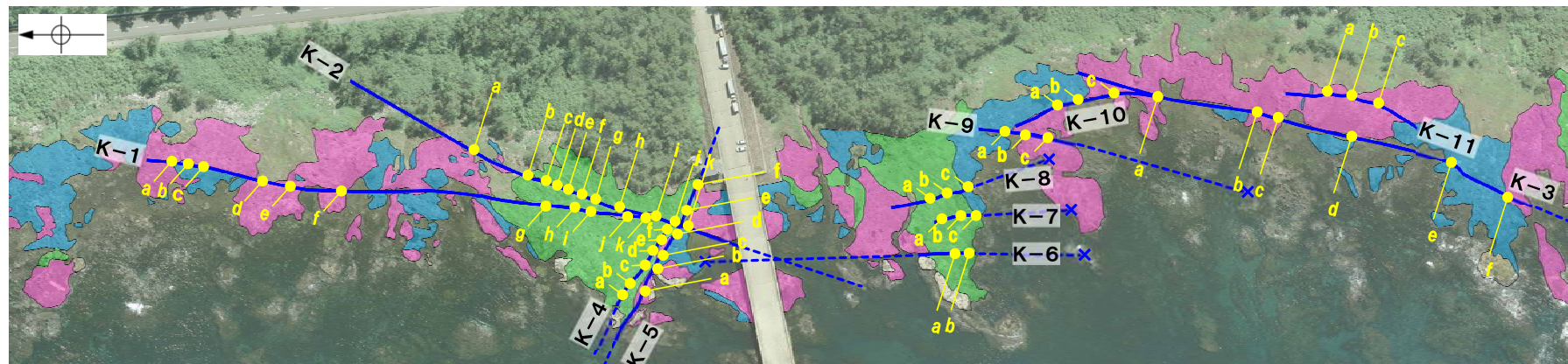
B-3の性状一覧表(1/1)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ① 粘土状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
B-3	J-6.1 (傾斜50°)	27.90 (EL-10.31)	N37° W/84° NE	3	27.427.527.627.727.827.928.0(m) 
	K-6.2-2 (傾斜80°)	21.39 (EL-10.03)	N47° W/74° NE	2	21.021.121.221.321.421.521.621.7 

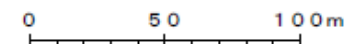
破砕部性状一覧表(海岸部露岩域)

第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-48 一部修正

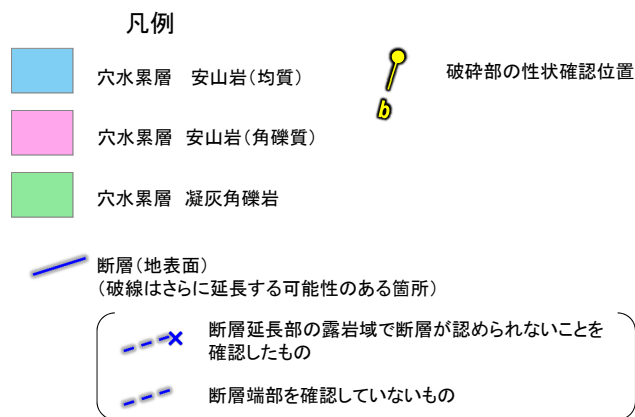
■破砕部の性状の一覧表を以下に示す。



調査位置図



破砕部の性状一覧表



名称	断層長さ※1	一般走向(真北)	傾斜	破砕部の幅※2	破砕部の分類
K-1	205m	N4° E	58° SE	10cm (19cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-2	180m以上	N19° E	72° SE	20cm (46cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-3	200m以上	N16° E	70° SE	15cm (19cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-4	45m以上	N56° W	85° NE	14cm (26cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-5	75m以上	N63° W	64° NE	12cm (18cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-6	25m以上 160m以下	N2° W	60° NE	7cm (9cm)	③-2 固結した角礫状破砕部
K-7	20m以上 55m以下	N8° W	88° NE	8cm (11cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-8	35m以上 70m以下	N15° W	80° NE	11cm (21cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-9	40m以上 120m以下	N10° E	88° SE	7cm (12cm)	③-2 固結した角礫状破砕部
K-10	60m	N16° W	62° NE	9cm (10cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部
K-11	60m	N14° E	70° NW	9cm (9cm)	③-1 固結した粘土・砂状破砕部, ③-2 固結した角礫状破砕部

※1:露頭もしくはボーリングにより破砕部が認められないことを確認した地点までの長さ。端部が確認できなかったものを〇m以上と記載。海岸部において、延長部が海中となる箇所は、断層を直接確認した長さ及び延長の露岩域で断層が確認されなかった地点までの長さをそれぞれ算定し、〇m以上〇m以下という記載とした。

※2:地表面で測定した最大幅をP.5-4の考えに基づき、面の傾斜を考慮し、補正した平均の値(下段括弧内は最大値)。なお、海岸部の断層における破砕部の幅の平均値の算定にあたっては、同一条件下である露岩域のデータのみ用いた。

・K-1~K-11は、いずれも固結した粘土・砂状破砕部や固結した角礫状破砕部からなる。

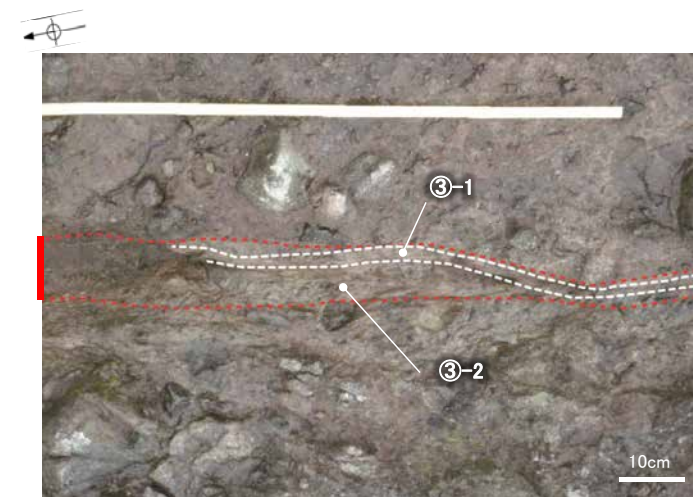
K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(1/7)

第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-49 再掲

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破碎部		露頭写真
		測定番号	幅※(cm)	
K-1	N4° E/58° SE	a	4～7	←W E→  ←W E→
		b	6～8	
		c	3～5	
		d	7～10	
		e	10～15	
		f	20～22	
		g	10	
		h	10～15	
		i	4～12	
		j	10～15	
		k	8～12	



測定番号i地点 遠景



測定番号i地点の破碎部の状況

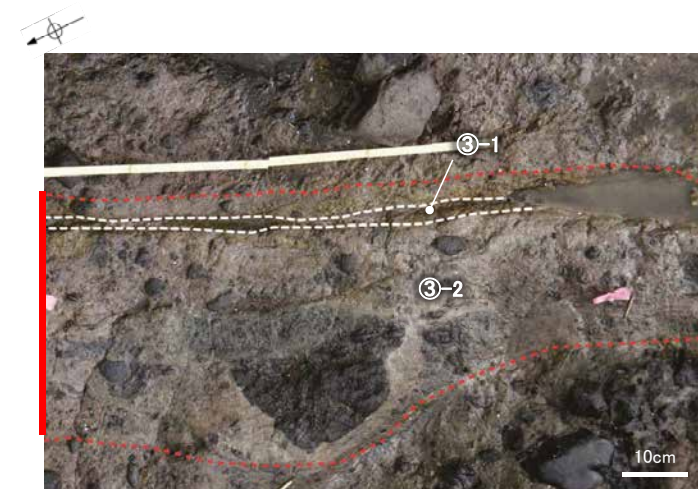
K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(2/7)

第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-50 一部修正

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破碎部		露頭写真
		測定番号	幅※(cm)	
K-2	N19° E/72° SE	a	8～10	破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
		b	6～10	
		c	6～10	
		d	15～18	
		e	6～10	
		f	12～28	
		g	12～15	
		h	15～30	
		i	20～48	
		j	25～40	
		k	11～13	



測定番号j地点 遠景

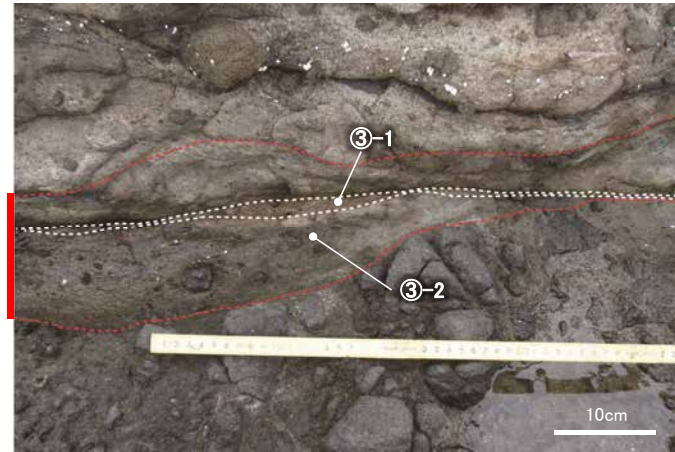
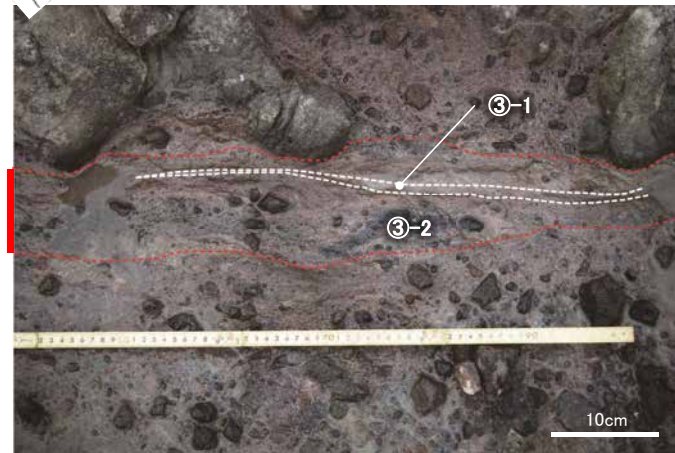


測定番号j地点の破碎部の状況

赤字: H30.9.21審査会合以降に修正

K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(3/7)

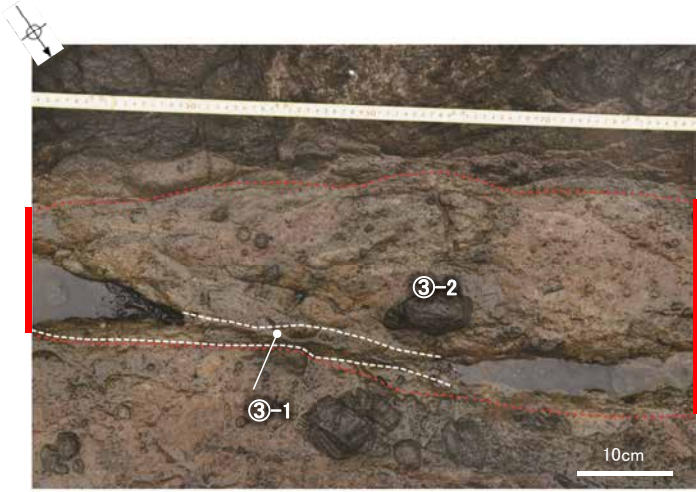
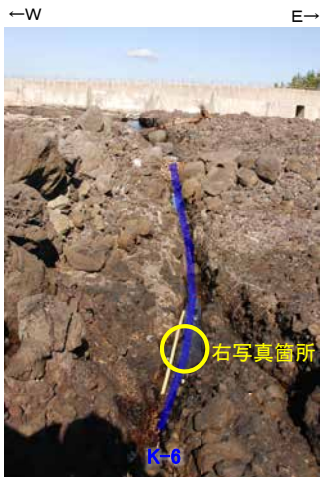
第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-51 再掲

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破砕部		露頭写真	破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
		測定番号	幅※(cm)		
K-3	N16° E/70° SE	a	15～18		
		b	10～18		
		c	14～20		
		d	4～10		
		e	4～12		
		f	5～18		
K-4	N56° W/85° NE	a	10～26		
		b	5～6		
		c	6～10		
		d	10～12		
		e	7～10		
		f	12～18		

代表写真箇所 ※: 地表面で測定した幅

K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(4/7)

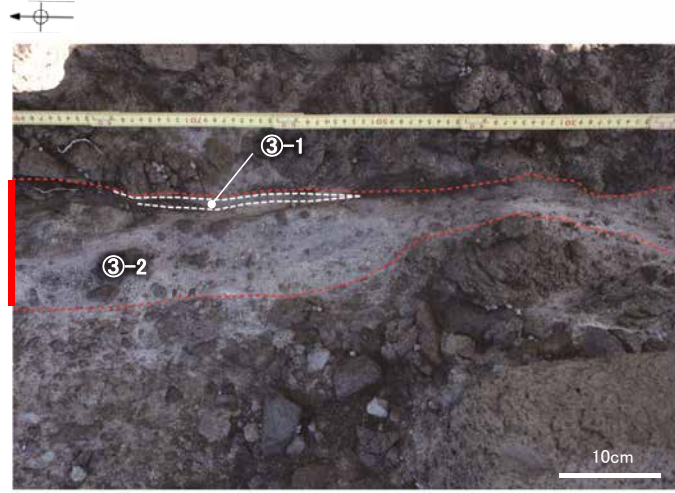
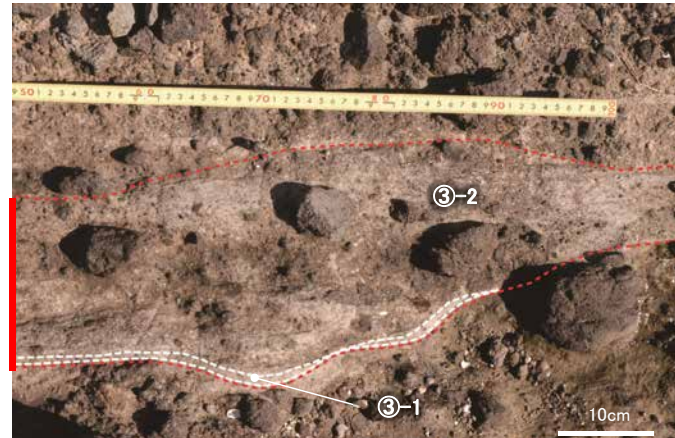
第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-52 再掲

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破砕部		露頭写真	== 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
		測定番号	幅※(cm)		
K-5	N63° W/64° NE	a	5～15		
		b	15～20		
		c	12～20		
		d	8～12		
		e	3～5		
		f	5～7		
K-6	N2° W/60° NE	a	4～6		
		b	5～10		

代表写真箇所 ※: 地表面で測定した幅

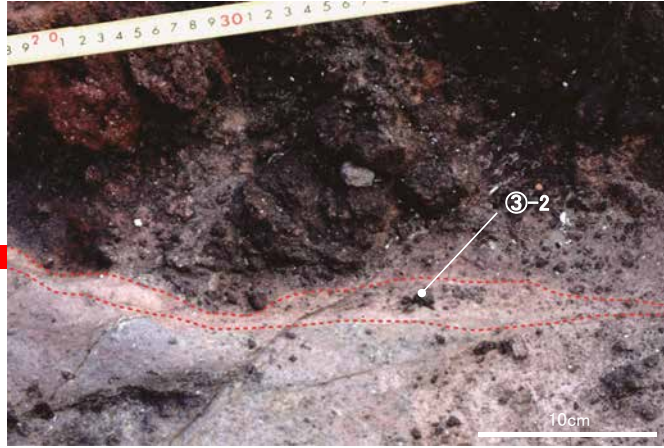
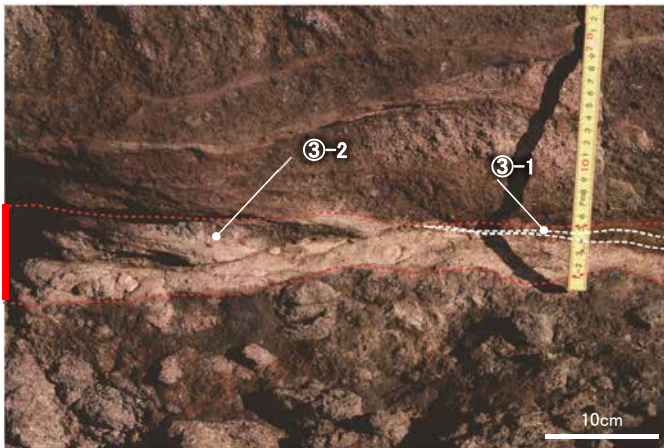
K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(5/7)

第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-53 再掲

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破碎部			露頭写真	破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
		測定番号	幅※(cm)			
K-7	N8° W/88° NE	a	2～11	←W E→  右写真箇所 K-7	← →  10cm	
		b	1～2			
		c	4～11			
K-8	N15° W/80° NE	a	10～21	←W E→  右写真箇所 K-8	← →  10cm	
		b	1.5～10			
		c	3～4			

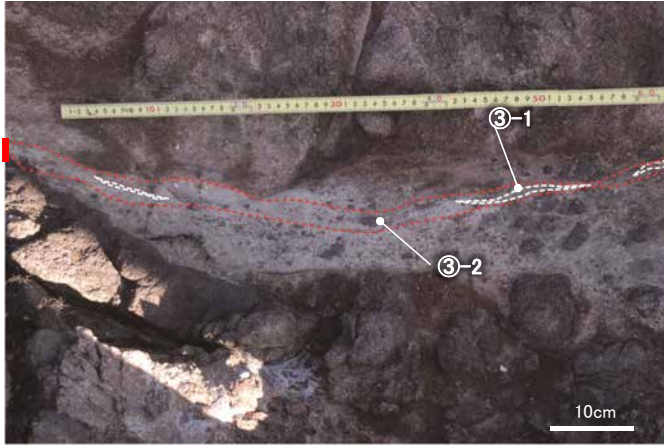
K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(6/7)

第553回審査会合
机上配布資料1 P.8-54 再掲

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破砕部			露頭写真	破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部 ③-2 固結した角礫状破砕部
		測定番号	幅※(cm)			
K-9	N10° E/88° SE	a	10～12	←WNW ESE→  右写真箇所 K-9	 ③-2 10cm	
		b	2～4			
		c	2～6			
K-10	N16° W/62° NE	a	4～10	←W E→  右写真箇所 K-10	 ③-2 ③-1 10cm	
		b	3～11			
		c	7～9			

代表写真箇所 ※:地表面で測定した幅

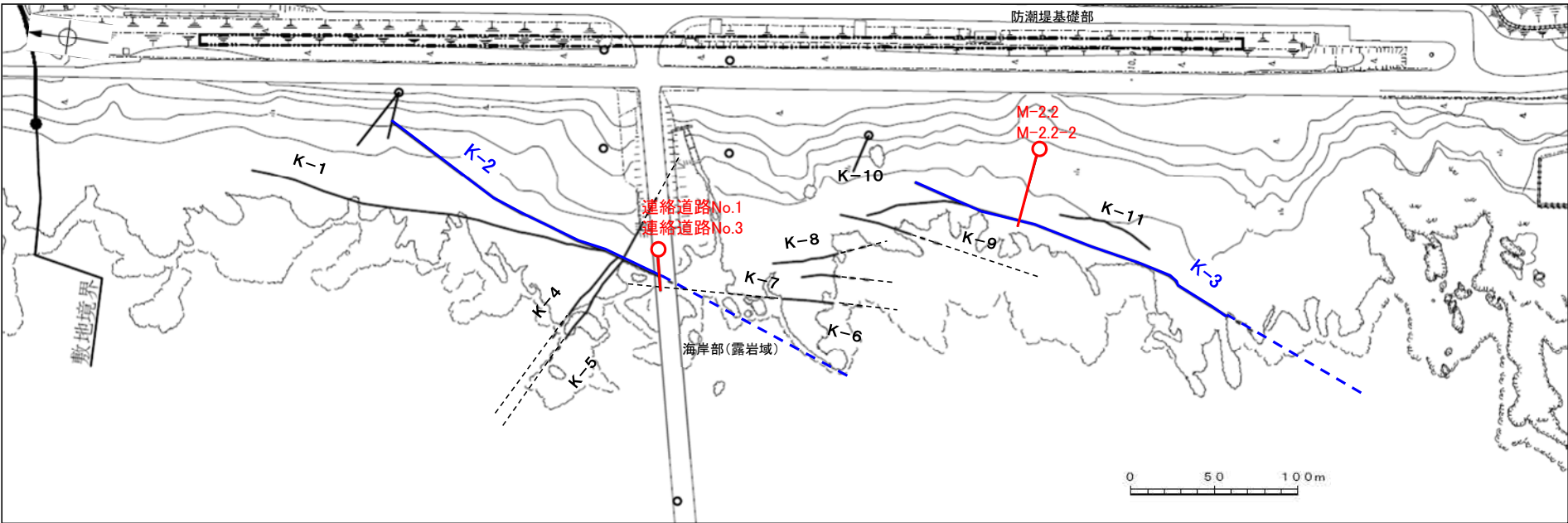
K-1～K-11(海岸部露岩域)の性状一覧表(7/7)

名称	一般走向・傾斜 (真北)	破碎部			露頭写真	破碎部	③-1 固結した粘土・砂状破碎部 ③-2 固結した角礫状破碎部
		測定番号	幅※(cm)				
K-11	N14° E/70° NW	a	2～8	←WNW ESE→  右写真箇所 K-11	 10cm		
		b	3～10				
		c	3～10				
				測定番号a地点 遠景			測定番号a地点の破碎部の状況

代表写真箇所 ※:地表面で測定した幅

破砕部性状一覧表(海岸部ボーリング)

■ボーリング調査により確認されたK-2, K-3の破砕部の性状の一覧表を以下に示す。



凡例

-  K-2, K-3確認ボーリング孔
-  K-2, K-3断層(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)

調査位置図

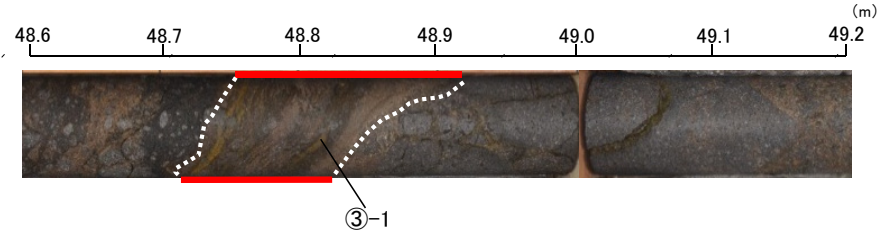
K-2, K-3の性状一覧表(海岸部ボーリング)

名称	孔名	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)
K-2	連絡道路No.1	23.15	EL-13.78	N6° E/75° SE	3
	連絡道路No.3	20.93	EL-9.76	N27° E/71° SE	2
K-3	M-2.2	48.83	EL-31.52	N2° W/81° NE	11
	M-2.2-2	78.25	EL-72.57	N6° E/74° NE	1

K-2(海岸部ボーリング)の性状一覧表(1/1)

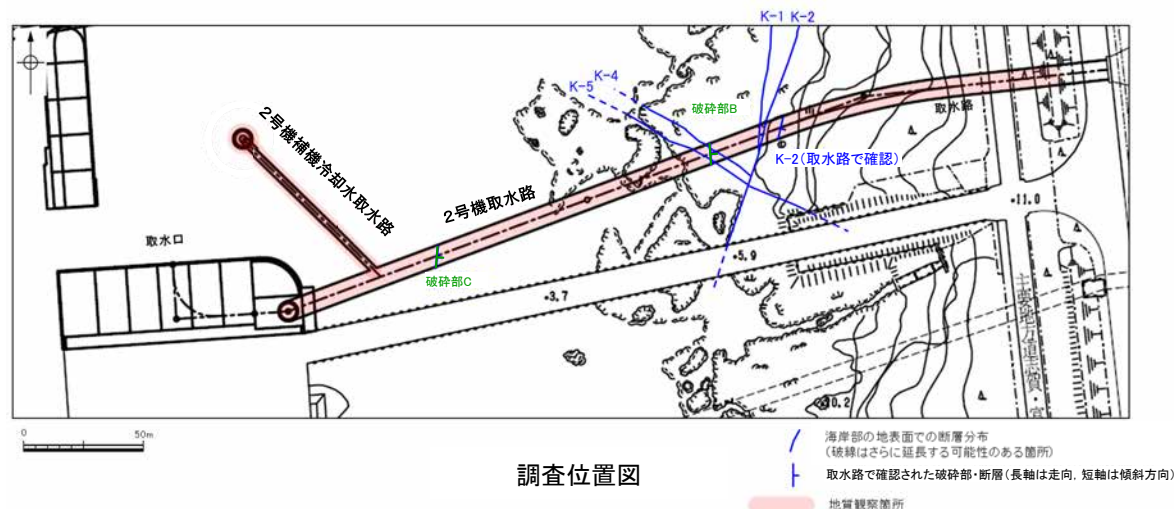
名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	コア写真 == 破碎部 ③-1 固結した粘土・砂状破碎部
K-2	連絡道路No.1 (傾斜60°)	23.15 (EL-13.78)	N6° E/75° SE	3	
	連絡道路No.3 (傾斜50°)	20.93 (EL-9.76)	N27° E/71° SE	2	

K-3(海岸部ボーリング)の性状一覧表(1/1)

名称	孔名	確認深度(m) (標高(m))	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	コア写真 破砕部 ③-1 固結した粘土・砂状破砕部
K-3	M-2.2 (傾斜45°)	48.83 (EL-31.52)	N2° W/81° NE	11	
	M-2.2-2 (傾斜75°)	78.25 (EL-72.57)	N6° W/74° NE	1	

破砕部性状(2号機取水路 K-2)

■2号機取水路で認められたK-2の性状を以下に示す。



←SE



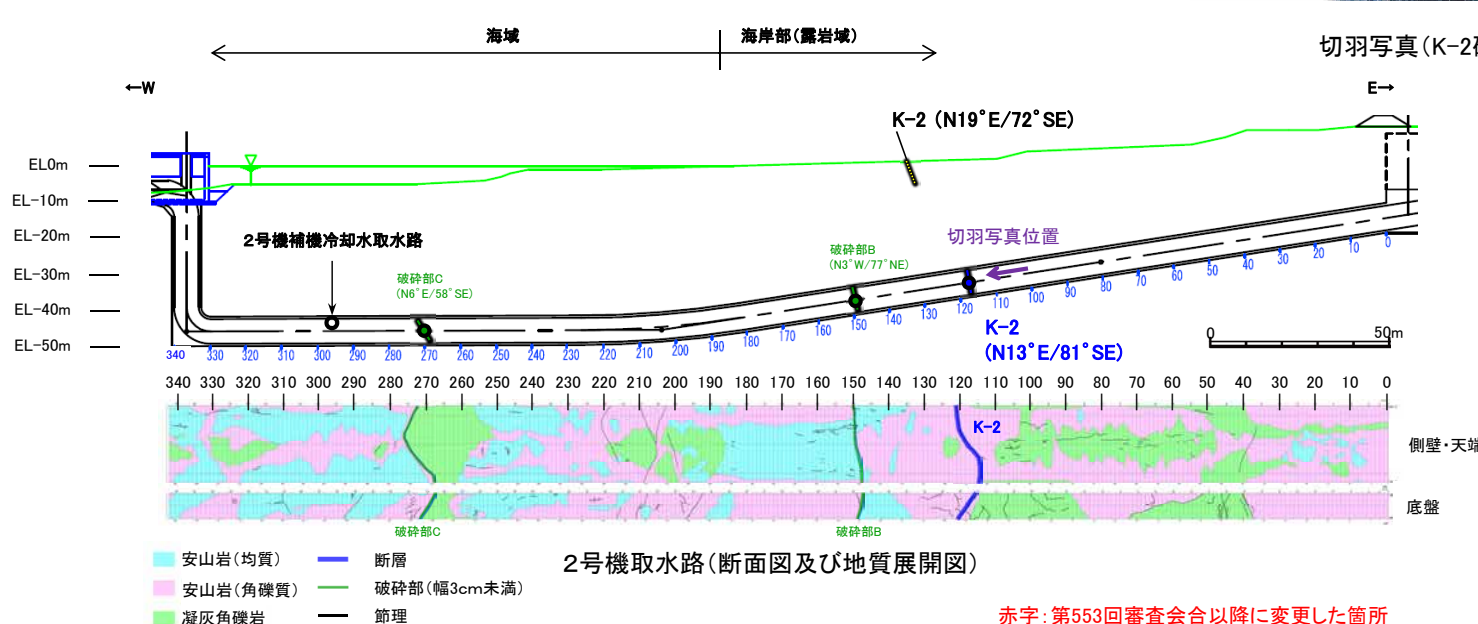
NW→



取水路で認められたK-2の性状

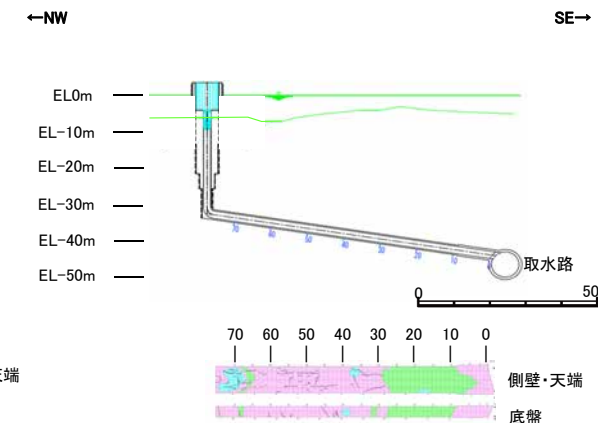
走向・傾斜※1 (走向は真北)	N13°E/81°SE
鏡肌の有無	あり
挟在物	厚さ 物 0.1~1cm 粘土
直線性	直線性に乏しく 凹凸する
破砕部の幅	30cm※2

※1 走向は底盤の一般走向、傾斜はスケッチを基に断面全体から算出
※2 トンネル施工時の断層周辺の「基質部は脆弱」という記載を基に切羽写真から周辺に比べて変質している範囲を破砕部の幅とした。



切羽写真(K-2確認箇所)

黄点線:断層を加筆
0 2m



赤字:第553回審査会合以降に変更した箇所
(切羽写真 方位 誤記修正)